

記シ本書ヲ課長ニ呈シ令文ノ草案ヲ付サハ淨寫シテ本人ニ付ス

但病告百日ヲ經テ出勤セサルモノハ之ヲ記シテ課長及主計課ニ報ス忌服ノ申報書ニハ除服ノ日ヲ

附記シ之ヲ課長ニ致シテ本省ニ申報シ其本省ニ除服ヲ請モノハ課長ノ指揮ヲ受ク

受付科 權中屬以下ノ職務トス

諸文書ヲ受付シ本省ノ印鑑寮中ノ備品ヲ管シ給仕以下ヲ督シ時辰ヲ測正シ官員以下ノ出勤簿ヲ掌ル

第一 本省及各寮司其他諸文書ノ本科ニ受クル者ハ受入簿ニ本科ノ號數及件銘ヲ登記シ式ノ如ク本書

ニ附紙シテ其號數ヲ朱書シ受付印ヲ押シテ課長ニ致シ其本科ヨリ本省及各寮司等ニ送達スル者ハ受

證簿ニ銘記シ各方ニ送達シテ證印ヲ徴ス

第二 城門鑑札ハ所用アルコトニ其號數月日ヲ簿記シ之ヲ付シテ押印セシメ事了レハ還附セシム本省

ノ印鑑ハ新ニ拜命スルモノニ一枚ヲ付シ其番號及月日ヲ簿記シテ押印セシメ轉任免職等ハ還納ノ後

消印ス若遺失火盜等ノ届アラハ其事情ヲ推究シテ課長ニ白ス

第三 寮中舖設洒掃等ノ事ヲ指揮シ寮内常用物品修補ノ事ニ至テハ主計科ニ報シテ辨理セシム

第四 寮中宿直ノ順番ヲ定メ及時辰ヲ測正シテ差異ナカラシム

第五 在寮ノ官員以下日々ノ勤休ハ簿冊ヲ作りテ押印セシメ月末ニ至リ勤休ノ日數ヲ總計シテ課長ニ

呈ス

但日々鳴鐘ヲ以テ上寮午餐退寮ノ時限ヲ報セシム

第六 本寮守門給仕小使等ノ勤惰ヲ監視シテ之ヲ課長ニ白ス

第七 非常豫備物品等ハ時々點檢シテ散失ナカラシム

第八 本寮附屬地ノ取締ヲ爲シ右ニ關スル府縣又ハ區長トノ應對ヲ掌ル

第九 寮内修繕等アルトキハ逐件廻議ニ具シ課長押印ノ上長官ノ可印ヲ受テ之ヲ處置ス

第十 新ニ拜命スルモノハ實印小印共印鑑ヲ徴シ本省及本寮各課ニ配達ス其遺失又ハ磨滅等ニテ改印

スルトキハ更ニ其印鑑ヲ出サシム

以上之ヲ大屬以下事務ノ制限トス然レトモ寮務繁劇ノ際ハ課中互ニ協助スヘシ出仕官員ハ本級ヲ以テ

本官ト事務ヲ同フス

右分科處務規定本省ノ判決ヲ得テ定ムル所ナリ能ク之ヲ守リ其定限ヲ愆ル勿レ

明治六年九月

鑛山權頭 吉井 亨

鑛山寮主計課處務規定 六年九月二十四日

本寮并各出張所主計一切ノ事務ヲ總括シ課中ノ事務ヲ分テ出納賜給倉庫精算ノ四科ヲ設ク

課長

課中ノ事務ヲ掌管擔當ス

掌管ノ事務ヲ整理スルニ於テハ長官ニ對シテ其責任ヲ有ス

擔當ノ事務ニ於テハ其當否ヲ長官ニ對シテ論辯スルヲ得

課中大屬以下ノ能否勤惰ヲ監視シテ長官ニ白スルヲ得

每歲本寮及各所鑛山開鑿ニ屬スル諸般ノ經費ハ各管ノ目途ニ據テ之ヲ計算シ收發ノ多寡ヲ斟酌シ歲費

月費ノ定額ヲ立技術長ニ合議シテ之ヲ冊記シ期ヲ以テ長官ニ呈シ批定ノ後本省ニ致ス

金銀ノ出納ハ每款定額ニ照準シテ廻議ニ押印シ長官ノ可印ヲ受ケ承管ニ分支シテ之ヲ辨理セシム尤支

發ノ金銀ハスヘテ本資ト消費ヲ二様ニ區別スヘシ

但出納ノ款件ヲ原簿ニ登記セハ總テ點檢シテ押印ス

應用ノ物品一旦長官ノ許可ヲ經テ購買整備スルモノハ其定限ヲ超サレハ緩急之ヲ分配シテ一々長官ニ

請ハサルモ妨ナシ

權課長

課長ニ亞テ其職掌責任ヲ同クス

以上助以下奏任官ノ職任トス然レトモ缺員アルカ或ハ事務ノ繁簡ニ因リ主計主記兩課ヲ兼又ハ權課長

鑛山寮主計課處務規定
十年三月五日會計局ヲシ
テ各局ノ會計事務ヲ總括
セシム

心得ノ名ヲ以正權大屬ヨリ補攝セシムルコトアルヘシ
出納科 正權大屬以下ノ職務トス

經費ノ多寡ヲ計算シ金銀ヲ出納シ産出諸礦ノ數目代價ヲ詳ニシ及各件計簿ヲ詳記シ區別ヲ明瞭ニスル等ノ事ヲ掌ル

第一 歳費ノ定額ハ毎年一月ヨリ十二月迄本寮各科并各出張所ニ於テ支發スヘキ俸給旅費其他諸般ノ費用ヲ總括シ式ニ依リ册記シ前年十一月十日ヲ限リ課長ニ致ス

第二 歳額ヲ分テ月費ノ額ヲ定ムルニハ工業ノ順序事務ノ繁簡ニ因リ支發ノ多寡ヲ計リ各科及各出張所ヨリ出ス所ノ總計ヲ合算シ十二箇月ニ區分シ前條同時課長ニ致シテ本省ニ進達ス然レトモ工業ノ多少輸入器械ノ多寡官員ノ進退等ニテ月額ノ増減アレハ式ノ如ク記載シ課長ニ致シ長官押印ノ上前月二十日ヲ期トシ本省ニ致ス

第三 本省ヨリ金銀ヲ受ルニハ式ノ如ク證券ヲ具シ之ヲ受テ日計簿ニ登記シ爲換座ニ寄セテ預ケ帳ニ記載セシメ右日計簿ト預ケ帳ニ課長勘合シテ長官ノ檢印ヲ受ケ
但各出張所ハ預定ノ月額ニ依リ日程ヲ計リ期ニ先ダチ長官ノ許可ヲ得テ本省ニ進達シ式ノ如ク之ヲ受テ送達ス

第四 爲換座ニ寄スル所ノ金銀ヲ支發スルニハ每件長官檢印ノ廻議ヲ證トシテ各册ノ費用區別簿ニ登記シ式ノ如ク發票ニ寫シ課長ノ勘合及長官ノ檢印ヲ受ケテ其科ニ付シ各員ニ配給セシム之ヲ領收スル者ハ三日ノ内爲換座ニ至テ正貨ト交換ス其爲換座ニ集タル發票ハ次ノ出金定日差出サセ原票ト照比シテ勘合ヲ消ス

第五 假渡金銀ハ區別簿ニ朱書シ返金スルトキハ最初ノ廻議ニ照シ朱書ニ押印シテ收發ヲ明ニシ其金銀ハ爲換座ニ寄ス

第六 毎月三八ノ日ヲ以テ金銀支發ノ定日トス若日曜其外休暇ニ會セハ前日ヲ以テ發スルヲ例トス但臨時支給ハ此限ニアラス

第七 凡テ金銀ヲ收發スルニハ必ス日計簿ニ登記シ收ルモノハ前日ノ殘金ニ加テ總數トナシ發スルモ

ノハ其數ヲ減シテ本日現在ノ數ヲ詳記ス

第八 凡テ不用ニ屬スル諸物品等賣却ノ代價ヲ收入スルトキハ其次第ヲ詳記シテ爲換座ニ寄セ再ヒ寮中額費ノ内ニ領收スヘキ者ノ外ハ之ヲ本省ニ納ム

第九 本寮各科及各出張所諸般ノ費用當初ノ目途ヲ超過スルモノハ先ツ其事由ヲ詳細具狀シ本省ノ判決ヲ經サレハ假令定額餘分アリトモ之ヲ支給スルヲ得ス

第十 各工場ニテ支給スル金銀ハ式ノ如ク勘定帳ヲ作り翌月五日ヲ期トシ其地ヲ發シテ本科ニ送ラシム

第十一 本科ニテ毎月支發スル金額及ヒ殘金ハ式ノ如ク册記シテ翌月二日ヲ限リ本省ニ報知シ勘定帳ハ詳細區別シ證印帳ヲ附シテ翌月五日ヲ期トシ之ヲ精算科ニ送ル

第十二 各出張所礦物代價ハ各月上納帳ヲ造リ式ノ如ク納金帳ニ記載シ翌月五日其地ヲ發シテ本科ニ送ラシム

第十三 官宅宿代ハ上納帳ト共ニ翌月五日ヲ期トシ本省ニ納ム

第十四 諸費區別簿ハ本省ノ式ニ倣ヒ各件廻議判決スル者ニ據リ詳細ニ登記シ月末之ヲ表ニ掲テ勘定帳ニ附ス

第十五 一箇年ノ諸費ハ都テ本資ト消費ヲ區別シ翌年一月中ニ表ヲ作り一枚ハ長官押印ノ上本省ニ達シ一枚ハ本寮ニ留ム

第十六 金銀ノ出納ハ其定則アルモノト雖モ課長以上ノ可印ナクシテ專恣之ヲ處スルヲ得ス
賜給科 正權大屬以下ノ職務トス

官員以下外國人ノ俸給旅費并職工賃料其他臨時賞金等賜給スルコトヲ掌ル

第一 毎年一月ヨリ十二月迄各款ノ費用ヲ概算總括シテ本科歳費ノ額トナシ又歳額ヲ分チ月費ノ額ヲ定ムルニハ各月給發ノ多寡ヲ計リ十二箇月ニ區分シ前年十一月五日ヲ限リ出納科ニ達ス

第二 俸金ハ毎月十六日後之ヲ給ス因テ其期限前新任免職或ハ歸省病告等ヲ名簿科ニ密問シ増減

- アルモノハ改定査算シ廻議ニ具シテ出納科ニ送り發票ヲ受テ之ヲ配給シ式ノ如ク月給渡證印帳ニ冊ニ押印セシメ月末與書調印シテ出納科ニ送ル
- 第三 官員以下ノ旅費ハ發程歸著トモ名簿科ノ報知ニ依リ定則ニ照準シ發程前日數ヲ計リ廻議ニ具シテ假渡ヲ爲シ歸著ノ後日數ノ過不足ヲ決算シテ給收ス
但各所工場出張先ノ旅費ハ凡テ其地ニ於テ支給スヘシ
- 第四 官備ノ外國人俸給旅費等ハ規則ニ照準シテ檢査精算シ廻議ノ後之ヲ付シテ證書ヲ徵ス尤發程歸著ノ日ハ其時々名簿科ノ檢印ヲ以テ證スルコト官員ニ同シ
- 第五 月給旅費其他ノ假渡還納ハ大藏省書式ニ倣ヒ詳細ニ記載シ廻議ノ後其金ハ出納科ニ付ス
- 第六 給仕小使及一時使役スルモノハ毎月兩次勤休簿ニ因テ日給ヲ結算シ廻議ニ具シテ之ヲ給與ス
- 第七 船車郵便等ノ賃料ハ其時々或ハ出金ノ定日各科檢印ノ證書ヲ附シテ廻議ニ具シ式ノ如ク發票ヲ受テ配給シ二通ノ證書ヲ取り月末之ヲ纏メ承管ノ者與書調印シテ出納科ニ送ル
- 第八 常備職工并雇夫ノ給料ハ各科ヨリ送ル所ノ督役簿ニ據リ金曜日ヨリ始メ木曜日ニ至迄二週間ノ勤仕時間及給料ヲ合計記載シ廻議ニ具シ課長檢印ノ上出納科ヨリ之ヲ受ケ土曜日止業ノ上ニテ給與スヘシ
- 第九 附屬以下諸工職等臨時賑恤及ヒ賞金ハ規則ニ照準シテ數ヲ定メ主管ノ申請狀ヲ廻議ニ具シテ長官ノ判決ヲ請フ
- 第十 各款ノ賜給定則アルモノト雖モ課長以上ノ可印ナクシテ專恣之ヲ處スルヲ得ス
倉庫科 正權大屬以下ノ職務トス
本寮各科應用ノ物品及各出張所注文品等ヲ備辦配給スル等ノ事ヲ掌ル
- 第一 毎年一月ヨリ十二月迄定式支給スヘキ物品ノ費用ヲ概算總括シテ本科歲費ノ額トナシ又月々給發ノ多寡ヲ計リテ十二箇月ニ區分シ之ヲ册記シテ前年十一月五日ヲ限リ出納科ニ送ル
- 第二 月費額内ヲ以テ應用ノ物品ヲ購買スルニハ常用物品ハ課長ノ檢印ヲ證トシ其代價ヲ渡スニ當リ

- 總括シテ長官ノ檢印ヲ受ク其他ノ物品ハ數目ノ多寡ヲ問ハス逐件廻議シテ長官ノ檢印ヲ受ク
- 第三 應用ノ物品ヲ買辦スルニハ先ツ其物品ヲ注文簿ニ記シ更ニ之ヲ別記シ課印ヲ勘合シ商人ニ付シテ代價書及様品ヲ出サシメ物品ノ可否價ノ當否等課長ノ檢査ヲ受ケ再ヒ廻議ニ具シ常用物品ハ課長其他ハ長官檢印ノ後調進簿ニ記シテ其物品ヲ納メシム
- 第四 外國ヘ注文ノ機械書港スルトキハ稅關其他定例ノ如ク引取ノ手配ヲ爲シ其送狀ト比較シテ毀損ノ有無員數ノ多寡等明細ニ檢査ノ上之ヲ簿記シテ其時々長官ノ檢印ヲ受ク
- 第五 諸物ノ代價ハ其代價物數ヲ記スル一様ノ受取書二通ヲ出サシメ承管ノ者與書調印ノ上之ヲ出納科ニ付シテ給與セシム
- 第六 所藏ノ諸物品ハ一切之ヲ蓄藏簿ニ記シ其費用ニ供スルニハ用度附屬等各冊ノ配給簿ニ記シ證印ヲ徵シテ之ヲ付ス
但書籍繪圖類ハ附屬品支給簿ニ記シテ之ヲ譯文或ハ編輯科ニ付シ每月其科ニ於テ點檢シ有無ヲ本科ニ報知セシム
- 第七 本寮附屬品ハ各科付屬品簿ニ記スル所ヲ以テ毎三月現物ニ對比點檢シ毀損アルハ修理ヲ加ヒ亡失アルハ之ヲ補具シ毎時完備シテ缺失ナキヲ要ス
但毀損亡失スルモノアルトキハ其時々本科ニ報知セシム
- 第八 諸物品ノ内廢器等賣却スヘキモノハ廻議ノ上入札公賣シ代金ハ出納科ニ送ル
- 第九 各出張所ヨリ注文品アレハ廻議ニ具シ長官檢印ノ後之ヲ買辦シ其物品ハ廻議寫ト共ニ之ヲ出張所ニ送達ス
- 第十 本寮常用ノ物品其他凡テ定例ニ從ヒ各科ノ證印ヲ取ラサレハ付與スルヲ得ス且倉庫内ハ常ニ整頓シテ出入ヲ便ニスヘシ
精算科 正權大屬以下ノ職務トス
本寮及各出張所ノ諸費及產出諸礦等一切出納ノ得失品價ノ當否本寮消費ノ多寡ヲ檢査精算スル等

ノ事ヲ掌ル

- 第一 毎月勘定帳ヲ検査スル 功程ハ出納科ヨリ付スルノ後四日ヲ限トス若誤謬等アラハ其主任ニ推問シテ改修セシメ清查訖テ其表紙ノ右端ニ記名押印シ之ヲ課長ニ出シ長官押印ノ上翌月十日ヲ期トシ本省ニ達ス
 - 第二 各出張所ヨリ各月進達スル勘定帳ハ出納科ヨリ之ヲ受テ検査精算シ若物價工料其他適當セサルコトアルカ或ハ式ニ觸ル、モノアルトキハ其次第ヲ詳記シテ課長ニ告ケ返還シテ改正セシム故ニ清查ノ功程期ニ後ル、モノハ其事實ヲ長官ニ申報シテ本省ニ達ス
 - 第三 築造修繕其他別ニ額費ヲ立ルモノハ最初ノ廻議ニ照シテ検査ヲ加フヘシ
 - 第四 常ニ各所物品代價職工雇夫ノ賃料等ヲ詳記シ諸出納皆之ニ比考シテ其得失當否ヲ検査スヘシ
 - 第五 月費歳費并産出諸礦月計年計收納等各款表ニ掲載シ一枚ハ長官押印ノ上本省ニ達シ一枚ハ寮中ニ留ム
 - 第六 凡テ本科ニ於テ検査精算スル簿冊ヲ他ニ返還シ又ハ本省ニ達スル等必ス課長以上ノ指令ニ依ラシテ專恣之ヲ處スルヲ得ス
- 以上之ヲ大屬以下事務ノ制限トス然レトモ寮務繁劇ノ際ハ課中互ニ協助スヘシ出仕ハ本級ヲ以テ本官ト事務ヲ同クス
- 右分科處務規定本省ノ判決ヲ得テ定ムル所ナリ能ク之ヲ守リ其定限ヲ愆ル勿レ
- 礦物分析規定 六年十月二十八日 鑛山寮定
- 今日ヨリ以向東京永田町ナル鑛山寮ニ於テ諸人ノ需メニ應シ次ニ掲タル規則ヲ以テ金屬非金屬ノ諸品ヲ致分析候事
- 第一 其物ニ含有スル金屬一品ノ分量ヲ試檢スル料ハ金十圓又二品以上ハ其一品毎ニ右金高ヲ致増加候事

鑛山寮礦物分析規定
八年六月十二日永田町分
析所ヲ華族會館ニ交付ス

但其品同種ニシテ數多キ時ハ其分析料ヲ減スヘシ

第二 料ハ必ス前拂ノ事トス此時鑛山寮ニテ其請取書ニ時限ヲ記シ置キ其時間ニ分析ノ結末ヲ頼主ニ報知スヘシ

第三 非金屬ノ分析又ハ金屬諸山物等金塊ノ分析并ニ其他ノ驗究ハ別段取極ヲ以テ之ヲ行フ可シ

第四 以上ノ分析試驗ノ爲ニ請取リタル諸品ハ試驗ノ後尙餘量アレハ分析面ニ當ル丈ケノ分量ヲ見本ノ爲メ此局ニ留置ク者トス

但金銀等ノ貴品ハ此限ニ非ス
明治六年十月

鑛山寮
分析局

工部省届 七年三月七日

鑛山寮ノ儀本日ヨリ本省中へ移轉致候ニ付此段爲御心得申進候也

工部省達 八年三月二十日

其寮ニ於テ技術生徒教授之義ハ自今相廢シ右生徒中官費之者ハ夫々處分方見込相立可伺出候也

工部省沿革報告抄録 八年六月十二日

鑛山寮中ニ分析所一ヲ新築シ永田町舊本寮ノ分析所ヲ華族會館ニ交付シ分析事務ヲ新町ニ移ス

鑛山寮中ニ分析所ヲ新築ス

鑛山寮ニ技術生徒ヲ屬ス

鑛山寮ニ民坑ノ稅ノ二課ヲ設ク

九年九月十八日民坑ニ係ル事務ヲ本省ニ屬シ十四年十一月三十日又鑛山局ニ屬ス

鑛山寮ヨリ工部省へ伺 八年十二月二十五日

當寮ニ於テ諸府縣ヨリ借區試掘并坑稅取調等願出追々事務多岐ニ涉リ自然取扱ノ際錯雜不少候ニ付今般別紙ノ通更ニ二課相設ケ事務爲取扱候間至急御許可相成候様仕度此段相伺候也

別紙
主記科ノ内

民坑課 舊坑法課

諸鑛山借區開坑及ヒ試掘願ヲ始メ人民坑業ニ付諸般ノ事件願伺等各府縣ヨリ進達ノ分取扱候事
主計科ノ内

抗稅課

抗區及ヒ舊慣ノ諸稅金府縣ヨリ納付ノ分精算上納ノ事務ヲ取扱候事

工部省指令 九年一月十四日

第三百七十二號民坑坑稅二課取設ノ儀伺ノ通聞屆候也

鑛山寮各支廳在勤官員
配區方

工部省達 九年十月九日

其寮各支廳在勤ハ是迄大概判任官ノ名義ニ候處今後各科科長一名而已判任官ヲ置キ其他都テ日給ヲ以
雇役可致尤其者ノ人撰進退等ハ各支廳長官限致處分毎月末ニ限リ可届出此旨相達候也

工部省達 九年十一月二十八日

本年十月九日第四百十號ヲ以其寮各支廳在勤之者今後各科科長一名ノミ判任官ヲ置キ其他ハ雇役云々相
達置候處右ハ俗務ニ從事スル判任官ヲ指シ候儀ニテ技術之者ハ本月一日改正之技術表ニ照準可取扱ハ
勿論之事ニ候條右誤解無之様可致候此旨更ニ相達候也

工部省沿革報告抄錄 十年一月十一日

各鑛山支廳ヲ某鑛山分局ト改稱ス

工部省沿革報告抄錄 十四年十一月三十日

書記局中ノ民坑掛ヲ鑛山局ニ屬ス

鑛山局ヨリ工部省ヘ伺定 十五年二月十六日

當鑛山各分局下掛之儀ハ從來官吏ト諸職工トノ中間ニ立チ官吏ノ指揮ヲ受諸職工夫ヲ督役セル者ニシ

各鑛山支廳ヲ某鑛山分
局ト改稱ス
十六年九月二十二日某鑛
山局ト改稱ス

書記局ノ民坑掛ヲ鑛山
局ニ屬ス

鑛山各分局下掛ヲ職員
ニ準シ進退處分ヲ分局
ニ委任ス

テ實際事業上一日モ闕クヘカラサル必用ノ者ニ有之今之ニ備之名稱ヲ附與スルトキハ官吏ト同一ノ取
扱ヲ爲サ、ルヘカラス然ルトキハ其身分重キニ過テ却テ弊害ヲ生シ去迎之ヲ諸職工ト同一ノ取扱ヲ爲
トキハ又其氣配ヲ損シ實際事業上ニ於テ支障少ナカラス是故ニ止ヲ得ス是迄舊慣ニ仍リ該名稱ヲ附シ
分局主任限進退致來候得共諸支給筋ニ於テ成規ニ抵觸不都合ノ廉不少候間向後右下掛進退處分ノ儀ハ
更ニ分局主任ヘ御委任相成而シテ其身分ハ改テ備員ニ準シ取扱候様致度此段相伺候也

工作鑛山兩局ヨリ工部省ヘ伺定 十六年三月一日

鑛山及ヒ工作各分局ニ於テ新營又ハ改良等ノ事ヲ要シ候節各分局主任ヨリ卿ヘ直チニ相伺候得共事務
章程通則第一條ノ通局長ハ總テ其實ニ任シ候儀ニ付分局長無之分局ノ事業ハ本局長ニ於テ緩急取捨調
理整頓候様不致テハ難相成候故ニ自今右新營改良等ノ義分局主任ヨリ本局長ヘ稟議本局長ヨリ卿ヘ上
請又ハ開申候様致シ度此段相伺候也

工部省達節錄 十六年九月二十二日(全文ハ官等寮)

別紙之通局課ヲ廢置シ及各分局改稱候條此段相達候事

鑛山課(總務局中)

生野鑛山局

院內鑛山局 油戸鑛山分局ヲ院內鑛山支局トス

佐渡鑛山局

三池鑛山局

阿仁鑛山局 小阪鑛山分局ヲ阿仁鑛山支局トス

工部省達 十八年十一月十一日
第百二十五號各課校

官職門 官制 工部省

鑛山及工作各分局ヨリ
新營改良等ノ上格開申
ハ本局ヲ經由セシム

局課ヲ廢置シ各地鑛山
分局ヲ某鑛山局ト改稱
シ本局ノ直轄ト爲ス

十八年十二月二十二日廢
省ニ依リ生野佐渡三池三
鑛山ヲ廢務省ニ屬ス
十六年十月十六日油戸院
坑ヲ治却シ十七年十二月
二十三日院內鑛山ヲ治却
シ十八年二月十三日局ヲ
廢ス

十六年十月二十九日阿仁
鑛山小阪支局ヲ廢シ十八
年六月十日阿仁鑛山局ヲ
廢ス

據下貨運鑛山工場管理
規則

當省拂下貸渡鑛山工場管理規則別紙ノ通相定候條此旨相達候事

別紙 拂下貸渡鑛山工場管理規則

- 第一條 拂下又ハ貸渡シタル各鑛山工場ノ營業及ヒ抵當品ハ其命令書ノ趣旨ニ依リ管理スルモノトス
- 第二條 各鑛山工場ノ營業及ヒ抵當品ハ一年一回主管課アルモノハ其課ヨリ其主管課ナキモノハ工部卿ノ命令ニヨリ吏員ヲ撰定派遣シテ之ヲ監査セシムヘシ
- 第三條 各鑛山工場ニ於テ異常ノ場合アルカ又ハ營業ヲ怠リ命令書ニ背ク等ノ事アルトキハ前條ノ手續ニ由リ臨時吏員ヲ派出シテ其實況ヲ監査セシムヘシ
- 第四條 監査吏員ハ其狀況ヲ查覈シ狀ヲ具ヘテ復命スヘキモノトス
- 第五條 各鑛山工場ノ財產抵當品等ニ關スル事件ハ會計課ニテ取扱フヘシ

工部省達 第十八號 明治二十六年十一月十一日
 鑛山會社ニ關シテ 鑛山會社ハ其命令書ニ背ク等ノ事アルトキハ前條ノ手續ニ由リ臨時監査シタル節モ同様ト可相心得候事

但朝城會社ハ此旨相達スヘシ

鑛山會社兩課ヨリ工部省へ上申 十八年十月日
 各鑛山并各工場ノ追々民業ニ被移タル場所ノ義各命令條款中臨時監査員ヲ派出シ營業ノ實況建物諸器械等ノ現場ヲ檢査セシムルノ明文ニ有之右ハ營業繼續者ヲ勸奨警戒スルニ於テ最緊要ノ條款ニ候處一且民業ニ移リ直接ノ關係ヲ解キタルヨリ自然管理ノ方法等關相成候場合ナキニテ最緊要ノ營業漸次衰縮候様ニテハ繼續上ハ勿論年賦納金迄ニ關係ヲ及ホシ民業ニ被移タル旨趣ニ不相適儀ニ有之既ニ納金延滞候場合ニ至テハ營業ハ幾分敷縮ヲ來シタルノ結果ナレハ最早此時ニ臨ミ何程督勵スルモ到底其功ヲ不見之ヲ既往ニ徵シ兎角此弊不少畢竟管理ノ順序不相立ニ因リ候儀ト被存候間此際管理ノ順序被定置無油斷監査候事ニ相成候ハ、右等ノ弊ヲ防キ可然被存候間左ニ管理ノ順序取調意見及上申候也
 但本文意見御採用相成候ハ、共趣夫々御達相成候様仕度候
 各鑛山并各工場民業ニ被移タル場所管理順序
 一 各鑛山并各工場拂下貸渡ノ場所營業ノ實況抵當品ノ現場檢査トシテ必ス一箇年一回會計課鑛山ノ兩課ヨリ御選定派出被命度事

但各工場長製造所品川子製造所ノ事務ハ主管ノ課無之ニ付術業上ニ係ル檢査ハ大學校教官又ハ生徒ノ内ヨリ御選定相成度事
 一 各場所ノ內平常ニ異ナル場合ニ於テハ前條ノ順序ヲ以臨時派出被命度事
 一 各場所ノ財產抵當品等會計ニ關スル事件ハ同課ニ掛リテ置キ管理被命度事
 書記課議案 十八年十一月五日
 各鑛山并各工場管理順序ノ儀ニ付鑛山會計兩課長ヨリ意見上申ノ趣審案候處追々民業ニ移サレタル場所ノ命令條款中臨時監査員ヲ派遣シ營業ノ實況等ヲ檢査セシムルノ明文ハ有之候得共確乎タル管理ノ順序無之ヨリ兎角不都合不少ニ付此際管理ノ順序御定相成度トノ儀ニテ穩當ト被存候間該上申ノ趣旨ニ依リ管理規則別紙ノ通り御定相成度且ツ斯ク管理規則相立候得ハ鑛山會社ハ貸渡有之候千早丸儀モ此際取締ノ義無之テハ不都合ニ付左案ノ如ク各課校長及ヒ三池鑛山局長へ各御達相成可然哉併セテ仰高裁候也

工部省沿革報告抄錄 二年四月日 佐渡國雜太郡相川町ノ金銀山ヲ開鑿スルノ業ヲ起シ公廨ヲ此ニ創置シ佐渡支廳ト稱ス

(備考)
 發見年紀詳ナラス天正十七年上杉景勝佐渡ヲ征服シ慶長六年舊幕府徳川氏之ヲ公收メ明治元年七月鑛山司ヲ置キ會計官ニ就ク二年四月佐渡支廳ヲ置キ同八月本司支廳共ニ民部省ニ屬シ三年閏十月工部省ニ屬シ同十二月鑛山司ヲ廢シ掛ヲ置キ支廳ヲ改テ工部省佐渡出張所ト稱シ四年八月鑛山寮ヲ置キ又佐渡支廳ト稱シ十年一月鑛山寮ヲ廢シ局ヲ置キ支廳ヲ佐渡鑛山分局ト改稱シ十六年九月鑛山局ヲ廢シ課ヲ置クニ及テ佐渡鑛山局ト稱シ本省ノ直轄ト爲シ十八年十二月工部省廢セラレ、ヲ以テ農商務省ニ屬シ尋テ大藏省ニ屬ス

工部省沿革報告抄錄 十二年六月十日 山形縣下羽前國西田川郡油戸炭山ノ石炭掘採ノ業ヲ創メ此ニ鑛山分局ヲ置キ佐渡分局ニ屬隸ス

(備考)
 開掘創始ハ明治元年ニ在リ十二年六月ニ至リ之ヲ官收シテ分局ヲ置キ佐渡鑛山分局ニ屬隸シ十四年六月院內鑛山分局ニ屬シ十六年九月院內鑛山局支局ト改稱シ十七年四月十七日新潟縣士族白勢成熙ニ賣下シテ民坑ト爲ス五月十日ニ發務掛ヲ本省ニ置キ同月三十一日廢ス
 工部省同十二年三月十九日
 鐵道及工作事業ノ儀逐々盛大相成右ニ費用ノ鐵類ハ是迄外國輸入物ヲ要シ候處向來ハ右ヲ不仰專ラ釜

佐渡鑛山支廳ヲ置ク

油戸鑛山分局ヲ置キ佐渡分局ニ屬ス

石鏡山ニ於テ製鐵可致ニ就テハ多分ノ石炭消耗ノ見込ニ有之然ニ北海道ニ於テモ未タ多量ノ産出ニ不到候得者需用ニ引足不申共外不便ノ地ヨリ採求致候テハ是亦費用多ニテ不都合ニ候處幸ヒ山形縣下羽前國西田川郡油戸石炭山ノ備ハ樞要ノ場所ニテ是迄土旗河上和義始借區開坑致居候分該縣ヘ協議ノ上金四千六百九十圓ヲ以買收爾來鑛山局ニ於テ官行開採致度右様相成候得ハ獨釜石鑛山而已ナラズ佐渡ヲ始其他陸羽越等從前木炭資用ノ諸鑛山ニ於テモ大ニ便利ヲ得候儀ニ有之且右費用ノ豫算合金十一萬九千六百九十圓別紙仕譯書ノ通ニ候間別途御支出相成度尤右之内金二萬五千六百九十圓ハ本年度ニ於テ可要金額ニ付夫々御下渡相成候様致度至急何分ノ御指令有之度仍之別紙相副此段相伺候也
 同ノ趣別途渡方ノ備ハ難開屆候條共省ヘ可相渡起業基金ノ内ヲ以支辨可致事
 調査局議案十二年四月十九日
 工部省伺山形縣下油戸石炭山官行ノ備審案候處製鐵事業ノ盛大ニ隨ヒ多分ノ石炭ヲ消耗シ將來ノ需用ニ乏キヲ以油戸石炭山ヲ買收シ官行開採致シ度旨ニ有之然ルニ大藏省上答ノ趣モ有之此際ニ於テ金額別途御出方ノ備ハ御開屆難相成筋ト推考候得共右ハ有益ノ事業ニシテ不可止モノニ相開屆該省起業費定額内ヲ以支出相成可然相考候間一應同省ヘ及照會候處別段差支ノ筋モ無之趣ニ付左案取調仰高裁候也

佐渡鑛山局事務規程

佐渡鑛山局事務規程 十七年十二月十六日

一局内分チテ左ノ六科トス

- 採礦科 精礦科
- 修營科 分析科
- 會計科 庶務科
- 一採礦科ハ開坑採礦撰礦等之事ヲ管掌ス
- 一精礦科ハ精礦ノ事ヲ管掌ス
- 一修營科ハ器械家屋ノ新造及ヒ保存等ノ事ヲ管掌ス
- 一分析科ハ分析ノ事ヲ管掌ス
- 一會計科ハ計算ノ整理現金ノ出納等及ヒ簿記等ノ事ヲ管掌ス
- 一庶務科ハ文書ノ往復物品ノ購買及其他一切ノ雜務ヲ管掌ス

生野鑛山支應事務規程

生野鑛山支應事務規程 元年十二月二日

- 一各科長一人ヲ置ク長事故アルハ其次席ノ者之ヲ代理ス
- 一科長ハ他科ノ爲メニ現ニ職權ヲ侵サレ又ハ故障ヲ被リシコトヲ知テ故ラニ默視シ而シテ他日之ヲ辭柄トシテ其責ヲ免ル、コトヲ得ス
- 一科員及ヒ職工ノ公務上ノ失錯ニ係ルモノハ其故意ニ出ルモノヲ除ク外凡テ科長其責ニ任ス

工部省沿革報告抄錄 元年十二月二日
 豐岡縣但馬國朝來郡生野鑛山開鑿ノ業ヲ創始シ公辦ヲ此ニ置キ以テ鑛山司生野出張所ト稱ス

(備考)
 開坑ノ創始ハ大同二年ナリト云フ而モ開鑿法ノ稍ヤ備ハリ事業ノ見ルヘキモノアルニ至リタルハ天文十一年以降トス慶長天和ノ際舊幕府ノ直轄スル所ト爲リ一時盛ニ掘採セリ降テ慶應ニ至リ大ニ衰微ニ屬ス太政維新ノ日廟議之ヲ官行ス此ニ於テ鑛山司支應ヲ置ク爾後支應名稱ノ沿革ハ佐渡支應ニ同シトス八年十二月工部省廢セラレ、ヲ以テ農商務省ニ屬ス未タ交付セサルニ當リ十九年一月六日大藏省ニ屬スルノ開令出ツ同年四月ヲ以テ大藏省ニ交付ス

生野鑛山支應事務委任條件

鑛山寮達 八年十一月二十四日

- 生野支應事務及委任候條件左ノ如シ
- 第一款 生野支應雇月給二十圓以下差掛リ黽陟取計候事
- 第二款 官員以下技術方及ヒ雇等ニ時宜ニ從ヒ出張或ハ巡視ヲ命スル事
- 第三款 工場諸器械及官舎等前規ノ通り時宜ニ仍リ定額豫算目途掲載ノ内ニテ修理スル事
- 第四款 官員及ヒ技術ノ者歸省墓參病氣等ニテ歸郷或ハ出京ヲ乞フ者ハ開申許可ヲ請フ可シト雖トモ父母急病ニ罹リ或ハ其身疾病危篤ニシテ往復ノ間ヲ待ツ可ラサレハ便宜之ヲ處置シ具狀シテ開報スルヲ得ル事
- 第五款 諸職工勤惰ヲ糾シ具狀シテ其賞罰ヲ請フ可シト雖トモ其機ニ臨ミ一時勸獎ノ爲メ二圓以下ノ賞金ヲ與フル事

第六款 事ヲ執ルノ際若シ臨時急務ニ處スルニ當リ本寮及ヒ本省ニ稟議スヘキ事件ニ屬スト雖トモ其大體ニ妨ケナキモノハ便宜之ヲ裁決シ尋テ其狀ヲ具シテ開報スル事
以上現地事務凝滞ヲ察シ各款及御委任候尤施行ノ上其時々迅速開報可有之候也

三池鑛山支廳ヲ置ク

工部省沿革報告抄錄 六年九月五日

筑後國三池郡ノ石炭山ヲ直轄シテ其坑業ヲ起シ三池鑛山支廳ヲ置ク

(備考)

三池鑛山ハ文明元年發見スル所ニ係ル明治四年九月三池縣士族卒歸農資産ノ爲メニ借區開墾セリ六年六月之ヲ工部省ニ收メ此ニ至テ支廳ヲ置ク爾後名稱ノ沿革佐渡支廳ニ同シ十八年十二月工部省廢セラレハヲ以テ農商務省ニ屬シ尋テ大藏省ニ轉屬ス

工部省 七年二月十五日
三池縣下三池郡石炭山之儀ハ往々利益モ可有之見込ニ而入費之儀ハ當省定額之内ヲ以致充用昨年七月已來鑛山寮ニ於テ試ノ爲始業開採罷在候此段御届申進候也

三池鑛山局巡視心得

三十六年十一月二十二日 三池鑛山局定

通則

- 第一條 巡視ハ本局及ヒ炭坑内外ヲ護衛スルヲ以テ本務トス故ニ平素深ク注意シテ異變ヲ未發ニ防禦スルヲ怠ルヘカラス
- 第二條 勤務中ハ嚴肅ヲ旨トシ職務外ノ談話等爲スヘカラス
- 第三條 勤務上ニ於テ人ニ接スルニハ温和ヲ旨トシ粗暴ケ間敷キ所行爲スヘカラス
- 第四條 病氣ニテ闕勤ノ節ハ局醫ノ診斷證書ヲ添ヘ工部長ヲ經由届出ヘシ
- 第五條 奏任官以上及ヒ外國人ニ對スルトキハ帽ヲ脱シ正シク敬禮ヲ爲スヘシ其他ニ對シテモ總テ禮節ヲ正フスヘシ
- 第六條 凡テ官吏ニ對シ語ヲ交ユルニハ帽ヲ脱スヘシ

第七條 非常ノ節非番ノ者ハ直ニ現場ニ賙付ケ其關係ノ科長若クハ其代理者ノ指揮ヲ受クヘシ

本局詰巡視勤務

第八條 本局詰巡視ハ主記科長若シクハ其代理者ノ指揮ヲ受クルモノトス故ニ以下ノ條項中指揮ヲ受クヘシトアルハ科長若シクハ其代理者ノ指揮ヲ云フナリ

第九條 本局詰巡視ヲ分チテ二部トシ每部部长一名ヲ置キ部中ヲ監督セシム

第十條 勤務時間ハ隔日ニ二十四時間ノ續勤トス

第十一條 受持區域左ノ如シ

- 一 本局構内外及ヒ局長ノ邸宅
- 二 倉庫科所屬土藏及ヒ物置等
- 三 運輸科所屬車道工場及ヒ船舶等

四 製造場

第十二條 晝夜間斷ナク受持區内ヲ巡回シ毫モ怠ルヘカラス尤二名ハ不斷本局内ノ面番ヲ爲スヘシ

第十三條 事業上妨害トナルヘキ所行ヲ爲スモノアルトキハ直ニ制止シ事柄ニ依リ詰所ニ引致シ指揮ヲ受クヘシ

第十四條 貯藏物品其他散亂ノ恐レアリト認ムルトキハ其掛リヘ通報シテ取片付ヲ爲サシムヘシ

第十五條 土藏物置其他ノ戸締ハ常ニ注意シ異常アルトキハ其掛ヘ通知スヘシ

第十六條 役場及ヒ土藏物置等ノ牆壁外圍等腐朽或ハ破損シ取締上不完全ト認ムルモノハ速ニ申立修理ヲ乞フヘシ

第十七條 諸職工等工場取締規則ヲ犯スモノアルトキハ直チニ取押ヘ其掛リヘ引渡スヘシ

第十八條 犯罪者ヲ認ムルトキハ之ヲ取押ヘ證據物件及ヒ檢證人等アル場合ハ紛失離散セサル様注意シテ指揮ヲ受クヘシ

第十九條 醉漢及ヒ瘋癲漢ハ勿論無用ノモノヲシテ役場工場等ヘ立入ラシムヘカラス

- 第二十條 怪敷者ト認ムルトキハ取糺シ時宜ニ依リ指揮ヲ受クヘシ
- 第二十一條 火ノ原ヲ大切ニスルハ言ヲ待タスト雖トモ暴風ノトキハ殊ニ注意スヘシ
- 第二十二條 喧嘩毆闘ヲ爲スモノアルトキハ之ヲ取鎮メ殺傷スルモノハ地方警察官ニ引渡スヘシ
- 第二十三條 日々取扱ヒタル事件及ヒ巡回中ノ景況等細大無漏日誌ニ記録シ科長ノ檢印ヲ受クヘシ
開坑科詰巡視勤務
- 第二十四條 開坑科詰巡視ハ開坑科長若シクハ其代理者ノ指揮ヲ受クルモノトス故ニ以下ノ條項中指揮ヲ受クヘシトアルハ科長若シクハ其代理者ノ指揮ヲ云フナリ
- 第二十五條 開坑科巡視ヲ分チテ二部トシ每部々長一名ヲ置キ部中ヲ監督セシム
- 第二十六條 勤務時間ハ第十條ノ通り
- 第二十七條 一名ハ坑外ニ在リテ開坑科所屬ノ工場倉庫車道及ヒ諸器械等ノ取締ヲナシ餘ハ悉ク坑内ニ詰切ルモノトス
- 第二十八條 坑外取締リ巡視ノ勤務ハ第十二條以下第二十三條マテヲ適用ス
- 第二十九條 坑内詰巡視ハ常ニ坑内ニ在リテ小頭以下ヲ指揮シ坑内諸般ノ事務ヲ取扱フモノトス
- 第三十條 不斷坑内ヲ巡回シ小頭以下諸職工ノ勤務ヲ監察シ坑業掛リヲ經由科長へ被告スルモノトス
- 第三十一條 坑業掛リ以上ノ官吏坑内巡檢ノ節ハ必ス伴從スルモノトス
- 第三十二條 掘場通洞水堰其他損害ノ恐レアリト認ムルトキハ直チニ指揮ヲ受クヘシ尤モ事火急ニ出
差置キカキ場合ハ臨機處分シ其旨坑業掛へ報告スヘシ
- 第三十三條 坑内需用諸物品ノ遣拂ハ嚴密ニ調査シテ濫用ナカラシムヘシ
- 第三十四條 犯則者及ヒ犯罪者等ヲ認ムルトキハ之ヲ取押へ指揮ヲ受クヘシ尤モ犯者懲役囚徒ナルトキハ其關係ノ看守へ照會シテ取押ヘシムルモノトス
- 第三十五條 但看守不在等ニテ猶豫スヘカラサル場合ニ於テハ直チニ取押へ身柄ハ看守へ引渡スヘシ
坑内異變アルトキハ直チニ現場ニ臨ミ防禦ヲ爲スヘシ

三池礦山局處務規程

- 第三十六條 坑内ニ於テ喧嘩毆闘ヲ爲スモノアルトキハ之ヲ取鎮メ殺傷スルモノ良民ハ地方警察官ニ引渡スヘシ
- 第三十七條 前三條ノ場合ニ於テハ其始末具サニ科長へ報告スヘシ
- 第三十八條 坑内ノ景況及ヒ取扱タル事件ハ細大不漏日誌ニ記録シ科長ノ檢印ヲ受クヘシ
- 三池礦山局處務規程三十六年四月廿日制定
- 第一條 本局主管之事務ハ左ノ七科ニ分擔整理スルモノトス
 - 一 主計科 二 主計科
 - 三 倉庫科 四 開坑科
 - 五 運輸科 六 土木科
 - 七 製作科
- 第二條 主計科ハ文書ノ往復編輯事業ノ景況報告書及職員ノ名簿履歷進退圖書ノ管守等ニ關スル一切ノ事ヲ擔理ス
- 第三條 主計科ハ每歲收支豫算ノ調製金錢物品出納ノ簿記諸報告現金ノ納拂炭礦ノ販賣其他會計ニ關スル一切ノ事務及統計ニ係ル事ヲ擔理ス
- 第四條 倉庫科ハ各科需用ノ物品購買貯藏交付ニ關スル事ヲ擔理ス
- 第五條 開坑科ハ採炭疎水通氣及坑門ヨリ船積場ニ至ルノ運搬鑿鑿其他坑區ニ關スル一切ノ事ヲ擔理ス
- 第六條 運輸科ハ開坑科ヨリ搬出ノ炭礦ヲ船舶ニ搭載シ之ヲ海內外諸地方へ輸送スル等炭礦ノ運輸ニ關スル一切ノ事ヲ擔理ス
- 第七條 土木科ハ坑外車道棧橋舍屋溝渠ノ修築其他坑外ノ諸建築ニ關スル一切ノ事ヲ擔理ス
- 第八條 製作科ハ各科需用ノ器具及焦煤製造ノ事ヲ擔理ス

小阪鑛山支廳ヲ區ク

工部省沿革報告抄錄 二年十一月二十四日
陸中國鹿角郡小阪鑛山 氏ノ私掘セシ所 ヲ收メテ官行トシ支廳ヲ置ク

(備考)
元治元年ノ發見ニ係ル明治二年十一月民部省鑛山司支廳ヲ置キ三年閏十月工部省ニ屬シ出張所ト稱シ
四年八月鑛山寮ヲ置クニ及テ小阪支廳ト稱シ十年一月小阪鑛山分局ト改稱シ六月官行ヲ廢シ南部利恭
ニ貸與ス

十輪田鑛山ヲ小阪鑛山
ノ支山ト爲ス

十年五月二十四日廢坑ス

工部省沿革報告抄錄 四年二月四日

陸中國鹿角郡鳥越村十輪田山中ノ本山鑛山ヲ小阪鑛山ノ支山トシ以テ開鑿スルヲ議決ス

(備考)
十輪田鑛山ハ十輪田山中ニ在リ本山鑛山大藏鑛山ト云フ六年三月始テ鉛山ヲ開鑿シ八年二月鑛山ヲ
開鑿ス

辦官ヨリ江刺縣ヘ達 四年二月七日

此度陸中國鹿角郡十輪田鑛山御取開相成候ニ付テハ爾後右山工部省ノ管轄ト相心得山道切開并伐木
等ノ儀夫々同省小阪鑛山出張ヨリ掛合ニ可及ニ付萬事差支無之様取計可申候也

工部省伺 四年二月四日

昨午年陸中國鹿角郡小阪鑛山ニ於テ製鑛場廣大ニ御取開相成候儀ハ同山ヨリ東北ニ引續十輪田山ト申
大山有之此内ニ大藏ト字仕居候鑛山并本山ト字仕居候鑛山ニ其鑛多分ニ有之小阪鑛山ノ鑛石ニ調和高
爐ニテ鑛解仕候ニハ最上ノ品柄ニ付掘採相用可申見込ニ御座候處不遠右製鑛場落成相成可申候ニ付右
鑛山ヨリ十輪田鑛山并鑛山迄凡六里ノ間新ニ山道相開右鑛山兩鑛共掘取送小阪製鑛場ニ於テ調和鑛
解仕度奉存候尤右十輪田ノ儀ハ從來樵夫ナラテハ通行難相成絶峻ニ付一先牛馬通行迄ノ事ニ御普請仕
度奉存候右伺ノ通被仰付候儀ニ御座候ハ、其土地管轄縣ヘ御達置相成候様仕度奉存候依之江刺縣ヘノ
御達置草案相添此段奉伺候也
指令

工部省伺 九年十月二十七日

當省鑛山寮羽後國秋田郡小阪支廳所轄十輪田鑛山之儀ハ山勢漸々衰微後來其脈ニ穿徹スル見込無之ニ
付今般斷然廢坑致シ候付テハ向所用地之儀鑛山ヘ關シ入用無之候得共十輪田鑛山ニテ需用之材木伐採

シ且小阪ヨリ十輪田鑛山ヘノ往來筋ニテ荷物中繼等ノ爲メ緊要之地ニ付今後右鑛山用地ニ從來之儀據
置候間此段及御届候也

大葛支廳ヲ區ク

工部省沿革報告抄錄 六年十月十六日

羽後國秋田郡大葛金山及ヒ陸中國鹿角郡真金山ノ坑業ヲ起シ大葛支廳ヲ置ク

(備考)

二山開坑ノ創始ハ文祿慶長ノ際ニシテ降テ寶曆年度ニ至ル百五十餘年間ハ該地頭ノ行業スル所アリ安
永八年ニ至リ山民荒谷某ノ負擔ト爲シ九十餘年之ヲ私行シ慶應二年凶歉ニ遭遇シ明治元年兵燹ニ罹リ
三年秋田藩ニ返山ス共八月藩廳之ヲ管シ廢藩ノ日ニ至テ秋田縣ニ交付ス此ニ於テ大葛ハ縣廳假ニ之ヲ
官行シ真金ハ人民ニ貸與ス爰ニ至リテ共ニ工部省ニ收テ官行ス十年一月大葛金山ト改稱シ小阪鑛山分
局ノ所轄ト爲シ六月三十日官行ヲ廢シ南部利恭ニ貸與シ十二年七月一日鑛業會社ニ轉貸ス

大葛金山ヲ小阪鑛山分
局ノ所轄ト爲ス

工部省沿革報告抄錄 十年一月四日

大葛支廳ヲ廢シテ大葛金山ト稱シ小阪鑛山分局ノ所轄トス

小阪大藏兩鑛山下

工部大藏兩省上請 十年四月三十日

東京府華族南部利恭ヨリ官抗拜借營業之儀願出ニ付東京府ヨリ別紙之通允許相成度段開申候ニ付審議
候處一體小阪大葛兩坑ノ如キハ官採鑛山ノ中最モ小山ニ屬シ出鑛ノ金モ亦多ナラス故ニ之ヲ貸與候
モ敢テ抗事上ノ得失ニ關セサルノミニ無之寧口右兩鑛山ニ消費スヘキ所ノ資金ヲシテ現時産鑛ノ夥多
ナル阿仁院内ノ如キ大鑛山ニ轉用シ其坑業ヲシテ猶一層之隆盛ニ至ラシメ以テ洪益ヲ異日ニ收メ候方
却テ御都合可然存候ニ付別紙命令條目ニ照シ貸渡候ハ、別段不都合之儀無之ト存候條願之通御允許相
成候様仕度依テ書類相副此段上請候也
指令 十年五月五日

上請ノ趣聞届候事

調査局議案 十年五月四日

別紙大藏工部兩省上請官抗貸渡之儀審議候處小阪大葛兩坑ハ出鑛ノ量モ夥多ナラス之ヲ貸與候モ工事
上敢テ得失ニ關セサルノミナラス寧口右資金ヲシテ他ノ大鑛山ニ轉用候方御都合可然トノ趣實際便宜
ノ處分ニ相見ヘ候間渾テ上請之通御允許相成可然哉左案取調此段相伺候也

工部省沿革報告抄錄十年六月三十日
小坂鑛山分局并所屬大葎金山ノ業ヲ廢ス

十輪田鑛山ヲ廢ス

工部省達 十年五月二十四日

陸中國鹿角郡鳥越村十輪田鑛山廢鑛候條所屬ノ物品等悉皆入札ヲ以テ賣却方取計處分濟ノ上可申出此段相達候也

大藏工部兩省屆十二年七月十八日
工部省第十七號ヲ以テ去ル明治十年四月御許相成候秋田縣下羽後國秋田郡大葎鑛山之事業華族南部利恭ニ貸渡置候處右鑛山之儀ハ東京府下平民鑛業會社頭取岡田平馬豫テ稼行罷在候同國尾去澤鑛山ニ接近シ鑛業上便捷之廉有之趣ヲ以テ雙方熟議之上大葎鑛山之事業ヲ岡田平馬ニ讓渡換之儀東京府ヲ經テ出願候ニ付兩省協議之上諸事南部利恭ニ貸渡候振合ヲ以テ平馬ニ讓渡換開屆候條此段御届申進候也

小坂鑛山分局ヲ再置ス

工部省伺 十三年五月三日

工部省元所轄秋田縣下陸中國鹿角郡小坂鑛山之儀ハ去ル明治十年二月東京府華族南部利恭拜借出願之末同年五月中御允可相成爾來營業罷在候處追々經費相嵩ニ資金取續兼候ニ付今般該山返納仕度旨願出候趣ヲ以テ東京府ヨリ別紙之通開申候ニ付夫々調査遂審議候處事實相違モ無之情實無餘儀相開候就テハ該山引上從前之通當省ニ於テ所轄致シ然シテ右返納ニ付處分方之儀ハ兼テ相渡置候命令條目第十條ニ準據夫々取計候得ハ敢テ不都合之儀モ無之存候開大藏省及協議候處存無之ニ付御允許相成度且又鑛山ト接近自カラ管箇ノ形ヲナシ坑業上兩山合併偏廢ス可ラサル樞要ノ場所ニ有之然ルニ小坂鑛山從前ノ通當省ニ於テ可致所轄ニ付テハ幸右十輪田鑛山御買上官行相成候得ハ坑業便益不少ト存候依之該山方今ノ景況夫々遂審查候處出願等モ相應有之願之通代價金二萬圓ニ御買上相成候トモ敢テ不相當無引殘三萬七千五百圓餘及ヒ爾後營業用ノ資本金且興業費共金三萬三千圓本年度ニ於テ別途御支出相成候條致度願書類相添此段相同候也
追テ別紙計算調查興業費之内金一萬二千圓ハ來十三年度ニ於テ別途御支出相成候條致度此段添テ及上申候也

指令 十三年五月十九日
伺ノ趣聞届候事

小坂鑛山分局ヲ阿仁鑛山局ノ所轄ト爲ス

工部省沿革報告抄錄 十六年九月二十二日
小坂鑛山分局ヲ阿仁鑛山局ノ所轄トシ小坂支局ト稱ス

阿仁鑛山小坂支局ヲ廢シ小坂鑛山局ヲ置ク

工部省達 十六年十月二十九日
阿仁鑛山小坂支局ヲ廢シ更ニ小坂鑛山局ヲ設置候條此旨相達候事

工部省伺 十六年十月二十九日
阿仁鑛山小坂支局ヲ廢シ更ニ小坂鑛山局ヲ設置候ニ付此段及御届候也

小坂鑛山局ヲ廢ス

工部省達 十七年八月二十一日

其局鑛山營業貸渡之儀久原庄三郎ヨリ出願候ニ付聞届別紙命令條目相渡候條此旨相達候事
但實地引渡方不都合無之様可取計事

工部省伺 十七年八月四日
今般當省所轄官行鑛山ノ義ニ付第七十二號伺ニ對シ御指合ノ趣有之候處秋田縣下陸中國小坂鑛山ハ東京府下日本橋區本木町二丁目二番地久原庄三郎ヨリ拂下ノ義出願候ニ付取調候處小坂鑛山ハ開坑及製煉所等總テ支出シタル興業費ノ未償却高金二十七萬四千三百三十二圓九十五錢三釐ニ有之候得共建築物其他裝設以來數年ヲ經過シ或ハ修理補繕金ヲ當時ノ元形ヲ存セス或ハ既ニ消損無形ニ屬シ候者モ有之即今實況ニ就キ計算候ハ、財産價格金二十萬圓ニ滿タサル哉モ難計然レトモ其實業上ノ願ミレハ去十三年再ヒ官行以來若干益金有之十五年度ニ於テハ收支差引金一萬七百六十圓餘ノ純益有之將來ニ於テモ毎年若干ノ收益ハ必可有之見込ニ付夫是ヲ斟酌シ財産價格金二十萬圓ト定メ無利足二十五箇

年賦ヲ以テ建物其他現在品悉皆拂下ケ并ニ營業上需用ノ貯藏倉庫品ハ更ニ實地調査ヲ遂ケ時價及ヒ相當年賦ヲ以テ拂下候ハ、拂受人ニ於テモ右收益金ヲ以テ年賦上納金其他營業資本ノ利足金等支出候テ事業ノ繼續ハ爲シ得ヘキ義ト被存官ニ於テモ前額ヲ以テ拂下候ハ、敢テ不相當ニ無之存候中小坂鑛山ハ東京府下麹町區飯田町四丁目一番地坂本彌八等ハ工場價格金三萬圓需用物品代金八千八百六十圓九十八錢一釐ヲ以テ拂下ノ義明治十五年十一月第百十五號ヲ以テ相候未本年七月御指令ノ趣有之候ニ付木八共ハ該判向ホ實地調査爲致候處廢業後建物器械等殆ント三年間使用不致其儘差置候義ニ付當今鎔鑛爐建物其他ノ修繕費一層相増シ并ニ需用物品等ノ損減有之且物價低落等ノ廉ヲ以テ更ニ工場價格金二萬五千圓ト定メ内金二百五十圓ヲ即金上納餘ハ無利足二十箇年賦上納并ニ需用物品代金三千五百七十五圓八十九錢九釐ヲ以テ拂下相成度旨木人ヨリ別紙ノ通願出事實止ヲ得サル情願ト存候間小坂中小坂兩鑛山共書載ノ金額年賦ヲ以テ拂下ノ義御裁可相成度候依テ命令書案并ニ計算書等相添此段相伺候也

追テ小坂鑛山貸渡ノ命令條目中第四條ニ掲グル坑業用ノ諸物品ハ目下急需ニ無之モノ、有無ニ依リテ年賦返納ノ期限モ伸縮可有之義ニ付實際取調ノ上取極可申答ニ有之候間此段副申候也

指令十七年八月十九日

但命令書案貼紙ノ通修正スヘシ

第一局議案十七年八月八日

別紙工部省伺小坂中小坂鑛山建物器械其外拂下ノ件ハ陸中國小坂鑛山拂下ケノ義東京府下本材木町二町目ニ番地久原庄三郎ヨリ出願ニ付財產價格金二十萬圓ト定メ無利足二十五箇年賦ヲ以テ拂下ケ且營業上需用ノ貯藏品ハ時價ヲ以テ相當年賦ヲ定メ拂下ケントスルモ、又上野國中坂鑛山拂下ケノ義ハ曩ニ御指令ノ趣ニヨリ出願人同府下飯田町四丁目一番地坂本彌八等ハ該判ノ未尙實地調査セシメ候處工場價格金二萬五千圓ト定メ内金二百五十圓ヲ即金上納餘ハ無利足二十箇年賦ニ上納シ需用ノ物品代ハ金三千五百七十五圓餘ヲ以テ拂下ケ相成度旨願出候ニ付允裁ヲ仰クモノニ有之案スルニ小坂鑛山ノ興業費未償却高ハ金二十七萬四千餘圓アレトモ建物器械等裝設以來數年ヲ經過シ當時ノ元形ヲ存セサルノミナラス消損無形ニ屬セシモノ有之候趣ナレハ現實財產ノ價格ヲ金二十萬圓ト概算セシハ不相當ニモナカルヘク又中小坂鑛山ハ去ル十五年工場價格金三萬圓需用物品代金八千八百餘圓ヲ以テ拂下ケ願出タルモノナレトモ廢業後殆ント三箇年間モ使用セサルカ爲メ修繕モ一層相増シ物品ハ損減シ物價モ低落セシヲ以テ前額ノ如ク價格ヲ引下ケタルモノニテ事情無餘義相聞其他不都合ノ廉モ不相見候間夫々御裁許相成可然歟左案ヲ具シ仰高裁候也

工部省上申十七年十月十一日

當省所轄秋田縣下陸中國鹿角郡小坂鑛山營業ヲ東京府下日本橋區本材木町二町目ニ番地平民久原庄三郎ハ貸下并ニ所屬物件拂下ノ借本年八月第八十三號ヲ以テ伺濟ニ依リ右ニ添付シタル命令條目ニ照準シ去八月三十日ヲ以悉皆本人ハ引渡候條此段及上申候也

大藏省檢査通覽

小坂鑛山局殘務掛ヲ置ク

工部省達 第十七年十月十一日 今般小坂鑛山之營業ヲ久原庄三郎ハ貸下候ニ付該鑛山ニ係ル殘務ヲ處辨スル爲メ當分之内本省内へ小坂鑛山局殘務掛ヲ設置候條此旨相達候事

釜石鑛山支廳ヲ置ク

工部省達 第十八年二月二十五日 小坂鑛山殘務掛本月二十八日限廢止候條此旨相達候事

釜石鑛山分局ノ事業ヲ中止ス

工部省沿革報告抄錄 七年五月二十一日 陸中國閉伊郡鐵鑛山 甲子村大橋鐵鑛山 橋野村鐵鑛山 佐野佐比內栗林三鑛山ノ官行ヲ廢ス

釜石鑛山分局ヲ廢シ務掛ヲ置ク

工部省達 第十六年二月十二日 其局鑛山事業ノ儀ハ詮議之次第有之當分廢止候條此旨相達候也

釜石鑛山分局ヲ廢シ務掛ヲ置ク

工部省達 第十六年七月六日 釜石鑛山分局六月三十日限り相廢シ更ニ本局内へ同分局殘務掛設置候條此旨相達候也

釜石鑛山分局ヲ廢シ務掛ヲ置ク

工部省達 第十七年六月三十日 釜石鑛山分局六月三十日限り相廢候條其課中へ更ニ該殘務整理委員ヲ置キ來ル八月三十一日限り

釜石鑛山分局ヲ廢シ務掛ヲ置ク

工部省達 第十七年六月三十日 釜石鑛山分局六月三十日限り相廢候條其課中へ更ニ該殘務整理委員ヲ置キ來ル八月三十一日限り

釜石鑛山分局ヲ廢シ務掛ヲ置ク

工部省達 第十七年六月三十日 釜石鑛山分局六月三十日限り相廢候條其課中へ更ニ該殘務整理委員ヲ置キ來ル八月三十一日限り

釜石鑛山分局ヲ廢シ務掛ヲ置ク

工部省達 第十七年六月三十日 釜石鑛山分局六月三十日限り相廢候條其課中へ更ニ該殘務整理委員ヲ置キ來ル八月三十一日限り

悉皆整理可致右費用トシテ其課十七年度豫算エ金五百圓増加可相渡候此段相達候事

工部省達 第十七年度六月三十日

釜石舊鑛山殘務掛本月三十日限り相廢更ニ鑛山課中へ該殘務整理委員ヲ置候旨別紙ノ通相達候條本省經費中繰越金ノ内ヲ以テ金五百圓鑛山課十七年度豫算へ増加可相渡候此段相達候事

工部省達 第十七年度六月三十日

釜石舊鑛山殘務掛及鑛山用度兩課へ別紙之通指令及達候條爲心得此段相達候事

工部省達 第十七年度六月三十日

舊釜石鑛山殘務掛之義ハ本月三十日限り廢止候條爲心得此旨相達候事

阿仁院内兩支廳事務委任條件

鑛山寮達 阿仁院内兩支廳

第一款 院内支廳雇月給二十圓以下差掛黜陟取計候事

第二款 官員以下技術方及ヒ雇等ニ時宜ニ從ヒ出張或ハ巡視ヲ命スル事

第三款 工場諸器械及ヒ官舎等前規ノ通時宜ニ因リ定額内ニテ修理スル事

第四款 官員及ヒ技術ノ者歸省墓參病氣等ニテ歸郷或ハ出京ヲ乞フ者ハ開申許可ヲ請フ可シト雖モ父母母急病ニ罹リ或ハ其身疾病危篤ニシテ往復ノ間ヲ待ツ可ラサルハ便宜之ヲ處置シ具狀シテ開報スルヲ得ル事

第五款 諸職工勤惰ヲ糾シ具狀シテ其賞罰ヲ請フ可シト雖トモ其機ニ臨ミ一時獎勵ノ爲メ二回以下ノ賞金ヲ與フル事

第六款 事ヲ執ルノ際若シ臨時急務ニ處スルニ當リ本寮及ヒ本省ニ稟議ス可キ事件ニ屬スト雖モ其大體ニ妨ケナキ者ハ便宜之ヲ裁決シ尋テ其狀ヲ具シテ開報スル事

以上現地事務凝滞ヲ察シ各款及御委任候尤施行之上其時々迅速開報可有之候也

阿仁鑛山支廳ヲ置ク

工部省沿革報告抄録 八年十一月一日

秋田縣下羽後國北秋田郡阿仁銅山 六箇所曰小澤曰萱草曰一ノ及ヒ向山金銀山、矢櫃鉛山、山本郡八森銀山、太良鉛山、同加護山製鑛所、鹿角郡細地銅山、青森縣下二戸郡平糠金山、同小鑛銅山官行ノ業ヲ創始シテ阿仁ニ支廳ヲ置キ向山以下ノ諸山ヲ統轄ス 九年九月二日平糠小鑛ノ二山ヲ廢シ十年六月二十八日八森向山ノ二山ヲ廢ス

(備考) 寛文年間發見スル所ニ係ル秋田藩主佐竹氏ノ所管ト爲リ明治四年廢藩ノ後東京府下商會小野組之ヲ借區シ七年十二月該組廢業セルヲ以テ秋田縣廳ニ委シテ採鑛セシム(行ト云フ)八年八月工部省ノ所管ト爲シ此ニ至テ支廳ヲ置ク十年一月十一日阿仁鑛山分局ト改稱シ十六年九月二十二日阿仁鑛山局ト改稱シ十八年三月十一日東京府下商古川市兵衛ニ賣下シテ民坑ト爲ス

院内鑛山支廳ヲ置ク

工部省沿革報告抄録 八年十一月一日

秋田縣下羽後國雄勝郡院内銀山 院内銀山 及ヒ仙北郡荒川銅山川口銅山明取澤銀山及ヒ玉川砂鐵場ヲ官行場トシ院内ニ鑛山寮支廳ヲ置キ荒川以下ノ諸山ヲ統轄ス

(備考) 發見開掘ハ慶長年間ナリト云文化十四年秋田藩主佐竹氏ノ所管ト爲リ明治六年五月鑛山會社某之ヲ借區私行シ七年四月商社小野組之ヲ繼業シ同年十一月秋田縣ニ委シテ採鑛セシム八年八月工部省ノ所管ト爲シ此ニ至テ支廳ヲ置ク十年一月十一日院内鑛山分局ト改稱シ同年四月五日阿仁鑛山分局ノ所轄ト爲リ十二年五月九日復々分離シ十六年九月二十二日院内鑛山局ト改稱ス十八年一月二十日東京府商古河市兵衛ニ賣下シテ民坑ト爲ス

院内鑛山支廳ヲ院内鑛山分局ト改稱ス

工部省沿革報告抄録 十年一月十一日

院内鑛山支廳ヲ院内鑛山分局ト改稱ス

院内鑛山分局ヲ阿仁鑛山分局ト改稱ス

工部省沿革報告抄録 十年四月五日

院內鑛山分局ヲ阿仁分局ノ所轄ト爲ス

院內鑛山分局ヲ阿仁鑛山分局ヨリ分離ス

工部省達 十二年五月九日

右者從前阿仁鑛山分局之所轄ニ候處以來分離シ院內鑛山分局ト可稱此段相達候也

工部省沿革報告抄錄 十四年六月二十一日

油戸鑛山分局ヲ院內鑛山分局ニ屬シ該山主任一等屬福島晚郎之ヲ兼轄ス

油戸鑛山分局ヲ院內鑛山分局ニ屬ス

院內鑛山局巡視規則 十七年一月十四日

- 第一條 巡視ハ長一人 時宜ニ依リ副長一人ヲ 巡視六人 時宜ニ依リ巡視附屬ヲ置ク
- 第二條 巡視長ハ鑛山構内外ヲ不時巡回シテ非常ヲ警シメ且ツ巡視ヲ指揮シ勤怠ヲ監察シ事故アル時ハ直ニ主務ヘ申立ルモノトス
- 第三條 巡視ハ役局始メ各工場構内外ヲ晝夜交代巡視シ非常ヲ警戒スルモノトス
- 第四條 鑛山構内ノ山林及ヒ諸所散在ノ官有建物火藥藏等ハ時々巡行シテ非常ヲ警ムルモノトス
- 第五條 巡視ハ晝夜交替シテ役局及ヒ各工場ノ守門ヲ兼ヌルモノトス
- 第六條 山内ノ事故ト雖人民一般ニ係ルモノハ一切關涉ス可ラサルモノトス

院內鑛山油戸支局ヲ廢ス

工部省達 十七年一月二十一日

其支局油戸石炭山營業拂下之義新瀧縣下北蒲原郡新發田住士族白勢成熙ヨリ新瀧縣ヲ經テ出願候ニ付別紙之通聞届候旨該縣ヘ相達候條得其意受取之儀申出候ハ、夫々引渡可申此旨相達候事 (別紙)

工部省達 十七年一月二十一日

其縣下北蒲原郡新發田住士族白勢成熙ヨリ山形縣下羽前國西田川郡油戸石炭山營業拂下之義出願候旨ヲ以テ第三百三號及第六號上申之趣ハ該山現在之倉庫品并ニ器械及既ニ採掘セシ石炭其他之物品共悉皆金二萬三千七百七十八圓十六錢四釐ニテ拂下可聞届候條命令條目相渡候間別紙案之通請書差出候様可取計候事 (別紙)

工部省同 十六年十月二日
羽前國西田川郡油戸村石炭山ノ備去ル十一年十二月經伺ノ上採礦營業致來候ニ付今般右營業上ノ得失及該山將來可採採水平以上ノ炭脈等箇ト調査爲致候處其炭層孰レモ薄クシテ永續ノ見込相立不申候ニ付人民ニ於テ望ノ者モ有之候ハ、拂下候様致度此段相伺候也 (指合略ス)

第一局議案 十六年十月六日
別紙工部省同油戸石炭山營業拂下ノ件ハ炭層薄ク永續ノ見込ナキニ付望人有之候ハ、拂下度トノ趣ニシテ御開届相成可然歟左案ヲ具シ仰高裁候也
工部省上申 十七年七月十九日
當省所轄羽前國西田川郡油戸村石炭山營業ノ備客歲十月中御指令ノ旨趣ニ由リ起業以來該山ニ費用セシ經費ニ對シ收入ヲ以テ償却セシ其殘額ト營業資本内ノ物品代價トヲ合計シ金二萬七千九百四十三圓九十七錢七釐ヲ以テ拂下代價トシ營業ノ實況ヲ酌量年賦ニテ拂下ケ候尤與業費未償還高及營業資本金還納ノ儀ハ別紙調書ノ通相成候依之拂受人ヨリ差出候請書寫相添此段上申候也 (通聞別紙調書略ス)

院內鑛山油戸支局殘務掛ヲ區ク

工部省達 十七年五月九日
今般其支局油戸鑛山之營業ヲ白勢成熙エ拂下候ニ付同支局詰之内別紙名面之者ハ歸京申付當分之内本省内エ油戸鑛山殘務掛ヲ置キ右殘務ニ係ル事務爲取扱候條此旨相達候事 (別紙)

四等屬 最 上 善 明

工部省達 第十七號五月十日
 今般院內支局油戸鑛山之營業ヲ拂下候ニ付當分之内本省内ニ油戸鑛山殘務掛ヲ置キ事務爲取扱候條爲
 心得此旨相達候事

院內鑛山局ノ廢ス

工部省達 第十七號五月十日

其局鑛山營業讓渡之義古河市兵衛ヨリ出願候ニ付聞届別紙命令條目相渡候條此旨相達候事
 但少書記官上村行徵其他出張候ニ付諸事打合可申事

工部省達 第十七號五月十日
 工部省同 十七年十一月二十九日
 當省所轄鑛山措置方ノ儀ニ付テハ義ニ第七十二號伺ヘ對シ御指令ノ趣モ有之院內鑛山ノ義ハ民業ニ被
 移候事ニ御裁定相成候ニ付爾來營業繼續スヘキ相當ノモノヲ詮議致居候處今般院內鑛山ノ義ハ民業ニ被
 ルモノ該山拂下ノ儀出願候ニ付取調候處同儀ハ數年鑛山事業ニ從事致居候モノニテ現ニ足尾草倉兩
 銅山等ノ如キハ同人數年來ノ苦心計畫ヲ以テ近來大ニ繁盛ヲ極居候次第ニ有之鑛山事業ニ於テハ信用
 ヲ置クヘキモノニ候得ハ願意開届拂下ケ候様致度然ル處該鑛山去ル明治八年官行以來十六年度迄ノ經
 費ノ收支ヲ比較スルニ別紙計算ノ通當今未償ノ金額ハ金四十一萬有餘圓ニ有之候得共右ハ去ル明治十
 三四年ノ頃物價騰貴ノ際ニ於テ起業基金ヲ以テ施行セル工事ノ費用巨多ニシテ其中ニハ外國人給料共
 外無形ニ屬スルモノ亦夥多有之候故ニ現今ノ財產價格ハ凡ソ二十八九萬圓位ニ相當可致然レニ實際ノ
 營業上ニ於テ無用ニ屬スル設置物ナカラス且其景況タル近年鑛山ノ模様甚不相當ニ貧乏多クシテ採
 製煉等ニハ却テ多費ヲ要シ爲メニ十六年度ハ僅々二千有餘圓ノ益金ヲ收メ本年度ノ如キハ其模様益々
 不長ヲ呈シ既ニ七月已降本月迄ニ於テ一萬圓以上ノ關額ヲ顯シ此上如何様ノ方法ヲ以テテモ到底木
 年度ニ於テ二萬圓餘ハ缺額補填ヲ不仰シテハ難相成次第ニ有之且將來ノ義モ目下確ト見込モ難相立候
 得ハ豫テ意見上申致置候通民業ニ移シ營業上一切活發ノ計畫ヲ爲致候ハ、挽回ノ見込モ難相立候
 存候就テハ前計算ノ内建物器械等不適當及破損ノ者モ不尠候ニ付夫是斟酌ヲ加ヘ該山ニ屬スル財產
 價格ヲ金七萬五千圓ト定メ且營業上需用ノ貯藏品及ヒ半製鑛物等ハ實際ノ員數調査ヲ爲遂候上時價
 定メ各年賦ヲ以テ拂下候ハ、不相當ニハ無之ト存候間此儀御裁可相成度依テ命令書案相添此段相伺候
 也
 指令十七年十二月二十三日
 同ノ趣聞届候事
 第一局議案十七年十二月十九日

別紙工部省同院內鑛山營業拂下ノ件ハ今般東京府平民古河市兵衛ヨリ該山拂下ノ義出願ニ付財產價格
 ヲ金七萬五千圓ト定メ内金二千五百圓ハ該山引渡ノ際即納セシメ殘金七萬二千五百圓ハ十八年ヨリ五
 箇年間据置二十三三年ヨリ無利足二十九箇年賦トナシ營業上需用ノ貯藏品及半製鑛物等ハ實際ノ員數調
 査ヲ遂ケ候上時價ヲ付シ十八年ヨリ無利足十箇年賦上納ノ定額ヲ以テ拂下度トノ旨ニ有之案ハ該山
 ノ義ハ近年其景況不宜爲メ本年度ノ如キハ凡二萬餘圓資本ニ關額ヲ可生由ニテ且將來ノ義モ目下確乎
 タル見込難相立候ニ付此際民業ニ移サントノ義ハ無餘儀ノ處分ニ相見候尤與業費未償却高ハ四十一萬
 餘圓ニ有之ニ付前額ノ金額ヲ以テ拂下候テハ巨多ノ損失ニ相當リ候得共右未償還高ノ内ニハ外國人給
 料其他無形ニ屬スルモノ夥多ニシテ現今ノ財產價格ハ凡二萬八千九百圓ニ相當スヘキノ處尙此内ニモ建物器
 械等不適當及破損ノ者等不尠候ニ付夫是斟酌ヲ加ヘ更ニ財產價格ヲ七萬五千圓ト定メタル趣ニテ實際不
 得止次第ニ相聞且命令書案ニ於テモ不都合ノ廉無之ニ付伺ノ通御聽許相成可然歟左案ヲ付シ仰高裁候也
 工部省同 十八年二月十二日
 客歲十一月二十九日付第百二十九號ヲ以テ院內鑛山營業ヲ讓渡并建物諸器械備品其他共拂下ノ儀相伺
 候處同年十二月二十三日御裁可相成候付建物諸器械備品等ニ屬スル代金ヲ七萬五千圓貯藏諸物品立木
 及半製煉ノ鑛物採掘ノ礦石等ノ代金ヲ三萬三千九百七十七圓四錢貳厘ト相定メ最前伺濟ノ命令條目ヲ
 以テ本年一月二十日當府下日本橋區瀨戶物町七番地平民古河市兵衛ヘ讓渡候ニ付此段上申候也

院內鑛山局殘務掛ヲ廢

工部省達 十八年二月十二日

今般院內鑛山ノ營業ヲ東京府平民古河市兵衛ヘ讓渡候ニ付同局相廢シ當分ノ内本省内へ院內鑛山局殘
 務掛ヲ設置候條此旨相達候事

工部省達 十八年六月三十日
 院內鑛山殘務掛今三十日限廢止候條此旨相達候事

工部省達 十八年六月九日

今般阿仁鑛山ノ營業ヲ東京府下平民古河市兵衛ヘ讓渡候ニ付阿仁鑛山局ヲ廢シ當分ノ内本省内へ阿仁
 鑛山殘務掛ヲ設置候條此旨相達候事

工部省同 十八年三月三日
 阿仁鑛山處分方ノ儀ニ付再應相伺候處民業ニ移スヘキ見込ヲ以前途ノ方法取調申出ヘキ旨御指揮ノ趣
 致謹承候依テ營業繼續爲シ得ヘキ適當ノモノヲ詮議候處當府平民古河市兵衛ナル者該山拂下ノ儀出願
 候ニ付取調候處同人儀ハ此程院內鑛山モ拂受ケ年來鑛山事業ニ熱心從事致シ居候者ニテ現ニ同人所持

足尾草倉兩銅山等ノ如キハ近來頗ル繁盛ヲ究メ居該事業ニ於テハ信用ヲ置クヘキモノニテ必ス事業繼續爲シ得ヘキモノト信認致シ候ニ付願意開屆候様致シ度就テハ該山官行以來支出及未償還ノ金額等取調候處別紙ノ通互額ニ上リ居候得共右ノ内ニハ消耗無形ノ屬スルノ費途不尠現存ノ財產價格ハ十六年六月末ノ調査ニ依レハ四十七萬四千餘圓程ノ趣屆出有之其後聊ノ増減ハ有之候得共大差違無之將又營業資本額ハ二十萬圓ニ候處十六年度ニテ二萬三千餘圓本年度ニテモ一月末ニテ凡ソ四萬八千餘圓ノ外ニ起業基金假拂高十萬餘圓其内物品等ノ拂下部分ニ屬スルモノ是亦凡八萬圓程ニ可有之其外半製煉ノ礦物採掘ノ鑛石類亦凡二萬五千餘圓程可有之候然ルニ右ニ對シ該山財產代價金二十萬圓貯藏品其他起業金假拂ニ屬スル物品半製煉ノ鑛石類悉皆ノ代價七萬圓合計二十七萬圓トシ年賦納ヲ以拂下相成度旨申出候ニ付其相當ト思量スル代價額ト取調候處元來物ノ價目強チ支出入セシ金額ノ多寡ノミヲ以共高低ヲ難定重ニ其物品ヨリ生スル利益ノ多少ニ基クテ定價トスヘシ然ルニ該山營業ノ景況ハ追當リ候故右等ノ場合ノ引續キ欠損相立本年一月迄ノ概算ニテハ凡ソ平均一箇年ノ損失高六萬圓程ニ相スル更ニ十萬圓ノ主務者ノ考察ニ依レハ即今現ニ一箇年六萬圓ノ補金ヲ欠損アルニ十萬圓ヨリ一箇年凡四萬圓程ノ利益ヲ得ヘントノ一體鑛山ノ利益ハ西洋各國ニテモ概シテ四五分ニ止リ一割以上ハ容易ニ收メ得ヘキモノニアラサル趣ニ有之當省從來ノ經驗ニ於テモ前書ノ利益ハ確信難致ニ付右等ノ比例ヲ以テハ是亦價位ヲ難定故ニ今之ヲ民業ニ移シタル後勉メテ元費ヲ省キ煩雜ノ手段ヲ除キ活潑ノ手段ヲ以テハ是亦價位收メ得ヘキ割合ヲ以充分ノ結果ト被存候而レテ此二萬圓ノ内一萬圓ヲ以テ元入セシ十萬圓ノ元利益ヲ稍相當ト存候且該山ノ財產價格ハ前記ノ通り四十七萬餘圓程ニ候得共右ノ内不適當又破損ノモノモカラス殊ニ近來銅貨次第低落昨年中百磅ニ付十五六圓内外ノモノ即今十二圓内外ニ下リ尙低下ノ市勢共底止スル所ヲ知ラサルノ景況ニテ鑛山營業者ニ於テハ最危急困難ノ秋ニ有之是等モ價格ヲ定ムルハ大ニ關係ヲ有スルモノニ有之夫是參考掛酌ヲ加ユル時ハ該山ノ價格ハ大抵二十五萬圓位ヲ以テ定ムルヲ相當ト被考候間該額ト相定年賦納ノ便ニ於テハ營業繼續上ニ支障ナカラシメ候様致度將又營業上需用ノ物品其他起業基金假拂ニ屬スル物品等ニ於テハ物價騰貴ノ折買入レタルモノモ妙カラサルニ付即今相當ノ價格ニ比シ格外高價ニ相成居且其需用ノ有無緩急ヲ問ハス悉皆爲引受候儀ニ付相當ノ割引ヲ爲スヲ穩當ノ處分ト存候此程院内鑛山ノ貯藏品類拂下候當リ候故右ノ相定品物ニ依リ各差等アリト雖モ半製煉ノ鑛物類ヲ併セ總體ニ付原價ノ四割八分三厘減程ニ相當リ候故右ノ相定品物ニ就キ相當ノ割引ヲ爲スヘキモノ又原價ノ儘ニテ可然モノ等ハ尙實地ニテ相定幾分ノ増減ハ可致積該山拂下代價ハ前陳ノ理由ヲ以見込ヲ立再應拂受人ヘモ爲遠協議候處承諾ノ旨申出候將又年賦納ノ儀ハ煩累ヲ永年ニ遺シ候

ミナラス鑛脈ノ盛衰市價ノ變動等ニ隨ヒ收額定マラサルニ年々確定ノ額ヲ納ムルカ故延期ヲ數願スル等追々ノ實取ニ微シ支障妙カラサル儀モ有之候間拂受人營業上ノ都合ニ依リ一時納メテ請願スル時ハ相當ノ引計算法ヲ以開屆又之ニ反シ種種ノ事故ニ依リ納金延期願出候節萬一不得止場合ニ於テ開屆候時ハ延期ニ係ル金額ニ對シ利子ニ當ル金額ヲ償納セシムル等ノ處分ハ繼續者ヲ獎勵シ及怠慢ヲ警戒スルノ一端トモ相成候ニ付命令條目中ニ明記致シ置度該山處分ノ儀ハ追々上申候通リ遷延スルニ隨ヒ夫丈ノ缺損ヲ増シ候場合ニ有之候間何分至急御裁可相成度別紙命令書案計算書相添此段相伺候也別紙追申財產其他ノ物品共實際ニ就キ精細取調上相當ノ價格ヲ定メ拂受人ヘ可及協議順序ニ有之候得共當節積雪中ニテ取調兼候モノモ有之融解ヲ待處分候様ニテハ時日遷延不都合不少殊ニ原價ニテハ到底難拂下詰リ拂受人ノ承諾スル所ヲ以處分候外無之夫ハ順序ヲ盡スモ夫カ爲メ金額増進ノ見込モ何分相立兼候旁本文ノ通大體上ニ於テ概略及協議候義ニ有之候尤財產其外トモ爲抵當取置候義ニ付現場引渡ニ臨ミ詳細取調置候積ニ候此段副申候也
指令十八年三月十一日

伺ノ趣開屆候事

第一局議案十八年三月六日

別紙工部省伺阿仁鑛山拂下ノ義ハ該山處分方伺ノ末民業ニ移スヘキ見込ヲ以テ取調可申出旨御指令ニヨリ詮議セシニ今般東京府下平民古河市兵衛ナル者拂下願出タリ依テ取調ヘシニ同人ハ年來收山ニ從事セシモノニテ事業繼續シ得ヘキ適當ノモノト信認スルヲ以テ開屆度就テハ該山官行以來收支等取調ヘシニ差引全ク未償還額金百十四萬七千餘圓ノ巨額ニ上レトモ消耗無形ノ屬スルノ費途不尠現存ノ財產價格ハ凡金四十七萬餘圓ニシテ貯藏品ノ原價凡ソ金七萬餘圓其他假拂中ノ物品及半製煉ノ鑛物等ノ代價凡ソ金十萬五千餘圓許ニ有之以上ノ價格ヲ合計スレハ凡金六十五萬圓ナレトモ右ノ内ニハ不適當又ハ破損等ノモノモ不尠夫是參酌ヲ加フルトキハ該山ノ價格ハ凡金二十四萬圓位ヲ以テ相當ヘキニヨリ該額ト定メ内金一萬圓ハ場所引渡ト同時ニ上納セシメ殘金二十萬圓ハ五箇年据置爾後二箇年賦納トシ又物品代價實地ニ就キ増減ノ積リヲ以テ概略ノ目的ヲ金十萬圓ト假定シ十箇年賦納トシ納セシメ若シ拂受人ニ於テ營業上ノ都合ニヨリ一時ニ上納ヲ請フトキハ年六分利引ノ計算ヲ以テセントスルモノニシテ右拂下代價合計金三十五萬圓ヨリ一時ニ上納ノ價目請フトキハ年六分利引ノ計算ヲ以テセン減スルノ割合ナレトモ畢竟此價格タル多クハ當時ノ原價ニヨルノミナラス實際不相當又ハ關損等モアルニ於テハ幾分減額セサルヲ得サルハ勿論ノ義ト存候間前記拂下代價三十五萬圓ハ敢テ不相當ニモナカルヘク且該代價ノ増進セシムルノ見込難相立趣ニ相開加之該處分ヲ遷延スルトハ隨テ關損額ヲ增加スルノ場合ニモ有之命令書案等ニ於ルモ不都合ノ廉不相見候間渾テ伺ノ通御允許相成可然歟左案ヲ具シ仰高裁候也

工部省上申十八年六月九日

本年三月十七號ヲ以テ阿仁鑛山營業讓渡之義相伺候處同月御裁可相成候ニ付該伺書ニ添付之命令條目ヲ以東京府平民古河市兵衛ノ讓渡之義開屆去四月十四日悉皆同人ヘ引渡候間此段及上申候也 查院及檢

通省へ

官報抄録 十八年六月十日

今般工部省所轄阿仁鑛山ノ營業ヲ東京府平民古河市兵衛へ譲渡シタルニ付阿仁鑛山局ヲ廢シ當分ノ内工部省内へ阿仁鑛山殘務掛ヲ設置シタリ

工部省沿革報告抄録 五年十一月五日

出雲國意宇郡上出雲村銅山ノ坑業ヲ起シ島根鑛山支廳ヲ置ク 七年一月ニ至テ支廳ヲ廢 銅山ヲ人民ニ賣與ス

工部省沿革報告抄録 七年一月十六日

肥前國彼杵郡高島石炭山ヲ官收シ高島鑛山支廳ヲ置ク

(備考)

開坑ノ年紀審ナシメ明治元年舊佐賀藩主鍋島直大長崎裁判所ノ允可ヲ得堀鑿ニ從事セリ五年五月十日之ヲ官收シ本省ノ所管ト爲ヌヲ議決シ此ニ至テ支廳ヲ置ク 七年十二月二十三日東京府士族後藤象次郎ニ賣下シ民坑ト爲ス

工部省沿革報告抄録 十一年六月二十六日

群馬縣下上野國甘樂郡中小坂鑛山ヲ其借區人ヨリ收メテ官行ト爲シ以テ中小坂鑛山分局ヲ置ク

(備考)

發見ノ創始ハ詳ナラス〇十五年一月十六日ニ至テ廢業シ同六月二日分局ノ殘務ヲ了ス十七年七月十四日東京府商坂本彌八ニ賣下シ民坑ト爲ス

中小坂鑛山ヲ廢坑シテテ括ス

工部省同十四年十一月二十九日 當省所轄上野國甘樂郡中小坂鑛山ノ借者去ル明治十一年四月中石川縣士族由利公正外一名官金辨償ノ爲大藏卿連署第二十號ヲ以テ同山引上ノ借者相成爾來當省ニ於テ掌管シ諸般改良製鐵ノ業ニ從事候處元來鑛坑築造ノ不完全ナルヨリシテ屢破損崩壞ノ憂ヲ生シ動モスレハ改築修繕ニ數月ヲ空過シ其時至リ最早現今ノ景況ニテハ將來營業連續收益ノ目途相立兼候ニ付寧ロ此際斷然廢業候方却テ御便益ト存候間右御允可相成候様致度此段相伺候也

指令 十五年一月十六日 伺ノ趣聞届候事

工部省同十五年十一月八日 當省所轄上野國甘樂郡中小坂鑛山ノ義客歲十一月第百二十二號ヲ以テ經伺廢業ノ上工場拂下概則ニ基キ人民へ拂下ノ義各新聞ヲ以テ廣告致候處今般東京府下廻町區飯田町四丁目一番地坂本彌八外四名ヨリ別紙ノ通り願出有之抑右鑛山ノ義ハ廢業候之節租開陳セシ如ク舊籍人ヨリ當省へ引受ケタル在來ノ鑛坑築造ノ不完全ナルヨリ多少ノ改修ヲ加フルモ破損ノ害ヲ免カレシ修繕ノ爲メ屢々數月ノ營業ヲ休止シ終ニ收支相償ハサルニ至ル若シ之ヲ改修シテ營業繼續ノ目的ヲ達セントスレハ是マテ費所ノ與營業費及營業補償金九萬餘圓ノ外又妙カラサル經營費ヲ要シ到底此一小鑛山ニ向テ愈巨額ノ資金ヲ費スハ敢テ効益ニ無之故ニ斷然廢業致候義ニ有之今般彌八等請願ノ拂下代ハ金三萬圓ニテ前額ノ經費ヲ償還スルニ不足ト雖トモ他ニ如斯資木ヲ抛テ該山ノ拂下ヲ出願スルモ未タ無之然ルニ彌八等ニ於テハ幸ヒ近傍信濃國南佐久郡大日向鑛山移行罷在候故ヲ以テ二山ノ坑業ヲ所有セハ彼我操業上大ニ便利ヲ得隨テ將來ノ目的相立候處ヨリ金三萬圓ヲ以テ拂下願出候義ニ有之加之彌八等ニ於テハ尙鑛坑其外修繕等ニ若干ノ入費ヲ要シ候得ハ敢テ不當ノ請願ニ無之且ツ目今該鑛山ノ景況ヨリ觀察スルモ相當ノ價格ト存候間別紙請書案ノ仕法ヲ以テ拂下ノ義御裁可相成候様致度候別紙

付箋 本文別紙請書案ハ書記官協議ノ上命令書案改正候事

一別紙請書案第二第三條ニ掲載スル官用地及其地上ニアル建物ノ義ハ明治七年第百七十三號同八年第五十一號御達ノ趣モ有之不用ニ屬スルトキハ内務省へ可引渡答ニ候得共該鑛山所屬ノ官用地及建物ハ鑛業上必要ノモノニ付他ノ所屬品ト同一ニ拂下不致候テハ該鑛山拂請人營業上ノ不便不少且右地所建物代ハ最前中小坂鑛山分局與營業費ヨリ仕拂タルモノニ付該條例ノ御主意ニ基キ鑛業ニ鐵道電信用地拂下特許ノ例ヲ以テ拂下代金ハ當省へ收入シ原費償却ニ相立申度此段特別ノ御許可相成候様致度候

一別紙請書案第六條ニ掲載スル物品代金八千八百六十圓九十八錢一釐ノ義ハ該鑛山營業資本金ノ内ヲ以テ購買セシモノニ有之工場拂下概則第一條第二項ニ據レハ右資本金ハ拂下ノ際一時ニ上納可致答ニ候得共該鑛山ノ義ハ前段ニモ開陳致候通り目下得益難事ノ場合ニモ有之加フルニ鑛鑛爐其外ノ修繕入費ヲ要シ候得ハ彼是酌量向フ六月間ニ皆納爲致度是亦特別ノ御許可相成候様致度候

右相伺候也 再伸別紙請書案條款中内務大藏兩省主管ノ廉モ有之候ニ付一應兩省へ照會中ニ候處差急候事件故回答ヲ不俟相伺候間此段副テ上申候也

指令 十七年七月十四日

伺ノ趣借區稅免除ノ廉ヲ除キ聞届候條命令書案貼紙ノ通修正スヘシ

第一局議案十六年三月三十日
別紙工部省同中小坂鐵山拂下ノ件ハ工場拂下概則ニ據リ人民ハ拂下ノ儀廣告候處今般當府下越町區飯田町四町目一番地阪本彌八外四名ノ者協同合資ノ上拂下ノ義願出候ニ付共價金ヲ三萬圓トシ内二千圓即納殘餘ハ來年度ヨリ向十五箇年賦トシ營業費ニ屬スル物品代八千八百六十圓餘ハ工場受渡濟ノ日ヨリ向六箇月間ニ皆納ノ定メヲ以テ拂下度トシ該鐵山ノ義ハ鑛鑛爐ノ不完全ナルヨリ展破壞ノ到底連續收益ノ目的無之ノ故ヲ以テ廢業ニ可決セラレタルモノナレハ營業費ノ上納方工場拂下概則ニ違フモ工場維持ノ難易望人ノ多寡等ヲ斟酌シ申出ノ通御聽許相成可然歟尤年賦金皆納濟迄借區稅免除相成度旨ニ候得共右ハ御許可無之方然ルヘク因テ左案ヲ具シ仰高裁候也
工部省同十七年九月二十二日
當省所管群馬縣下上野國北甘樂郡中小坂鐵山營業ヲ東京府下越町區飯田町四町目一番地平民坂本彌八ハ貸下ケ所屬物件拂下ケ之義本年八月第八十三號ヲ以テ伺濟ニ依リ右へ添付シタル命令條目ニ照準八月十一日引渡申候此段御届申上候也
追テ命令書請書ハ最前相同候通りニ付添付不致候此段申副候也

工部省沿革報告抄錄 三年十二月十三日

築地鐵道事務局ヲ工部省中ニ移シ鐵道掛ヲ置ク 鐵道事務局ハ築地舊尾張藩邸ニ在リ是日木省ヲ木挽町五町目外務省ノ舊址ニ移ス
(備考)
三年三月十九日民政部大藏兩省中ニ鐵道掛ヲ置キ事務局ヲ築地ニ設置シ監督土木出納三司ノ吏員ニ共掛ヲ命ス閏十月二十日工部省ヲ置キ其所管ニ屬ス

大阪府兵庫縣神奈川縣へ達 四年三月廿四日

兵庫ヨリ阪地マテ掛渡有之候傳信機之儀其縣掛官員共工部省其地出張同省鐵道掛へ引渡シ可被申候也
神奈川縣へノ達ハ橫濱ヨリ東京迄ニ作ル

工部省同四年三月二十七日
阪地并橫濱表傳信機之儀是迄取建方等ハ燈明臺掛ニテ取扱罷在右機便取扱方等ハ府縣官員ニテ取扱罷在候處兼テ御達之通此程當省ニテ請取鐵道掛ト合併可致ニ付右府縣懸リ官員共引渡候様御達有之度依之御達案相添此段申進候也
指令
申出之通夫々相達候事

工部省沿革報告抄錄 五年二月二十七日

鐵道寮ヲ假ニ潮留停車場ノ樓上ニ移ス
鐵道寮ヲ假ニ潮留停車場ノ樓上ニ移ス
五年八月三十日日本官内ニ移ス

工部省沿革報告抄錄 五年三月廿四日

大阪堂島ニ出張所ヲ置キ東鐵道寮ト稱シ京阪建築ノ事務ヲ處理ス從前大阪出張所 阪神間ノ事務ヲ處理スヲ西鐵道寮ト稱ス
○三年七月民政部所管ノ時大阪神戸兩所ニ出張所ヲ置キ四年六月十六日京都ニ出張所ヲ置ク
(參考)
史官ヨリ工部省へ照會六年四月十九日
政表取調之義ニ付過日御差出之諸入費書之内鐵道寮中ニ西京大阪東出張所ト申箇條有之右者何方之出張所ニ相當リ候哉此段及御問合候也
工部省ヨリ史官へ回答六年四月二十日
政表御取調之義ニ付過日差進候諸入費書之内鐵道寮中ニ西京大阪東出張所ト有之候ハ何方之出張所ニ相當候哉御問合之趣致承知候右ハ大阪神戸間ノ出張所ト不相混様大阪西京間建築出張所ヲ東出張所ト相名付候事ニ有之候此段及御問合候也

鐵道寮職制并事務章程 五年六月二十七日
鐵道寮職制
一員
寮中諸官員ノ首長ニシテ鐵道一切ノ事務ヲ管理スルヲ掌ル
寮中諸官員ノ處務ヲ指令シ各課ノ事ヲ統督ス
寮中諸般ノ事務其章程ト成規トニ照シテ之ヲ踐行修整スルニ於テ卿輔ニ對シ擔保ノ責任ヲ有ス
掌管ノ事務ニ於テハ卿輔ニ對シ其當否ヲ論辯スルヲ得
各課ヲ廢立シ及ヒ寮中ノ諸規則ヲ更正スル等ノ事アレハ卿輔ノ決判ヲ乞テ之ヲ處置ス
寮中諸官員ノ能否勤惰ヲ監視シテ之ヲ進退黜陟シ又ハ其員ヲ増減スル等ハ審案具狀シテ卿輔ニ呈シ

鐵道寮職制 一員

寮中諸官員ノ首長ニシテ鐵道一切ノ事務ヲ管理スルヲ掌ル
寮中諸官員ノ處務ヲ指令シ各課ノ事ヲ統督ス
寮中諸般ノ事務其章程ト成規トニ照シテ之ヲ踐行修整スルニ於テ卿輔ニ對シ擔保ノ責任ヲ有ス
掌管ノ事務ニ於テハ卿輔ニ對シ其當否ヲ論辯スルヲ得
各課ヲ廢立シ及ヒ寮中ノ諸規則ヲ更正スル等ノ事アレハ卿輔ノ決判ヲ乞テ之ヲ處置ス
寮中諸官員ノ能否勤惰ヲ監視シテ之ヲ進退黜陟シ又ハ其員ヲ増減スル等ハ審案具狀シテ卿輔ニ呈シ

其決判ヲ乞フ

之ヲ勅任官トス

權頭

一員

職掌責任頭ニ亞ク

頭缺席スルカ又ハ缺員ノ時ハ一切頭ノ職掌ヲ代理スルヲ得

助

定員ナシ

寮中各課ノ長トシテ其事務ヲ擔當スルヲ掌ル

各掌管ノ事務ヲ整理スルニ於テハ頭權頭ニ對シテ其責任ヲ有ス

權助

定員ナシ

職掌責任助ニ亞ク

以上之ヲ奏任官トス

大屬 權大屬

中屬 權中屬

少屬 權少屬

頭權頭ノ指令ニ從ヒテ寮中ノ事務ヲ處ス

以上之ヲ判任官トス

大屬以下ノ人員ハ事務ノ繁簡ニ從ヒテ増減アルヘシ

主記課

往復文案應接通辯翻譯等ノ事務ヲ管ス

主計課

内外費用ノ金銀及ヒ諸物品ヲ出納領給シ及ヒ旅客荷物ノ運賃ヲ收納スル等諸計算簿記ノ事ヲ管ス

倉庫課

鎖鑰ヲ謹守シ諸器械物品及ヒ荷物ノ出入收藏等ヲ検査シ詳細簿記スル等ノ事ヲ管ス

建築課

諸築造ニ從事スル工匠ヲ指揮勸勵シ功課ノ遲速巧拙ヲ監査處分シ既成ノ鐵道ヲ修理保全スル等ノ

事ヲ管ス

運輸課

汽車ヲ運轉シ旅客并荷物ヲ輸送シ及ヒ警卒役夫門監取締役等ヲ督視スル等ノ事ヲ管ス

技術課

測量建築器械運轉及ヒ各科傳習等ノ事ヲ管ス

鐵道寮事務章程

鐵道寮ハ鐵道一切ノ事務ヲ掌管ス其綱領左ノ如シ

一 國內ノ地勢都鄙ノ模樣ヲ酌量シテ鐵道ヲ築造シ往來運輸ノ便利ヲ開達スル事

一 各所ノ鐵道汽車及ヒ站局ノ處務ヲ整理シテ其規則ノ如ク施行セシムル事

一 既成ノ鐵道ヲ修理保全スル事

一 本寮要務ノ技術ヲ開明スル事

以上各條本寮掌管ノ事務トス然レトモ其事ヲ處スルニ當リ卿輔ノ決判ヲ乞テ然ル後施行スヘキ條アリ

卿輔ノ決判ヲ乞テ專任處置スヘキ條アリ其例目ヲ分ツ左ノ如シ

但シ本省事務章程ノ上款ニ載スル上奏制可ヲ經テ舉行スヘキノ條件ニ屬スルモノ此外ニアリ

上款

卿輔ノ決判ヲ乞テ然ル後施行スヘキ條

一 鐵道ノ規則ヲ立ル事

一 既成ノ鐵道ヲ改造スル事

一 各處ニ出張所ヲ設クル事

- 一 外國人ヲ傭使シ或ハ傭役ノ期滿テ再期ヲ約シ又ハ傭中退職セシムル等凡テ立約ニ關スル事
 - 一 外國人ノ俸給ヲ増減シ及ヒ其功罪ニ因テ處置スル事
 - 一 定額外費用ノ事
 - 一 常用ノ外外國ヨリ器械物品ヲ購買スル事
 - 一 本寮要務ノ諸術傳習ノ法則ヲ立ル事
- 以上各條皆頭之ヲ判案シテ其要旨ヲ概記シ又ハ處分ノ法案ヲ作り卿輔ニ呈シ決判ヲ乞ヒ然ル後施行スヘシ

下款

- 卿輔ノ決判ヲ乞フテ專任處置スヘキ條
- 一 鐵道建築議定スルノ地ヲ便宜測量スル事
- 一 鐵道及ヒ各所ノ官舎倉庫其他所轄ノ橋梁等前規ニ仍テ修理スル事
- 一 諸建築ノ事既ニ卿輔ノ決判ヲ得ルノ後實際ニ當リ其豫定ノ模樣ヲ變改セサルヲ得サルトキハ再ヒ咨議ヲ請ヘシト雖トモ遠隔ノ地往復ノ間ヲ待ヘカラサルハ便宜之ヲ處置シ具狀シテ開報スルヲ得ル事
- 一 各處諸建築ノ事ニ因テ其地ノ人民ヲ役シ竹木土石等ヲ用ユルヲ要スルトキハ其管轄廳ト商議シ便宜處置スル事
- 一 各處ニ於テ止ヲ得サル事アリテ假ニ官舎ヲ設クル事
- 一 各處ニ在職出張セル本寮附屬月給二十兩以下ニテ定員内ニ在モノヲ黜陟スル事
- 一 各課ノ官員ヲ左右交替スル事
- 一 本寮附屬以下内外ノ諸職工勸獎ノ爲メ十兩以下ノ賞金ヲ與ル事
- 一 通辯翻譯諸技術ニ長セル者ヲ急務ニヨリテ擧用スルトキ其本貫ノ官廳ニ通達シ備又ハ附屬ノ名ヲ以テ一時使役スル事
- 一 常用ノ物品ヲ外國ヨリ收買スル事

一 各處ニ於テ事ヲ執ノ際若シ臨時急務ニ處スルニ當リ卿輔ニ稟議スヘキ事件ニ屬スト雖モ其大體ニ妨ケ無モノハ便宜之ヲ裁決シ尋テ其狀ヲ具シテ開報スルヲ得ル事

以上各款皆頭專執處置スルヲ得ヘシ然シテ之ヲ行フノ後官員進退其他處務ノ要件ハ其狀ヲ具シ卿輔ニ開報スルヲ要ス

○ 新ニ鐵道ヲ開キ官舎ヲ營ム等凡建築ノ事ヲ與ストキハ其興業ノ要旨ト建築ノ形狀及ヒ資材工費ノ總計成功ノ期限等詳細開具シ卿輔ノ決判ヲ得營作ノ際冗費ヲ省キ豫定ノ圖式ニ違ハス堅牢ニ落成セシムルヲ要ス

鐵道ノ事務ニ於テ傭使スル外國人任職ノ件ハ都テ其條約ノ制規ニヨリ勉勵從事セシムルヲ要ス

凡本寮掌管ノ事務他方へ指令布達スルハ豫メ文案ヲ作り卿輔ノ一覽ヲ乞ヒ然ル後卿輔ノ名ヲ以テ之ヲ達シ其商議咨問等ハ頭權頭ノ名ヲ以テ往復シ頭權頭俱ニ缺ルトキハ助權頭ノ名ヲ以テ往復スルヲ得ヘシ

本寮及ヒ各處出張所ノ諸書類簿冊ハ樣式ノ如ク編纂シテ後考ニ便ナラシムルヲ要ス

鐵道建築其他工程ノ次第ト其經費ノ算計及ヒ乗車ノ人員并貨物運輸ノ大數其賃料ノ總計ハ毎月毎三月毎一年ト之ヲ類別シテ詳細ナル考課狀及ヒ計表ヲ作り卿輔ニ進呈ス

卿輔ノ命ニ依テハ臨時ノ考課狀及ヒ計表ヲ作テ送呈スルコトアルヘシ

本寮諸官員以下傭使スル外國人ノ姓名ヲ詳記シ官祿俸給旅費及ヒ諸雜費其他買辦ノ物品代價等ハ樣式ノ如ク總計表ヲ造リ毎月之ヲ送呈ス

凡本寮ノ事務ヲ掌理スルニハ本省職制事務章程其他條令及ヒ寮中ノ成規等ニ照準シテ之ヲ處置シ施爲ノ際違誤ナキヲ要ス

此章程中他日増減ヲ要スル事アラハ卿輔ノ決判ヲ乞フテ便宜加除更正スルヲ得ヘシ

右職制并事務章程

上奏シテ定ムル所ナリ能之ヲ守リ其程限ヲ愆ル勿レ

明治五壬申年六月二十七日

工部少輔 山尾 庸三

鐵道頭 井上 勝殿

壬申六月

工部少輔 山尾庸三殿

鐵道頭 井上 勝

右職制并事務章程恪守遵奉其職ヲ盡スヘシ若シ本寮事務學ヲサルアラハ勝謹テ其責ニ任スヘキ也

工部省達 五年八月三十日

鐵道寮之儀本省中エ今日移轉相成候條此段相達候也

鐵道寮ヨリ工部省へ届 五年八月三十日
本省内兼テ當寮ニ御引渡ノ場所へ本日ヨリ轉移候條此段御届申候也

鐵道寮ヲ本省内ニ移ス
七年二月二十七日大阪堂
島ニ移ス
新橋ステーションヲ鐵
道寮運轉本局ト爲ス

鐵道寮ヨリ工部省へ伺 六年二月十三日
當寮運轉課ハ横濱ステーションヲ以本局ト相定メ事務取扱來候義ハ是迄之辨理ニテ有之候處自今建築
等モ落成ニ到候而ハ新橋ステーションヲ本局ニ相定度候新橋ハ萬緒派出スヘキ源堂之場所ニテ殊ニ本
寮接近之場所故自今同所ヲ以テ本局ト相定候ハ、本寮關係之事務ハ不及申事々物々至便ニ有之候間至
急ニ御評議有之度引揚ニ御決議ニ相成候時ハ一ト先悉皆引揚ケ再ヒ官員之内事務ヲ分配シ出張申付候
也

工部省指令 六年二月十四日

其寮運輸本局之義新橋ステーションニ相定度官員モ一ト先悉皆引揚再ヒ出張申付候旨伺出之趣致承知
候也

鐵道寮主記課處務規定 六年十月四日

本寮主記一切ノ事務ヲ總括シ課中ノ事務ヲ分テ往復編輯譯文名簿受付ノ五科ヲ設ク
課長

課中ノ事務ヲ掌管擔當ス

鐵道寮主記課處務規定
八年三月二十九日鐵道局
ヲ發キ各寮ノ編輯事務ヲ
併ヌ本省分課ノ部ニ置ス

掌管ノ事務ヲ整理スルニ於テハ長官ニ對シテ其責任ヲ有ス
擔當ノ事務ニ於テハ其當否ヲ長官ニ對シテ論辯スルヲ得

課中大屬以下ノ能否勤惰ヲ監視シテ長官ニ白スルヲ得

課中ニ受ル所ノ來書及稟請ノ文書等其緩急ヲ辨別シ要旨ヲ筆記シ檢印シテ長官ノ指令ヲ承ケ事ノ急ナ
ルモノハ急ノ字ヲ朱書シ各科ニ付シ或ハ稿案ヲ徵シ又ハ令文ヲ作ラシメ長官ノ考查ヲ受ク

主計課技術課運輸課ヨリ出ス所ノ回議稟請ノ草案等ハ規則ニ照準シテ可否ヲ論辯スルヲ得ヘシ

課中常用ノ物品ハ記帖シテ倉庫科ヨリ之ヲ受ケ臨時用品ハ廻議ニ具セシム
等外官員ニ辭令ヲ授付スルヲ掌ル

權課長

課長ニ亞テ其職掌責任ヲ同クス

以上助以下奏任官ノ職任トス然レトモ關員アルカ或ハ事務繁簡ニ因リ主記主計兩課ヲ兼子又ハ權課長
心得ノ名ヲ以テ正權大屬ヨリ補攝セシムルコトアルヘシ

往復科 正權大屬以下ノ職務トス

文案ヲ起草シ公文ヲ往復シ外人ニ應接シ諸稟請伺候ヲ傳通スル等ノ事ヲ掌ル

第一 本省ニ進達スヘキ回議稟請申報ノ類及ヒ其他省使府縣本寮各出張所等へ送ルヘキ布達通報諮問
ノ類ハ皆課長以上ノ指令ニ從ヒ章程ニ照準シ文案ヲ起草シ長官檢印ノ後之ヲ各方ニ送達ス

但定例アルモノト雖トモ課長以上ノ檢印無クシテ專恣之ヲ處スルヲ得ス以下各科ノ處務皆コレニ
同シ

第二 往復文書其送ル者ハ皆課長以上ノ指令ニ因リ草案ヲ呈シ檢印ノ後淨書シテ送達シ其大意月日號

數ヲ送翰銘簿ニ登記シ來ル者ハ來翰銘簿ニ同ク大意等ヲ登記シ長官檢印ノ稿案ハ各簿册ニ留ム

第三 願同届等都テ副書ヲ出サシムルヲ例トス其指令ヲ請フモノアレハ申帖ヲ細閱シテ課長ニ呈シ令
文ノ草案ヲ付サハ淨寫シテ之ヲ本人ニ付ス

但寮中ノ職員身上ニ係ル稟請申報等ハ名簿科ノ處務トス

- 第四 各課ヨリ致ス所ノ進達書類及ヒ報問書ノ如キハ之ヲ課長ニ呈シ長官可印ノ後本省ニ送達ス
但本省諸寮司及ヒ寮中交互ニ課名ヲ以テ往復スル文書ハ各課ノ處務ナレハ本科之ニ關セズ
 - 第五 件銘簿ヲ作り往復文書其送ル者ハ送翰銘簿ヨリ登寫シ來ル者ハ來翰銘簿ヨリ登寫シ其本書編收ノ簿名ヲ注記シ局ヲ卒フル者ハ結局ノ印ヲ押シ前後搜索ノ便ニ供ス
 - 第六 各所ヘ往復ノ書ハ事ノ緩急細大ニ依リ郵便又ハ電信ヲ以テ送達ス此賃ハ月末課長ノ檢印ヲ受ケ主計課ニ付シテ辨償セシム
 - 第七 來人ニ接スルニハ其陳述スル所ノ旨意ヲ審諦シテ之ヲ課長ニ白シ長官ノ指令ヲ承ケテ應答ス應接ノ間苟モ取捨潤飾ヲ加フルヲ得ス事了テ之ヲ課長ニ報シ其要旨ヲ日記ニ記載ス其長官又ハ課長ノ指令ヲ承ケ他方ニ詣テ應對スルモ亦之ニ同シ
 - 第八 他官吏ヲ召スヘキトキハ其旨ヲ本省ニ申告ス
- 編輯科 正權大屬以下ノ職務トス
- 寮記ヲ撰輯シ記錄ヲ編收スルヲ掌ル
- 第一 本寮ノ沿革及ヒ章程規定ノ變更鐵道築造ノ決議同創設線路ノ增加改設修理及ヒ開業ノ月日鐵道運輸ニ屬スル諸規則賃價ノ増減其他非常ノ事件等ニ至ルマテ都テ年月次序ヲ逐ヒ之ヲ編錄シテ寮記ヲ作ル
 - 第二 公文ノ冊ヲ成スモノハ事類ヲ分別シ年月ヲ追ヒ之ヲ編收ス
 - 第三 廻議ノ類本省ノ決印了テ回ルモノハ判決ノ順次ヲ逐ヒ之ヲ決議簿ニ編收ス
 - 第四 外國人ノ條約及ヒ諸般公報等ノ譯書ハ譯文科ヨリ寫テ受テ逐次之ヲ分類編收ス
 - 第五 各課ノ建業錄課狀竣功錄諸月表等ヲ括リ例ニ因リ每一月毎三月毎一年本寮考課狀ヲ作テ課長并長官ノ檢印ヲ受ケ之ヲ本省ニ達ス
 - 第六 官省ノ布達告文ノ類及ヒ本寮各課公務書類ノ已ニ結局ニ至ルモノ等順次之ヲ分類編收ス
 - 第七 各課ニテ理スル所ノ公文中其事輕重モノト雖トモ參考ニ供スヘキハ之ヲ輯存ス

- 第八 本寮附屬ノ和漢書籍ヲ管預シ目次號數ヲ記シ散逸ナキヲ要ス故ニ各課ノ官員借覽ヲ乞フトキハ證書ヲ取テ之ヲ付シ且毎三月原簿ニ依テ點檢シ若闕失アルトキハ其所由ヲ糺シテ倉庫科ニ報ス
- 譯文科 正權大屬上師以下ノ職務トス
- 外國書籍及ヒ中外書翰ヲ翻譯シ同ク語辭ヲ通スルヲ掌リ兼テ本寮附屬ノ外國書籍ヲ管ス
- 第一 長官及ヒ課長ノ指令ニ因リ外國書及ヒ橫文ヲ翻譯スルトキハ其要旨號數ヲ件銘簿ニ登記シ譯成ルトキハ草稿清書トモ右同號ヲ記シ清書ハ課長ニ呈シ草稿ハ草稿簿ニ挿收シ卷首ニ件銘記號ヲ標掲シ原文ハ原文簿ニ挿收シ卷首ニ同ク件銘記號ヲ標掲シテ共ニ搜索ノ便ニ供ス
 - 但會計ニ係ル橫文ヲ譯スルトキハ先ツ要旨月日ヲ件銘簿ニ登記シ草稿ヲ計書譯文挿原文ヲ計書原文簿ニ挿收シ卷首ニ標目ヲ掲ケル等スヘテ本條ニ同クス
 - 第二 外國人ニ指令諮問スル文書等課長ヨリ案文ヲ付サハ之ヲ翻譯シ課長ノ檢閱ヲ經テ後之ヲ送達ス但寮中ヨリ外國人ヘ送ル公用ノ橫文ハ之ヲ押寫シ其書翰ノ當名號數及ヒ押寫ノ數ヲ記シ押寫簿ニ挿收シ卷首ニ標目ヲ掲ケ原文ハ記號ニ合セ押寫原文簿ニ挿收シ同ク卷首ニ標目ヲ掲ケ
 - 第三 科中ニテ受付スル一切ノ橫文書翰ハ原文譯文共ニ其姓名及ヒ號數ヲ記シ原文ハ信書原文簿ニ挿收シ譯文ハ信書譯文簿ニ挿收シ兩ナカラ第一條ニ同ク卷首ニ件銘記號ヲ掲テ參觀ニ便ナラシム
 - 第四 中外ノ語ヲ譯シ彼我ノ情意ヲ通スルニハ瑣モ潤飾ヲ加ヘス毫モ忌憚ヲ避ケス公明の實ニ其旨意ヲ傳ヘテ事情ヲ諷ルナキヲ要ス
 - 第五 本寮所藏ノ外國圖書ハ目次號數ヲ圖書簿ニ詳記シ散逸ナキヲ要ス故ニ各科ノ官員借覽ヲ乞フトキハ之ヲ簿記シテ押印セシメ返納スレハ消印セシム本省寮司其他ヨリ借覽ヲ乞フトキハ課長ノ可印ヲ得テ簿記シ證書ヲ取テ之ヲ貸與シ返納スレハ證書ヲ還付ス且毎三月圖書簿ニ依テ點檢シ若シ闕失アルトキハ其所由ヲ糺シテ倉庫科ニ通報ス
 - 但書籍出納簿ヲ作り系格中横ニ一系ヲ設ケテ上下二段ニ分界シ各科ノ乞ニ應シテ本科主管ノ書籍ヲ貸付スルトキハ其書目冊數月日姓名ヲ上段ニ詳記シ返納スレハ下段ニ其月日ヲ記ス

- 第六 受付簿ヲ作り上條但書ノ如ク上下二段ニ分界シ一切ノ書翰ヲ受付スルニ方リ本科へ受ルモノハ上段ニ其書目姓名及ヒ月日ヲ記シ之ヲ本科ヨリ付スルトキハ其下段ニ月日ヲ記シ受主ノ證印ヲ徵ス
- 第七 本科ニ關スル諸往復ノ文書ハ順次之ヲ贈答簿ニ編シテ散逸ナカラシム
- 名簿科 正權中屬以下ノ職務トス
- 寮中官員及ヒ官雇外國人ノ名籍履歷進退増減ヲ明ニシテ職員錄明細表ヲ編成シ出張在勤分科等ノ辭令ヲ書寫シ及ヒ各員身上ニ關スル申請報告等ノ事ヲ掌ル
- 第一 官員以下官備外國人及ヒ附屬ニ至ルマテ寮中ノ人員ニ係ルモノハ一切其名籍履歷ヲ詳ニシ進退増減出張在勤歸寮等皆其申報書ヲ受テ各簿ニ記シ了リ各課ニ通報シテ檢印セシメ其本省へ達スヘキハ別ニ申報書ヲ作りテ往復科ヨリ之ヲ進達スルヲ例トス
- 第二 判任官以下技術見習ノ出張在勤分課并附屬進退等ノ辭令ハ長官ノ指令ニ依リ例ニ照シテ案文ヲ作り長官檢印ノ後淨寫シテ之ヲ呈ス
- 但徵狀ハ例文ヲ用ヒ課長ノ指揮ニ從テ之ヲ發ス
- 第三 官員以下新ニ職務拜命セハ式ニ從テ屬籍履歷書ヲ出サシメ之ヲ職員錄及ヒ各簿ニ登寫シ其本寮ニテ拜命スル者ノ受書及ヒ屬籍履歷書ハ往復科ヨリ屆書ト共ニ本省ニ送達ス
- 第四 官員以下ノ免職ハ印鑑ヲ收メ受付科ニ付シ職員錄及ヒ各簿ノ各氏ヲ削リ其本寮ニテ免スル者ハ承書ヲ本科ニ取り印鑑ヲ受付科ニ付シ本省へ達スヘキハ往復科ニ付シ承書控ニハ本人奉職ノ年數等ヲ記シテ之ヲ留ム
- 第五 寮中奏判官ノ進退ハ往復科ニ付シテ各科并各出張所ニ通報ス
- 第六 職員表ヲ作り各月二日ヲ限リ往復科ニ付シテ本省ニ致ス
- 第七 官雇ノ外國人新約改約又ハ免職スルモノ及ヒ給料ノ増減等決定ノ後往復科ヨリ通報スルニ從テ明細表ヲ改正ス
- 第八 職員錄明細表トモ二冊ヲ作り一冊ハ本省ニ送り一冊ハ本科ニ留メ各員ノ進退増減及ヒ屬族ノ變

- 更等ヲ訂正シ毎月兩次本省ニ送り循環交換ス
- 第九 官員解免ノ節旅費并滿年賜物有之等ハ例ニ照シテ調査書ヲ課長ニ致ス
- 第十 官員以下辭職歸省病告忌服轉居其他身上ニ關スル稟請申報ノ類ハ副書ト共ニ之ヲ受テ日記ニ銘記シ本書ヲ課長ニ致シ令文ノ草案ヲ付サハ淨寫シテ本人ニ付ス
- 但病告百日ヲ經テ出勤セサルモノハ之ヲ記シテ課長及ヒ主計課ニ報ス忌服ノ申報書ニハ除服ノ日ヲ附記シ之ヲ課長ニ致シテ本省ニ申報シ其本省ニ除服ヲ請フモノハ課長ノ指揮ヲ受ク
- 受付科 權中屬以下ノ職務トス
- 諸文書ヲ受付シ本省ノ印鑑寮中ノ備品ヲ管シ守門給仕以下ヲ督シ時辰ヲ測正シ官員以下ノ出勤簿ヲ掌ル
- 第一 本省及ヒ各寮司其他諸文書ノ本科ニ受ルモノハ受入簿ニ本科ノ號數及ヒ件銘ヲ登記シ式ノ如ク本書ニ附紙シテ其號數ヲ朱書シ受付印ヲ押シテ課長ニ致シ其本科ヨリ本省及ヒ各寮司等ニ送達スルモノハ受證簿ニ銘記シ各方ニ送達シテ證印ヲ徵ス
- 第二 本省ノ印鑑ハ新ニ拜命スルモノ一枚ヲ付シ其番號及ヒ年月日ヲ簿記シテ之ニ押印セシメ轉任免職等ハ還納ノ後消印ス若シ遺失火盜等ノ届アラハ其事情ヲ推究シテ課長ニ白ス
- 第三 寮中宿直ノ順番ヲ定メ及ヒ時辰ヲ測正シテ差異ナカラシム
- 第四 在寮ノ官員以下日々ノ勤休ハ簿冊ヲ作テ押印セシメ月末ニ至リ勤休ノ日數ヲ總計シテ課長ニ呈ス
- 第五 本寮給仕小使等ノ勤惰ヲ監視シテ課長ニ白ス
- 第六 本寮附屬地ノ取締ヲ爲シ右ニ關スル府縣又ハ區長トノ應對ヲ掌ル
- 第七 新ニ拜命スルモノハ實印小印トモ印鑑ヲ徵シ本省及ヒ本寮各課ニ配達ス其遺失又ハ磨滅等ニテ改印スルトキハ更ニ其印鑑ヲ出サシム
- 以上之ヲ大屬以下事務ノ制限トス然レトモ寮務繁劇ノ際ハ課中互ニ協助スヘシ出仕官員ハ本級ヲ以テ

本官ト事務ヲ同クス

右分科處務規定本省ノ判決ヲ得テ定ル所ナリ能ク之ヲ守リ其定限ヲ愆ル勿レ
明治六年十月

鐵道權頭 太田資政

鐵道寮主計課處務規定 六年十月日附

鐵道寮主計課處務規定
十年三月五日會計局ヲシテ各局ノ會計事務ヲ總括セシム本省分課ノ部ニ置ス

本寮主計一切ノ事務ヲ總括シ課中ノ事務ヲ分テ出納賜給倉庫精算ノ四科ヲ設ク
課長

課中ノ事務ヲ掌管擔當ス

掌管ノ事務ヲ整理スルニ於テハ長官ニ對シテ其責任ヲ有ス
擔當ノ事務ニ於テハ其當否ヲ長官ニ對シテ論辯スルヲ得

課中大尉以下ノ能否勤惰ヲ監視シテ長官ニ白スルヲ得

每歲本寮及各地鐵路ニ屬スル諸般ノ經費ハ各管ノ目途ニ據テ之ヲ計算シ收發ノ多寡ヲ斟酌シ歲費月費ノ定額ヲ立建築長ニ合議シテ之ヲ册記シ期ヲ以テ長官ニ呈シ批定ノ後本省ニ致ス

金銀ノ出納ハ每款定額ニ照準シテ廻議ニ押印シ長官ノ可印ヲ受ケ承管ニ分支シテ之ヲ辦理セシム尤支發ノ金ハスヘテ本資ト消費ヲ二様ニ區別ス可シ

但出納ノ款件ヲ原簿ニ登記セハ總テ點檢シテ押印ス

應用ノ物品一旦長官ノ許可ヲ經テ購買整備スルモノハ其定限ヲ超サレハ緩急之ヲ分配シテ一々長官ニ乞ハサルモ妨ナシ

權課長

課長ニ亞テ其職掌責任ヲ同クス

以上助以下委任官ノ職任トス然レトモ闕員アルカ或ハ事務繁簡ニ因リ主計主記ノ兩課ヲ兼又ハ權課長心得ノ名ヲ以テ正權大尉ヨリ補攝セシムルコトアルヘシ

出納科 正權大尉以下ノ職務トス

經費ノ多寡ヲ計算シ金銀ヲ出納シ計簿ヲ詳記シ區分ヲ明瞭ニスル等ノ事ヲ掌ル

第一 歲費ノ定額ハ毎年一月ヨリ十二月迄本寮各科并各出張所ニ於テ給發スヘキ建築入費ヲ初メ俸給旅費其他諸般ノ費用ヲ總括シ式ニ依リ之ヲ册記シ前年十一月十日ヲ限リ課長ニ致ス

第二 歲額ヲ分テ月費ノ額ヲ定ルニハ月々工業ノ繁簡事務ノ緩急ニ因リ支發ノ多寡ヲ計テ各科及各出張所ヨリ出ス所ノ總計ヲ合算シ十二箇月ニ區分シ前條同時課長ニ致シテ本省ニ進達ス然レトモ建築ノ多少輸入器械ノ多寡官員ノ進退各地出張ノ有無等ニ因リ月額ノ増減アレハ式ノ如ク記載シ課長ニ致シ長官押印ノ上前月二十日ヲ期トシ本省ニ致ス

第三 本省ヨリ金銀ヲ受ルニハ式ノ如ク證券ヲ具シ之ヲ受テ日計簿ニ登記シ爲換座ニ寄セ預ケ帳ニ記載セシメ右日計簿ト預ケ帳ニ課長勘合シテ長官ノ檢印ヲ受ク

但各出張所ハ預定ノ月額ニ依リ日程ヲ計リ期ニ先チ長官ノ許可ヲ得テ本省ニ進達シ式ノ如ク之ヲ受ケ送達ス

第四 爲換座ニ寄ル所ノ金銀ヲ支發スルニハ每件長官檢印ノ廻議ヲ證トシテ各册ノ費用區別簿ニ登記シ式ノ如ク發票ニ寫シ課長ノ勘合及長官ノ檢印ヲ受ケ其科ニ付シテ各員ニ配給セシム之ヲ領收スル者ハ三日ノ内爲換座ニ至テ正貨ト交換ス其爲換座ニ集リタル發票ハ次ノ出金定日差出サセ原票ト照比シテ勘合ヲ消ス

第五 假渡金銀ハ區別簿ニ朱書シ返金スルトキハ最初ノ廻議ニ照シ朱書ニ押印シテ收發ヲ明カニシ其金銀ハ爲換座ニ寄ス

第六 毎月三八ノ日ヲ以テ金銀支發ノ定日トス若日曜其外休暇ニ會セハ前日ヲ以テ發スルヲ例トス但臨時支給ハ此限ニアラス

第七 凡テ金銀ヲ收發スルニハ必ス日計簿ニ登記シ收ルモノハ前日ノ殘金ニ加ヘテ總數トナシ發スルモノハ其數ヲ減シテ本日現在ノ數ヲ詳記ス

- 第八 凡テ不用ニ屬スル諸物品等賣却ノ代價ヲ收入スルトキハ其次第ヲ詳記シテ爲換座ニ寄セ再ヒ寮中額費ノ内ニ領收スヘキ者ノ外ハ之ヲ本省ニ納ム
- 第九 本寮各科及出張所各建築所等諸般ノ費用當初ノ目途ニ超過スル者ハ先其事由ヲ詳細具狀シ本省ノ判決ヲ經ルニアラサレハ假令定額餘分アリトモ之ヲ支給スルヲ得ス
- 第十 各建築所ニテ支發スル金銀ハ式ノ如ク勘定帳ヲ作り翌月五日ヲ期トシ其地ヲ發シテ本科ニ送ラシム
- 第十一 本科ニテ毎月支發スル金額及殘金ハ式ノ如ク册記シ翌月二日ヲ限リ本省ニ報知シ勘定帳ハ詳細區別シ證印帳ヲ附シテ翌月五日ヲ期トシ之ヲ精算科ニ送ル
- 第十二 諸費區別簿ハ本省ノ式ニ倣ヒ各件廻議判決スル者ニ據リ詳細ニ登記シ月末之ヲ表ニ掲ケテ勘定帳ニ附ス
- 第十三 一箇年ノ諸費ハスヘテ本資ト消費ヲ區別シ翌年一月中ニ表ヲ作り一枚ハ長官押印ノ上本省ニ達シ一枚ハ本寮ニ留ム
- 第十四 金銀ノ出納ハ其定則アルモノト雖モ課長以上ノ可印ナクシテ專恣之ヲ處スルヲ得ス
- 賜給科 正權大屬以下ノ職務トス
- 官員以下外國人ノ俸給旅費并職工賃料其他臨時賞金等賜給スルコトヲ掌ル
- 第一 毎年一月ヨリ十二月迄各款ノ費用ヲ概算總括シテ本科歳費ノ額トナシ又歲額ヲ分ケ月費ノ額ヲ定ムルニ八月々給發ノ多寡ヲ計リ十二箇月ニ區分シ前年十一月五日ヲ限リ出納科ニ達ス
- 第二 俸金ハ毎月十六日後之ヲ給與ス因テ其期限前新任免黜或ハ歸省病告等ヲ各簿科ニ審問シ増減アルモノハ改定查算シ廻議ニ具シテ出納科ニ送り發票ヲ受テ之ヲ配給シ式ノ如ク月給渡證印帳ニ册ニ押印セシメ月末與書調印シテ出納科ニ送ル
- 第三 官員以下ノ旅費ハ發程歸著トモ各簿科ノ報知ニ依リ定則ニ照準シ發程前日數ヲ計リ廻議ニ具シテ假渡ヲ爲シ歸著ノ後日數ノ過不足ヲ決算シテ給收ス

- 但各建築所等出張先ノ旅費ハ凡テ其地ニ於テ支給スヘシ
- 第四 官備外國人俸給旅費等ハ勘定方ノ横文ヲ翻譯シ之ヲ規則ニ照シテ檢查精算シ廻議ノ後勘定方ニ付シテ證書ヲ徵ス尤發程歸著ノ日ハ其時々各簿科ノ檢印ヲ以テ證スルコト官員ニ同シ
- 第五 月給旅費其他ノ假渡還納ハ大藏省書式ニ倣ヒ詳細ニ記載シ廻議ノ後其金ハ出納科ニ付ス
- 第六 給仕小使及一時使役スルモノハ毎月兩次勤休簿ニヨリテ日給ヲ結算シ廻議ニ具シテ之ヲ給與ス
- 第七 船車郵便電信等ノ賃料ハ其時々或ハ出金ノ定日各科檢印ノ證書ヲ附シテ廻議ニ具シ式ノ如ク發票ヲ受テ配給シ二通ノ證書ヲ取り月末ニ之ヲ纏メ承管ノ者與書調印シテ出納科ニ送ル
- 第八 常雇職工并雇夫ノ給料ハ各科ヨリ送ル所ノ督役簿ニ據リ金曜日ヨリ始メ木曜日ニ至迄二週間ノ勤仕時間及給料ヲ合計記載シ廻議ニ具シ課長檢印ノ上出納科ヨリ之ヲ受ケ土曜日止業ノ上ニテ給與スヘシ
- 第九 附屬以下諸工職等臨時賑恤及賞金ハ規則ニ照準シテ數ヲ定メ其主管ノ申請狀ヲ廻議ニ具シテ長官ノ判決ヲ請フ
- 第十 各款ノ賜給ハ定期アルモノト雖モ課長以上ノ可印ナクシテ專恣之ヲ處スルヲ得ス
- 倉庫科 正權大屬以下ノ職務トス
- 本寮各科應用ノ物品ヲ購買備辦配給スルコトヲ掌ル
- 第一 毎年一月ヨリ十二月迄定式支給スヘキ物品ノ費用ヲ概算總括シテ本科歳費ノ額トナシ又月々給發ノ多寡ヲ計リ十二箇月ニ區分シ之ヲ册記シテ前年十一月五日ヲ限リ出納科ニ送ル
- 第二 月費額内ヲ以テ應用ノ物品ヲ購買スルニハ常用物品ハ課長ノ檢印ヲ證トシ其代價ヲ渡スニ當リ總括シテ長官ノ檢印ヲ受ケ其他ノ物品ハ數目ノ多寡ヲ問ハス逐件廻議シテ長官ノ檢印ヲ受ケ
- 第三 應用ノ物品ヲ買辦スルニハ先ツ其物品ヲ註文簿ニ記シ更ニ之ヲ別記シ課印ヲ掲合シテ商人ニ付シ代價書及様品ヲ出サシメ物品ノ可否價ノ當否等課長ノ檢查ヲ受ケ再ヒ廻議ニ具シ常用物品ハ課長其他ハ長官檢印ノ後調進簿ニ記シテ其物品ヲ納メシム

第四 諸物ノ代價ハ其代價物數ヲ記スル一様ノ受取書ニ通ヲ出サシメ承管ノ者與書調印ノ上之ヲ出納科ニ付シテ給與セシム

第五 所藏ノ諸物品ハ一切之ヲ蓄藏簿ニ記シ其費用ニ供スルニハ用度附屬等各冊ノ配給簿ニ記シ證印ヲ徴シテ之ヲ付ス

但書籍繪圖類ハ附屬品支給簿ニ記シテ之ヲ譯文或ハ編輯科ニ付シ每三月其科ニ於テ點檢シ有無ヲ本科ニ報知セシム

第六 本寮附屬品ハ各科附屬品簿ニ記スル所ヲ以テ每三月現物ニ對比點檢シ毀損アルハ修理ヲ加ヘ亡失アルハ之ヲ補具シ每時完備シテ闕失ナキヲ要ス

但毀損亡失スルモノアルトキハ其時々本科ニ報知セシム

第七 諸物品ノ内廢器等賣却スヘキモノハ廻議ノ上入札公賣シ代金ハ出納科ニ送ル

第八 本寮常用ノ物品其他凡テ定例ニ遵ヒ各科ノ證印ヲ取ラサレハ付與スルヲ得ス且倉庫内ハ常ニ整頓シテ出入ヲ便ニス可シ

精算科 正權大屬以下ノ職務トス

本寮及各出張所并建築等一切出納ノ得失品價ノ當否本寮消費ノ多寡ヲ檢査精算スル等ノ事ヲ掌ル

第一 毎月勘定帳ヲ檢査スル工程ハ出納科ヨリ付スルノ後四日ヲ限トス若誤謬等アラハ其主任ニ推問シテ改修セシメ清查訖テ其表紙ノ右端ニ記名押印シ之ヲ課長ニ出シ長官押印ノ上翌月十日ヲ期トシ本省ニ達ス

第二 各出張所ヨリ各月進達スル勘定帳ハ出納科ヨリ之ヲ受テ檢査精算シ若物價工料其他適當セサルコトアルカ或ハ式ニ觸ル、モノアルトキハ其次第ヲ詳記シテ課長ニ告ケ返還シテ改正セシム故ニ清查ノ功程期ニ後ル、モノハ其事實ヲ長官ニ申報シテ本省ニ達ス

第三 建築修繕其他別ニ額費ヲ立ル者ハ最初ノ廻議ニ照シテ檢査ヲ加フヘシ

第四 常ニ各所物品代價職工雇夫ノ賃料等ヲ詳記シ諸出納皆之ニ比考シ其得失當否ヲ檢査スヘシ

鐵道寮技術課處務規定

六年十月二日

第五 凡テ本科ニ於テ檢査精算スル簿冊ヲ他ニ返還シ又ハ本省ニ達スル等課長以上ノ指令ニ依ラスシテ專恣之ヲ處スルヲ得ス

以上之ヲ大屬以下事務ノ制限トス然レトモ寮務繁劇ノ際ハ課中互ニ協助スヘシ出仕官員ハ本級ヲ以テ本官ト事務ヲ同シクス

右分科處務規定本省ノ判決ヲ得テ定ムル所ナリ能ク之ヲ守リ其定限ヲ愆ル勿レ

明治六年十月 鐵道權頭 太田 資政

鐵道寮技術課處務規定 六年十月二日

本寮技術一切ノ事務ヲ總括シ建築器械ノ二科ヲ設ク

課長

課中ノ事務ヲ掌管擔當ス

掌管ノ事務ヲ整理スルニ於テハ長官ニ對シテ其責任ヲ有ス

擔當ノ事務ニ於テハ其當否ヲ長官ニ對シ論辯スルヲ得

課中大屬上師以下ノ能否勤惰ヲ監視シテ長官ニ白スルヲ得

長官ノ令ニ從ヒ鐵路建設スヘキ樞要ノ地ヲ檢履シ其利害得失ヲ開陳ス

每歲本寮及各所諸般ノ工業ハ長官ノ指令ニ據テ之ヲ調査シ一歲及各月工程ノ緩急ヲ計リ其費用ヲ冊記シテ主計長ニ合議シ期ヲ以テ長官ニ呈シ可印ノ後淨書シテ本省ニ達ス

課中施行ノ事務ハ每款章程及規定ニ照準シテ廻議ニ具シ事ノ急ナルハ急ノ字ヲ朱書シ長官ノ可印ヲ得テ後各科ニ付シテ辨理セシム

鐵路ヲ建築セント欲スルトキハ先ツ實地ヲ檢履シ山野ノ險夷河渠ノ廣狹木石ノ有無建築ノ難易ヲ計リ線路ヲ預定シテ圖ヲ製シ經營諸費ノ概算ヲ附記シテ長官ニ致ス

鐵路建築中實地ヲ巡視シ工程部分等建築錄ニ齟齬セサルヤ否ヤヲ檢査シ長官ニ開報ス建築修繕及各般

ノ工業資用物品ハ本課ニ於テ之ヲ詳記シ回議ニ具シテ長官ニ呈シ之ヲ買辦スルハ倉庫科ノ主任ト雖モ其物品ノ可否得失ハ本課之ヲ論辯スルヲ得

權課長

課長ニ亞テ其職掌責任ヲ同ス
以上助以下委任官或ハ中少長ノ職任トス然レトモ關員アルカ或ハ事務繁簡ニ因リ權課長心得ノ名ヲ以テ正權大屬上中師ヨリ補攝セシムルコトアルヘシ

建築科 上師以下ノ職務トス

鐵路及大小屋宇倉庫橋梁其他建築修繕ノ事ヲ掌ル

第一 毎年一月ヨリ十二月迄本寮并各所ニ於テ建築修理ニ關スル諸般ノ費用ヲ概算册記シ又各月施行ノ緩急繁簡ニ因リ之ヲ十二箇月ニ區分シ前年十一月五日ヲ限リ課長ニ致ス

第二 鐵道ヲ建築セントスルトキハ地勢ヲ検査シ線路一定ノ後山川溝洫田宅等スヘテ行線ニ連絡スルモノヲ測量シ線路平面ノ圖ヲ作り里程及鐵路一切ノ模樣ト地方關涉ノ事故トヲ記載スヘシ

第三 線路ヲ精測シ截面ノ圖ヲ作り其勾配河道及線路鑿築ノ高低川渠溝洫ノ淺深等ヲ詳記スヘシ

第四 大小ノ橋梁水樋洞道ステーション及線路鑿築ノ方法ヲ設ケ圖面ヲ作テ各其形狀ヲ顯スヘシ

第五 建築中地礎ヲ最要ノ事トス故ニ地質ヲ試驗シ地杭ノ要否及長短ト埋石ノ適不適トヲ熟考シテ斟酌増減スヘシ

第六 凡建築修繕ヲ興サントスルトキハ資用物品ノ數目價值及各職ノ工程ヲ詳細ニ計算シ工業ノ大小難易ニ因リ預メ竣工ノ目途ヲ立結構ノ方法ヲ詳記シ建築錄及同表ヲ作り回議ニ附シ長官ノ判決ヲ乞フ

第七 既ニ判決ヲ得ルトキハ建築修理ノ前後費用スヘキ物品ハ倉庫貯蓄ノ有無ヲ計リ預備ナキモノハ之ヲ主計課ニ達シテ買辦セシムル既ニ實地經始スルニ臨テハ承管ノ者衆工ニ先チ工場ニ登テ督責シ業畢テ後ニ退キ其功程物品等ハ當初ノ決議ニ照比點檢シテ期ヲ愆ラス竣工セシムルヲ要ス

第八 諸建築修繕トモ判決シテ施行スルトキハ創功ヨリ竣工ニ至迄實地ヲ檢履シ工程ノ部分ト費用ノ金高トヲ式ノ如ク工程月表ニ掲ケ毎月三日ヲ期トシ發送シテ課長ニ致ス

第九 工業既ニ竣工スルトキハ右ニ係ル物品數目代價職工員數賃料并諸入費及落成開業ノ月日其他經營中ノ事務總テ後考ニ備フヘキモノハ逐件竣工錄ニ登記シテ之ヲ課長ニ呈ス

第十 經營中若シ費用ノ増減或ハ模様換ヲ要スルトキハ其事狀ヲ逐一回議ニ具シ再ヒ長官ノ判決ヲ經テ之ヲ施行ス

第十一 諸般ノ建築投票ヲ以テ受買ニ付スルト諸工ヲ募テ備役スルノ得失ハ便宜ニ因テ商量シ課長ニ開陳シテ長官ノ判決ヲ乞フ

第十二 投票ヲ以テ受買ニ付スルトキハ先ツ投票ヲ集テ回議ニ具シ長官ノ判決ヲ受ケ更ニ證狀ヲ徴シテ之ヲ委付シ既ニ創功セハ實地經營ノ精粗當初ノ經畫ニ違誤ナキヤ否ヲ督檢ス

第十三 受買ニ命スル者其費用ノ内金渡ヲ乞トキハ成功ノ部分物數ノ多寡ヲ斟酌シ申請狀ニ檢印シテ主計課ニ付ス

第十四 常雇職工并雇夫ノ仕業時間及日給ハ式ノ如ク督役簿ニ記載シ毎二週之ヲ賜給料ニ送り勤仕時間給料ヲ合計記載セシメ土曜日止業ノ上ニテ給與セシメ且各款ノ工程ヲ合一スヘカラサルモノハ區別シテ參考ノ便ニ供ス

第十五 各般ノ工業竣工ノ後費用ノ物品殘數アルトキハ品名數量價值ヲ詳記シテ倉庫科ニ付ス若倉庫ニ貯藏スヘカラサルモノハ課長ニ告ケテ其指揮ヲ受ク

第十六 修築ハスヘテ諸般ノ製圖ヲ要ス故ニ或ハ舊圖ヲ謄模シ又ハ之ヲ伸縮シ若器械科ニ關スルモノハ合議シテ課長ニ呈ス

第十七 貯藏ノ圖書及諸器ハ目次號數ヲ簿記シ諸官員ニ付與スルトキハ證印ヲ徴シテ之ヲ付シ若損破亡失スル者アルトキハ其時々之ヲ課長ニ報ス

器械科 上師以下ノ職務トス

- 第一 汽車ニ屬スル一切ノ器械ヲ裝置修繕スルヲ掌ル
- 第二 各所鐵路建築竣功ノ期ヲ計リ汽車ニ屬スル一切ノ器械ヲ準備シ又ハ修理シテ裝置ノ用意ヲ爲ス
- 第三 建築科ニテ築造落成スルトキハ之ニ器械ヲ裝置シ爾後破壞スル所アルトキハ其次第ヲ課長ニ陳シテ速ニ之ヲ補理ス
- 第四 汽車ニ屬スル諸器械ハ一々簿記シテ本科之ヲ監守シ若シ損失アルトキハ其時々之ヲ課長ニ告ク
- 第五 器械ヲ修理スルニ方テハ能ク職工ヲ使役シ機關上ノ損害ヲ生セザラシムルヲ要ス
- 第六 器械修理物品ノ代價ハ每款其費用ノ品目及工數ヲ區別シテ課長ニ報ス
- 第七 倉庫ヨリ資用品ヲ受ルニハ其製造物ニ用ヒ盡スヘキ者ニ尺方ノ鐵板ヲ受テ物ヲ製シ縫ト用ヒ盡ササルモノ五寸方ノ鐵板ヲ以テ製シ得ル所ノ物ヲ造ルニ尺方ノ鐵トヲ二ツニ區別シ用ヒ盡スヘキモノハ其製造物ノ各ヲ以テ受ケ之ヲ貯蓄品受取簿ニ記シ用ヒ盡サ、ルモノハ總テ貯蓄品製作ノ名義ヲ以テ資品受取簿ニ記シ之ヲ職工ニ付シ其製品ハ製品納簿ニ數量ヲ詳記シ、（註）ハ鍛冶ニ鐵ホドヲ作ラ共量目若干ヲ量之ヲ受テ轆子或ハ轆轆ニ付スヘキモノハ之ヲ付シ竣功ニ至リ其大小數目或ハ斤量ヲ貯蓄品收納簿ニ記シ倉庫科ニ付シテ其證印ヲ徴シ此製品ヲ需ルニハ更ニ貯蓄品受取簿ニ記シテ之ヲ受ク
- 第八 倉庫科ヨリ受ル諸製造資用品ノ殘數ハ月末ニ至リ資品受取簿ト製品納簿ト照比シテ其殘數ノ多寡減量ノ當否ヲ検査シ其殘數ハ倉庫科ニ報ス其貯蓄品受取簿ヲ以テ受ル所ノ物品其片端ヲ餘スモノハ月末又ハ時々之ヲ總括シテ同科ニ付ス
- 第九 各科ヨリ注文ノ諸製作品ハ一々簿記シテ月末長官ノ檢印ヲ受ク
- 第十 工場使役ノ諸職工ヘ兼テ名牌ニ職名番號ヲ付與シ之ヲ每朝書到ノ時改所ノ名牌箱ヘ（此箱ハ一枚ヲ穿ツ）指入シメ各其職場ニ登リ號令ヲ期トシ就業セシメ箱中ノ名牌ハ號令ヨリ五分ヲ期シテ取出シ職名及番號ヲ記スル木盤上ニ配列シ以後十五分毎ニ箱中ノ名牌ヲ取出シ同ク盤上ニ配列シ遅刻ノ時間ハ別ニ前ノ木盤ト同ク職名番號ヲ記シタル石盤ヘ番號ニ合セテ之ヲ記シ不參ノ者モ亦同ク之

- ニ記ス
 - 第十 午食及休息ノ號令前其名牌ヲ各工場ニ持シテ銘々ニ付シ始業前亦改所ノ箱中へ入ル、コト及時間ノ検査ハ每朝書到ノ時ニ同シ止業退家ノ前ハ其名牌ヲ付シテ翌日之ヲ入ル前ノ如シ
 - 第十一 常雇職工并雇夫ノ就業時間ハ毎日記スル所ノ石盤ヨリ其不勤時間ヲ式ノ如ク督役簿ニ記載シ每二週（金曜日ヨリ始メ木曜其職工日給ヲ記入シテ之ヲ賜給科ニ送り其勤仕時間給料ヲ合計記載セシメ）毎二週休日ノ前日止業ノ上各職工ニ給與セシム
 - 第十二 式ノ如ク督課簿ヲ製シ諸製作品ヲ部分シ毎日二度職工ノ課業ヲ檢シテ各職從事ノ時間ヲ詳記シ各品ノ工數賃料ヲ明ニス
- 以上之ヲ上師以下事務ノ制限トス然レトモ事務繁劇ノ際ハ課中互ニ協助スヘシ
右分科處務規定本省ノ判決ヲ得テ定ル所ナリ能ク之ヲ守リ其定限ヲ愆ル勿レ
- 明治六年十月 鐵道權頭 太田 資政

鐵道乘運課處務規定

六年十月日附

鐵道乘運課處務規定

本課汽車運轉一切ノ事務ヲ總括シ課中ノ事務ヲ分ツテ主記主計倉庫機關摺札出札荷物ノ七科ヲ設ク課長

課中ノ事務ヲ掌管擔當ス

掌管ノ事務ヲ整理スルニ於テハ長官ニ對シテ其責任ヲ有ス

擔當ノ事務ニ於テハ其當否ヲ長官ニ對シテ論辯スルヲ得

課長大屬上師以下ノ能否勤惰ヲ監視シテ長官ニ白スルヲ得

課中施行ノ事務ハ每款章程及規定ニ照準シ其定例ナキモノ及事ノ新タナルモノハ廻議ニ押印シ事ノ急ナルモノハ急ノ字ヲ朱書シ長官ノ可印ヲ受テ後各科ニ付シテ辨理セシム

課中ニ受ル所ノ來書ハ其緩急ヲ辨別シ要旨ヲ簿記シ各科ニ付シテ辨理セシム

每歲本課運輸ニ屬スル常用ノ經費ハ各管ノ目途ニ因テ之ヲ計算シ月々收發ノ多寡ヲ斟酌シ歲費月費ノ定額ヲ立テ之ヲ冊記シ期ヲ以テ本寮ニ致ス

金銀ノ出納ハ每款規定ニ照準シテ當否ヲ考査シ廻議ニ押印シテ後承管ニ分支シテ之ヲ辨理セシム其定例ナキモノハ長官ノ可印ヲ要ス尤支發ノ金ハ本寮ト消費ヲ二様ニ區別スヘシ

但出納ノ款件ヲ原簿ニ登記セハ總テ點檢シテ押印ス

應用ノ物品一旦長官ノ許可ヲ經テ購買整備スルモノト雖トモ其定限ヲ超サレハ緩急之ヲ分配シテ一々長官ニ請ハサルモ妨ナシ

運輸規則鐵道略則犯罪罰則ヲ遵奉シ且諸官員ヲシテ之ヲ固守シ背戾セシメサルヲ要ス等外官員ニ辭令ヲ授付スルヲ掌ル

課長ニ亞テ其職掌責任ヲ同クス

以上助以下奏任官或ハ中少長ノ職任トス然レトモ關員アルカ或ハ事務繁簡ニ因リ權課長心得ノ名ヲ以テ正權大屬上中師ヨリ補攝セシムルヲアルヘシ

主記科 正權大屬以下ノ職務トス

記錄往復受付應接名簿翻譯其他文書ニ屬スル一切ノ事ヲ掌ル

第一 課中ノ事務ハ遺漏ナク日記ニ記載シ月末課長ノ閱覽ヲ經順次之ヲ輯存シテ參考ニ供ス

第二 往復及通報書等ハ課長ノ指揮ヲ承テ稿案ヲ呈シ檢印ノ後淨書シテ送達シ其大意月日號數ヲ件銘簿ニ登記シ課長檢印ノ原稿ハ各簿冊ニ留ム

第三 官員其他ノ諸願伺届及建議書等ハ廻議ニ具シ課長ノ指令ニ因テ或ハ本寮ニ送達シ或ハ本人ニ返達シ其要件ハ之ヲ簿記シテ後考ニ備フ

第四 課中官員ノ新任轉免等總テ之ヲ簿記シ其時々各科ニ通報ス

但新任轉免出張在勤歸省歸著等賜給ニ關スルモノハ必ス之ヲ主計科ニ通報ス

第五 職員表ハ式ノ如ク毎月之ヲ作り翌月二日ヲ期トシ本寮ニ送達ス

第六 課中官員以下ノ進退轉免出入等ヲ訂正シテ毎月本課名簿ヲ改正ス

第七 課中官員以下日ヤノ勤休ハ簿冊ヲ作り押印セシメ月末ニ至リ勤休ノ日數ヲ總計シテ課長ニ呈ス

第八 本課附屬ノ圖書ヲ主管シ目次號數ヲ記シ散逸ナキヲ要ス故ニ各科ノ官員借覽ヲ乞フトキハ證書ヲ取テ之ヲ付シ且毎三月原簿ニ依テ點檢シ若シ缺失アルトキハ其所由ヲ糺シテ倉庫科ニ報ス

第九 諸翻譯文書ハ譯成ルノ後彼此比較シ課長ノ閱覽ヲ受クヘシ

主計科 正權大屬以下ノ職務トス

課中ノ費用ヲ查算シ并運輸賃金ノ總計其他主計一切ノ事務ヲ掌ル

第一 歲費ノ定額ハ毎年一月ヨリ十二月迄常用ノ諸費ヲ概算冊記シ課長押印ノ上之ヲ本寮ニ送達ス

第二 各月費用ノ多寡ヲ計リテ其額ヲ定メ式ノ如ク廻議ニ具シ課長押印ノ上前月二十日ヲ期トシ之ヲ本寮ニ送致ス

第三 本寮ヨリ受ル所ノ費用金爲替手形ハ爲替座ニ寄セ預ケ帖ニ記載シ課長ノ檢印ヲ受ク

第四 課中所用ノ物品代價及各科諸費ノ廻議等ハ查算ノ上課長ノ檢印ヲ承ケ之ヲ給發ス

但給發ノ期限ハ毎月六度其定日ヲ以テ之ヲ付シ臨時支給ハ此限ニ非ス

第五 官員以下月給旅費并臨時賜金等ハ定則ニ從ヒ式ノ如ク廻議シ課長ノ檢印ヲ受ケテ之ヲ給發シ本課御雇外國人ノ賜給及貯蓄品價值ノ如キ假令本科ヨリ賜給セサル分モ其科へ問ヒ一切之ヲ別記シ他日運輸入費計算ノ便ニ供スヘシ

但本科ノ内一員賜給ノ專務ヲ定メ之ヲ擔當辨理スヘシ

第六 常雇諸職工并雇夫ノ給料ハ各科ヨリ送ル所ノ督役簿ニ因リ金曜日ヨリ始メ木曜日ニ至ル迄二週間ノ勤止時間及給料ヲ合計記載シ廻議ニ具シ課長ノ檢印ヲ受ケ土曜日止業ノ上ニテ給與スヘシ

第七 本課ニテ毎月支發セル金高及殘金ハ式ノ如册記シ課長押印ノ上翌月二日ヲ期トシテ本寮ニ送ル

- 其證印帳及内譯帳ハ同ク五日ヲ期トシ精算シテ勘定帳ヲ附シ課長押印ノ上本寮ニ送ル
- 第八 諸費區別簿ハ本省ノ式ニ從ヒ各件廻議判決スルモノニ因リ詳細ニ登記シ查算ノ後之ヲ表ニ掲ケテ勘定帳ト共ニ本省ニ送ル
- 第九 官雇外國人給料其他「バンク」ヨリ繰替ノ分ハ毎月出ス所ノ横文ヲ主記科ニ送り翻譯ノ上精算シ廻議ニ具シ課長ノ檢印ヲ受ケ其繰替返金ハ月ヲ越ヘサルヤウ注意スヘシ
- 第十 凡金銀ヲ收發スルニハ必ス日計簿ニ登記シ收ムルモノハ前日ノ殘金ニ加ヘテ總數トナシ發スルモノハ其數ヲ減シテ本日現在ノ數ヲ詳記ス
- 第十一 凡テ不用ニ屬スル諸物品等賣却ノ代價ヲ收入スルトキハ其次第ヲ簿記シ其金銀ハ爲替座ニ寄セ再ヒ本課額費ノ内ニ領收スヘキモノ、外ハ之ヲ本寮ニ納ム
- 第十二 各驛長ヨリ納ムル所ノ運輸賃金ハ毎日賣出切手ノ取集メ高ト各出札科ヨリ出ス所ノ賃金調書トヲ照シテ之ヲ查算シ爲替座ニ寄セテ預ケ帳ニ記載シ翌月五日ヲ期トシ課長押印ノ調査書ヲ附シテ本寮ニ送ル
- 第十三 旅客并荷物ノ員數及賃金ハ毎日及毎週ノ報表ヲ作り課長押印ノ上其時々本寮ニ送ル且ツ月末一箇月ノ賃金ヲ總括シテ月表ニ記載シ内譯ノ調書ヲ作り課長押印ノ上本寮ニ送ル
- 第十四 旅客并荷物切手地紙ハ課長ハ證印ヲ以テ倉庫科ヨリ之ヲ受ケ摺札科ニ送り摺上ケノ分ハ日々本課ヘ納メシメ其摺札成損ノ員數等本科ニ於テ檢査ヲ遂ケ一々簿記シテ課長ノ檢印ヲ受ケ
- 第十五 各所ヘ切手渡方ハ一々類別シ渡帳ヲ作りテ番號員數等ヲ記載シ之ヲ添テ各驛長ニ送ル驛長之ヲ受ケ渡帳ハ押印ノ上返却ス且毎日驛長ヨリ其受取高ト賣高及殘高トヲ簿記シテ之ヲ本科ニ報セシム
- 倉庫科 正權大屬以下ノ職務トス
- 諸機械等ノ出納及物品購除賣取配給其他倉庫一切ノ事務ヲ掌ル
- 第一 應用ノ諸器械及物品ヲ本科ニテ國內外ヨリ購買スルニハ本寮倉庫科内外物品購買ノ順序ニ照ラ

- シテ處置スヘシ
- 第二 不用ノ物品ヲ賣却スヘキハ廻議ノ上入札公賣シテ代金ハ主計科ニ送ル
- 第三 外國ヘ注文品等著港スルトキハ稅關其他定例ノ如ク引取ノ手配ヲ爲シ其送狀ト比較シテ毀損ノ有無員數ノ多寡等明細ニ檢査ノ上之ヲ簿記シ課長ノ檢印ヲ受ケテ本寮ニ開報ス
- 第四 新規ニ購除シタル物品ハ其品名代價等一々購除簿ニ記載ス
- 第五 課中所用ノ筆墨紙其他常用物品ノ配給ハ各科ニ於テ受取帳ヲ作ラシメ其要スル所ノ品名員數等ヲ記載セシメ證印ヲ取テ之ヲ付シ臨時用品ハ都テ課長ノ可印ヲ受クヘシ
- 第六 都テ物品ノ支給ハ別ニ支給簿ヲ作り式ノ如ク之ヲ記載ス
- 第七 汽車所用ノ薪石炭其他常用諸品ハ一日或ハ數日分ヲ機關科ニ付シ每車日々費ス所ノ數量ヲ精細簿記シテ之ヲ本科ニ報セシム
- 第八 諸品ノ代價ハ其代價物數ヲ記スル一様ノ受取書ニ通ヲ出サシメ承管ノモノ奥書調印ノ上主計課ニ付シテ給與セシム
- 第九 所藏ノ物品ハ内外物品ヲ區別シ一切之ヲ蓄藏簿ニ記シ其費用ニ供スルニハ用度附屬器械及其他各配給簿ニ證印ヲ取テ付與ス
- 但書籍繪圖類ハ附屬品支給簿ニ記シテ之ヲ各科ニ付スルモノハ毎三月其科ニ於テ點檢シ有無ヲ本科ニ報知セシム
- 第十 新規購除シタル物品及在來ノ分トモ都テ元高ト渡高トヲ明細簿記シ毎月倉庫表ヲ作り課長ノ檢印ヲ經テ之ヲ本寮ニ送ル
- 但外國ヨリ來著ノ機械等ハ和英二様ノ簿冊ニ記載ス
- 機關科
- 機關車ノ保全及運轉用諸品ノ支給其他火夫取締等ノ事ヲ掌ル
- 第一 都テ機關車ハ平常懈怠ナク掃除シ就中翌日運轉スヘキ機關車ハ前日丁寧ニ之ヲ磨キ其豫備ヲ爲

- ス
- 第二 機關車ニ損所アルキハ課長ハ勿論掛外國人へ告ケ速ニ器械科ニ付シテ修繕セシム
 - 第三 薪石炭其他機關車運轉ノ諸用品ハ一日或ハ數日間ノ額ヲ立テ倉庫科ヨリ之ヲ受ケ每車日々費ス所ノ數量ヲ精細簿記シテ同科ニ日報ス
 - 第四 火夫等ノ勤惰ヲ督視シ其進退増減等ハ式ノ如ク廻議ニ具シ課長ノ許可ヲ受ク
 - 第五 火夫勤惰簿ヲ作り勤不勤ヲ記シ月末主計科ニ達ス
 - 第六 火夫給料ハ月末式ノ如ク廻議ニ具シ主計科ニ達シテ給與セシム
- 摺札科
- 乗車切手并荷物證書其他表類ノ摺立等ヲ掌ル
- 第一 切手地紙ハ主計課ヨリ受ケ日々摺揚摺損ノ分トモ等級番號等一々類別シテ切手納帳ニ記載シ主計科ニ送ル
- 第二 表類地紙ハ倉庫科ヨリ受ケ摺立ノ上一々類別簿記シテ倉庫科ニ納ム
- 出札科
- 乗車切手ノ賣出等ヲ掌ル
- 第一 切手ハ各所及各等ヲ類別簿記シテ毎日驛長ヨリ受取其賣出ノ度々月日ヲ印記シ之ヲ付ス但切手ノ賣高ト殘高トハ式ノ如ク表記シテ驛長ニ日報ス
- 第二 小兒札ハ各等トモ切手ヲ斜ニ兩斷シ其一片ニ月日ヲ印記シ之ヲ付シ其一片ハ毎日驛長ニ送致シ本日小兒乗車ノ數ヲ證ス
- 第三 賃銀納方ハ各等トモ毎日切手賣終リニ到リ其賣高ト賃銀ノ高トヲ精算シ式ノ如ク表ヲ作り之ヲ附シテ驛長ニ送り主計科ニ納メシム
- 荷物科
- 諸荷物ノ運送及預品遺失品等取扱ノ事ヲ掌ル

鐵道建築課長限リ取扱條件
七年十月七日建築課ヲ廢シ修繕科ニ合併ス

- 第一 荷物切手等ハ類別簿記シテ毎日驛長ヨリ之ヲ受ク
 - 第二 各ステーションへ送出す荷物ハ品名量目及荷主ノ姓名等調査ノ上式ノ如ク記載シテ切手ヲ荷主ニ渡シ且其荷物ニハ記號ヲ貼シテ錯雜ナカラシム
 - 第三 各ステーションヨリ來著ノ荷物ハ各荷主所持ノ切手ト荷物ノ記號トヲ照シテ各主ニ分付ス其賃銀未濟ノ分ハ規則ニ從ヒ處置スヘシ
 - 第四 預リ品ハ品名番號月日等ヲ簿記シ且證書ヲ附シ引渡ノ節ハ右證書引換ニ荷物ヲ付與シ日數ニ應シ定則ノ賃銀ヲ拂ハシム
 - 第五 遺失品ハ一々細記シテ預リ置キ品主來リ請フトキハ其品名形狀等詳細ニ具狀セシメ確證ヲ得テ之ヲ付シ其賃銀ヲ拂ハシムルヲ預リ品ニ同シ
 - 第六 賃銀ハ毎日運輸ノ終リニ到リ發著ノ荷物及預品等ヲ類別精算シテ表ヲ作り之ヲ附シテ驛長ニ送り主計科ニ納メシム
- 以上之ヲ大屬上師以下事務ノ制限トス然トモ事務繁劇ノ際ハ課中互ニ協助スヘシ出仕ハ本級ヲ以テ本官ト事務ヲ同クス
- 右分科處務規定本省ノ判決ヲ得テ定ムル所ナリ能ク之ヲ守リ其定限ヲ愆ル勿レ
- 明治六年十月
- 鐵道權頭 太田 資政
- 建築課長限リ取扱條件 六年十二月四日
- 引續工業并小修繕
- 一 レネル并スレーフアル取替修繕
 - 一 器關車并客車新規組立及修繕
 - 一 諸橋梁朽損シ之場所取繕
 - 一 各ステーション并諸官舎柵矢來取繕

- 一 鐵道線兩側之柵矢來取繕
- 一 各ステーション建物并内外人官宅小修繕
 - 假令ハ間内敷物敷替或ハ壁ペンキ塗替紙張替又ハ屋根雨洩樋取替スト一修繕間取附替ノ類之如キ類
- 一 各ステーション諸建物并内外人官舎外廻リ溝浚并草取路繕ヒ砂利敷替之類

鐵道寮ヨリ工部省ヘ伺六年十二月四日
 先般各寮司諸表式御確定有之目今施行致候處初條中修繕改築ヲ爲スモ此規則ヲ踐履スヘシト有之就而ハ細少之修繕ト雖トモ悉皆式表定則ニ隨ヒ建築錄ヲ指出其時々許可ヲ得始業致候然ルニ運輸局建築ノ如キハ細少之修繕多端就中別紙之箇條ハ其ニ細末ノ工業隨而入費少ク事業何モ急卒ニ出此等之業ハ日々不絶執工罷在候且爲時ハ暴風雨後ハ別而急速之有之候其時々建築錄ヲ以伺出候次第ニモ實況至兼候伺出候而ハ自然往復延致レ夫カ爲却テ入費之增加運輸之業ニモ障碍ヲ生シ候固ヨリ摸樣換或ハ大修繕之類又ハ臨時急遽ニ非ラサレハ勿論都度定則ニ照準執行可致候定則之義者諸寮司一體之義ニ付容易ニ右等之義伺出候モ如何敷存候得トモ何分實地ニ臨ミ施行不都合ヲ相生シ候間情態篤ト御洞察有之別紙之箇條丈ケハ建築課長特權ヲ以取計候様御許可有之度此段相伺候也

關西出張鐵道寮官員心得方 七年二月二十五日

上款

- 一 將來鐵道ヲ設計ト欲スル地ヲ測量スルコト
- 一 鐵道ノ行線及橋梁并ステーションノ場所ヲ定ムルコト
- 一 本寮所在ノ地ヲ轉スルコト
- 一 各所ヘ出張所ヲ設クルコト
- 一 外國人ヲ雇入レ或ハ備繼クニ本條約ヲ立ルコト
- 一 本雇外國人ノ俸給ヲ増減スルコト
- 一 本雇及假雇外國人ノ功罪ニ依テ特別ニ之ヲ處置スルコト
- 一 定額外費用ノコト
- 一 運輸取扱等ノ如キ都テ他方ヘ關涉スル規則條例等ヲ定ムルコト

關西出張鐵道寮官員心得方

- 一 本寮要務ノ諸術傳習ノ法則ヲ定ムルコト
- 以上十條

下款

- 一 定額内ノ金ヲ以テ既定ノ鐵道線路橋梁館舎屋宇通洞掘割埋立等ノ工業ヲ起シ或ハ改造修繕スルコト
- 一 定額内ノ金ヲ以テ鐵道需用ノ諸機械物品ヲ外國ヨリ收買スルコト
 - 品ヲ外國ヨリ買入ルハ、ヲ謂フナリ臨時又ハ新ニ買入ントスル物品ハ必ス先ツ之ヲ御ニ上告シテ其許可ヲ得タル後ニ非サレハ之ヲ行フヘカラス
- 一 本寮掌管ノ事務ニ付キ他方ヘ文書ヲ往復スルコト
 - 但事ノ本省ニ關係スルモノハ此限りニ非ラス
- 一 鐵道建築議定ノ地ニ假出張所ヲ設クルコト
 - 但其都度屆書ヲ以テ開報スヘシ
- 一 運輸發車ノ時刻及ヒ度數ヲ便宜變換増減スルコト
 - 但前同斷
- 一 本雇外國人等滿期又ハ病氣ニ依リ解職スルコト
 - 但每月末一括シテ其旨ヲ開報スヘシ
- 一 假リニ外國人ヲ雇使シ及ヒ其俸給ヲ増減スルコト
 - 但前同斷
- 一 月給二十圓以内ノ附屬及ヒ傭ノ者ヲ黜陟シ或ハ十圓以内ノ賞金ヲ與フコト
 - 但前同斷

以上八條其他細少ニ屬スル事件ハ略之

鐵道寮ヨリ工部省ヘ伺 七年二月十日
 御維新以來橫濱東京及神戸大阪其他一二之鐵道建築御決議相成候後第一東京橫濱間之建築御創業ノ際本寮ヲ東京ニ被差置百般之事務取扱來候處右之線路ハ既ニ落成ニ至リ引續キ神阪并京阪之鐵道起業ニ相成隨而西京敦賀間之測量ニモ取掛居追々起業ニ可立至都合ニ有之關西之事務逐日多端ニ相成依然出張官員ヲ命シ一々東京本寮之指揮ニ隨ヒ實務爲取扱候處追々本支之間事々誤解支悞之憂致出來處務之

際實以不都合之次第有之ニ付テハ此程東京へハ只運輸掛ヲ差置神阪之間へ本寮轉移爲致可然旨御評議之上下官井上鐵道頭至急出張被仰付候ニ付而ハ不日赴任之上實際詳察處務之順序等夫々見込相付可相伺心得ニハ候得トモ本寮鐵道建築之爲業也其目千態萬狀連モ一々繰進難致次第實際詳察之上其緩急ヲ審案シテ順序ヲ不違務テ無益ノ手數ヲ除キ元費ヲ致省略等臨機之處置不致候而ハ難被行候處從來一事業相起候得ハ不細大先以一應共事件ヲ本省へ致具陳許可濟之上ニ無之而ハ施行之場合ニ難相運此規則詰リ手數繁多ニ相涉候マテニテ施行之際著手之好機ヲ失シ獨リ事業致遷延而已ナラス隨而意外之元費相嵩等之弊害追々不少況シテ本寮ヲ數百里隔絶ノ場所へ致轉移候ニ付テハ萬事簡便ニ涉リ度故別紙上款ヲ除之外下款ノ條々悉皆下官へ御委任被仰付候ハ、猶一層之便宜ヲ得剛精拮据速ニ大業竣功之都合ニ可相至ト存候右ハ最早出立之間合モ無之何分至急御裁決相成候様致度此段相伺候也

工部省指令七年二月二十五日

第三百三十七號其寮官員關西出張ニ付別紙下款條々委任有之度旨伺之通可取計尤下款第二條下分注相加候條此旨了承可有之此段相達候也

鐵道寮官員關西出張ニ付事務取扱方

鐵道寮ヨリ工部省へ伺七年二月二十日

御布告共外諸達書類本寮分トモ是迄本寮へ御配達相成來候處以來新橋支寮丈ケハ直ニ御配達其他ハ是迄ノ通本寮宛ニ御送達有之度事

一 運輸及東京橫濱間建築ニ關係之事務ハ同課長ヨリ直ニ本省へ相伺候事

一 本年定額金ハ月々彼ノ地ヨリ本省會計局へ宛受取方之證書引換爲替取組同局ヨリ送達方共外會計之儀ニ付小細之事件問合等有之節ハ當寮主任之者ヨリ直ニ本省會計局長へ引合之儀モ可有之事

一 東京橫濱間運輸建築費用等受取方之義運輸課長ヨリ直ニ本省へ中立候様致度事

一 官員錄職員錄甲乙二冊ヲ以毎月兩度ツ、交換公備外國人明細錄ハ月末一度ツ、交換シ來候處遠隔相成候ニ付官員錄職員錄モ外國人明細錄同様月末一度ツ、ニ致シ黜陟受書等全權宛名無之分ハ郵便等見計本省名簿科宛ニシテ往復爲致度尤東京橫濱間運輸建築等ノ内ニ備人并電信生徒黜陟等ノ如キハ運輸課長ヨリ直ニ本省へ届出候様可致事

右庶書之通御差支無之候ハ、關係之諸課へ御達有之度此段相伺候也

工部省指令 七年二月二十七日

第二百三號ヲ以今般本寮官員關西出張ニ付事務取扱ノ件々伺出之通取計可然尤第五條官員錄職員錄差出方之儀ハ從前之通毎月兩度ツ、可差出候此段相達候也

鐵道局ヨリ工部省へ上申十五年十月十日

明治七年二月鐵道寮阪地ニ移轉之際夫々庶書ヲ以テ相伺候内新橋分局へハ御布達之配附或ハ諸伺等同

所事務課長ヨリ本省へ直ニ相伺候様許可相成居候處現今ハ下官此地ニ在テ勤務候付テハ自今同分局へ之諸達類ハ總テ鐵道局長へ宛御配付相成度尋テ同所事務上經伺之件モ下官ヨリ相伺可申候條此段上申候也

工部省沿革報告抄錄 七年二月二十七日

省内ノ鐵道寮ヲ大阪府堂島ニ移ス

鐵道寮ヲ大阪堂島ニ移ス
十四年六月一日神戸停車場内ニ移ス
十五年六月東京ニ出張所ヲ設ク

鐵道本寮ヲ大阪堂島出張所ニ移ス之レ鐵道創業ノ際ハ本寮ヲ東京ニ置キ百般ノ事務ヲ處理ス爾後東京橫濱間ノ建築落成シ今方サニ神戸大阪及京都等ノ鐵道ヲ起シ次テ將サニ敦賀線ノ測量ニ著手シ關西ノ事務最多端ナルノ日ニ當リ遠ク數百里ヲ隔テ每事官吏ヲ派シ細大指揮ヲ本寮ニ取ルハ實際不便少ナカラサルヲ以テ是ニ至レリ

鐵道寮ヨリ工部省へ届七年三月十六日

本寮ヨリ出張官員大阪西寮ニ於テ本日ヨリ事務取扱候此段及御届候也

鐵道寮ヨリ工部省へ届 七年三月二十九日

當地東寮官員之義昨二十八日ヨリ本寮出張官員ト合併於西寮事務取扱候此段及御届候也

工部省沿革報告抄錄 七年四月三十日

神戸出張所ヲ同所停車場内ニ移ス

神戸出張所ヲ同所停車場内ニ移ス

新橋ノ建築課ヲ廢シ修繕科ニ合併ス

鐵道寮ヨリ工部省へ届 七年十月七日

新橋橫濱間鐵道創業以來建築課被置候處當今ハ專ラ修繕摸樣替等ニテ間々新築モ有之候得共格段ノ大工業無之候ニ付而ハ同課從來之事務ハ修繕科ニ於テ取扱御入用出方其他勘定書類等ハ新築修繕ノ區別相立取扱候ハ、敢而不都合之儀モ有之間敷且本寮ヨリ申越候次第モ有之候ニ付今般其課名ヲ罷メ修繕科ニ合併致候間此段及御届候也

記録方附箋

修繕科ト申ハ事務章程并處務規定中ニ無之ニ付其段問合候處別紙之通告書來ル

〔別紙〕 新橋主記科ヨリ本省記録方へ回答七年十一月二十七日
本月二十四日附ヲ以當察建築課ヲ廢シ修繕科ニ合併云々御掛合之處右ハ現今一科ヲ設ケ執行有之候得
共處務定規中ニ未タ記載無之儀ニ付此段御回答ニ及候也
追テ右等之邊大阪本寮へ御回答有之度候也

鐵道各驛電話生ヲ電
信寮ノ管轄ト爲ス

鐵道寮ヨリ工部省へ伺八年七月七日
鐵道各驛電話生ノ備ハ是迄當寮支配ノ處生徒等ノ苦情廉々有之候中第一是迄ノ姿ニテハ更ニ藝術進
歩ノ目的無之般初入學ノ素志ヲ失フトノ趣成程尤ノ事ニ被存候ニ付此節改テ電信寮支配ニ變制候得ハ
電信生藝學誘導ノ道一經ニ相成共當ヲ得候事ト存電信頭ニモ相談候處尤同意ノ趣ニ付別紙約束ヲ立當
寮現在ノ電信生都テ電信寮ノ支配ニ引渡候間御許可有之度此段相伺候也
工部省指令 八年七月二十七日

第九百三十號付ヲ以テ鐵道各驛電話技術ノ者處分之儀伺之趣聞屆候條電信寮へ引渡可申候也
〔別紙〕

第一條 鐵道各驛電話生ノ備以後電信寮管轄ニ變制候付双方商議ノ上約定ノ箇條左ノ如シ
第二條 鐵道各驛電話生ノ月給等ハ勿論鐵道ニ關係スル諸費ハ鐵道寮ニテ可相賄事
他ノ官員ニ命シ指揮セシムルヲ更ニ其職名ヲ告知スル時ハ其職員ノ指揮ニ隨フヘキ事
明治八年第七月
井上 鐵道頭
芳川 電信頭

新橋運輸課事務仍
ル

新橋運輸課ヨリ工部省へ伺十年一月十二日
昨十一日甲第十二號ヲ以別紙寫添御達有之候處當運輸課之義者人民之差支ヲ釐シ候ニ付片時モ事務難
差指候間先ツ從前之通爲取扱候而可然歟此段相伺候也
工部省指令 十年一月十二日

太政官第三號御達ニ付相達候處事務之義先ツ從前之通取扱度旨伺之通可取計候也

鐵道局ヨリ工部省へ屆 十年二月二十日
開業式御執行後西京支局事務引揚候條此段及御屆候也

京都出張所ヲ屬シ其事
務ヲ本局ニ合ス

○工部省沿革報告ニ云十年二月二十日京都出張所ヲ廢シ其事務ヲ本局ニ合併ス

工部省達 十二年六月十八日
其局ニ於テ雇使スル職工ノ儀自今以降別紙ノ通等級及月給表相定候條各其伎倆ニ應シ相當ノ等級ヲ與
ヘ其等職工ノ名稱ヲ附シ雇吏同様ノ取扱可致此段相達候也
追テ雇入放免等其都度可届出候事

職工等級及月給表

一等職工	二等職工	三等職工	四等職工	五等職工	六等職工	七等職工	八等職工	九等職工	十等職工	同見留
五十四圓	四十四圓	三十五圓	三十四圓	二十六圓	二十二圓	十八圓	十五圓	十二圓	十圓	三圓
六十圓	五十圓	四十四圓	三十五圓	三十四圓	二十六圓	二十二圓	十八圓	十五圓	十二圓	八圓

鐵道局ヨリ工部省へ伺十三年十一月五日
當本局所在ノ場所ハ最前大阪停車場ニ可致見込ヲ以テ買上相成候處其後一層便利ノ場所即チ今ノ梅田
ニ變換相成候ニ付テハ直ニ他ニ可賣拂答ノ處阪神并京阪間建築ノ爲ニハ本局ヲ置ニ究竟ノ位置タルヲ
以テ其儘殘シ置即本局ヲ該地ニ移シ連綿今日ニ至リ候處彼ノ京都大津間建築迄ハ彼此甚懸隔ト申譯ニ
モ無之候ニ付本局ノ位置從前ノ儘ニテ得失ノ關係スル處格別ノ違モ無之候得共敦賀線建築ニ至テハ概
成線ト全ク離隔スルカ故ニ諸事是迄ノ振合ニハ難參從テ本局ノ位置最早大阪ニ限ラヌ既成線路ト離隔
セサル以上ハ何レノ場所ト雖モ建築場所トノ關係同一ノ姿ニ相成候依テ熟考候處神戸ハ西部鐵道ト本
源ニテ運轉諸車ノ造作ヨリ橋材其他ノ鐵具鍛鍊或ハ木挽木作方等ニ至ル迄十分ノ裝置相整居加之外國
倉庫并運輸本課モ同所ニ有之本局ト關係ノ多端ナル當局管内ニ冠タル義ニ候間今ヨリ本局ヲ神戸ステ
ーション地内ニ移候方至極便宜ト存候
右ニ付テハ今ノ本局所在ノ地ハ不用ニ屬シ候儀ニ付公私ヲ問ハス他ニ可賣拂儀當然ノ處分ニ有之候處
右場所ノ義ハ元々阪神間建築費即作業費ヲ以代價支辨相成地代并立除料等モ多分ニ相掛リ居候間可成
高價ニ賣拂右失費ノ内可成多額ノ償還可立候共人民ニ排下ケ候ニハ世上流行ノ官有地拂下同様ノ入札拂
ニモ候半ハ元價ヲ以讓渡方出來可致候得共人民ニ排下ケ候ニハ世上流行ノ官有地拂下同様ノ入札拂
テハ普通ノ賣買價格ヨリハ大分可相劣候間他ノ當局不用地同様右拂下方當局ニ於テ時機ヲ見計ヒ十分
ノ價格迄賣上ケ度候
右賣拂方相運候半ハ其内些々タル一部金ヲ費シ神戸表ニ可取設本局修築ノ費用ニ相充置明年ヲ待テ成

燈臺寮職制章程
六年四月十七日分課職務
規定ヲ定ム

燈臺寮職制并事務章程 五年六月二十七日

燈臺寮職制

頭 一員

寮中諸官員ノ首長ニシテ燈臺一切ノ事務ヲ管理スルヲ掌ル

寮中諸官員ノ處務ヲ指令シ各課ノ事ヲ統督ス

寮中諸般ノ事務其章程ト成規トニ照シテ之ヲ踐行修整スルニ於テハ卿輔ニ對シ擔保ノ責任ヲ有ス

掌管ノ事務ニ於テハ卿輔ニ對シ其當否ヲ論辯スルヲ得

各課ヲ廢立シ及ヒ寮中ノ諸規則ヲ更正スル等ノ事アレハ卿輔ノ決判ヲ乞テ之ヲ處置ス寮中諸官員ノ

能否勤惰ヲ監視シテ之ヲ進退黜陟シ又ハ其員ヲ増減スル等ハ審案具狀シテ卿輔ニ呈シ其決判ヲ乞フ

權頭 一員

職掌責任頭ニ亞ク

頭缺席スルカ又ハ缺員ノ時ハ一切頭ノ職掌ヲ代理スルヲ得

助 定員ナシ

寮中各課ノ長トシテ其事務ヲ擔當スルヲ掌ル

各掌管ノ事務ヲ整理スルニ於テハ頭權頭ニ對シテ其責任ヲ有ス

權助 定員ナシ

職掌責任助ニ亞ク

以上之ヲ委任官トス

大屬 權大屬

中屬 權中屬

少屬 權少屬

頭權頭ノ指令ニ從テ寮中ノ事務ヲ處ス

以上之ヲ委任官トス

大屬以下ノ人員ハ事務ノ繁簡ニ從テ増減アルヘシ

主記課

往復文案應接通辯翻譯名簿ノ諸科ヲ分テ文書往復記錄編輯他方應接名簿増減等ノ事ヲ管ス

主計課

出納倉庫雇傭購除結算ノ諸科ヲ分チ金穀出納諸物領給買辦會計查算等ノ事ヲ管ス

技術課

測量製圖建築器械營繕航運ノ諸科ヲ分チ各其技術ヲ執テ本務ヲ施行シ又各科傳習ノ事ヲ管ス

燈臺寮事務章程

燈臺寮ハ燈臺一切ノ事務ヲ掌管ス其綱領左ノ如シ

一 全國海岸ノ要處ニ燈臺燈船標浮標等ヲ設ケ中外諸船航路ノ便ヲ開ク事

一 各處燈臺燈船點火ノ處務ヲシテ其規則ノ如ク一齊ナラシムル事

一 既成ノ燈臺諸標ヲ修理保護スル事

一 本寮要務ノ技術ヲ開明スル事

以上各條本寮掌管ノ事務トス然レトモ其事ヲ處スルニ當リ卿輔ノ決判ヲ乞テ然ル後施行スヘキ條アリ

卿輔ノ決判ヲ乞シテ專任處置スヘキ條アリ其例目ヲ分ツ左ノ如シ

但本省事務章程ノ上款ニ載ル上奏制可ヲ經テ舉行スヘキノ條件ニ屬スルモノ此外ニアリ

上款

卿輔ノ決判ヲ乞テ然ル後施行スヘキ條

一 各處燈稅ノ法則ヲ定ムル事

一 守燈ノ規則ヲ立ル事

- 一 燈臺其他ノ諸標ヲ新築スル事
 - 一 國製ノ舊標ヲ改作スル事
 - 一 各處ニ出張所ヲ設クル事
 - 一 外國人ヲ備使シ或ハ備役ノ期滿テ再期ヲ約シ又ハ備中退職セシムル等凡テ立約ニ關スル事
 - 一 外國人ノ俸給ヲ増減シ及ヒ其功罪ニ因テ處置スル事
 - 一 定額外費用ノ事
 - 一 常用ノ外國ヨリ器械物品ヲ購買スル事
 - 一 本寮要務ノ諸術傳習ノ法則ヲ立ル事
- 以上各款皆頭之ヲ判案シテ其要旨ヲ概記シ又ハ處分ノ法案ヲ作り卿輔ニ呈シ決判ヲ乞ヒ然ル後施行スヘシ

下款

- 卿輔ノ決判ヲ乞フスシテ專任處置スヘキ條
- 一 燈臺其他ノ諸標新設ヲ要スルノ地ハ便宜ヲ以テ測量スル事
 - 一 各地燈臺及ヒ諸標其他官舎等前規ニ仍テ修理スル事
 - 一 諸建築ノ事既ニ卿輔ノ決判ヲ得ルノ後實際ニ當リ其豫定ノ模様ヲ變改セサルヲ得サルトキハ再ヒ咨議ヲ請ヘシト雖トモ遠隔ノ地往復ノ間ヲ待ヘカラサルハ便宜之ヲ處置シ具狀シテ開報スルヲ得ル事
 - 一 各處ニ於テ諸建築ノ事アリテ其地ノ人民ヲ役シ竹木土石等ヲ用ユルヲ要スルトキハ其管轄廳ト商議シ便宜處置スル事
 - 一 各處ニ於テ止ヲ得サル事アリテ出張ノ官員或ハ外國人ノ爲メ假ニ官舎ヲ營築スル事
 - 一 各處ニ在職出張セル本寮附屬月給二十兩以下ニテ定員内ニ在モノヲ黜陟スル事
 - 一 内外ノ燈明番并見習ノ者ヲ規則ニ從ヒテ褒貶黜陟スル事

- 一 各課ノ官員ヲ左右交替スル事
 - 一 本寮附屬以下内外ノ諸職工勸奨ノ爲メ十兩以下ノ賞金ヲ與フル事
 - 一 通辯翻譯諸技術ニ長セル者ヲ急務ニヨリテ擧用スルトキ其本貫ノ官廳ニ通達シ備又ハ附屬ノ名ヲ以テ一時使役スル事
 - 一 常用ノ物品ヲ外國ヨリ收買スル事
 - 一 各處ニ於テ事ヲ執ル際若シ臨時急務ニ處スルニ當リ卿輔ニ稟議スヘキ事件ニ屬スルト雖トモ其大體ニ妨ケ無モノハ便宜之ヲ裁決シ尋テ其狀ヲ具シテ開報スルヲ得ル事
- 以上各款皆頭專執處置スルヲ得ヘシ然シテ之ヲ行フノ後官員進退其他處務ノ要件ハ其狀ヲ具シテ卿輔ニ開報スルヲ要ス

○
凡燈臺諸標及ヒ官舎等建築ノ事業ヲ興ストキハ其興業ノ要旨ト建築ノ形狀物質并資材工費ノ總計成功ノ期限等詳細開具シ卿輔ノ決判ヲ得營作ノ際冗費ヲ省キ豫定ノ圖式ニ違ハス堅牢ニ落成セシムルヲ要ス

燈臺燈船點火看守ノ職務ヲ執ルモノハ能ク示教書載ル所ノ旨趣ヲ會得シ晦暗消滅ノ患無ラシムヘシ。燈臺ノ事務ニ於テ備使スル外國人任職ノ件ハ都テ其條約ノ制規ニヨリ勉勵從事セシムルヲ要ス。凡本寮掌管ノ事務他方ヘ指令布達スルハ豫メ文案ヲ作り卿輔ノ一覽ヲ乞ヒ然ル後卿輔ノ名ヲ以テ之ヲ達シ其商議咨問等ハ頭權頭ノ名ヲ以テ往復シ頭權頭俱ニ缺ルトキハ助權頭ノ名ヲ以テ往復スルヲ得ヘシ

本寮及ヒ出張所并燈臺各處ノ諸書類諸簿冊ハ様式ノ如ク編纂シテ後考ニ便ナラシムルヲ要ス。各所ノ諸建築點燈修繕等工程ノ次第ト其費用ノ計算ハ毎月毎三月毎一年ト之ヲ類別シテ詳細ナル考課狀及ヒ計表ヲ造リ卿輔ニ進呈ス

卿輔ノ命ニヨリテハ臨時ノ考課狀及ヒ計表ヲ作りテ送呈スルコトアルヘシ

本寮諸官員以下僱使スル外國人ノ姓名ヲ詳記シ官祿俸給旅費及ヒ諸雜費其他買辦ノ物品代價等ハ様式ノ如ク總計表ヲ作りテ毎月之ヲ送呈ス
凡本寮ノ事務ヲ掌理スルニハ本省職制事務章程其他條令及ヒ寮中ノ成規等ニ照準シテ之ヲ處置シ施爲ノ際違誤ナキヲ要ス

此章程中他日増減ヲ要スル事アラハ卿輔ノ決判ヲ乞テ便宜加除更正スルヲ得ヘシ
右職制并事務章程

上奏シテ定ムル所ナリ能之ヲ守リ其程限ヲ愆ル勿レ
明治五壬申年六月二十七日

工部少輔山尾 庸三

燈臺頭佐野常民殿

右職制并事務章程常民恪守遵奉其職ヲ盡スヘシ若シ本寮事務舉ラサルアラハ常民謹テ其責ニ任スヘキ也

壬申六月

燈臺頭 佐野 常民

工部少輔山尾庸三殿

燈臺寮内ニ機械所ヲ設ク

工部省沿革報告抄録 五年七月日開

燈臺寮内ニ機械所ヲ創設シ鋸機械及ヒ蒸氣罐ヲ据付ケ諸器械製作ノ業ヲ興ス

燈臺寮内ニ冶工場ヲ設ク

工部省沿革報告抄録 六年一月日開

曩ニ七月本寮内ニ假設セル製作場ヲ撤シ更ニ冶工場ヲ創建シ通風機及ヒ熱鐵爐ヲ設置シ浮標其他ノ鐵工ノ業ヲ興ス

(參照)

工部省沿革報告抄録 二年七月日開
燈明寮局内ニ製作場ヲ假設シ燈臺建築ニ供スル鐵器木具等ノ製造事業ヲ興ス

燈臺寮在任假傳習所燒失ス

工部省届 六年三月二十四日

別紙寫之通燈臺寮ヨリ届出候條此段御届申候也

燈臺寮ヨリ工部省へ届 六年三月二十三日

昨夜第十字頃ヨリ相生町三丁目ヨリ出火折節北風ニテ住吉町高砂町尾上町湊町邊過半燒失第三字頃鎮火仕候右ニ付技術假傳習所ニケ所類燒仕候此段不取敢御届仕候也

燈臺寮主記課處務規定 六年四月日開

本寮主記一切ノ事務ヲ總括シ課中ノ事務ヲ分テ往復編輯譯文名簿庶務ノ五科ヲ設ク

課長

課中ノ事務ヲ掌管擔當ス

掌管ノ事務ヲ整理スルニ於テハ長官ニ對シテ其責任ヲ有ス

擔當ノ事務ニ於テハ其當否ヲ長官ニ對シ論辯スルヲ得

課中大屬以下ノ能否勤惰ヲ監視シテ長官ニ白スルヲ得

課中ニテ受ル所ノ來書及ヒ稟報ノ文書等其緩急ヲ辨別シ要旨ヲ筆記シ檢印シテ長官ノ指令ニ從ヒ事ノ急ナルモノハ急ノ字ヲ朱書シ各科ニ付シ或ハ稿案ヲ徵シ又ハ令文ヲ作ラシメ長官ノ考査ヲ受ク

主計課技術課ヨリ出ス所ノ廻議稟報ノ草案等ハ其規則ヲ照シテ可否ヲ論辯スルヲ得ヘシ

等外官員ニ辭令ヲ授付スルヲ掌ル

權課長

課長ニ亞テ其職掌責任ヲ同クス

以上助以下奏任官ノ職任トス然レトモ若シ闕員アルカ或ハ事務繁簡ニ因リ主記主計兩課ヲ兼又ハ權課長心得ノ名ヲ以テ正權大屬ヨリ補攝セシムルコトアルヘシ

燈臺寮主記課處務規定
八年三月二十九日記録局
ヲ置キ各寮ノ編輯事務ヲ
併ス本省分課ノ部ニ職ス

往復科 正權大屬以下ノ職務トス

文案ヲ起草シ公文ヲ往復シ外人ニ應接シ諸稟請伺候ヲ傳通スル等ノ事ヲ掌ル

第一 本省ニ進達スヘキ廻議稟請申報ノ類及ヒ其他省使府縣本寮各所出張所等ニ送ルヘキ布達通報諮問ノ類ハ皆課長以上ノ指令ニ從ヒ章程ニ照シ文案ヲ起草シ長官檢印ノ後之ヲ各方ニ送達ス

但定例アルモノト雖モ課長以上ノ檢印無シテ專恣之ヲ處スルヲ得ス以下各科ノ職務皆然リ

第二 文書往復ハ皆課長以上ノ指令ニ因リ草案ヲ呈シ檢印了テ之ヲ付スルトキハ淨書シテ送達シ其大意月日號數ヲ件銘簿ニ登記シ長官檢印ノ元濟ハ各簿冊ニ留ム

第三 願伺届等ハ都テ控書ヲ副テ出サシムルヲ例トス其指令ヲ請モノアレハ其申帖ヲ細閱シテ課長ニ呈シ令文ノ草案ヲ課長ヨリ付サハ淨寫シテ之ヲ本人ニ付ス

但寮中ノ職員身上ニ係ル稟請申報等ハ名簿科ノ職務トス
第四 各課ヨリ付スル所ノ進達書類及ヒ報問書ノ如キハ別ニ添書ヲ作り課長以上ノ檢印ヲ受テ本省ニ送達ス

但本省諸寮司及ヒ寮中交互ニ課名ヲ以テ往復スル文書ハ各課ノ職務ナレハ本科之ニ關セス

第五 諸文書ヲ往復スルニハ必ズ件銘簿ニ號數及ヒ其要旨ヲ抄記シ局ヲ卒フル者ハ結局ノ印ヲ押シ前後照應通覽ニ便ナラシム

第六 各所ヘ往復書ハ事ノ緩急細大ニ依リ郵船郵便又ハ電信ヲ以テ達ス此賃ハ月末課長ノ檢印ヲ受ケ主計課ニ付シテ辨償セシム

第七 來人ニ接スルニハ其陳述スル所ノ旨意ヲ審諦シテ之ヲ課長ニ白シ長官ノ指令ヲ承テ應答ス應接ノ間苟モ私意潤飾ヲ加ルヲ得ス事了テ後之ヲ課長ニ報シ其要旨ヲ日典ニ記載ス其長官又ハ課長ノ指令ヲ承テ他方ニ詣テ應對スルモ亦スヘテ之ニ同シ

第八 各課ノ建業錄考課狀竣功錄諸月表等ヲ括リ例ニ因リ每一月毎三月毎一年本寮考課狀ヲ作り課長並長官ノ檢印ヲ受ケ之ヲ本省ニ達ス

第九 他官吏ヲ召スヘキトキハ其旨ヲ本省ニ申告ス

但諮議告示等ニテ神奈川縣官吏ヲ召スハ此例ニアラス

第十 科中定限ノ用度品ハ記帖シテ倉庫科ヨリ受ルヲ例トス若定限ヲ超ユルカ臨時用品アルトキハ具狀廻議ノ上處分スヘシ

編輯科 正權大屬以下ノ職務トス

寮記ヲ撰輯シ記錄ヲ編纂スルヲ掌ル

第一 本寮ノ沿革章程及ヒ規定ノ變更人員ノ増減燈臺建設ノ決議同建築ノ起卒或ハ再建改置初點ノ年月及浮標礁標燈船等設置ノ公布其他右ニ屬スル非常ノ諸件等ニ至迄都テ年月次序ヲ逐ヒ連綿之ヲ編錄シテ寮記ヲ作ル

第二 公文ノ冊ヲ成スモノハ事類ヲ分別シ年月ヲ追ヒ之ヲ編輯ス

第三 廻議ノ類本省ノ決印了リテ回ルモノハ判決ノ順次ニ之ヲ決議簿ニ編收ス

第四 外國人ノ條約及ヒ諸般公報等ノ譯書ハ譯文科ヨリ寫ヲ受テ逐次之ヲ分類編收ス

第五 各課ニテ纂輯セル建業錄考課狀竣功錄ノ類既ニ長官ノ檢閱ヲ經タル後付スルニ隨テ亦分類編收ス

第六 官省ノ布達告文ノ類及ヒ本寮各課ノ公務書類已ニ結局ニ至ルモノ等順次之ヲ編錄ス

第七 各課ニテ理スル所ノ公文中其事輕キ者ト雖モ參考ニ供スヘキ者ハ之ヲ輯錄ス

第八 本寮附屬ノ和漢書籍ヲ管預シ目次號數ヲ記シ散逸ナキヲ要ス故ニ各課ノ官員借覽ヲ乞フトキハ證書ヲ取テ之ヲ付シ且毎三月原簿ニ依テ點檢シ若闕失アルトキハ其所由ヲ糺シテ倉庫科ニ報ス

譯文科 正權大屬上師以下ノ職務トス

外國書籍及中外書翰ヲ翻譯シ同ク語辭ヲ通スルヲ掌リ兼テ本寮附屬ノ外國書籍ヲ管ス

第一 長官及課長ノ指令ニ因リ外國書及橫文ヲ翻譯スルトキハ其要旨號數ヲ件銘簿ニ登記シ譯成ルトキハ草稿清書トモ右同號ヲ記シ清書ハ課長ニ呈シ草稿ハ譯文章稿挿ニ挿入シ卷首ニ同ク件銘記號ヲ標掲シテ共ニ搜索ノ便ニ供ス

- 但會計ニ係ル横文ヲ譯スルトキハ先ツ要旨月日ヲ件銘簿ニ登記シ草稿ヲ計書譯文挿原文ヲ計書原文挿ニ挿入シ卷首ニ標目ヲ掲クルニ至ルマテスヘテ本條ノ處務ニ同シクス
- 第二 外國人ニ指令諮問スル文書等課長ヨリ案文ヲ付サハ之ヲ翻譯シ課長ノ檢閲ヲ經テ後之ヲ送達ス但寮中ヨリ外國人ヘ送ル公用ノ横文ハ之ヲ押寫シ其書翰ノ當名號數及押寫ノ數ヲ記シ押寫挿ニ挿入シ卷首ニ標目ヲ掲ケ原文ハ記號ニ合セ押寫原文挿ニ挿入シ同ク卷首ニ標目ヲ掲ケ
- 第三 科中ニテ受付スル一切ノ横文書翰ハ原文譯文共ニ其姓名及號數ヲ記シ原文ハ信書挿ニ挿入シ譯文ハ信書譯文挿ニ挿入シ兩ナカラ第一條ニ同ク卷首ニ件銘記號ヲ掲ケ參觀ニ便ナラシム
- 第四 中外ノ語ヲ譯シ彼我ノ情意ヲ通スルニハ瑣モ潤飾ヲ用ヒス毫モ忌憚ヲ避ケス公明の實ニ其旨意ヲ傳ヘテ事情ヲ誤ル無キヲ要ス
- 第五 本寮所藏ノ外國圖書ハ目次號數ヲ圖書簿ニ詳記シ散逸ナキヲ要ス故ニ各科ノ官員借覽ヲ乞トキハ之ヲ簿記シテ押印セシメ返納スレハ消印セシム本省察司其他ヨリ借覽ヲ乞トキハ課長ノ可印ヲ得テ簿記シ證書ヲ取テ之ヲ貸與シ返納スレハ證書ヲ還付ス且毎三月圖書簿ニ依テ點檢シ若損失アルトキハ其所由ヲ糺シテ倉庫科ニ通報ス
- 但書籍出納簿ヲ作り系格中横ニ一系ヲ設ケテ上下二段ニ分界シ各科ノ乞ニ應シテ本科主管ノ書籍ヲ貸付スルトキハ其書目冊數月日姓名ヲ上段ニ詳記シ返納スレハ其下段ニ收納ノ月日ヲ記ス
- 第六 受付簿ヲ作り上條但書ノ如ク上下二段ニ分界シ一切ノ書翰ヲ受付スルニ方リ本科へ受ルモノハ上段ニ其書目姓名及月日ヲ記シ之ヲ本科ヨリ付スルトキハ其下段ニ月日ヲ記シ受主ノ證印ヲ徴ス
- 第七 寮中本科ニ關スル諸往復ノ文書ハ順次之ヲ贈答簿ニ編シテ搜索ノ便ニ供ス
- 名簿科 正權中屬以下ノ職務トス
- 寮中官員及ヒ官雇外國人ノ名簿履歷進退増減ヲ明ニシテ職員錄明細表ヲ編成シ出張在勤分科等ノ辭令ヲ書寫シ及ヒ各員身上ニ關スル申請報告等ノ事ヲ掌ル
- 第一 官員以下官雇ノ外國人及附屬ニ至迄寮中ノ人員ニ係ル者ハ一切其名籍履歷及ヒ進退増減出張在

- 勤歸寮等皆其中報書ヲ承テ各簿ニ記シテ各課ニ通報シ檢印セシメ其本省へ達スヘキハ別ニ申報書ヲ作テ往復科ヨリ之ヲ進達スルヲ例トス
- 第二 判任官以下技術見習ノ出張在勤分課并燈明番同見習及附屬進退出張在勤等ノ辭令ハ長官ノ指令ニ依リ例ニ照シテ案文ヲ作り長官檢印ノ後淨寫シテ之ヲ呈ス
- 但召狀ハ例文ヲ用ヒ課長ノ指揮ニ從テ之ヲ發ス
- 第三 官員以下新ニ職務拜命セハ式ニ依テ屬籍履歷書ヲ出サシメ之ヲ職員錄及ヒ各簿ニ登寫ス其本寮ニテ拜命スル者ノ承書及ヒ屬籍履歷書ハ往復科ヨリ屆書ト共ニ本省ニ送達ス
- 第四 官員以下ノ免職ハ印鑑ヲ收メテ庶務科ニ付シ職員錄及ヒ各簿ノ名氏ヲ削リ其本寮ニテ免スル者ハ承書ヲ本科ニ取り印鑑ヲ庶務科ニ付シ本省へ達スヘキハ往復科ニ付シ承書控ニハ本人奉職ノ年數等ヲ記シテ之ヲ留ム
- 第五 寮中奏判官ノ進退ハ往復科ニ付シテ各地出張所ニ通報ス
- 第六 職員表ヲ作り各月二日ヲ限リ往復科ニ付シ本省ニ致ス
- 第七 官雇ノ外國人新約改約又ハ免黜スルモノ及ヒ給料ノ増減等決議ノ後往復科ヨリ通報スルニ隨テ明細表ヲ改正ス
- 第八 職員錄明細表トモ二冊ヲ作り一冊ヲ本省ニ送り一冊ハ本科ニ留メ各員ノ進退増減及ヒ屬族ノ變更等ヲ訂正シ毎月兩次本省ニ送り循環交換ス
- 第九 官員罷免ノ節旅費並滿年賜物有之者等ハ例ニ照シテ取調書ヲ課長ニ呈ス
- 第十 官員以下辭職歸省病告忌服轉居其他身上ニ關スル稟請報告ノ類ハ控ト共ニ之ヲ受テ日典ニ登記シ番號ヲ書シテ課長ニ呈シ令文ノ草案ヲ付サハ淨寫シテ本人へ付ス
- 但病告百日ヲ經テ出勤セサルモノハ之ヲ記シテ課長及ヒ主計課ニ報ス忌服ノ申報書ニハ除服ノ日ヲ附記シテ之ヲ課長ニ呈シ本省ニ申報シ其本省ニ除服ヲ請フ者ハ課長ノ指揮ヲ受ク
- 庶務科 權中屬以下ノ職務トス

本省ノ印鑑寮中ノ備品ヲ管シ守門給仕以下ヲ督シ時辰ヲ正シ官員以下ノ出勤簿ヲ掌ル

第一 本省ノ印鑑ハ新ニ拜命スルモノニ一枚ヲ付シ其番號及ヒ年月日ヲ簿記シテ之ニ押印セシメ轉任免職ノモノハ還納ノ後消印ス若遺失火盜等ノ届アラハ其事情ヲ推究シテ課長ニ開具ス

第二 寮中ノ鋪設洒掃等ノ事ヲ指揮シ寮内營繕物品修補ノ事ニ至テハ主計課ニ報シテ之ヲ辨理セシム

第三 寮中宿直ノ順番ヲ定メ及ヒ時辰ヲ測正シテ差異ナカラシム

第四 在寮ノ官員以下日々ノ勤休ハ簿冊ヲ作テ押印セシメ月末ニ至リ勤休ノ日數ヲ總計シテ課長ニ呈ス

但日々鳴鐘ヲ以テ上寮喫食退寮等ノ時限ヲ報セシム

第五 本寮守門給仕小使等ノ勤惰ヲ監視シテ之ヲ課長ニ白ス

第六 非常預備物品等ハ時々點檢シテ散失ナカラシム

第七 本寮所屬橫濱近傍ノ官宅並附屬地ヲ掌ル

第八 寮内官舎拜借住居スル者アラハ其取締ヲ爲シ人員増減アル毎ニ之ヲ區長ニ達ス

第九 新ニ拜命スルモノハ實印小印トモ其印鑑ヲ徵シ本省及ヒ本寮各課ニ配達ス其遺失又ハ磨滅等ニテ改印スルトキハ再其印鑑ヲ出サシム

以上之ヲ大屬以下事務ノ制限トス然トモ寮務繁劇ノ際ハ課中互ニ協輔スヘシ出仕官員ハ本級ヲ以テ本官ト事務ヲ同クス

右分課處務規定本省ノ判決ヲ乞テ定ル所ナリ能ク之ヲ守リ其定限ヲ愆ル勿レ

明治六年四月

燈臺頭 佐藤 與三

燈臺寮主計課處務規定 六年四月二日

本寮主計一切ノ事務ヲ總括シ課中ノ事務ヲ分テ出納賜給倉庫精算ノ四科ヲ設ク
課長

燈臺寮主計課處務規定
十年三月五日會計局ヲシテ各局ノ會計事務ヲ總括セシム本省分課ノ部ニ屬ス

課中ノ事務ヲ掌管擔當ス

掌管ノ事務ヲ整理スルニ於テハ長官ニ對シテ其責任ヲ有ス

擔當ノ事務ニ於テハ其當否ヲ長官ニ對シテ論辯スルヲ得

課中大屬以下ノ能否勤惰ヲ監視シテ長官ニ白スルヲ得

毎歲本寮及ヒ各地燈臺ニ屬スル諸般ノ經費ハ各管ノ目途ニ據テ之ヲ調理シ收發ノ多寡ヲ斟酌シ歲費月

費ノ定額ヲ立技術長ニ合議シテ之ヲ冊記期ヲ以テ長官ニ呈シ批定ノ後本省ニ致ス

金銀ノ出納ハ每款定額ニ照準シ其當否ヲ考査シテ廻議ニ押印シ長官ノ可印ヲ受承管ニ分支シテ之ヲ辨

理セシム尤支發ノ金ハスヘテ本資ト消費トヲ二様ニ區別ス可シ

但出納ノ款件ヲ原簿ニ登記セハ總テ點檢シテ押印ス

應用ノ物品一旦長官ノ許可ヲ經テ購買整備スルモノハ其定限ヲ超サレハ緩急之ヲ分配シテ一々長官ニ

乞サルモ妨ケナシ

權課長

課長ニ亞テ其職掌責任ヲ同クス

以上助以下奏任官ノ職任トス然レトモ若シ缺員アルカ或ハ事務ノ繁簡ニヨリ主計主記ノ兩課ヲ兼又ハ

權課長心得ノ名ヲ以テ正權大屬ヨリ補攝セシムルコトアルヘシ

出納科 正權大屬以下ノ職務トス

經費ノ繁簡ヲ計テ之ヲ調理シ金銀ヲ出納シ計簿ヲ記明シ區分ヲ明瞭ニスル等ノ事ヲ掌ル

第一 歲費ノ定額ハ毎年一月ヨリ十二月迄本科及ヒ各科ニ於テ給發スヘキ建築入費ヲ初メ俸給旅費其

他諸般ノ費用ヲ總括シ式ニ依リ之ヲ冊記シ前年十一月十日ヲ限リ課長ニ致ス

第二 歲額ヲ分テ月費ノ額ヲ定ルニ八月々工業ノ模様事務ノ緩急ニ因テ支發ノ多寡ヲ計リ各科ヨリ出

ス處ノ總數ヲ合算シ十二箇月ニ區分シ前條同時課長ニ致シテ本省ニ進達ス然レトモ建築ノ多少輸入

器械ノ多寡官員ノ進退各地出張ノ有無等ニヨリテ月額ノ増減アレハ式ノ如ク記載シ課長ニ致シ長官

- 押印ノ上前月二十日迄ニ本省ニ致ス
- 第三 本省ヨリ金銀ヲ受取ニハ式ノ如ク證券ヲ具シ之ヲ受テ日計簿ニ登記シ爲換座ニ寄セ預ケ帳ニ記載セシメ右日計簿ト預ケ帳ニ課長勘合シテ長官ノ檢印ヲ受ケ
- 第四 爲換座ニ寄ル所ノ金銀ヲ支發スルニハ每件本察決定ノ廻議書ヲ證トシテ各册ノ費用區別簿ニ登記シ式ノ如ク發票ニ寫シ課長ノ勘合及長官ノ檢印ヲ受之ヲ其科ニ付シ各員ニ配給セシム之ヲ領スル者ハ三日ノ内爲換座ニテ正貨ト交換ス其爲換座ニ集リタル發票ハ次ノ出金定日爲換座ヨリ差出サセ原票ト照比シテ其勘合ヲ消ス
- 第五 金銀假渡ハ區別簿ニ朱書シ返金スルトキハ最初ノ廻議ニ照準シ朱書ニ押印シテ其收發ヲ明カニシ現金銀ハ再ヒ爲換座ニ寄ス
- 第六 毎月三八ノ日ヲ以テ金銀出發ノ定日トス若日曜其外休暇ニ會セハ前日ヲ以テ發スルヲ例トス但臨時支給ハ此限ニアラス
- 第七 凡テ金銀ヲ收發スルハ必ス日計簿ニ登記シ收ルモノハ前日ノ殘金ニ加ヘテ總數トナシ出スモノハ其數ヲ減シテ本日現在ノ數ヲ記明ス
- 第八 凡テ不用ニ屬スル諸物品等賣却ノ代價ヲ收入スルトキハ其次第ヲ詳細記別シテ爲換座ニ寄セ再ヒ察中額費ノ内ニ領收スヘキ者ノ外ハ之ヲ本省ニ納ム
- 第九 察中及ヒ各所諸般ノ費用當初ノ用途ヲ超過スルモノハ先ツ其事情ヲ詳細具狀シ本省ノ判決ヲ經ルニ非サレハ假令定額餘分アリトモ之ヲ支給スルヲ得ス
- 第十 各所建築場ニテ支給スル金銀ハ其地ニ於テ式ノ如ク勘定帳ヲ作り翌月五日迄ニ其地ヲ發シ之ヲ本科ニ送ラシム
- 第十一 本科ニテ毎月支發スル金額及ヒ殘金ハ式ノ如ク册記シテ翌月二日ヲ限リ本省ニ報知シ勘定帳ハ詳細區別シ檢印帳ヲ付シテ翌月五日迄ニ之ヲ精算科ニ送ル
- 第十二 諸費區別簿ハ本省ノ式ニ倣ヒ各件廻議判決スル者ニ據リ詳細ニ登記シ月末之ヲ表ニ掲テ勘定

- 帳ニ付ス
- 第十三 一箇年ノ諸費ハ都テ資本ト消費トヲ二様ニ區別シ翌年一月中ニ表ヲ作り一枚ハ長官押印ノ上本省ニ達シ一枚ハ本察ニ留ム
- 第十四 金銀ノ出納其定則アルモノト雖モ課長以上ノ可印ナクシテ專恣之ヲ處スルヲ得ス
- 賜給科 正權大屬以下ノ職務トス
 - 官員以下外國人ノ俸給旅費及職工賃料其他臨時賞金等支給スルコトヲ掌ル
- 第一 毎年一月ヨリ十二月迄各月給發スヘキ各款ノ費用ヲ概算總括シテ本科歲費ノ額トナシ又歲額ヲ分テ月費ノ額ヲ定ムルニハ各月給發ノ多寡ヲ計リ十二箇月ニ區分シ前年十一月五日ヲ限リ出納科ニ達ス
- 第二 俸金ハ毎月十六日後之ヲ給ス因テ其期限前新任轉任免黜或ハ歸省病告等ヲ各簿科ニ審問シ増減アルモノハ改定查算シ廻議ニ具シテ出納科ニ送り發票ヲ受テ正貨ト交換シ各々之ヲ配給シ式ノ如ク月給渡檢印帳二冊ニ押印セシメ右檢印帳ハ月末與書調印シテ出納科ニ送ル
- 第三 官員以下ノ旅費ハ發程歸着トモ名簿科ノ報知ニ依リ定則ニ照準シ發程前日數ヲ計リ廻議ニ具シテ假渡ヲ爲シ歸着ノ後日數ノ過不足ヲ決算シテ給收ス
 - 但各所建築所等出張先ノ旅費ハ凡テ其場所ニ於テ之ヲ給與ス
- 第四 官備ノ外國人俸給旅費等ハ勘定方ノ横文翻譯ノ上之ヲ規則ニ照準シテ檢査精算シ廻議ノ後勘定方ニ付シ證書ヲ徵ス尤發程歸着ノ日ハ其時々各簿科ノ檢印ヲ以テ證スルコト官員ト異ナルコトナシ
- 第五 月給旅費其他ノ假渡還納ハ大藏省書式ニ倣ヒ詳細ニ記載シ廻議ノ後其金ハ出納科ニ付ス
- 第六 附屬以下諸工職水火夫等ニ至迄臨時賑恤及賞金ハ規則ニ照準シテ數ヲ定メ其主管ノ申請狀ヲ廻議ニ具シテ長官ノ判決ヲ乞フ
- 第七 諸職工給料ハ器械科ヨリ送ルトコロノ督役簿ニ據リ金曜日ヨリ始メ木曜日ニ至迄二週間ノ勤仕時間給料ヲ合計記載シ土曜日止業ノ上ニテ分與スヘシ

第八 各款ノ賜給定期アルモノト雖モ課長以上ノ可印ナクシテ專恣之ヲ處スルヲ得ス
倉庫科 正權大屬以下ノ職務トス

第一 毎年一月ヨリ十二月迄月々定式支給スヘキ物品ノ費用ヲ概算總括シテ本科歳費ノ額トナシ又月
月出入ノ多寡ヲ計リ十二箇月ニ區分シ之ヲ冊記シテ前年十一月五日ヲ限リ出納科ニ送ル

第二 月費額内ヲ以テ應用ノ物品ヲ購買スルニハ本寮常用ノ物品ハ課長ノ可印ヲ證トシ其代價ヲ付スル
ニ當リ總括シテ長官ノ檢印ヲ受ク其他一切ノ物品ハ價ノ高低ヲ問ハス逐件廻議シテ長官ノ檢印ヲ受
ク

第三 應用ノ物品ヲ買辦スルニハ先其物品ヲ注文簿ニ記シ更ニ之ヲ別記シ課印ヲ勘合シテ之ヲ商人ニ
付シ代價書ヲ出サシメ課長點檢シ價ノ當否ヲ商定シ常用物品ハ課長其他ハ長官檢印ノ後調進簿ニ記
シテ其物品ヲ納メシム

第四 外國ヘ注文ノ器械物品等香港スルトキハ稅關其他定例ノ如ク引取ノ手配ヲ爲シ其送狀ト比較シ
テ毀損ノ有無員數ノ多寡等明細ニ檢査シ一々簿記シテ其時々長官ノ檢印ヲ受ク

第五 諸物ノ代價ヲ與フルニハ其代價物數ヲ記セル一様ノ請取書ニ通ヲ出サシメ出納科ヨリ發票ヲ受
テ之ヲ付ス右受取書ハ月末之ヲ集メ承管ノモノ與書調印シテ出納科ニ付ス

第六 所藏ノ諸物品ハ一切之ヲ蓄藏簿ニ記シ其費用ニ供スル毎ニ用度附屬建築修繕點燈等各冊ノ配給
簿ニ證印ヲ取テ之ヲ付ス

但書籍繪圖類ハ附屬品支給簿ニ記シテ之ヲ譯文或ハ編輯科ニ付シ三箇月毎ニ其科ニ於テ點檢シ有
無ヲ本科ニ報知セシム

第七 器械科ニ付スル諸資品ハ月末其數目斤量ヲ總計シ其製造物品ニ照シテ殘數ノ有無及ヒ多寡ヲ督ス

第八 本寮附屬品ハ三箇月毎ニ各所燈臺等ハ附屬船巡廻コトニ各科附屬品簿ニ記スル所ヲ以テ現物ニ
對比點檢シ毀損アルハ修理ヲ加ヘ亡失スルモノハ之ヲ補完シ毎時備具シテ毀失ナキヲ要ス

但毀損亡失スルモノアルトキハ本寮ハ其時々各所燈臺ハ巡廻便ヨリ本科ニ報知セシム

第九 諸物品ノ内廢器等賣却スヘキ物ハ廻議ノ上入札公賣シ代金ハ出納科ニ送ル

第十 給仕小使常備水夫又ハ一時使役スルモノハ毎月兩次勤休簿ニヨリテ日給ヲ結算シ船車郵便等ノ
賃料ハ其時々或ハ出金ノ定日各科檢印ノ證書ヲ附シ廻議ニ具シ式ノ如ク發票ヲ受テ各々配給シ二通
ノ證書ヲ取り月末之ヲ纏メ承管ノ者與書調印シテ出納科ニ送ル

第十一 本寮常用及其他物品ハ凡テ定例ニ遵ヒ各科ノ證印ヲ取ラスンハ付與スルヲ得ス且倉庫内ハ常
ニ整頓シテ出入ヲ便ニス可シ

精算科 正權大屬以下ノ職務トス

本寮各所燈臺及建築所其他一切出納ノ得失品價ノ當否費用ノ多寡ヲ檢査精算スル等ノ事ヲ掌ル

第一 毎月勘定帳ヲ檢査スル功程ハ出納科ヨリ付スルノ後四日ヲ限リトス若誤謬等アラハ其主任ニ推
問シテ改修セシメ精査訖リテ其表紙ノ右端ニ記名押印シ之ヲ課長ニ出シ長官押印ノ上翌月十日迄ニ
本省ヘ達ス

第二 各建築所勘定帳ノ類ハ出納科ヨリ受テ之ヲ勾檢査算シ若物價工料其他適當セサルコトアレハ其
次第ヲ詳記シテ課長及長官ニ告ケ或ハ式ニ觸ル、モノハ返却シテ改正セシム故ニ清查ノ功程期限ニ
後ル、モノハ其實行ヲ課長及長官ニ申報シテ本省ニ達ス

第三 建築製造修繕等別ニ額費ヲ立ル者ハ最初本寮同議濟ニ照シテ檢査ヲ加フヘシ

第四 常ニ各所物品代價職工傭夫ノ賃料等ヲ詳記シ諸出納皆之ニ比考シ其得失當否ヲ檢査ス可シ

第五 凡テ本科ニ於テ檢査精算スル簿冊ヲ他ニ返却シ又ハ本省ニ達スル等ハ必課長以上ノ指令ニ依ラ
スシテ專恣之ヲ處スルヲ得ス

以上之ヲ大屬以下事務ノ制限トス然レトモ寮務繁劇ノ際ハ課中互ニ協補スヘシ出仕官員ハ本級ヲ以テ
本官ト事務ヲ同シクス

右分課處務規定本省ノ判決ヲ乞テ定ムル所ナリ能ク之ヲ守リ其定限ヲ愆ル勿レ

官職門 官制 工部省

燈臺寮技術課處務規定 六年四月日

本寮技術一切ノ事務ヲ總括シ建築器械航運修技ノ四科ヲ設ク

課長

課中ノ事務ヲ掌管擔當ス

掌管ノ事務ヲ整理スルニ於テハ長官ニ對シテ其責任ヲ有ス
擔當ノ事務ニ於テハ其當否ヲ長官ニ對シ辯論スルヲ得

課中上師以下及各科技術生徒燈明番等ノ能否勤惰ヲ監視シテ長官ニ白スルヲ得
燈臺燈船諸標等ヲ設クヘキ沿海樞要ノ地ヲ巡查シ其利害得失ヲ長官ニ開陳ス

每歲本寮及ヒ各地諸般ノ工業ハ長官ノ指令ニ據リテ之ヲ調理シ一歲及ヒ各月工程ノ緩急ヲ計リ其費用
ヲ主計長ニ合議シテ之ヲ册記シ期ヲ以テ長官ニ呈ス

課中施行ノ事務ハ每款章程及規定ニ照準シテ廻議書ニ押印シ其事務ノ急ナルモノハ急ノ字ヲ書シ長官
可印ノ後各科ニ分付シテ辦理セシム

諸標ヲ設置セント欲スルトキハ當初現地ニ臨ミ其地方ノ經緯羅經眞假方位地表ノ廣狹地質ノ軟硬及ヒ
水面トノ高低暗礁砂洲ノ方位遠近潮汐ノ時辰干満ノ尺度等ヲ精測シ其地氣候ノ寒温風雨及地震ノ強弱
用水ノ有無等ヲ詳察シ築造スヘキ諸標ノ位置及ヒ照度ノ距離射光ノ方位ヲ確定シ其形狀物質ハ木石又
ハ瓦鐵等各保全ノ得失費用ノ多寡ヲ較リテ製圖シ經營諸費ノ概算ヲ附記シテ長官ニ致ス

燈標建築中實地ヲ巡視シ其落成ニ臨ミ初點公布ノ以前發光ノ方位距離器械ノ等差果シテ建築錄ニ齟齬
セサル哉否ヲ再ヒ精測シテ長官ニ報知ス

建修及ヒ各般ノ工業資用物品ハ本課ニ於テ之ヲ詳記シ廻議ニ具シテ長官ニ呈ス之ヲ買辦スルハ倉庫科
ノ主任ト雖モ其物品ノ是非得失及ヒ價值ノ當否ハ本課之ヲ論辯スルヲ得
各所燈臺ヲ巡迴シ建修點燈ノ良否ヲ檢查シテ長官ニ開陳ス

權課長

課長ニ亞テ其職掌責任ヲ同フス

以上助以下奏任官或ハ大中少長ノ職任トス然レトモ若シ缺員アルカ或ハ事務繁簡ニ因リ主記主計兩課
ヲ兼又ハ權課長心得ノ名ヲ以テ上中師ヨリ補攝セシムルコトアルヘシ

建築科 上師以下ノ職務トス

建築及修繕ノ事ヲ掌ル

第一 毎年一月ヨリ十二月迄本寮并各所工場ニ於テ建築修理スヘキ諸般ノ工程ヲ總計シ其費用ヲ概算
シ之ヲ册記シ又各月施行ノ緩急繁簡ニ因リ之ヲ十二箇月ニ區分シ前年十一月五日ヲ限リ課長ニ致
ス

第二 凡建築修理ヲ與サントスルトキハ先ツ資用物品ノ數目價值及ヒ各職ノ工程ヲ詳細ニ計算シ工業
ノ難易大小ニ因テ大凡竣工ノ目途ヲ立其結構ノ方法ヲ詳記シ建築錄同表ヲ作り廻議ニ具シ長官ノ判
決ヲ乞フ

第三 前件判決ヲ得ルトキハ建築修理ノ前後費用スヘキ物品ハ倉庫貯蓄ノ有無ニ因リ豫備ナキモノハ
之ヲ主計課ニ達シテ購買辦理セシム既ニ實地經始スルニ臨テハ承管ノ者衆工ニ先チ工場ニ登リ作事
畢リテ後ニ退キ其工程物品等ハ當初ノ決議ニ照比點檢シテ督責シ期ヲ愆ラス竣工セシムルヲ要ス

第四 諸建築修繕トモ判決シテ施行スルトキハ創功ヨリ竣工ニ至ル迄實地ヲ檢踏シ工程ノ部分ト費用
ノ金高ヲ式ノ如ク工程表ニ掲ケ毎月三日ヲ期トシ發送シテ課長ニ致ス
但シ各地ノ都合ニ因リ事故アリテ遅延スルハ此例ニアラス

第五 工業既ニ竣工ニ至ルトキハ右ニ係ル物品工職ノ員數及ヒ開業落成ノ日月其他經營中ノ事務總テ
後考ニ備フヘキモノハ逐件竣工功錄ニ登記シテ之ヲ課長ニ呈ス

第六 經營中若費用ノ増減或ハ模様換ヲ要スル時ハ其事狀ヲ逐一廻議ニ具シ再ヒ長官ノ判決ヲ經テ之
ヲ施行ス

- 第七 諸般ノ建修投票ヲ以テ受買ニ委付スルト諸工ヲ募テ備役スルノ得失ハ事宜ニ因テ商量シ課長ニ開陳シテ長官ノ判決ヲ乞フ
- 第八 投票ヲ以テ受買ノモノニ委付スルトキハ先ツ投票ヲ集メテ廻議ニ具シ長官ノ判決ヲ受ケ更ニ證狀ヲ徴シテ委付シ既ニ創功セハ實地經營ノ精粗及當初ノ經畫ニ違誤ナキヤ否ヲ督檢ス
- 第九 受買ニ付スル者費用ノ内金渡ヲ請フトキハ成功ノ部分物數ノ多寡ヲ酌定シ申請狀ニ檢印シテ之ヲ主計課ニ付ス
- 第十 工場ニ於テ使役セル諸職工ノ勤惰ヲ監視督責シ日々ノ賃料ヲ結算シテ各月兩次之ヲ支給ス且各款營作ノ工數ヲ合一スヘカヲサルモノハ區別シテ工程參考ノ便ニ供ス
- 第十一 各般ノ工業竣功ノ後費用ノ物品殘數アルトキハ品名數量價值ヲ詳記シテ之ヲ倉庫科ニ付ス若倉庫ニ貯藏スヘカヲサルモノハ課長ニ告ケ其指揮ヲ受ケ
- 第十二 修築ニ係ル諸般ノ製圖ハ器械科ニ合議シ各種ノ物形ヲ詳寫シテ課長ニ致シ或ハ舊圖ヲ謄模又ハ盈縮スルノ類必違誤ナキヲ要ス
- 第十三 諸測器及製圖器械若損破亡失スルモノアルトキハ其時々之ヲ課長ニ報知ス
- 第十四 貯藏ノ圖書ハ目次號數ヲ詳記シ諸官員借覽ヲ乞フ者アレハ證印ヲ取テ之ヲ付ス
- 器械科 上師以下ノ職務トス
- 點燈機械ノ裝置修繕燈臺建築ノ金屬製作裝置及諸標製造修繕等ノ事ヲ掌ル
- 第一 毎年一月ヨリ十二月迄建築修繕等ニ係ル本科諸般ノ費用ハ建築科ニ商量シ之ヲ概算冊記シ又各月工業ノ繁簡ヲ計リ十二箇月ニ區分シ前年十一月五日ヲ限リ課長ニ致ス
- 第二 燈標ヲ建設スル初其地方氣候ノ寒温風雨及地震ノ強弱標形ノ高低廣狹照度ノ遠近旋轉又ハ不動器械等長官決定ノ上課長ヨリ製圖ヲ付サハ之ニ適スルノ器械其他ヲ準備シ又ハ製造修治シテ裝置ノ用意ヲ爲ス
- 第三 建築科ニ於テ造營落成スルトキハ之ニ器械ヲ裝置シ爾後破壞スル處アルトキハ其次第ヲ課長ニ

- 開陳シ速ニ之ヲ補理ス
- 第四 寮内諸職場ノ備品ハ一々簿記シテ本科之ヲ監守シ若シ損失アルトキハ其時々之ヲ課長ニ告ケ
- 第五 寮内ニ設置セル鋸器械ヲ運轉シ各般ノ工事ニ資用スル諸材ヲ剪裁シ又轆轤ニ依テ諸物ヲ製作スルノ類能ク工匠ヲ使役シ機關上ノ損害ヲ生セサラムルヲ要ス
- 第六 諸標ニ資用スル諸物ノ製作ハ建築科ニ商議シテ各種ノ物品ヲ鍊製シ且燈明器械附屬ノ雜品等ハ總テ本科ニ於テ製出スルヲ要ス
- 第七 諸般製造物品ノ代價書ハ每款其費用ノ物品及工數ノ内譯ヲ明細ニ區別シテ建築科ニ通報ス
- 第八 倉庫科ヨリ資用品ヲ受ルニハ其製造物ノ如キ數十枚ノ中縫ニ其片端ヲ餘スカ如キノ類ノ重サ百目ノホト十二木ヲ作ルニ貫五百目ノ棒地金ヲ受ケ一貫目餘ノ殘リアルカ如キノ類ヲ以テ受ケ之ヲ貯蓄品受取簿ニ記シ用ヒ盡サ、ルモノハ總テ貯蓄品製作ノ名義ヲ以テ資品受取簿ニ記シ之ヲ職工ニ付シ其製品ハ製品納簿ニ數量ヲ詳記シ付セサル以前其量目若干ヲ量ルカ如キノ類ヲ受テ轆子或ハ轆轤ニ付スヘキモノハ之ヲ付シ竣功ニ至リ其大小數目或ハ斤量ヲ貯蓄品收納簿ニ記シ倉庫科ニ付シテ其證印ヲ徴シ此製品ヲ需ルニハ更ニ貯蓄品受取簿ニ記シテ之ヲ受ケ
- 第九 倉庫科ヨリ受ル諸製造資用品ノ殘數ハ月末ニ至リ資品受取簿ト製品納簿ト照比シテ其殘數ノ多寡減量ノ當否ヲ檢査シ其殘數ハ倉庫科ニ報ス其貯蓄品受取簿ヲ以テ受ル所ノ物品其片端ヲ餘スモノハ月末又ハ時々之ヲ總括シテ同科ニ付ス
- 第十 工場使役ノ諸職工ヘ兼テ名牌ニ職名番號裏ヲ與ヘ置之ヲ每朝著到ノ時改所ノ名牌箱一箱ハ名入ルヘキヘ指入シテ各其職場ニ登リ鳴鐘ヲ期トシ就業セシメ箱中ノ名牌ハ鳴鐘ヨリ五分ヲ期シテ取出シ職名及番號ヲ記スル木盤上ニ配列シ以後十五分毎ニ箱中ノ名牌ヲ取出シ同シク盤上ニ配列シ遲刻ノ時間ハ別ニ前ノ木盤ト同シク職名番號ヲ記シタル石盤ヘ番號ニ合セテ之ヲ記シ不參ノ者モ番號ニ合セテ石盤ニ記ス

- 第十一 午食及休息ノ鳴鐘以前其名牌ヲ各工場ニ持シテ銘々ニ付シ始業ノ以前改所ノ箱中へ入ル、コト及時間ノ検査ハ毎朝著到ノ時ニ同シ止業退家ノ以前ハ其名牌ヲ付シテ翌日之ヲ入ル前ノ如シ
- 第十二 職工ノ仕業時間ハ毎日前ニ記シタル石盤ヨリ其不勤時間ヲ式ノ如ク督役簿ニ記載シ毎二週日ニ至ル迄二週ヲ云職工ノ日給ヲ記入シテ之ヲ賜給科ニ送り其勤休時間給料ヲ合計記載セシメ毎二週休日ノ前日止業ノ上各職工ニ給與セシム
- 第十三 式ノ如ク督課簿ヲ製シ諸製作品ヲ部分シ毎日二度職工ノ課業ヲ檢シテ各職從事ノ時間ヲ詳記シ各品ノ工數賃料ヲ明ニス
- 航運科 上師以下ノ職務トス
- 附屬船ヲ運轉シ各所燈臺諸般ノ運輸ヲ掌ル
- 第一 毎年一月ヨリ十二月迄航運碇泊諸般運輸ニ係ルノ費用ヲ總計シ又各月巡廻ノ有無ヲ推考シテ十二箇月ニ區分シ前年十一月五日ヲ限リ課長ニ致ス
- 第二 船中用度其他ノ物品ハ各月主計課ヨリ領收辨理シ月末ニ至リ其所用ヲ詳記シテ課長ニ達ス臨時買辨スヘキモノハ一々廻議ニ具シ長官ノ決ヲ經テ之ヲ主計課ニ付ス
- 第三 附屬船及機關其他ノ物具等其修繕ヲ要スルトキハ廻議ニ具シ長官ノ指令ヲ受ク
- 第四 航海中天候ノ變異汽關回轉ノ遲速石炭及油ノ消費乘組人員ノ安否其他非常ノ事件等ハ逐一日記シ歸港ノ後長官ニ呈ス
- 第五 諸標新建ヲ要スル地ハ課長検査スト雖モ内外船舶ノ爲ニ前後施設ノ緩急ヲ計リ其位置ノ良否ヲ察スル等實地航運上ニ在テ推究シ其景況ヲ長官ニ開陳ス
- 第六 燈標既ニ落成シ點燈セシ時ニ當リ實際ニ航泊シ發照ノ差別蔭蔽ノ位置等果シテ其距離方位ニ適スル哉否ヲ點檢シ之ヲ長官ニ報ス
- 第七 修築點燈ニ係ル諸物品ヲ運輸スルトキハ各管ノ運輸證券ニ依テ其物品ヲ領收シ之ヲ保全シテ各地ニ配達シ受證ヲ徵シ歸港ノ上之ヲ各管ニ付ス

- 第八 寮外ノ官員其他ノ者本寮免許ノ證券ヲ持シテ便船ヲ乞フトキハ都合ニ因リ乘船ヲ免スト雖モ航海ノ日數ニ應シ食料其他ノ費用ヲ出サシメ之ヲ本寮ニ納ム
- 第九 水火夫以下定員ニ増減スルハ必ス長官ノ許可ヲ請フ且從來使役ノ人員事故アリテ更換スルトキハ其次第ヲ詳記シテ課長ニ報ス
- 第十 船中附屬品若損破亡失スルモノアルトキハ其時々之ヲ課長ニ通報ス
- 修技科 上師以下ノ職務トス
- 建築器械航運點燈等ノ傳習生ヲ管ス
- 第一 本寮諸款ノ技術ニ志願ノ者アリテ管轄廳及ヒ親屬等ノ保狀ヲ有シテ入校ヲ申請セハ先其身體ノ強弱ト學力トヲ試験シ生徒心得書ヲ示シ異存ナキモノハ長官ニ稟議シテ之ヲ學校ニ送り就業セシメ再試験ノ上教師ヨリ才學ノ能否ヲ報知セハ長官ニ開陳シテ判決ヲ乞フ
- 第二 傳習中諸規律ハ其揭示スル各件ノ條例ヲ嚴守セシメ若違犯スル者アルトキハ其情狀ヲ逐一課長ニ開陳シテ處分ヲ乞フ
- 第三 生徒ハ日々上校簿ニ押印セシメ若定ノ時限登校セサルモノアルトキハ病患其他ノ事狀ヲ詳ニシ本日不參ノ印ヲ押シ月表ヲ作テ課長ニ呈ス
- 第四 每歲四度大小試験ノ後各員進歩ノ甲乙表ヲ教師ヨリ出サハ前期以後上校ノ多寡ヲ點檢シ進歩ノ遲速ヲ查察シテ其次第ヲ逐一課長ニ白ス
- 第五 生徒中篤疾又ハ事故アリテ退校辭職或ハ歸省等ヲ申請セハ其情實ヲ審問シ校中ノ規則ニ違反セサル分ハ之ヲ課長ニ白ス
- 第六 病患ニテ醫藥ヲ受ル者ハ月末其病症及藥劑ノ數ヲ記スル醫家ノ證書ニ檢印シテ主計課ニ送ル
- 第七 航運點燈ノ傳習生徒ハ當初入學ノ順序等第一章ノ規則ニヨリ既ニ長官ノ許可ヲ受教師ニ從學スル後ハ學術ノ進歩勤惰ノ模様等各月教師ノ報告ヲ得或ハ之ヲ咨問シテ一々其次第ヲ長官ニ開陳ス
- 第八 航運點燈ノ傳習ハ實事ニ屬シ別ニ試験ノ法則ヲ設ケサルカ故ニ等級昇降スヘキモノアルトキハ

燈明番月給改正
十四年五月二十三日改正
十年一月連第四號ヲ以テ
四等官以下月給改正官額
總ニ載ス

必ス教師ノ證書ヲ以長官ノ判決ヲ乞フ病告其他ノ申請ハ第五章ノ規則ニヨル
第九 本科ニ屬スル書籍并製圖測量器械ノ類各員借用ヲ乞フトキハ證書ヲ得テ之ヲ付シ萬一破壞散失
スルモノアレハ其時々倉庫科ニ通報ス
以上之ヲ上師以下事務ノ制限トス然レトモ寮務繁劇ノ際課中互ニ協輔スヘシ出仕官員ハ本級ヲ以テ本
官ト事務ヲ同フス
右分課處務規定本省ノ判決ヲ乞テ定ル所ナリ能ク之ヲ守リ其定限ヲ愆ル勿レ

工部省同十年二月二日
各地燈臺誌燈明番等級月給ノ儀壬申五月中同濟ニテ是迄支給致シ來候處今般官員月給御改正御達ニ付
テハ右燈明番月給ノ儀モ右ヘ照準改正仕度依テ別表相添此段相伺候也
指令 十年二月十五日
伺ノ通

燈明番等級月給旅費定則表

官等	等級	月給	旅費
官等	一級	金三十圓	五
等外一等	二級	金二十五圓	五
同二等	三級	金二十圓	五
同三等	四級	金十五圓	五
同四等	五級	金十二圓	五
見習	見習	金八圓	五

但見習ニ限リ赴任ト雖並加行ノ日當ヲ給ス

燈明番名稱并月給改正

是ヨリ先八年一月十五日
燈明番試驗手續并規則
ヲ定メ八年十二月七日
ニ燈明番試驗手續并示款
總則書ヲ改正シ十年六月
二十三日改正ス但後數次
訂正刪減スル所アリ二十
一年十月逕信省燈標局航
路標識守則則ヲ制定シ
示款總則ヲ廢ス但燈明番
試驗手續ヲ存ス海陸門津
港ニ載ス

燈明番示教總則節錄

十四年五月二十三日 (全文ハ海陸門津港ニ載ス)

燈明番名稱并月給改正表

守燈方	見習	一級	二級	三級	四級	五級
月給	七圓	十圓	十一圓	十二圓	十三圓	十四圓
前從	八圓	十一圓	十二圓	十三圓	十四圓	十五圓
給	給	給	給	給	給	給

燈臺位置諮詢會ヲ開ク
十八年二月二日燈臺位置
諮詢會規則ヲ定ム海陸門
津港ニ載ス

工部省同十七年十一月二十八日 (海陸門津港ニ載ス)
燈臺ハ船舶往來ノ安全ヲ保護スルノ具ニシテ海路ノ標準タリ其位置ヲ定ムル先ツ海洋ノ形勢ヲ考察シ
航路ノ方向ヲ測定シ一般通過ノ公利ヲ裨益スル者ニシテ特リ一部ノ僻見ニ安シ一地方ノ便益ニ泥ムヘ
カラサルハ當局者ノ最應ニ務ムヘキノ急タリ然ルニ我現今沿岸燈臺ノ位置タル或ハ其必要ノ地ヲ措テ
反テ之ヲ必要ナラサルノ地ニ設クル等燈臺建設ノ本旨ニ違フ者ナキニアラス其然ル所以ノモノヲ案ス
ルニ燈臺建設ヲ司トルノ察局ヲ置カルルノ當初ニ在リテハ海面ヲ蒸汽風帆ノ巨艦大船ヲ以テ航行ス
ルモノ概テ外國船舶ノ我國ノ近隣若クハ開港市場ノ所望ニ應ニスルヲ主トシ專ラ其便益ヲ圖リ却テ本邦ノ船
舶ヲ算數ナルヲ以テ燈臺建設ノ事ハ外國船舶ノ如シ而シテ其局ニ當ルモノハ近年ニ至ルマテ外國ノ船
舶ハ僅ニ其餘光ヲ受クルニ過キサリシ其勢是ノ如シ而シテ其局ニ當ルモノハ近年ニ至ルマテ外國ノ船
舶ハ僅ニ其餘光ヲ受クルニ過キサリシ其勢是ノ如シ而シテ其局ニ當ルモノハ近年ニ至ルマテ外國ノ船
舶ハ僅ニ其餘光ヲ受クルニ過キサリシ其勢是ノ如シ而シテ其局ニ當ルモノハ近年ニ至ルマテ外國ノ船

外國航海者ノ便益ヲ專ニシ今日帝國海軍ノ船艦民有ノ大艦巨舶多ヲ加フルノ時ニ當リテハ海軍農商務
 兩卿等カ不満足ヲ來ス所以ナリ今ヤ時勢一變シ我國航海ノ業昔日ノ比ニ非ス燈臺建設ノ局ニ當ル者工
 事ヲ督スル者皆本邦ノ人ヲ以テ之ニ充テ亦外人ノ手ヲ借ラス宜シク其局面ヲ新ニシ廣ク中外ノ意見ヲ
 集メテ當ニ共事業ノ本旨ニ合ハシムヘキナリ當省之ヲ謀畫スル茲ニ日アリ此時ニ當リテ海軍卿農商務
 卿ノ照會アリ當ニ本省ニ於テ適當ノ委員ヲ選ニ兩卿選定ノ委員ト合シ當省卿輔ノ内ヲ以テ其長ニ充テ
 諮詢ノ道ヲ開キ反復討議以テ燈臺ノ位置ヲ其宜キニ改メ一般船舶航行ノ安全ヲ得候様致度依テ右照會
 書寫相添上請候條御聽許ノ上ハ海軍農商務兩省ヘ委員ヲ選ヒ更ニ當省ヘ照會相成候様御下命相成度此
 段相伺候也
 海軍農商務兩省
 照會
 指令 十七年十二月十七日

同ノ趣先以委員ヲ選ヒ諮詢ノ道相開候義ハ聞屆海軍農商務兩省ヘ相達候事

海軍農商務兩省ヘ達十七年十二月十七日
 別紙工部省何燈臺位置擬定委員設置ノ件朱書ノ通及指令候條共省ニ於テモ委員ヲ選ヒ同省ヘ協議スヘ
 シ此旨相達候事

工部省沿革報告抄錄 四年四月日

電信事務ヲ民部省ヨリ繼承シテ傳信機掛ヲ置ク

(備考)

二年九月撤裁裁判所構内及東京築地運上所内ニ傳信機役所ヲ創設シ神奈川縣共事ヲ處理ス尋テ燈臺ノ
 事務ト共ニ民部大藏兩省ニ屬シ十二月傳信局ト改稱シ三年七月民部省ニ專屬シ閏十月工部省ノ掌管ニ
 屬シ此ニ至リ共事務ヲ民部省ヨリ繼承ス

工部省達

四年七月日
 神奈川縣 西平縣 西尾縣 重原縣 刈谷縣 豐橋縣 谷津縣 笠松縣 大垣縣 加納縣 郡山縣 川越縣
 彦根縣 高津縣 桑名縣 度會縣 龜山縣 水口縣 所澤縣 大津縣 京都府 淀川縣 堺縣 大坂府 尼ヶ崎縣 兵庫縣
 明石縣 姫路縣 岡山縣 岡田縣 廣瀨縣 倉敷縣 岡山縣 廣島縣 山口縣 田原縣 岡野縣 伊萬里縣
 油縣 大村縣 長崎縣

傳信局新規取立ニ付テハ會計并庶務取扱トシテ十五六等ノ官員一人ツ、各局毎ニ御採用相成候ニ付總
 テ人物撰擧ノ上姓名等取調可届出候自然隔遠ノ場所ニテ至急當省ヘ難差出節ハ官員出張先ヘ届出候テ
 モ不苦候事

一當省官員測量トシテ東京出張ノ節ハ兼テ宿繼ヲ以先觸可差出ニ付御採用可相成者前局之場所ヘ出張

致置道路測量之官員ヘ付添可申事

工部省沿革報告抄錄 四年八月十四日

電信寮ヲ置キ二等ニ班シ通信事務ヲ料理スル局ヲ改メテ電信局ト稱ス

工部省沿革報告抄錄 四年十月日

莫爾斯印字機始メテ歐洲ヨリ輸著ス是ニ於テ假ニ修技教場ヲ本寮内ニ設ケ生徒六十名ニ其技術ヲ傳習
 ス是ヨリ先生徒十名ヲ撰テ指字機ノ術ヲ學ハシメ各其實業ニ就カシム

工部省沿革報告抄錄 六年八月十日

新ニ修技學校ヲ東京府下潮留ニ開キ試驗及第生徒二百名ニ入校ヲ許シ以後年々修技生ト稱シ滿五年學
 年月ヲ以テ奉職ノ期ト爲ス而シテ等ヲ三級ニ分チ級ニ隨テ日俸ヲ與フ各差アリ是日復々修技分校ヲ大
 阪府下高麗橋局内ニ置ク
 爾後入學ヲ許可セル生徒五十四名ニシテ八
 年二月ニ至リ之本校ニ併セ該校ヲ閉ク

電信寮職制并事務章程 五年六月二十七日

電信寮職制

頭 一員

寮中諸官員ノ首長ニシテ電信一切ノ事務ヲ管理スルヲ掌ル

寮中諸官員ノ處務ヲ指令シ各課ノ事ヲ統督ス

寮中諸般ノ事務其章程ト成規トニ照シテ之ヲ踐行修整スルニ於テハ卿輔ニ對シ擔保ノ責任ヲ有ス

掌管ノ事務ニ於テハ卿輔ニ對シ其當否ヲ論辯スルヲ得

各課ヲ廢立シ及ヒ寮中ノ諸規則ヲ更正スル等ノ事アレハ卿輔ノ決判ヲ乞テ之ヲ處置ス

寮中諸官員ノ能否勤惰ヲ監視シテ之ヲ進退黜陟シ又ハ其員ヲ増減スル等ハ審案具狀シテ卿輔ニ呈シ

電信局ヲ改テ電信局ト稱ス

十年一月十一日電信局ヲ
 某電信分局ト改メ

電信修技教場ヲ設ク

電信寮職制章程
 六年七月三日分課處務規
 定ヲ定ム

其決判ヲ乞フ

權頭 一員

職掌責任頭ニ亞ク

頭缺席スルカ又ハ缺員ノ時ハ一切頭ノ職掌ヲ代理スルヲ得

助 定員ナシ

寮中各課ノ長トシテ其事務ヲ擔當スルヲ掌ル

各掌管ノ事務ヲ整理スルニ於テ頭權頭ニ對シテ其責任ヲ有ス

權助 定員ナシ

職掌責任助ニ亞ク

以上之ヲ奏任官トス

大屬 權大屬

中屬 權中屬

少屬 權少屬

頭權頭ノ指令ニ從ヒテ寮中ノ事務ヲ處ス

以上之ヲ判任官トス

大屬以下ノ人員ハ事務ノ繁簡ニ從ヒテ増減アルヘシ

文書課

往復受付文案記録官員名簿等ノ事ヲ管ス

譯文課

往復書簡其他ノ横文翻譯ノ事ヲ管ス

會計課

官祿旅費其他ノ經費分給出納精算等ノ事ヲ管ス

倉庫課

器械物品買辦蓄藏支給等ノ事ヲ管ス

建築課

電線建設修繕等ノ事ヲ管ス

營繕課

本寮并諸局等營繕ノ事ヲ管ス

修技課

技術見習生徒ノ學業ヲ督課シ通辯ノ事ヲ管ス

電信寮事務章程

電信寮ハ電信一切ノ事務ヲ掌管ス其綱領左ノ如シ

一 全國要衝ノ地方ニ就テ線路ヲ測定シ電機ヲ建設シ内外人民ノ爲メ報信往復ノ便利ヲ開ク事

一 各地方電信局ノ處務ヲシテ其規則ノ如ク一齊ナラシムル事

一 既成ノ電機ヲ修理シ耐久ナラシムル事

一 本寮要務ノ技術ヲ開明スル事

以上各條本寮掌管ノ事務トス然レトモ其事ヲ處スルニ當リ卿輔ノ決判ヲ乞テ然ル後施行スヘキ條アリ

卿輔ノ決判ヲ乞シテ專任處置スヘキ條アリ其例目ヲ分ツ左ノ如シ

但本省事務章程ノ上款ニ載スル上奏制可ヲ經テ舉行スヘキノ條件ニ屬スルモノ此外ニアリ

上款

卿輔ノ決判ヲ乞テ然ル後施行スヘキ條

一 電信通報ノ規則ヲ定ムル事

一 電線ヲ轉移シ或ハ廢停スル事

一 各處ニ出張所ヲ設クル事

- 一 外國人ヲ備使シ或ハ備役ノ期滿テ再期ヲ約シ又ハ備中退職セシムル等凡テ立約ニ關スル事
 - 一 外國人ノ俸給ヲ増減シ及ヒ其功罪ニ因テ處置スル事
 - 一 定額外費用ノ事
 - 一 常用ノ外國ヨリ器械物品ヲ購買スル事
 - 一 本寮要務ノ諸術傳習ノ法則ヲ立ル事
- 以上各款皆頭之ヲ判案シテ其要旨ヲ概記シ又ハ處分ノ法案ヲ作り卿輔ニ呈シ決判ヲ乞ヒ然ル後施行スヘシ

下款

- 卿輔ノ決判ヲ乞シテ專任處置スヘキ條
- 一 諸官員ニ各處出張巡視ヲ命スル事
 - 一 電機及ヒ官舎等前規ニ仍テ修理スル事
 - 一 諸建築ノ事既ニ卿輔ノ決判ヲ得ルノ後實際ニ當リ其豫定ノ模樣ヲ變改セサルヲ得サルトキハ再ヒ咨議ヲ請ヘシト雖モ遠隔ノ地往復ノ間ヲ待ヘカラサルハ便宜之ヲ處置シ具狀シテ開報スルヲ得ル事
 - 一 各處ニ於テ諸建築ノ事アリテ其地ノ人民ヲ役シ竹木土石等ヲ用ユルヲ要スルトキ其管轄廳ト商議シ便宜處置スル事
 - 一 各處ニ於テ止ヲ得サルノ事アリテ假ニ官舎ヲ設クル事
 - 一 各廳ニ在職出張セル本寮附屬月給二十兩以下ニテ定員内ニ在モノヲ黜陟スル事
 - 一 各課ノ官員ヲ左右交替スル事
 - 一 本寮附屬以下内外ノ諸職工勸獎ノ爲メ十兩以下ノ賞金ヲ與フル事
 - 一 通辭翻譯諸技術ニ長セル者ヲ急務ニヨリテ擧用スルトキ其本貫ノ官廳ニ通達シ備又ハ附屬ノ名ヲ以テ一時使役スル事
 - 一 常用ノ物品ヲ外國ヨリ收買スル事

一 各處ニ於テ事ヲ執ノ際若シ臨時急務ニ處スルニ當リ卿輔ニ稟議スヘキ事件ニ屬スト雖トモ其大體ニ妨ケナキモノハ便宜之ヲ裁決シ尋テ其狀ヲ具シテ開報スルヲ得ル事

以上各款皆頭專執處置スルヲ得ヘシ然シテ之ヲ行フノ後官員進退其他處務ノ要件ハ其狀ヲ具シテ卿輔ニ開報スルヲ要ス

○ 新ニ電線ヲ設ケ官舎ヲ營ム等凡建築ノ事業ヲ興ス時ハ其興業ノ要旨ト建築ノ形狀及ヒ資材工費ノ總計成功ノ期限等詳細開具シ卿輔ノ決判ヲ得營作ノ際冗費ヲ省キ豫定ノ圖式ニ違ハス堅牢ニ落成セシムルヲ要ス

電信ノ事務ニ於テ備使スル外國人任職ノ件ハ都テ其條約ノ制規ニヨリ勉勵從事セシムルヲ要ス凡本寮掌管ノ事務他方ヘ指令布達スルハ豫メ文案ヲ作り卿輔ノ一覽ヲ乞ヒ然ル後卿輔ノ名ヲ以テ之ヲ達シ其商議咨問等ハ頭權頭ノ名ヲ以テ往復シ頭權頭俱ニ缺ルトキハ助權助ノ名ヲ以テ往復スルヲ得ヘシ

本寮及ヒ各處電信局ノ諸書類諸簿冊ハ樣式ノ如ク編纂シテ後考ニ便ナラシムルヲ要ス各處電信ノ處務并諸建築修繕等工程ノ次第ト其經費ノ計算及ヒ報信料ノ總計ハ毎月毎三月每一年ト之ヲ類別シテ詳細ナル考課狀及ヒ計表ヲ造リ卿輔ニ進呈ス

卿輔ノ命ニ因テハ臨時ノ考課狀及ヒ計表ヲ作りテ送呈スルコトアルヘシ本寮諸官員以下備使スル外國人ノ姓名ヲ詳記シ官祿俸給旅費及ヒ諸雜費其他買辦ノ物品代價等ハ樣式ノ如ク總計表ヲ造リテ毎月之ヲ送呈ス

凡本寮ノ事務ヲ掌理スルニハ本省職制事務章程其他條令及ヒ寮中ノ成規等ニ照準シテ之ヲ處置シ施爲ノ際違誤ナキヲ要ス

此章程中他日増減ヲ要スル事アラハ卿輔ノ決判ヲ乞テ便宜加除更正スルヲ得ヘシ右職制并事務章程

上奏シテ定ムル所ナリ能之ヲ守リ其程限ヲ愆ル勿レ
明治五年壬申年六月二十七日

工部少輔山尾庸三

電信頭 石丸安世殿

右職制并事務章程安世恪守遵奉其職ヲ盡スヘシ若シ本寮事務擧ラサルアラハ安世謹テ其責ニ任スヘキ也
壬申六月

工部少輔山尾庸三殿

電信頭 石丸安世

電信寮御雇外國人心得

工部省定 六年三月 日開

竣工及建築中ノ一切ノ電機ハ皆日本政府ノ所有ナレハ其ニ關係シタル數課外國官員ノ在職中ハ自ラ其ノ配下タル事ヲ諒知シ而シテ第一ニ事ヲ共ニスル處ノ日本官員ニ謙讓親睦ノ行跡ヲ保ツコトヲ要ス日本府モ亦々寮中ノ萬事不都合ナキ爲メニ外國人ヲ大切ニ取扱フコトヲ令下セリ
上條ヲ純守シテ不和ノ生セサル様ニ格別注意スヘシ
左ノ件々最モ注意スヘシ

- 第一條 如何ナル事情ニテモ決シテ日本人ヨリ私ニ負債ヲナス可カラズ而シテ總テノ官務ヲ大切ニ注意スヘシ
- 第二條 出張先ニ於テハ土人ニ能ク懇遇シ且ツ工務ニ用ルル人ヲ能ク接待スヘシ
- 第三條 總テノ贈答及工務ノ一周報ハ細密書載スヘシ且ツ何事ニ依ラス建築長ノ聽ニ達スヘキ事件アラハ必ス報知スヘシ
- 第四條 若シ疾病ニ罹ラハ醫官ノ證書ヲ添テ直ニ建築長ニ届クヘシ
- 第五條 公私ノ田陌ヲ能ク注意シテ而シテ其レヲ通行スルルニ於テハ成丈ケ地主及主者ノ欲スル所ニ隨フコトヲ要ス
- 第六條 私田上ニ線ヲ架シ杭ヲ建ルニ及ンテハ成丈ケ其所有ノ一物モ損害ナサルコトヲ大切ニ注意ス

ヘシ

- 第七條 公私ノ田等へ不得已建築又ハ不意ノ損害出來セシハ諸景況ハ總テ建築長ノ公解ヘ報知スルト雖モ其地方ノ廳へ達スヘキコト勿論ナレハ此事件ヲ取扱フ附添ノ官員ト懇切ニ談合スヘシ
- 第八條 樹木ヲ切伐スルコトハ日本政府ノ許可ヲ得ルカ又ハ其場ノ持主ノ承諾スルニ非レハ決シテ建築助ハ得テ行フ可ラス
- 第九條 何レモ杭ハ危倒ノ憂ヲ避ケ立ツヘシ且ツ市街道路並鐵道上ヲ跨越シテ架線スルルハ往來人へ前知セシムル爲メニ番丁ヲ置クヘシ
- 第十條 各建築助ハ本居ノ午前七時三十分ニ出局シ而シテ午前八時前ニ在京ノ建築次長カ又ハ其局ニ於テ代理ノ助ヘ其持場ノ試験模様ヲ報告スヘシ八時後ニハ試験ヲ爲スヘカラス但シ損害出來ノ節ハ此例ニ非ス
- 第十一條 鐵道線ニ從事スル者ハ其寮ヨリ分與サレタル規則ヲ遵行スヘシ
- 第十二條 建築長ハ報知サレタル事ヲ都テ本寮ニ届クヘシ且ツ改築等ノ事件ハ大小トナク總テ建築長ニ報知シ其長ヨリ本寮ニ申立ルヲ順序トス但シ各地ニ從事スル者ハ日本官員トノ書面ヲ共ニ本寮ニ致シ其許可ヲ得ルニ非レハ是ヲ施行スルコトアタハス尤モ斷線倒杭ノ類ニテ至急ナル事件ハ此例ニアラス其次第ヲ報知シ置速ニ修繕ヲ加フヘシ
- 第十三條 各位ノ黜陟進退ハ總テ此規則ヲ奉スルト奉セサルトニ在リ

電信寮ヨリ工部省へ届 六年四月 日開

東京長崎間ノ各局其所在ノ繁簡ニ依リ音信往復事務費用等ノ多少有之候就テハ當分別紙表ノ如ク各局ノ部位三等ニ分チ今後諸件施設ノ便ニ備度存候此段申上候也

一 等

二 等

三 等

築地局

沼津局

兩國局

官職門 官制 工部省

二百五十七

電信寮各局ノ等級ヲ定

十三年十二月二十七日收定

日本橋局
横濱局
川口局
神戸局
赤間關局
長崎局

靜岡局
豐橋局
名古屋局
岐阜局
彦根局
西京局
姫路局
岡山路局
尾道局
廣島局
山口局
福島局
佐賀局

淺草局
本郷局
四ッ谷局
赤羽根局
高麗橋局
小倉局
六年十二月判決
二等局ト成ル

電信建築長心得書

六年四月日

第一條 本居ニ在時ハ兼テ本寮定ノ時間役場へ出頭シ勤簿へ姓名ヲ記シ頭權頭ノ指令ニ從ヒ諸務ヲ勉勵スヘシ出勤中御用アリテ建築場竝倉庫等各局へ見廻ヲナスモ其旨頭權頭へ達シ出ヘシ

第二條 建築長ノ第一心得ヘキ事ハ寮内ノ官員ハ勿論其他何人ニ限ラス寮務ニ關シテ接對スル所ノ日接スルモ亦親睦ヲ旨トシテ不和ヲ生セサルヤウ示置ヘシ

第三條 電信建築守成器械製作并技術取扱等ノ事其支配スル處ノ外國官員ヲ指令シ且日本官員生徒并

職人等ヲ第一懇切ニ教育習熟セシメ各件ノ用ニ立シムル事ヲ要ス

第四條 日本政府ノ爲ニ電信建築ノ方法其他藥匣ノ製法海底線ノ裝法器械整理スル等ノ官本ヲ著述スヘシ

第五條 頭權頭ノ指令ニ依リ各所出張スルモ其地形ヲ實查シ建築ノ難易工費ノ多少成功ノ緩急等ヲ具狀シテ送達スヘシ

第六條 頭權頭ノ指令ニ從ヒ新タニ電線ヲ設ケ海線ヲ裝置スル時ハ建築ノ形狀及工費ノ目途成功ノ期限等豫メ細記シテ上呈スヘシ施行ノ際ニ當テハ冗費ヲ省キ時期ヲ誤ラス堅固ニ落成セシムルヲ要ス

第七條 何レノ地方ニテモ新タニ電線ヲ設ル時ハ稽古ノ爲メ日本人一手ニテ建築セシムルヲモアルヘシ右建築中或ハ落成ノ後検査トシテ外國人ヲ遣ハスモ其可否ヲ審察シテ傳習教示セシムヘシ

第八條 止ムヲ得サルノ際ニ當リ新タニ外國ノ官員ヲ増役シ又ハ必要ノ器械物品ヲ外國へ注文スルトキハ兼テ入税ノ多寡ヲ考ヘ政府へ對シ苟モ無用ノ費ナキ様注意シテ申出ヘシ

第九條 雇外國人條約面ニ官宅ヲ與フルト掲載セル者ノ本居ニ於テハ成丈至當ノ家屋ヲ與フルト雖モ營繕向必洋風ノ居室ニ限ラサルヘシ尤其居室ノ不十分ナルカ又ハ土地ノ良否ニヨリ彼是決シテ苦情申立サルヤウ兼テ諭シ置ヘシ

第十條 本居ト定タル土地ヲ一己ノ便宜ニヨリテ彼是場所替申立マシキヲ諭シ置ヘシ

第十一條 外國官員建築其他公用ニヨリテ出張ノ時ハ兼テ定ノ通能其著發并滞在事業ノ成否等ヲ詳ニ記載シテ之ヲ附添官員トモニ本寮ニ致シ必過當ノ旅費等申出サル様注意シテ調査ヲ遂ケ差出スヘシ

第十二條 外國官員建築請持ノ場所交替ノ時々猥ニ從前ノ設置良否ヲ論シ謂レナク改築セサル様示置ヘシ

第十三條 各所在勤出張ノ外國人ヨリ諸報類諸簿冊ハ其部類ヲ分チ編集シテ毎月末ニ本寮へ達スヘシ

- 第十四條 建築守成ノ事務入用器械物品ノ渡方ヲ乞フハ先以テ其書ヲ建築長ニ差出シ建築長檢印ノ上頭權頭ヘ相廻シ頭權頭再檢ノ上倉庫掛ヘ下命スヘシ
- 第十五條 建築長支配ノ外國人ヨリ寮務ニ關係シ苦情等申出ル時ハ豫シメ之ヲ審判シ其處分ヲ定メ頭權頭ノ裁決ヲ乞ヘシ
- 第十六條 頭權頭ヨリ電信事務ニ付下問コレアル節ハ何事ニヨラス心得タル限リヲ盡シ返答スヘシ但時宜ニ依リ建築長ノ手ヲ經スシテ直ニ同斷ノ儀ヲ建築長支配ノ外國人ヘ下問スル事アルヘシ右條件恪守遵奉可盡其職者也

六年四月 電 信 寮

電信寮主記課處務規定 六年四月二日

八年三月二十九日記録局
ヲ區キ各寮ノ編制事務ヲ
併ス本省分課ノ部ニ據ス
十五年十月二十四日電信
局處務規程ヲ定ム

本寮主記一切ノ事務ヲ總括シ課中ノ事務ヲ分テ往復編輯譯文名簿受付ノ五科ヲ設ク

課長

課中ノ事務ヲ掌管擔當ス

掌管ノ事務ヲ整理スルニ於テハ長官ニ對シテ其責任ヲ有ス

擔當ノ事務ニ於テハ其當否ヲ長官ニ對シテ論辯スルヲ得

課中大屬以下ノ能否勤惰ヲ監視シテ長官ニ白スルヲ得

課中ニ受ル所ノ來書及稟請ノ文書等其緩急ヲ辨別シ要旨ヲ筆記シ檢印シテ長官ノ指令ヲ承ケ事ノ急ナルモノハ急ノ字ヲ朱書シ各科ニ付シ或ハ稿案ヲ徵シ又ハ令文ヲ作ラシメ長官ノ考査ヲ受ク

主計課技術課ヨリ出ス所ノ廻議稟請ノ草案等ハ規則ニ照準シテ可否ヲ論辯スルヲ得ヘシ

課中常用ノ物品ハ記帖シテ倉庫科ヨリ之ヲ受ケ臨時用品ハ廻議ニ具セシム

等外官員ニ辭令ヲ授付スルヲ掌ル

權課長

課長ニ亞テ其職掌責任ヲ同クス

- 以上助以下奏任官ノ職任トス然レトモ關員アルカ或ハ事務繁簡ニ因リ主記主計兩課ヲ兼又ハ權課長心得ノ名ヲ以テ正權大屬ヨリ補攝セシムルヲアルヘシ
- 往復科 正權大屬以下ノ職務トス
- 文案ヲ起草シ公文ヲ往復シ外人ニ應接シ諸稟請伺候ヲ傳通スル等ノ事ヲ掌ル
- 第一 本省ニ進達スヘキ廻議稟請申報ノ類及其他省使府縣各出張所等ニ送ルヘキ布達通報諮問ノ類ハ皆課長以上ノ指令ニ從ヒ章程ニ照準シ文案ヲ起草シ長官檢印ノ後之ヲ各方ニ送達ス
- 但定例アルモノト雖モ課長以上ノ檢印無シテ專恣之ヲ處スルヲ得ス以下各科ノ處務皆之ニ同シ
- 第二 往復文書其送ル者ハ皆課長以上ノ指令ニ因リ草案ヲ呈シ檢印ノ後淨書シテ送達シ其大意月日號數ヲ送翰銘簿ニ登記シ來ル者ハ來翰銘簿ニ同ク大意等ヲ登記シ長官檢印ノ稿案ハ各簿冊ニ留ム
- 第三 願同屆等ハ都テ副書ヲ出サシムルヲ例トス其指令ヲ請モノアレハ申帖ヲ細閱シテ課長ニ呈シ令文ノ草案ヲ付サハ淨寫シテ之ヲ本人ニ付ス
- 但寮中ノ職員身上ニ係ル稟請申報等ハ名簿課ノ處務トス
- 第四 各課ヨリ致ス所ノ進達書類及報問書ノ如キハ之ヲ課長ニ呈シ長官可印ノ後本省ニ送達ス
- 但本省諸寮司及ヒ寮中交互ニ課名ヲ以テ往復スル文書ハ各課ノ處務ナレハ本科之ニ關セス
- 第五 件銘簿ヲ作り往復文書其送ル者ハ送翰銘簿ヨリ登寫シ來ル者ハ來翰銘簿ヨリ登寫シ其本書編收ノ簿名ヲ注記シ局ヲ卒フル者ハ結局ノ印ヲ押シ前後搜索ノ便ニ供ス
- 第六 各所ヘ往復ノ書ハ事ノ緩急細大ニ依リ郵便郵船ヲ以テ送達ス此賃ハ月末課長ノ檢印ヲ受ケ主計課ニ付シテ辨償セシム
- 第七 來人ニ接スルニハ其陳述スル所ノ旨意ヲ審諦シテ之ヲ課長ニ白シ長官ノ指令ヲ承テ應答ス應接ノ間苟モ取捨潤飾ヲ加ルヲ得ス事了テ之ヲ課長ニ報シ其要旨ヲ日記ニ記載ス其長官又ハ課長ノ指令ヲ承ケ他方ニ詣テ應對スルモ亦之ニ同シ

第八 他官吏ヲ召スヘキハ其旨ヲ本省ニ申告ス
編輯科 正權大屬以下ノ職務トス

寮記ヲ撰輯シ記録ヲ編收スルヲ掌ル

第一 本寮ノ沿革章程及規定ノ變更人員ノ増減電機建設ノ決議同創設或再建改置ノ年月及右ニ屬スル非常ノ事件等ニ至迄都テ年月次序ヲ逐ヒ之ヲ編錄シテ寮記ヲ作ル

第二 公文ノ冊ヲ成スモノハ事類ヲ分別シ年月ヲ逐ヒ之ヲ編收ス

第三 廻議ノ類本省ノ決印了テ回ルモノハ判決ノ順次ヲ追ヒ之ヲ決議簿ニ編收ス

第四 外國人ノ條約及諸般公報等ノ譯書ハ譯文科ヨリ寫テ受ケ逐次之ヲ分類編收ス

第五 各課ノ建業錄考課狀竣功錄諸月表等ヲ括リ例ニ因リ每一月毎三月毎一年本寮考課狀ヲ作テ課長并長官ノ檢印ヲ受ケ之ヲ本省ニ達ス

第六 官省ノ布達告文ノ類及本寮各課公務書類ノ既ニ結局ニ至ルモノ等順次之ヲ編收ス

第七 各課ニテ理スル所ノ公文中其事輕キモノト雖モ參考ニ供スヘキハ之ヲ輯存ス

第八 本寮附屬ノ和漢書籍ヲ管領シ目次號數ヲ記シ散逸ナキヲ要ス故ニ各課ノ官員借覽ヲ乞フハ證書ヲ取テ之ヲ付シ且毎三月原簿ニ依テ點檢シ若シ缺失アルハ其所由ヲ糺シテ倉庫科ニ報ス
譯文科 正權大屬上師以下ノ職務トス

外國書籍及中外書翰ヲ翻譯シ同ク語辭ヲ通スルヲ掌リ兼テ本寮附屬ノ外國書籍ヲ管ス

第一 長官及課長ノ指令ニ因リ外國書及橫文ヲ翻譯スルハ其要旨號數ヲ件銘簿ニ登記シ譯成ルトキハ草稿清書ニ右同號ヲ記シ清書ハ課長ニ呈シ草稿ハ草稿簿ニ挿收シ卷首ニ件銘記號ヲ標掲シ原書ハ原文挿ニ挿收シ卷首ニ同ク件銘記號ヲ標掲シテ共ニ搜索ノ便ニ供ス

但會計ニ係ル橫文ヲ譯スルハ先ツ要旨月日ヲ件銘簿ニ登記シ草稿ヲ計書譯文挿原文ヲ計書原文挿ニ挿收シ卷首ニ標目ヲ掲クル等スヘテ本條ニ同クス

第二 外國人ニ指令諮問スル文書等課長ヨリ案文ヲ付サハ之ヲ翻譯シ課長ノ檢閱ヲ經テ後之ヲ送達ス

但寮中ヨリ外國人ヘ送ル公用ノ橫文ハ之ヲ押寫シ其書翰ノ當名號數及押寫ノ數ヲ記シ押寫挿ニ挿收シ卷首ニ標目ヲ掲ケ原文ハ記號ニ合セ押寫原文挿ニ挿收シ同ク卷首ニ標目ヲ掲ク

第三 科中ニテ受付スル一切ノ橫文書翰ハ原文譯文共ニ其姓名及號數ヲ記シ原文ハ信書挿ニ挿收シ譯文ハ信書譯文挿ニ兩ナカラ第一條ニ同ク卷首ニ件銘記號ヲ掲テ參觀ニ便ナラシム

第四 中外ノ語ヲ譯シ彼我ノ情意ヲ通スルニハ瑣モ潤飾ヲ加ヘス毫モ忌憚ヲ避ケハ公明の實ニ其旨意ヲ傳テ事情ヲ誤ル無キヲ要ス

第五 本寮所藏ノ外國圖書ハ目次號數ヲ圖書簿ニ詳記シ散逸ナキヲ要ス故ニ各科ノ官員借覽ヲ乞フハ之ヲ簿記シテ押印セシメ返納スレハ消印セシム本省寮司其他ヨリ借覽ヲ乞フハ課長ノ可印ヲ得テ簿記シ證書ヲ取テ之ヲ貸與シ返納スレハ證書ヲ還付ス且毎三月圖書簿ニ依テ點檢シ若シ缺失アルハ其所由ヲ糺シテ倉庫科ニ通報ス

但書籍出納簿ヲ作り系格中横ニ一系ヲ設ケテ上下二段ニ分界シ各科ノ乞ニ應シテ本科主管ノ書籍ヲ貸付スルハ其書目冊數月日姓名ヲ上段ニ詳記シ返納スレハ下段ニ其月日ヲ記ス

第六 受付簿ヲ作り上條但書ノ如ク上下二段ニ分界シ一切ノ書翰ヲ受付スルニ方リ本科へ受ルモノハ上段ニ其書目姓名及月日ヲ記シ之ヲ本科ヨリ付スルハ其下段ニ月日ヲ記シ受主ノ證印ヲ徵ス

第七 本科ニ關スル諸往復ノ文書ハ順次之ヲ贈答簿ニ編シテ散逸ナカラシム

寮中官員及官雇外國人ノ名籍履歷進退增減ヲ明ニシ職員錄明細表ヲ編成シ出張在勤分科等ノ辭令ヲ書寫シ及各員身上ニ關スル申請報告等ノ事ヲ掌ル

第一 官員以下官雇外國人及附屬ニ至迄寮中ノ人員ニ係ルモノハ一切其名籍履歷ヲ詳ニシ進退增減出張在勤歸寮等皆其申報書ヲ受テ各簿ニ記シ了リ各科ニ通報シテ檢印セシメ其本省へ達スヘキハ別ニ申報書ヲ作テ往復科ヨリ之ヲ進達スルヲ例トス

第二 判任官以下技術見習ノ出張在勤分課并附屬進退出張在勤等ノ辭令ハ長官ノ指令ニ依リ例ニ照シ

- テ案文ヲ作り長官檢印ノ後淨寫シテ之ヲ呈ス
- 但徵狀ハ例文ヲ用ヒ課長ノ指揮ニ從ヒ之ヲ發ス
- 第三 官員以下新ニ職務拜命セハ式ニ依テ屬籍履歷書ヲ出サシメ之ヲ職員錄及各簿ニ登寫シ其本寮ニテ拜命スル者ハ承書及屬籍履歷書ハ往復科ヨリ届書ト共ニ本省ニ送達ス
- 第四 官員以下ノ免職ハ印鑑ヲ收メ受付科ニ付シ職員錄及各簿ノ名氏ヲ削リ其本寮ニテ免スル者ハ承書ヲ本科ニ取り印鑑ヲ受付科ニ付シ本省ヘ達スヘキハ往復科ニ付シ承書控ニハ本人奉職ノ年數等ヲ記シテ之ヲ留ム
- 第五 寮中奏判官ノ進退ハ往復科ニ付シテ各科并各出張所ニ通報ス
- 第六 職員表ヲ作り各月二日ヲ限リ往復科ニ付シ本省ニ達ス
- 第七 官備ノ外國人新約改約又ハ免黜スルモノ及給料ノ増減等決定ノ後往復科ヨリ通報スルニ從テ明細表ヲ改正ス
- 第八 職員錄明細表トモ二冊ヲ作り一冊ハ本省ニ送り一冊ハ本科ニ留メ各員ノ進退増減及屬族ノ變更等ヲ訂正シ毎月兩次本省ニ送り循環交換ス
- 第九 官員解免ノ節旅費并滿年賜物有之者等ハ例ニ依テ調査書ヲ課長ニ致ス
- 第十 官員以下辭職歸省病告忌服轉居其他身上ニ關スル稟請報告ノ類ハ副書ト共ニ之ヲ受テ日記ニ登寫シ番號ヲ記シテ課長ニ呈シ令文ノ草案ヲ付サハ淨寫シテ本人ニ付ス
- 但病告百日ヲ經テ出勤セサルモノハ之ヲ記シテ課長及主計課ニ報ス忌服ノ申報書ニハ除服ノ日ヲ附記シ之ヲ課長ニ致シテ本省ニ申報シ其本省ニ除服ヲ請モノハ課長ノ指揮ヲ受ク
- 受付課 權中屬以下ノ職務トス
- 諸文書ヲ受付シ本省ノ印鑑寮中ノ備品ヲ管シ守門給仕以下ヲ督シ時辰ヲ測正シ官員以下ノ出勤簿ヲ掌ル
- 第一 本省及各寮司其他諸文書ノ本科ニ受ル者ハ受人簿ニ本科ノ號數及件銘ヲ登記シ式ノ如ク本書ニ

- 附紙シテ其號數ヲ朱書シ受付印ヲ押シテ課長ニ致シ其本科ヨリ本省及各寮司等ニ送達スル者ハ受證簿ニ銘記シ各方ニ送達シテ證印ヲ徵ス
- 第二 城門鑑札ハ所用アルコトニ其號數月日ヲ簿記シ之ヲ付シテ押印セシメ事了レハ還納セシム本省ノ印鑑ハ新ニ拜明スル者ニ一枚ヲ付シ其番號及月日ヲ簿記シテ押印セシメ轉任免職等ハ還納ノ後消印ス若遺失火盜等ノ届アラハ其事情ヲ推究シテ課長ニ白ス
- 第三 公用ニテ乘馬ヲ用ル者ハ其由ヲ馬牌簿ニ記シテ之ヲ付ス
- 第四 寮中鋪設洒掃等ノ事ヲ指揮シ寮内常用物品修補ノ事ニ至テハ主計課ニ報シテ辨理セシム
- 第五 寮中宿直ノ順番ヲ定メ及寮中ノ時辰ハ毎日測正シテ差異ナカラシム
- 第六 在寮ノ官員以下日々ノ勤休ハ簿冊ヲ作テ押印セシメ月末ニ至リ勤休ノ日數ヲ總計シテ課長ニ呈ス
- 但日々鳴鐘ヲ以上寮午食退寮等ノ時限ヲ報セシム
- 第七 本寮守門給仕小使等ノ勤惰ヲ監視シテ課長ニ白ス
- 第八 非常預備物品等ハ時々點檢シテ散失ナカラシム
- 第九 本寮附屬地ノ取締ヲ爲シ右ニ關スル府縣又ハ區長トノ應對ヲ掌ル
- 第十 寮内修繕等アルトキハ逐件廻議ニ具シ課長押印ノ上長官ノ可印ヲ受テ之ヲ處置ス
- 第十一 新ニ拜命スル者ハ實印小印共印鑑ヲ徵シ本省及本寮各課ニ配達ス其遺失又ハ磨滅等ニテ改印スルトキハ更ニ其印鑑ヲ出サシム
- 以上之ヲ大屬以下事務ノ制限トス然レトモ寮務繁劇ノ際ハ課中互ニ協助スヘシ出仕官員ハ本級ヲ以テ本官ト事務ヲ同フス
- 右分科處務規定本省ノ判決ヲ得テ定ル所ナリ能ク之ヲ守リ其定限ヲ愆ル勿レ

電信頭 石丸安世

六年四月

電信索主計課職務規定
十年三月五日會計局ヲシテ各局ノ會計事務ヲ總括セシム本官分課ノ部ニ屬ス

電信索主計課處務規定 六年四月日開

本索主計一切ノ事務ヲ總括シ課中ノ事務ヲ分テ出納賜給倉庫精算ノ四科ヲ設ク課長

課中ノ事務ヲ掌管擔當ス

掌管ノ事務ヲ整理スルニ於テハ長官ニ對シテ其責任ヲ有ス

擔當ノ事務ニ於テハ其當否ヲ長官ニ對シテ論辯スルヲ得

課中大屬以下ノ能否勤惰ヲ監視シテ長官ニ白スルヲ得

每歲本索及ヒ各地電機ニ屬スル諸般ノ經費ハ各管ノ自途ニ據テ之ヲ計算シ收發ノ多寡ヲ斟酌シ歲費月

費ノ定額ヲ立技術長ニ合議シテ之ヲ册記シ期ヲ以テ長官ニ呈シ批定ノ後本省ニ致ス

金銀ノ出納ハ每款定額ニ照準シテ廻議ニ押印シ長官ノ可印ヲ受ケ承管ニ分支シテ之ヲ辦理セシム尤支

發ノ金ハスヘテ本資ト消費ヲ二様ニ區別スヘシ

但出納ノ款件ヲ原簿ニ登記セハ總テ點檢シテ押印ス

應用ノ物品一旦長官ノ許可ヲ經テ購買整備スルモノハ其定限ヲ超サレハ緩急之ヲ分配シテ一々長官ニ

請ハサルモ妨ケナシ

權課長

課長ニ亞テ其職掌責任ヲ同クス

以上助以下委任官ノ職任トス然レトモ若關員アルカ或ハ事務ノ繁簡ニ因リ主計主記兩課ヲ兼又ハ權課

長心得ノ名ヲ以テ正權大屬ヨリ補攝セシムルコトアルヘシ

出納科 正權大屬以下ノ職務トス

經費ノ多寡ヲ計算シ金銀ヲ出納シ計簿ヲ詳記シ區分ヲ明瞭ニスル等ノ事ヲ掌ル

第一 歲費ノ定額ハ毎年一月ヨリ十二月迄本索各科并各出張所ニ於テ給發スヘキ建築入費ヲ初メ俸給

旅費其他諸般ノ費用ヲ總括シ式ニ依リ册記シ前年十一月十日ヲ限リ課長ニ致ス

第二 歲額ヲ分テ月費ノ額ヲ定ムルニハ月々工業ノ繁簡事務ノ緩急ニ因テ支發ノ多寡ヲ計リ各科及ヒ

各出張所ヨリ出ス處ノ總計ヲ合算シ十二箇月ニ區分シ前條同時課長ニ致シテ本省ニ進達ス然レトモ

建築ノ多少輸入器械ノ多寡官員ノ進退各地出張ノ有無等ニ因リ月額ノ増減アレハ式ノ如ク記載シ課

長ニ致シ長官押印ノ上前月二十日ヲ期トシ本省ニ致ス

第三 本省ヨリ金銀ヲ受クルニハ式ノ如ク證券ヲ具シ之ヲ受ケ日計簿ニ登記シ爲換座ニ寄セテ預ケ帳

ニ記載セシメ右日計簿ト預ケ帳ニ課長勘合シテ長官ノ檢印ヲ受ク

但各出張所ハ預定ノ月額ニ依リ日程ヲ計リ期ニ先チ長官ノ許可ヲ得テ本省ニ進達シ式ノ如ク之ヲ

受テ送達ス

第四 爲換座ニ寄ル所ノ金銀ヲ支發スルニハ每件長官檢印ノ廻議ヲ證トシテ各册ノ費用區別簿ニ登記

シ式ノ如ク發票ニ寫シ課長ノ勘合及長官ノ檢印ヲ受テ其科ニ付シ各員ニ配給セシム之ヲ領收スル者

ハ三日ノ内爲換座ニ至テ正貨ト交換ス其爲換座ニ集リタル發票ハ次ノ出金定日差出サセ原票ト照比

シテ勘合ヲ消ス

第五 假渡金銀ハ區別簿ニ朱書シ返金スルトキハ最初ノ廻議ニ照準シ朱書ニ押印シテ收發ヲ明ニシ其

金銀ハ爲換座ニ寄ス

第六 毎月三八ノ日ヲ以テ金銀支發ノ定日トス若日曜其外休暇ニ會セハ前日ヲ以テ發スルヲ例トス

但臨時支給ハ此限ニアラス

第七 各局ヨリ音信料ヲ出ストキハ上納帳ニ記載シテ長官檢印ノ上本省ニ致ス

第八 凡テ金銀ヲ收發スルハ必ス日計簿ニ登記シ收ムルモノハ前日ノ殘金ニ加ヘテ總數トナシ發スル

モノハ其數ヲ減シテ本日現在ノ數ヲ詳記ス

第九 凡テ不用ニ屬スル諸物品等賣却ノ代價ヲ收入スルトキハ其次第ヲ詳記シテ爲換座ニ寄セ再ヒ察

中額費ノ内ニ領收スヘキ者ノ外ハ之ヲ本省ニ納ム

第十 建築所諸費仕拂トシテ出張スルトキハ工費ノ當否ヲ校檢シ臨時買辦セシ物品代價職工賃料等ハ

建築課ト協議ノ上給與スヘシ

- 第十一 本寮各科及出張所各建築所等諸般ノ費用當初ノ目途ヲ超過スルモノハ先ツ其事由ヲ詳細具狀シ本省ノ判決ヲ經ルニアラサレハ假令定額餘分アリトモ之ヲ支給スルヲ得ス
- 第十二 各建築所ニテ支給スル金銀ハ式ノ如ク勘定帳ヲ作り翌月五日ヲ期トシ其地ヲ發シテ本科ニ送ラシム
- 第十三 本科ニテ毎月支發スル金額及殘金ハ式ノ如ク册記シテ翌月二日ヲ限リ本省ニ報知シ勘定帳ハ詳細區別シ證印帳ヲ附シテ翌月五日ヲ期トシ之ヲ精算科ニ送ル
- 第十四 諸費區別簿ハ本省ノ式ニ倣ヒ各件廻議判決スルモノニ據リ詳細ニ登記シ月末之ヲ表ニ掲ケ勘定帳ニ附ス
- 第十五 一箇年ノ諸費ハ都テ本資ト消費ヲ區別シ翌年一月中ニ表ヲ作り一枚ハ長官押印ノ上本省ニ達シ一枚ハ本寮ニ留ム
- 第十六 金銀ノ出納其定則アルモノト雖モ課長以上ノ可印ナクシテ專恣之ヲ處スルヲ得ス
賜給科 正權大屬以下ノ職務トス
- 官員以下外國人ノ俸給旅費并職工賃料其他臨時賞金等賜給スルコトヲ掌ル
- 第一 毎年一月ヨリ十二月迄各款ノ費用ヲ概算總括シテ本科歳費ノ額トナシ又歳額ヲ分テ月費ノ額ヲ定ムルニ八月々給發ノ多寡ヲ計リ十二箇月ニ區分シ前年十一月五日ヲ限リ出納科ニ達ス
- 第二 俸金ハ毎月十六日後之ヲ給ス因テ其期限前新任免職或ハ歸省病告等ヲ名簿科ニ審問シ増減アルモノハ改定査算シ廻議ニ具シテ出納科ニ送り發票ヲ受テ之ヲ配給シ式ノ如ク月給渡證印帳二冊ニ押印セシメ月末與書調印シテ出納科ニ送ル
- 第三 官員以下ノ旅費ハ發程歸著トモ名簿科ノ報知ニ依リ定則ニ照準シ發程前日數ヲ計リ廻議ニ具シテ假渡ヲ爲シ歸著ノ後日數ノ過不足ヲ決算シテ給收ス
但各建築所等出張先ノ旅費ハ凡テ其地ニ於テ支給スヘシ

第四 官備ノ外國人俸給旅費等ハ規則ニ照準シテ檢査精算シ廻議ノ後證書ヲ取テ之ヲ付ス尤發程歸著ノ日ハ其時々名簿科ノ檢印ヲ以テ證トスルコト官員ニ同シ

第五 月給旅費其他ノ假渡還納ハ大藏省書式ニ倣ヒ詳細ニ記載シ廻議ノ後其金ハ出納科ニ付ス

第六 給仕小使常用水夫又ハ一時使役スルモノハ毎月兩次勤休簿ニヨリテ日給ヲ結算シ廻議ニ具シテ之ヲ給與ス

第七 船車郵便等ノ賃料ハ其時々或ハ出金ノ定日各科檢印ノ證書ヲ附シテ廻議ニ具シ式ノ如ク發票ヲ受テ配給シ二通ノ證書ヲ取り月末之ヲ纏メ承管ノ者與書調印シテ出納科ニ送ル

第八 諸職工給料ハ各科ヨリ送ルトコロノ督役簿ニ據リ金曜日ヨリ始メ木曜日ニ至ル迄二週間ノ勤仕時間及ヒ給料ヲ合計記載シ廻議ニ具シ課長檢印ノ上出納科ヨリ之ヲ受ケ土曜日止業ノ上ニテ給與スヘシ

第九 附屬以下諸工職水火夫等臨時賑恤及ヒ賞金ハ規則ニ照準シテ數ヲ定メ其主管ノ申請狀ヲ廻議ニ具シテ長官ノ判決ヲ請フ

第十 各款ノ支給定則アルモノト雖モ課長以上ノ可印ナクシテ專恣之ヲ處スルヲ得ス
倉庫科 正權大屬以下ノ職務トス

本寮各科應用ノ器械物品及ヒ各出張所建築所注文品等ヲ購買備辦配給スル等ノ事ヲ掌ル

第一 毎年一月ヨリ十二月迄定式支給スヘキ物品ノ費用ヲ概算總括シテ本科歳費ノ額トナシ又月々給發ノ多寡ヲ計リ十二箇月ニ區分シ之ヲ册記シテ前年十一月五日ヲ限リ出納科ニ送ル

第二 月費額内ヲ以テ應用ノ物品ヲ購買スルニハ常用物品ハ課長ノ檢印ヲ證トシ其代價ヲ渡スニ當リ總括シテ長官ノ檢印ヲ受ケ其他一切ノ物品ハ價ノ高低ヲ問ハス逐件廻議シテ長官ノ檢印ヲ受ケ

第三 應用ノ物品ヲ買辦スルニハ先ツ其物品ヲ注文簿ニ記シ更ニ之ヲ別記シ課印ヲ勘合シテ商人ニ付シ代價書及標品ヲ出サシメ物品ノ可否價ノ當否等課長ノ檢査ヲ受ケ再ヒ廻議ニ具シ常用物品ハ課長

其他ハ長官檢印ノ後調進簿ニ記シテ其物品ヲ納メシム

- 第四 外國へ注文ノ器械著港スルトキハ稅關其他定例ノ如ク引取ノ手配ヲ爲シ其送狀ト比較シテ毀損ノ有無員數ノ多寡等明細ニ檢査ノ上之ヲ簿記シテ其時々長官ノ檢印ヲ受ク
 - 第五 諸物ノ代價ハ其代價物數ヲ記セル一様ノ受取書ニ通ヲ出サシメ承管ノモノ奥書調印ノ上之ヲ出納科ニ付シテ給與セシム
 - 第六 所藏ノ諸物品ハ一切之ヲ蓄藏簿ニ記シ其費用ニ供スルニハ用度附屬建築修繕等各冊ノ配給簿ニ證印ヲ徴シテ之ヲ付ス
但書籍繪圖類ハ附屬品支給簿ニ記シテ之ヲ譯文或ハ編輯科ニ付シ每三月其科ニ於テ點檢シ有無ヲ本科ニ報知セシム
 - 第七 各科ニ付スル諸資品ハ月末其品目斤量ヲ總計シ其製造物品ニ照シテ殘數ノ有無及ヒ多寡ヲ檢ス
 - 第八 本寮附屬品ハ各科附屬品簿ニ記スル所ヲ以テ每三月現物ニ對比點檢シ毀損アルハ修理ヲ加ヘ亡失アルハ之ヲ補具シ每時完備シテ缺失ナキヲ要ス
但毀損亡失スルモノアルトキハ其時々本科ニ報知セシム
 - 第九 各局并出張先ヨリ月末出ス所ノ器械出納表ハ本科ノ簿冊ニ照シテ押印シ每三月部類ヲ分チ連綴シテ課長ニ出ス
 - 第十 諸物品ノ内廢器等賣却スヘキモノハ廻議ノ上入札公賣シ代金ハ出納科ニ送ル
 - 第十一 本寮常用ノ物品其他凡テ定例ニ遵ヒ各科ノ證印ヲ取ラサレハ付與スルヲ得ス且倉庫内ハ常ニ整頓シテ出入ヲ便ニスヘシ
精算科 正權大屬以下ノ職務トス
- 本寮及各出張所建築所等一切出納ノ得失品價ノ當否本寮消費ノ多寡ヲ檢査精算スル等ノ事ヲ掌ル
- 第一 毎月勘定帳ヲ檢査スル功程ハ出納科ヨリ付スル後四日ヲ限リトス若誤謬等アラハ其主任ニ推問シテ改修セシメ清查訖テ其表紙ノ右端ニ記名押印シテ之ヲ課長ニ出シ長官押印ノ上翌月十日ヲ期トシ本省ニ達ス

電信寮技術課處務規定
十五年十月二十四日電信
局處務規程ヲ定ム

- 第二 各建築所ヨリ各月進達スル勘定帳ハ出納科ヨリ之ヲ受テ檢査精算シ若物價工料其他適當セサルコトアルカ或ハ式ニ觸ル、モノアルトキハ其次第ヲ詳記シテ課長ニ告ケ返還シテ改正セシム故ニ精査ノ功程期ニ後ル、モノハ其事實ヲ長官ニ申報シテ本省ニ達ス
 - 第三 建築製造修繕等別ニ額費ヲ立ル者ハ最初ノ廻議ニ照シテ檢査ヲ加フヘシ
 - 第四 常ニ各所物品代價職工雇夫ノ賃料等ヲ詳記シ諸出納皆之ニ比考シ其得失當否ヲ檢査スヘシ
 - 第五 凡テ本科ニ於テ檢査精算スル簿冊ヲ他ニ返還シ又ハ本省ニ達スル等必ス課長以上ノ指令ニ依ラシテ專恣之ヲ處スルヲ得ス
- 以上之ヲ大屬以下事務ノ制限トス然レトモ寮務繁劇ノ際ハ課中互ニ協助スヘシ出仕官員ハ本級ヲ以テ本官ト事務ヲ同クス
- 右分科處務規定本省ノ判決ヲ得テ定ル所ナリ能ク之ヲ守リ其定限ヲ愆ル勿レ
- 明治六年四月 電信頭 石丸安世
- 電信寮技術課處務規定 六年四月日附
- 本寮技術一切ノ事務ヲ總括シ建築航運修技製機ノ四科ヲ設ク
課長
- 課中ノ事務ヲ掌管擔當ス
- 掌管ノ事務ヲ整理スルニ於テハ長官ニ對シテ其責任ヲ有ス
- 擔當ノ事務ニ於テ其當否ヲ長官ニ對シテ論辯スルヲ得
- 課中大屬上師以下及各科技學生徒ノ能否勤惰ヲ監視シテ長官ニ白スルヲ得
- 長官ノ令ニ從ヒ架線ヲ設クヘキ海陸樞要ノ地ヲ巡查シ其利害得失ヲ開陳ス
- 每歲本寮及各所ノ工業ハ長官ノ指令ニ因テ之ヲ調査シ一歲及各月功程ノ緩急ヲ計リ其費用ヲ主計長ニ合議シテ之ヲ冊記シ期ヲ以テ長官ニ呈シ可印ノ後淨書シテ本省ニ達ス

課中施行ノ事務ハ每款章程及規定ニ照準シテ廻議ニ押印シ其事務ノ急ナルモノハ急ノ字ヲ朱書シテ長官ノ可印ヲ受ケ各科ニ付シテ之ヲ辦理セシム
電線ヲ設ケント欲スルトキハ線路精細ノ測量圖誌及資品購買ノ便否ヲ酌量シ諸費ノ概算等ヲ作テ長官ニ致ス

電機建築中實地ヲ巡視シ其落成ニ臨ミ果シテ建築録ニ齟齬セサルヤ否ヤヲ検査シテ長官ニ開報ス
建修及各般ノ工業費用物品ハ本課ニ於テ之ヲ詳記シ同議ニ具シテ長官ニ呈ス之ヲ買辦スルハ倉庫科ノ主任ト雖トモ其物品ノ是非得失ハ本科之ヲ論辯スルヲ得
各所電機其外ノ保全ヲ注意シ若損破等ノ開報アラハ速ニ補理セシメ不通ノ憂等ナカラントヲ要ス
權課長

課長ニ亞テ其職掌責任ヲ同クス

以上助以下委任官或ハ中少長ノ職任トス然レトモ關員アルカ或ハ事務繁簡ニ因リ主記主計兩課ヲ兼又ハ權課長心得ノ名ヲ以テ正權大屬上中師ヨリ補攝セシムルコトアルヘシ
建築科 大屬及上師以下ノ職務トス

電機建設補理測量製圖職工傭夫ヲ使役シ及各局官舎ノ新築修繕等ヲ掌ル

第一 電機ヲ建設スルトキハ沿道ノ遠近迂直山野河海ノ險夷深淺等精密測量シ明細圖誌ヲ作り經營諸費ノ概算ヲ附記シテ課長ニ致ス施行ノ際ニ當テハ能ク圖誌ト建築録トニ照應シテ竣工ノ期ヲ愆ルナキヲ要ス

第二 毎年一月ヨリ十二月迄本寮并各所ニ於テ建築修理スヘキ諸般ノ工程ヲ總計シ其費用ヲ概算冊記シ又各月施行ノ緩急順序ニ因リ之ヲ十二箇月ニ區分シ前年十一月五日ヲ期トシ課長ニ致ス

第三 凡建築修理ヲ與サントスルトキハ先ツ資用物品ノ數目價值及各職ノ工程ヲ計算シ工業ノ難易大小ニ因テ大凡竣工ノ目途ヲ立其結構ノ方法ヲ詳記シ建築録同表ヲ作り同議ニ附シ長官ノ判決ヲ乞
第四 工業既ニ判決ヲ得ルトキハ建築修理ノ前後費用スヘキ物品ハ倉庫貯蓄ノ有無ヲ計リ預備ナキモ

ノハ主計課ニ達シテ辦理セシメ既ニ實地經始スルニ臨テハ承管ノ者衆工ニ先チ工場ニ登テ督責シ業畢テ後ニ退キ其功程物品等ハ當初ノ決議ニ照比點檢シ期ヲ愆ラス竣工セシムルヲ要ス

第五 建築修繕等ハ創功ヨリ竣工ニ至ル迄實地ヲ檢履シ工程ノ部分ト費用ノ金高ヲ式ノ如ク工程表ニ掲ケ毎月三日ヲ期トシ發送シテ課長ニ致ス
但各地ノ都合ニ因リ事故アリテ遲延スルハ此例ニアラス

第六 工業既ニ竣工ニ至ルトキハ右ニ係ル物品職工ノ員數及ヒ創竣ノ月日其他經營中ノ事務總テ後考ニ備フヘキモノハ逐件竣工録ニ登記シテ之ヲ課長ニ致ス

第七 經營中若費用ノ増減或ハ模様換ヲ要スル時ハ其事狀ヲ詳細回議ニ具シ再ヒ長官ノ判決ヲ經テ之ヲ施行ス
但臨時模様換等回議ヲ要スルモノハ假令官傭外國人ヨリ建議スル事ト雖モ具狀シテ長官ノ許可ヲ得ルニ非レハ一切之ヲ施行スルヲ得ス

第八 諸般ノ建修投票ヲ以テ受負ニ委付スルト諸工ヲ募テ傭役スルノ得失ハ便宜ニ因テ商量シ課長ニ開陳シテ長官ノ判決ヲ乞フ

第九 投票ヲ以テ受負ニ委付スルトキハ先ツ投票ヲ集メテ廻議ニ具シ長官ノ判決ヲ受テ更ニ證據ヲ徴シテ之ヲ委付シ既ニ創功セハ實地經營ノ精粗當初ノ經畫ニ違錯ナキヤ否ヲ點檢ス

第十 受負ノ者費用ノ内金渡ヲ請フトキハ成功ノ部分物數ノ多寡ヲ量定シ申請狀ニ檢印シテ之ヲ主計課ニ付ス

第十一 常雇職工并雇夫ノ作業時間ハ毎日督役簿ニ記載シ毎二週(金曜日ヨリ初メ木曜職工ノ日給ヲ記載シ之ヲ賜給科ニ送り其勤仕時間給料ヲ合計記載セシメ毎二週休日ノ前日止業ノ上各職工ニ給與セシム且各款營作ノ工數ヲ合一スヘカヲサレモノハ區別シテ工程參考ノ便ニ供ス

第十二 傭夫ノ巧拙勤惰ヲ監視シ取捨交換スヘシ尤定傭ハ課長ノ許可ヲ得ルニ非レハ躡陟スヘカラス

- 第十三 諸般ノ工業竣工ノ後費用ノ物品殘數アルトキハ品名數量價值ヲ詳記シ倉庫科ニ付シテ課長ニ開報シ若倉庫ニ貯藏スヘカラサルモノハ課長ノ指揮ヲ受ク
- 第十四 線路ノ損害ヲ見聞スルトキハ速ニ其形狀ヲ検査シ修繕ヲ加ヘテ捷通セシメ損害ノ情狀ヲ併セテ本寮ニ開報ス
- 第十五 各出張所器械并諸資品ノ受拂ハ月末表ヲ作テ倉庫科ニ付シテ本寮ニ送ラシム
- 第十六 測量器及製圖器械若損破亡失スルトキハ其時々之ヲ課長ニ報ス
- 第十七 貯藏ノ圖書ハ目次號數ヲ記シ他官員借覽ヲ乞トキハ證印ヲ徴シテ之ヲ付ス
- 製機科 大屬上師以下ノ職務トス
 - 第一 毎年一月ヨリ十二月迄修繕等ニ係ル本科諸般ノ費用ハ建築科并ニ倉庫科ニ商量シ之ヲ概算冊記シ又各月工業ノ繁簡ヲ計リ十二箇月ニ區分シ前年十一月五日ヲ限リ課長ニ致ス
 - 第二 倉庫科ヨリ諸機械ノ製造ヲ要スルトキハ本科ニ於テ製シ得ヘキト得サルトヲ分別シテ課長ニ白シ製シ得サルモノハ倉庫科ニ還付ス
 - 第三 諸機ヲ製造修繕スルトキハ先ツ製圖ヲ課長ニ呈シ長官決定ノ後チ之ヲ製作修治シ倉庫科ニ送ル
 - 第四 裝置ノ諸機破壞スルノ開報アラハ其次第ヲ課長ニ開陳シ倉庫科ニ合議シ豫備品ヲ以テ之レニ換ヘ其破壞スル物ハ速ニ修補シ倉庫科ニ付ス
 - 第五 諸職場ノ備品ハ一々簿記シテ本科之ヲ監守シ若シ損失アルトキハ其時々之ヲ課長ニ告ク
 - 第六 内外調進ノ諸機收納ノ際倉庫科ヨリ開報ヲ得ルトキハ其物品ノ適不適ヲ検査スルヲ要ス
 - 第七 各科ヨリ要スル諸製造品ハ毎科ニ簿冊ヲ作り品名數量ヲ詳記シ成工ノ上之ヲ其科ニ付シ簿冊ニ交付ノ印ヲ記ス其本科製造ニ費用スル物品ハ之ヲ簿記シ課長檢印ノ後チ倉庫科ニ付シ之ヲ受ク
 - 第八 倉庫科ヨリ受ル諸製造資用物品ノ殘數ハ月末ニ至リ資品受取簿ト製品納簿ト照比シテ其殘數ノ多寡減量ノ當否ヲ検査シ其殘數ハ倉庫科ニ報ス其貯蓄品受取簿ヲ以テ受ル所ノ物品其片端ヲ餘スモ

- ノ八月末又ハ時々之ヲ總括シテ同科ニ付ス
- 第九 工場使役ノ諸職工ヘ兼テ名牌表ニ職名番ヲ與ヘ置キ之ヲ每朝著到ノ時改所ノ名牌箱此ノ箱ハ名一枚ヲ入一枚ヲ入ヘキ穴ヘ指入シメ各其職場ニ登リ鳴鐘ヲ期トシ就業セシメ箱中ノ名牌ハ鳴鐘ヨリ五分ヲ期シテ取出シ職名及番號ヲ記スル木盤上ニ配列シ以後十五分毎ニ箱中ノ名牌ヲ取出シ同ク盤上ニ配列シ遅刻ノ時間ハ別ニ前ノ木盤ト同シク職名番號ヲ記タル石盤ヘ番號ヲ合セテ之ヲ記シ不參ノ者モ番號ニ合セテ石盤ニ記ス
- 第十 午食及休息ノ鳴鐘以前其名牌ヲ各工場ニ持シテ銘ヤニ付シ始業ノ以前改所ノ箱中ヘ入ル、コト及時間ノ検査ハ每朝著到ノ時ニ同シ止業退家ノ以前ハ其名牌ヲ付シテ翌日之ヲ入ルコト前ノ如シ
- 第十一 常備職工并雇夫ノ仕業時間ハ毎日前ニ記シタル石盤ヨリ其不勤時間ヲ式ノ如ク督役簿ニ記載シ毎二週金曜日ヨリ水曜日ニ至ルマテ二週ヲ云フ職工ノ日給ヲ記入シテ之ヲ賜給料ニ送り其勤仕時間給料ヲ合計記載セシメ毎二週休日ノ前日止業ノ上各職工ニ給與セシム
- 第十二 式ノ如ク督課簿ヲ製シ諸製作品ヲ部分シ毎日二度職工ノ課業ヲ檢シテ各職從事ノ時間ヲ詳記シ各品ノ工數賃料ヲ明ニス
- 航運科 大屬上師以下ノ職務トス
 - 附屬船ヲ廻漕シ海底線ヲ監視シ各處電信局諸般ノ運輸ヲ掌ル
 - 第一 毎年一月ヨリ十二月迄航運碇泊及各所建築所用ノ器械物品等運輸ニ屬スル費用ヲ總計シ又各月ノ繁簡ヲ計リ十二箇月ニ區分シ前年十一月五日ヲ期トシ課長ニ致ス
 - 第二 海底線ヲ設クルニハ精密ニ實地ヲ測量シ距離ノ里程海底ノ淺深流潮ノ順逆等ヲ詳細具狀シテ課長ニ致ス
 - 第三 既成ノ海底線裝置ノ形狀ニ變異アルカ又ハ浮票ノ損害アルカ否ヲ巡視シテ其景況ヲ課長ニ致ス
 - 第四 船中用度其他ノ物品ハ各月主計課ヨリ領收シ月末ニ至リ其用所ヲ詳記シテ課長ニ致シ臨時買辨スヘキモノハ廻議ニ具シテ長官ノ決ヲ經テ之ヲ主計課ニ付ス

- 第五 附屬船及機關其他ノ物品等修復ヲ要スルトキハ廻議ニ具シ長官ノ指令ヲ受ク
- 第六 航海中天度ノ經緯氣候ノ變異汽關運轉ノ緩急船行ノ遲速潮流ノ強弱及油石炭等ノ消費乘組人員ノ安否其他非常ノ事件ニ至ル迄逐一日記シ歸港ノ後長官ニ呈ス
- 第七 電機建設ニ係ル諸器械物品ヲ運輸スルトキハ各管ノ運輸證券ニ依テ其物品ヲ領收シ之ヲ保全シ各處ニ配達シテ受證ヲ徵シ歸港ノ上之ヲ各管ニ付ス
- 第八 本寮免許ノ證券ヲ持シテ便船ヲ乞フトキハ都合ニ依リ乘船ヲ許スト雖モ航海ノ日數ニ應シ食料其他ノ費用ヲ出サシメ之ヲ本寮ニ納ム
- 第九 水火夫以下定員ニ増減スルハ必ス長官ノ許可ヲ請フ且從來使役ノ人員事故アリテ更換スルトキハ其次第ヲ詳記シテ課長ニ報ス
- 第十 船中附屬品若損破亡失スルトキハ其時々之ヲ課長ニ報ス
- 修技科 大屬上師以下ノ職務トス
- 本寮ノ技術生ヲ選ヒ各局ヘ派出シ及生徒ノ勤惰ヲ督勵スル事ヲ掌ル
- 第一 本寮技學志願ノ者其管轄廳又ハ親族等ノ保狀ヲ有シテ入校ヲ申請セハ先其身體ノ強弱ト學力ノ深淺トヲ試験シ生徒心得書ヲ示シ異存ナキモノハ長官ニ稟議シテ就業セシメ再ヒ試験ノ上教師ノ具狀ニ依リ長官ニ開陳シテ判決ヲ乞フ
- 第二 傳習中ハ其揭示スル各件ノ條例及ヒ其他ノ規則ヲ嚴守セシメ若違犯スル者アルトキハ其情狀ヲ課長ニ開陳シテ處分ヲ乞フ
- 第三 生徒日々修技場ニ出ルトキハ登場簿ニ押印セシメ若定時登場セサルモノハ病患其他ノ事狀ヲ詳ニシ本日不參ノ印ヲ押シ各月表ヲ作りテ課長ニ呈ス
- 第四 毎歲大小試験ノ後各員進歩ノ甲乙表ヲ教師ヨリ出サハ前期以後登場日數ノ多寡ヲ點檢シ進歩ノ遲速ヲ審査シテ其次第ヲ課長ニ白ス
- 第五 毎年四度試験ヲ遂ケ其優劣ヲ課長ニ白シ長官許可ノ後名牌ヲ改ム

- 第六 各局ヘ派出スヘキ技術生ハ技業熟達性行直實ノ者ヲ撰ヒ教官ト評量シテ課長ニ白ス
 - 第七 各局在勤ノ技術生疾ニ罹リ又ハ事故アリテ交代スルカ或ハ増減スル等ハ課長ニ具狀シテ其指揮ヲ乞フ
 - 第八 器械ノ損失アレハ課長ニ告テ修理ヲ加ヘ若シ扱ノ疎漏ヨリ毀損ヲナストキハ其事狀ヲ課長ニ開具ス
 - 第九 本科ニ屬スル書籍并製圖及諸器械ノ類號數ヲ簿記シ每三月點檢シ若シ缺失等アレハ倉庫科ニ報ス
 - 第十 各生ヨリ圖書借覽ヲ乞フトキハ其人名書名ヲ簿記シテ之ヲ付シ月末課長ノ檢印ヲ受ク
 - 第十一 定限ノ用度物品ハ簿記シテ倉庫科ヨリ之ヲ受ケ其他臨時ノ物品ハ課長ニ告ケテ指揮ヲ受ク右分科處務規定本省ノ判決ヲ得テ定ル所ナリ能ク之ヲ守リ其定限ヲ愆ル勿レ
- 明治六年四月
電信頭 石丸安世

電信寮出張所ヲ大阪ニ
置ク
十年一月廢ス

電信寮大阪出張所事務
規程

- 工部省沿革報告抄錄 六年十二月五日
電信寮出張所ヲ大阪府高麗橋ニ創置ス
- 電信寮大阪出張所事務規程 七年三月二十一日
- 第一款 西京大阪神戸局官員以下技術方等時宜ニ從ヒ出張或ハ不得止事情有之一時局詰交換爲致候事
 - 第二款 西京神戸間線路臨事損害ハ勿論腐柱等取換并各局尋常修理等取計候事
 - 第三款 但山陽道西海道線路ノ義モ時宜ニ依リ本文ニ準シ取計候事
 - 第三款 官員身分ニ關スル條件ハ本寮ニ申達スル勿論ナリト雖モ父母急病ニ罹リ或ハ其身疾病危篤ニノ往復ノ間ヲ待ツ可ラサル者ハ歸郷等申達候事
 - 但同居送籍忌服改印等ハ即時承届候事

第四款 工夫ヲ始驅使看守人其他使役ノ者共ノ勤惰ヲ糺シ具狀シテ其賞罰ヲ請ヘシト雖モ其機ニ臨ミ一時勸獎ノ爲メ二圓以下ノ賞金ヲ與ル事

第五款 事務繁劇ノ際一時通辯翻譯并寫字生計算等ノ爲メ月七圓以下日給ヲ以雇使スル事但管轄廳へ通達等可取計事

第六款 常用諸器械等ノ内臨時缺乏品有之節其物品ヲ製作又ハ買辦スル事

第七款 事ヲ執ルノ際若シ臨時急務ニ處スルニ當ツテハ本寮ニ稟議スヘキ事件ニ屬スト雖モ其ノ大體ニ妨ケ無キ者ハ便宜之ヲ裁決スル事前書ノ通事務規程相定候條諸件右ニ照準施行可致勿論其時々詳細開報可致事

電信寮ヨリ工部省へ届七年三月二十一日

當寮大阪表出張所ノ義兼テ同濟ノ通西京以西各局諸帳簿検査其外最奇局々爲取締奏任ノ者一名出張爲致候ニ付テハ事務ノ義別紙ノ通爲心得候積有之候此段御届申進候也

電信寮外人通辯給與規則

電信寮ヨリ工部省へ伺定 七年三月日

當寮御雇外國人ノ内線路改役并技術方ノ義御用多端ノ節ハ定式勤務時限ノ外働越又ハ日曜日ニテモ罷出諸用取扱候義有之候處別段手當等差遣候義無之右ハ鐵道外三寮ノ振合モ有之旁御手當被下方勤辦致候處向後別紙ノ通規則相立線路改役ハ職務時間一日九時ノ外働越候節ハ一時間四十錢日曜日ハ同斷九時分三圓六十錢技術方ハ一周間四十八時働越候節ハ是又四十錢日曜日ハ同斷八時分三圓二十錢被下方候得ハ當寮職務ニ應シ相當可致裁ト存候間右ノ通夫々御手當被下方取計申度依之別紙相添此段相伺候也

寮名	職名	月給	一月二十日割ノ高	職務時間	働越毎時手當	日曜手當
電	線路改役	九	九	九時	四十錢	三圓六十錢
電	技術方	四十八	四十八	一周間四十八時	四十錢	三圓二十錢
鐵	大工	八時四十分	八時四十分	八時四十分	元給一倍半	元給一倍半
鐵	官鍛冶	八時四十分	八時四十分	八時四十分	元給一倍半	元給一倍半

職名	月給	一月二十日割ノ高	職務時間	働越毎時手當	日曜手當
鐵路布	四十一	四十一	四十一分	元給一倍半	元給一倍半
小細工方	八時四十分	八時四十分	八時四十分	元給一倍半	元給一倍半
汽罐方	四十一	四十一	四十分	元給一倍半	元給一倍半
燈臺職方ノ者	十	十	十時	元給時間割	元給一日分
鑛山職方ノ者	十二	十二	十二時	一弗ツ、	四弗
製作職方ノ者	八	八	八時	未定	未定

職名	月給	一月二十日割ノ高	職務時間	働越毎時手當	日曜手當
線路改役	九	九	九時	年給五封毎二一時間半片ノ割	同
技術方	八	八	八時	但十片ヲ以テ増手當ノ順上トス則二十仙ナリ	同

線路改役

- 一 毎日勤務時間ハ食時時限ヲ除キ九時間トス
- 一 急務アリテ午前八時前若シクハ午後八時後或ハ日曜日ノ中ニ呼出シ從事セシムルニ於テハ増手當ヲ給與スヘシ
- 一 働越ノ事實并時分精細ニ届出テ將々附添ノ日本官員ニテ證印スヘシ
- 一 一時毎ニ四十錢ノ割ヲ以テ増手當ヲ給與スヘシ

電機取扱方

- 一 毎日勤務ノ時間ハ八時間トス
- 一 本ヨリ局務取纏メ等ニテ暫時滯局スルトモ働越ト言フヘカラス
- 一 一日八時以上別段ノ働越并日曜日ノ勤務ニハ毎時四十錢ノ割ヲ以テ増手當ヲ給與スヘシ

一 働越ノ事實精密ニ局内日記ニ記載スヘシ
一 請持ノ建築助檢印ノ上其寫ヲ毎周本寮ヘ差出スヘシ

日本橋以下十電信局ニ
檢査掛ヲ置ク

工部省ヨリ電信寮ヘ指令 七年八月廿四日

諸第四百四十四號日本橋以下九箇局ヘ檢査掛爲相詰候儀伺ノ通可取計候也 伺文關ク

日本橋 築地 横濱 豊橋 彦根 川口
神戸 尾ノ道 赤間關 長崎 以上十局
但十三四等以上九等以下トス

通信事務ヲ掌ル局ヲ某
分局ヲト稱ス

工部省沿革報告抄錄 十年一月十一日

電信寮ヲ廢シ電信局ヲ置
クコトハ官署寮ノ部ニ
載ス

電信寮ヲ廢シ更ニ電信局ヲ置キ通信事務ヲ料理スル局ヲ某分局ト稱シ以テ本局ニ分ツ

電信寮大阪出張所ヲ廢
ス

工部省沿革報告抄錄 十年一月十一日
大坂出張所ヲ廢ス

電信建築學校ヲ廢ク

工部省沿革報告抄錄 十一年一月廿四日

電信中央局ヲ木挽町ニ
設ケ築地分局ヲ廢ス

潮留解舎中ニ電信建築學校ヲ置キ技手及ヒ修技生ヲ擇ンテ入校セシメ以テ之ニ測量建柱接線及ヒ電池
ノ調製器械ノ運用等ノ方法ヲ教授ス

電信中央局ヲ木挽町ニ
設ケ築地分局ヲ廢ス

工部省布達 十一年三月十五日

今般東京府下第一大區十小區木挽町十丁目十一番地ニ於テ電信中央局ヲ設置シ本月二十五日開局通信
取扱候ニ付テハ同府下築地電信分局ノ儀ハ同日限廢止候條此旨布達候事

○工部省届アリ運輸門電信ニ載ス

電信局ニ音信調査掛ヲ
置ク

電信局ヨリ工部省ヘ届 十一年七月十九日

音信調査掛

右掛名新規相設候間此段及御届候也

電信局ニ製機掛ヲ置ク

電信局ヨリ工部省ヘ届 十一年九月三十日

潮留製機所之義是迄倉庫部内ニ屬シ居候處實際不都合ニ付今般製機掛取設申候此段御届申進候也

電信各分局ノ等級ヲ改
定ス

電信局ヨリ工部省ヘ上申 十三年十二月二十七日

電信各分局等級之儀新規開設之分等收入金多寡ニ應シ今般更ニ別冊之通相定候間此段及上申候也

十七年二月二十八日改定
ス

中央局

一等局之部

日本橋分局

高麗橋分局

鹿兒島分局

二等局之部

兩國分局

金澤分局

福岡分局

秋田分局

横濱分局

心齋橋分局

長崎分局

静岡分局

岡山分局

熊本分局

仙臺分局

西京分局

神戸分局

新潟分局

名古屋分局

廣島分局

山形分局

盛岡分局

川口分局

赤間關分局

岐阜分局

尾ノ道分局

酒田分局

青森分局

- | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 福島分局 | 三等局之部 | 本郷分局 | 四ッ谷分局 | 葵町分局 |
| 淺草分局 | 八王子分局 | 甲府分局 | 小田原分局 | 上諏訪分局 |
| 赤羽分局 | 横須賀分局 | 濱松分局 | 四日市分局 | 沼津分局 |
| 福島驛分局 | 掛川分局 | 桑名分局 | 水口分局 | 豊橋分局 |
| 藤枝分局 | 水口分局 | 彦根分局 | 福井分局 | 津分局 |
| 岡崎分局 | 桑名分局 | 松坂分局 | 大津分局 | 山田分局 |
| 龜山分局 | 水口分局 | 松坂分局 | 坂井湊分局 | 敦賀分局 |
| 大垣分局 | 彦根分局 | 福井分局 | 富山分局 | 大聖寺分局 |
| 武生分局 | 福井分局 | 伏木分局 | 和歌山分局 | 魚津分局 |
| 高岡分局 | 伏見分局 | 塚分局 | 今治分局 | 姫路分局 |
| 伏見分局 | 丸龜分局 | 須崎分局 | 德島分局 | 松山分局 |
| 丸龜分局 | 須崎分局 | 宇和島分局 | 三田尻分局 | 八幡濱分局 |
| 須崎分局 | 萩分局 | 鳥取分局 | 松江分局 | 山口分局 |
| 宇和島分局 | 鳥取分局 | 延岡分局 | 小倉分局 | 米子分局 |
| 萩分局 | 延岡分局 | 八代分局 | 久留米分局 | 大分分局 |
| 鳥取分局 | 八代分局 | 浦和分局 | 熊谷分局 | 佐賀分局 |

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 前橋分局 | 高崎分局 | 小諸分局 | 上田分局 |
| 松代分局 | 松本分局 | 長野分局 | 直江津分局 |
| 柏崎分局 | 出雲崎分局 | 長岡分局 | 新發田分局 |
| 千葉分局 | 佐倉分局 | 栃木分局 | 宇都宮分局 |
| 水戸分局 | 白川分局 | 米澤分局 | 横手分局 |
| 鶴ヶ岡分局 | 石ノ巻分局 | 一ノ關分局 | 釜石分局 |
| 官古分局 | 八ノ戸分局 | 弘前分局 | |

工部省上申 十五年十月二十三日
 當省中電信局之儀事務之都合ニ依リ來ル十一月一日ヨリ木挽町八丁目一番地へ移轉候間此段上申候也

電信局處務規程

十八年六月三日電信中央局及分局處務規程ヲ定ム

電信局處務規程 十五年十月二十四日

電信局ハ電信一切ノ事務ヲ管掌ス其綱領左ノ如シ

- 一 全國要衝ノ地方ニ就テ線路ヲ測定シ電機ヲ建設シ内外公私ノ爲メ報信往復ノ便利ヲ開ク事
 - 一 各地電信分局ノ處務ヲシテ其規則ノ如ク均一整頓セシムル事
 - 一 既成ノ電機ヲ保守シ耐久ナラシムル事
 - 一 本局要務ノ諸技術ヲ開進スル事
- 以上各條其管掌ノ本務トス然リ而シテ其事ヲ處スルニ當リ卿ノ決判ヲ乞フテ然後施行スヘキモノアリ卿ノ決判ヲ乞ハスシテ專任處置スヘキモノアリ總テ事務章程通則ニ率由スヘント雖モ又其輕重ヲ權リ部類ヲ分チ通則第十條ニ依リ處務規定ヲ立テ其例目ヲ掲ケ左ノ如シ

- 稟議決判ヲ乞フ諸件
- 一 諸規則制定改正ノ事
- 一 電信線新設置局并線路更正ノ事
- 一 用地請求并不用地賣却ノ事
- 一 功勞アル者及ヒ事務勉勵ノ者へ賞賜ノ事
- 一 諸省中へ電信分局設置ノ節條約書交換ノ事
- 一 電信萬國公法改正施行方布達ノ事
- 一 海外電報料金制定改正ノ事
- 一 官舎建設ノ事
- 一 定額外費用ノ事
- 一 常用ノ外外國ヨリ器械物品ヲ購買スル事
- 一 正貨増額ノ事
- 一 興業費年度外三箇月使用方ノ事
- 一 興業費小科目以上流用ノ事
- 一 棄捐拂金ノ事
- 一 懲戒例ニ因リ譴責罰俸等申付方ノ事
- 一 意見ヲ具シ上申スル諸件
- 一 各分局開局告示案ノ事
- 一 電線架設分局設置方諸府縣ヨリ願出并ニ其地方人民ヨリ獻金獻地等へ指令案ノ事
- 一 諸官衙ヨリ電線架設依頼ニ付起工ノ事
- 一 内國博覽會出品等ノ事
- 一 除服出仕ノ事

但在東京ノ判任官ニ限り具申シテ辭令書ノ下付ヲ乞フ其府外在勤ノ者并ニ等外吏以下ハ之ヲ決行ス

御門鑑汽車免狀等請求ノ事
但遺失交換等

右意見ヲ具シ上申シタル件ハ意見ノ通施行ナリシヤ否ヤ其翌日マテニ書記局ヨリ通報スヘキモノトス
決行ノ後上申ノ諸件

- 一 修技生入校許可進級及退校ノ事
- 一 地理局其他ニテ經度測量ノ節時日ヲ定メ電線貸渡ノ事
- 一 萬國電信事務局へ株金等拂渡ノ事
- 一 常用ノ物品ヲ外國ヨリ購求スル事
- 一 各分局詰官吏へ定期手當金給與ノ事
- 一 驅使工夫等ニ兼テ定限アル手當金給與ノ事
- 一 常雇職工滿期手當金給與ノ事
- 一 官吏以下職工等負傷現費仕拂ノ事
- 一 官吏以下職工等流行病ニ罹リタル時諸費仕拂ノ事
- 一 各分局等級制定并改正ノ事
- 一 電信報告書
- 一 電信賴信紙出版賣捌ノ事
- 一 本局構内巡視ノ者被服渡方ノ事
- 一 分局電柱其他水火災ニ罹リタル事
- 一 電信條例違犯者處分濟ノ事
- 一 盜難ノ事

一 犯罪逃亡者并其處分濟等ノ事
右ニ掲載スルノ外下間ノ事項ニ對シ意見ヲ具申スル者或ハ臨時ノ事件等其大小輕重ニヨリ前諸件ノ類例ニ照シテ施行スヘシ

書記科

本科ハ卿へ進達スル稟議具申及諸官衙ノ往復局中各科各分局へノ達指令等諸文書ノ考案ヲ起シ其當務ヲ理シ月報年報并統計全表ヲ編纂シ又官吏ノ名簿履歷ヲ詳ニシ諸辭令ヲ書シ徵招派遣ノ達書及身分ニ係ル願同ノ指令等ヲ執行シ又諸文書ヲ受付シ印鑑ヲ監守シ勤怠表ヲ作り且布告其他諸文書ヲ編輯保存スル等ノ事ヲ掌ル

外信科

本科ハ電信萬國事務局同盟國電信各局及内外人ノ諸往復各分局へノ達指令等歐文書ノ考案ヲ起シ其當務ヲ理シ又外國書籍文書ヲ翻譯シ外國人ニ應接シ并ニ本局所藏ノ書籍ヲ監守スル等ノ事ヲ掌ル

調査科

本科ハ内外電信官私局報ノ通數及料金ヲ精査シ其計表ヲ作り又各分局通信ノ多寡及電報送受上差謬ノ有無ヲ勘査スル等ノ事ヲ掌ル

工務科

本科ハ電信線架設保守各分局官舎構造等一切ノ工事ヲ執行シ其經費ノ豫算及之レニ適用スル器械物件ノ品數ヲ計畫シ各線各分局ヨリ需求スル電機用具ノ當否ヲ考査シ電氣ニ關スル諸器械及條線ノ試験ヲナシ線路區畫ノ改正及局用地所ノ事ヲ管シ又線路明細表電機興廢年表及繪圖ヲ製シ并ニ工夫看守人等ノ事ヲ掌ル

修技科

本科ハ電機通信技術生徒教育ノ事務ヲ理シ學科術科及算術習字ヲ教授シ其進退黜陟及各分局技手ノ派遣交送ノ事ニ於テ考案ヲ付シ名籍ヲ詳明シ勤惰ヲ董督シ并ニ校用ノ書籍ヲ監守スル等ノ事ヲ掌ル

十六年九月十日工務科ノ事務ヲ分テ試驗科ヲ設ケ

倉庫科

本科ハ局中需要供給ノ器械物品ヲ購買貯蓄シ各線各分局用ノ常備品消耗品等定期若クハ臨時ノ請求ニ應シテ之ヲ支出運送シ又製機用ニ關スル物品ヲ支收シ其數量ヲ査シ出納ヲ明ニスル等ノ事ヲ掌ル

製機科

本科ハ通信機器其他電機ニ係ル一切ノ器械及建築用諸具ヲ製造修補シ并ニ職工雇工ヲ督使スル等ノ事ヲ掌ル

主計科

本科ハ作業收入金興業營業兩費ノ豫算精算及俸給旅費ノ支給其他都テ費途ニ關スル事ヲ擔任シ出納檢査簿記ヲ詳ニシ其出納ノ月報年報總計表ヲ製スル等ノ事ヲ掌ル

電信局ヨリ工部省へ同十五年十月二十四日
當局主管ノ處務規定取調可伺出旨第六十七號御達相成候ニ付即チ別紙ノ通取調候此段相伺候也

電信局ヨリ工部省へ同定 十五年十二月二十一

近來各地方ヨリ頻ニ電信架設置局ノ義願出土地人民渴望ノ情ヨリ獻金又ハ地所建物等差出度旨續々出願有之候處假令獻金獻地等イタシ候共置局ノ適不適ニ因リ候ハ勿論ノ義ニ有之其上出願者ノ需ニ應シ候時ハ宿驛毎ニ置局ヲ設ケサルヲ得サル勢ニ有之到底實施難相成又在來ノ開局地ヨリ僅ニ二三里ノ地方ニ於テハ電信ノ設ケナク共敢テ差支モ有之間敷次第ト存候間將來ハ收支ノ償ヲ得サル土地柄ト見込候分ハ置局不致事ト取極右等ヲ成規ト致シ取調候様可致且又土地人民ノ願ニ因リ置局致シ候分ハ開局ノ末自然收支償不能節ハ其不足ハ補充候様兼テ申論シ候上建設可致ト存候依テ此段相伺候也

電信局ヨリ工部省へ同定 十六年四月十七日

金錢受授ニ係ル諸費組受證各分局ヨリ差出候檢印帳夥多ノ内誤謬等往々有之分瑣末ノ事項ト雖トモ訂

各地方へ電信架設許否取扱方

電信局ニ各分局ノ會計總理員ヲ設ケ

正ノ爲メ一々往復ヲ要シ來リ候處元來分局ハ北海道ヲ始トシテ多クハ遠隔地方ニテ夫レカ爲メ許多ノ日子ヲ費シ決算時期相後レ差支尠カラス且局詰ノ内技手ニテ事務兼任ノ向モ有之悉ク會計上熟達ノ者ノミニモ無之因テ爾後諸商人等ノ證書ハ格別分局詰ノ者職務上ヲ以テ差出候證書類即チ郵便切手遣拂同爲替料支拂證及ヒ旅費月俸賄料等ノ事由認メ方不完全ノ廉其他現金收支ノ際他ノ證據ト符合致シ居候得共附屬證ノ書損ナルモノ、如キ瑣末ノ事項ハ本局中ニ其總理員ヲ定メ置キ修整取計ヲハセ申度然ラハ事務上ノ便利ハ勿論徒ヲニ往復郵便稅モ幾分耶ハ相省ケ當ニ簡便ノ主義ノミニ無之各分局ノ如キモ所々ニ散在シ數多ノ會計取纏メ候儀ハ右等ノ方法ニモ無之テハ連モ年度内ニ諸般完結致シ候ハ無覺束義ト存會計局長ヘモ打合せニ及ヒ候處其便法ヲ設ケ爲取計候共差支無之趣ニ付右主任ノ者一兩名ヲ定メ置キ取扱候様仕度此段相伺候也

電信局ニ試驗科ヲ設キ事務分任ヲ定ム

電信局ヨリ工部省へ上申 十六年九月十日
當局主管ノ處務規程取調可伺出旨昨明治十五年第六十七號御達ニ付同年十月何第百七十二號ヲ以テ規定伺出置候節添申致シ候事務分任諸科中電氣ニ關スル諸器械及ヒ條線ノ試驗等ハ工務科ニ於テ取扱ハセ來候處追々新機械構造改良ノ意匠及ヒ其實用適否ノ精査加之ス萬國電氣學士會ノ請求ニヨリ電氣磁石氣ノ現象經驗等ノ事務月ニ日ニ益々繁盛相成候ニ付右事務分任爲致候タメ當局中更ニ試驗ノ一科増設致シ候此段上申候也

工務科

本科ハ電信線架設保守各分局官舎構造等一切ノ工務ヲ擔任シ其經費ノ豫算及ヒ之ニ適用スル器械物件ノ品數ヲ經畫シ各線路各分局ヨリ需求スル電機用具ノ當否ヲ考査シ線路區畫ノ改正及ヒ局用地ノ事ヲ管シ繪圖ヲ製シ并ニ工夫看守人等ノ事ヲ掌ル

試驗科

本科ハ電氣ニ關スル諸器械及ヒ海陸電線ノ試驗ヲナシ電氣磁石氣ノ現象經驗ノ事ヲ管シ諸器械新製改

造ノ良否ヲ審查シ各分局裝置機械實用電池ノ多寡種類ノ適否及ヒ施行方法ヲ考量シ線路明細表電機與廢年表ヲ製スル等ノ事ヲ掌ル

大阪府下梅田分局ヲ西部電信中央局ト改稱ス

工部省沿革報告抄錄 十六年十一月二十日
大阪府下梅田分局ヲ西部電信中央局ト改稱ス是ヨリ先該分局ハ專ラ鐵道報ノ用ニ供シ明治十三年四月ニ至リ官私一般ノ通信ヲ開クト雖モ大阪以西各分局ノ通信ハ神戸川口高麗橋等ノ數局ヲ以テ之レカ中繼ヲナセシニ線路漸次ニ伸長シ分局隨テ増加スルニ及ヒ通信茲ニ輻湊スルヲ以テ改良ヲ加ヘ便路ヲ開カサルヲ得サルニ至ル因テ更ニ其局舎ノ結構ヲ大ニシ各線ヲ湊合統轄シ以テ大阪以西各分局ノ通信中繼局トナシ從前ノ中繼ヲ廢ス局舎經營成ヲ告ケ本月十八日開業ノ式ヲ行ヒ本日ニ至テ中外ノ通信ヲ執行ス其鐵道報ハ舊局ニ於テ之ヲ送受ス

電信分局ノ等級ヲ改定ス

電信局ヨリ工部省へ上申 十七年二月二十八日
客年二月上申致シ候電信各分局等級之儀今般更ニ收入金及ヒ通信數之多寡ニ據リ別紙ノ通り改定候間此段及上申候也

一等局

- | | | | |
|---------|--------|---------|-------|
| 電信中央局 | 西部中央局 | 日本橋電信分局 | 神戸同分局 |
| 横濱同分局 | 川口同分局 | 高麗橋同分局 | 長崎同分局 |
| 西京同分局 | 赤間關同分局 | 函館同分局 | |
| 二等局 | | | |
| 名古屋電信分局 | 青森同分局 | 金澤同分局 | 仙臺同分局 |
| 直江津同分局 | 新潟同分局 | 福島同分局 | 岡山同分局 |
| 酒田同分局 | 心齋橋同分局 | 静岡同分局 | 兩國同分局 |

佐賀同分局	兵庫同分局	廣島同分局	壽都同分局
桑名同分局	上田同分局	富山同分局	鹿兒島同分局
小樽同分局	福岡同分局	敦賀同分局	福井同分局
四日市同分局	七條同分局	横濱鐵道同分局	松山同分局
熊本同分局	盛岡同分局	石ノ巻同分局	丸龜同分局
大津同分局	伏木同分局	山形同分局	秋田同分局
本郷同分局	札幌同分局	德島同分局	高知同分局
三等局			
津電信分局	前橋同分局	高岡同分局	山口同分局
新橋同分局	尾ノ道同分局	宇都宮同分局	長野同分局
神戸鐵道同分局	松本同分局	岐阜同分局	半田同分局
姫路同分局	長岡同分局	松江同分局	深川同分局
坂井港同分局	高松同分局	甲府同分局	久留米同分局
和歌山同分局	延岡同分局	鶴岡同分局	弘前同分局
白川同分局	福山同分局	四谷同分局	官古同分局
豐橋同分局	葵町同分局	岡崎同分局	大分同分局
官崎同分局	淺草同分局	境同分局	高崎同分局
柏崎同分局	高田同分局	伊萬里同分局	玉島同分局
柄崎同分局	長濱同分局	小松同分局	赤羽同分局
小倉同分局	山田同分局	横須賀同分局	濱松同分局
柳川同分局	大垣同分局	彦根同分局	大聖寺同分局
米澤同分局	今治同分局	堺同分局	三條同分局

三田尻同分局	東岩瀬同分局	沼津同分局	神奈川鐵道同分局
大橋同分局	清水同分局	八戸同分局	八王子同分局
米子同分局	小田原同分局	松坂同分局	栃木同分局
藤枝同分局	魚津同分局	若松同分局	鳥取同分局
中津同分局	撫養同分局	出雲崎同分局	足利同分局
萩同分局	横手同分局	品川鐵道同分局	新發田同分局
糸魚川同分局	豐岡同分局	上諏訪同分局	宇和島同分局
掛川同分局	小諸同分局	水戸同分局	七尾同分局
森町同分局	岩國同分局	三春同分局	一ノ關同分局
小濱同分局	武生同分局	八代同分局	能谷同分局
能代同分局	西ノ宮鐵道同分局	釜石同分局	八幡濱同分局
岩内同分局	花巻同分局	桐生同分局	都城同分局
千葉同分局	官津同分局	余市同分局	八幡同分局
村上同分局	飯肥同分局	三池同分局	濱田同分局
小千谷同分局	明石同分局	松代同分局	二本松同分局
見附同分局	熱海同分局	須崎同分局	洲本同分局
神崎同分局	大洲同分局	浦和同分局	奈良同分局
本庄同分局	室蘭同分局	伏見同分局	伊勢崎同分局
野蒜同分局	大間閣同分局	水口同分局	猿橋同分局
福島驛同分局	小出同分局	森同分局	中津川同分局
鳥羽同分局	佐倉同分局	稻荷山同分局	園部同分局
龜山同分局	生野同分局	出石同分局	郡山同分局

嚴原同分局

釜山同分局

電信技手ノ助手ヲ選ク
工部省官報第...
年十一月十八日通信技手
助手取扱規則ヲ定メ十八
年十月二十五日試驗ニ及第
セル女子二十一名ニ助手
ヲ命ス

同ノ趣聞屆候事

工部省同十七年八月二十五日
當省電信分局ノ數年々月々増加シ現今殆ント二百ノ多數ニ相違ヒ候處右ノ内一二等分局ノ如キハ得失
相償ヒ候上猶十分ノ剩餘アリト雖トモ僻陬ノ三等分局ニ至テハ僅々ノ收入金ニシテ許多ノ不足ヲ補填
シ其他諸般ノ費用不尠然ルニ歐米各國ニ於テハ通信技手ニ過半女子ヲ採用スルノ便法モ有之義ニ付彼
是ヲ斟酌シ通信技手ノ妻女ヲ携ヘ任地ニ趣キ候者ノ中自然志願ノ向モ有之候ハ、先ツ試ミ、爲メニ試
驗及第致候分金五圓乃至十五圓迄ノ月俸ヲ給シ通信技手ノ助手ニ採用致度旨電信局長石井忠亮ヨリ別
紙ノ通り綴々申立候處右ハ至極便宜ノ趣方ニテ經費節減可致義ト相考候間該局長申出ノ通御裁可相成
候様致度依之別紙寫一通相副此段相伺候也 別紙
指令 十七年九月二十九日

第一局議案十七年九月十一日
別紙工部省同電信通信技手ノ妻女ヲ通信助手ニ採用ノ件ヲ案スルニ各地電信分局ノ數年々増加シ隨テ
通信技手ヲ要シ候處僻陬ノ三等分局ニ至テハ僅々ノ收入金ニテ收支不相償殊ニ時々技手交換ノ爲メ要
スル旅費モ不尠依テ技手ノ内妻女ヲ携帶赴任ノ者ニテ志願ノ向有之候ハ、試驗ノ上五圓ヨリ十五圓迄
ノ月俸ヲ給シ先以テ試メ爲メ其妻女ニ限リ通信技手ノ助手ニ採用致度旨ニ有之右ハ費途節省ノ方案ニ
テ便宜ノ處分ト被認候間伺ノ通御聽許相成可然哉左案ヲ付シ仰高裁候也

電信中央局及分局處務規程 十八年六月三日

- 第一條 電信中央局及分局ニハ主務又ハ主務心得一名ヲ置クモノトス
- 第二條 一等局ニハ技術主員及主計主員ヲ置キ二三等局ニハ主計ヲ置クコトアルヘシ
- 第三條 主務又ハ主務心得ハ其局諸般ノ事務ヲ管理シ局長ニ對シ其責任ヲ有ス
- 第四條 二三等局主務又ハ主務心得ハ其局通信ニ關スル事務ヲ兼掌シ其主計ヲ置カサル局ニテハ會計ニ關スル事務ヲ兼掌スルモノトス
- 第五條 技術主員ハ主務又ハ主務心得ノ指揮ニ從ヒ其局通信ニ關スル一切ノ事ヲ主管スルモノトス
- 第六條 主計主員ハ主務又ハ主務心得ニ協議ヲ遂ケ其局會計ニ關スル一切ノ事ヲ主管スルモノトス

電信中央局及分局處務規程

第七條 二三等局主計ハ主務又ハ主務心得ニ協議ヲ遂ケ其局會計ニ關スル一切ノ事ヲ主管スルモノトス

第八條 主務又ハ主務心得ハ局務ノ繁閑ト日晷ノ長短トニ依リ隨時局員ノ勤務時間ヲ伸縮改定スル事ヲ得

第九條 一等局主務又ハ主務心得ハ日勤シ技術主員ハ隔夜宿直スルモノトス

第十條 二三等局主務又ハ主務心得ハ日勤シ其人員少數ニシテ差支アル局ニ於テハ宿直スルモノトス

第十一條 一等局ノ主務又ハ主務心得ハ金三圓以内二三等局ノ主務又ハ主務心得ハ金一圓以内ハ家屋ノ修繕及備品ノ新調修繕トモ專行スルコトヲ得但常用ノ消耗品ハ此金類ニ拘ハラズ適宜ニ購買スルコトヲ得ト雖トモ常用用品ニ非サルモノハ(備品消耗)伺出ヘシ

第十二條 主務又ハ主務心得ハ馳使小使ノ傭入并昇等増給ハ局長ノ許可ヲ得テ之ヲ舉行シ其放免ハ之ヲ專行シテ後具申スルコトヲ得

第十三條 一等局ニテ主務又ハ主務心得不在ノ時ハ技術主計兩主員ノ内筆頭ノ者代理スヘシ

第十四條 技術主員又ハ主計主員不在ノ時ハ各其次席ノ者代理スヘシ

第十五條 技術主員又ハ主計主員ハ主務又ハ主務心得ノ承認ヲ得テ其部内各員ノ事務擔任ヲ定ムルコトヲ得

第十六條 一等局主務又ハ主務心得ハ其局中ノ各員并ニ其一回線中ニ在ル二三等局詰技手通信ノ熟否應答ノ遲速爭論ノ有無ニ注意シ臨時ノ下問ニ對シ具申スヘシ但其甚シキ者ト認ムルトキハ下問ヲ俟タス具申スルコトヲ得

第十七條 二等局主務又ハ主務心得ノ三等局ニ於ケルモ亦同シ

第十七條 凡公文書ノ中稟議具申ハ主務又ハ主務心得ノ官姓名ヲ署シ本局各科及諸官衙并人民等ヘノ照會往復ハ其時宜ニ依リ局名若クハ主務又ハ主務心得ノ姓名ヲ署スヘシ但其事項ノ會計及ヒ馳使小

使ノ進退ニ關スルモノハ主計主員主計ヲ置キタルニ其大修繕等ニ關スルモノハ一等建築手ト連署捺印スヘシ

第十八條 各部主管ノ事務ニ付稟議具申照會往復等ノ文案ヲ作ルニ當リ其事務他部ニ關涉スルモノハ一等局ニ於テハ兩主員合議連印シテ主務又ハ主務心得ニ提出スヘシ但主計ヲ置キタルニ三等局ニテ其事務ニ關スルモノハ主計捺印シテ主務又ハ主務心得ニ提出スヘシ
第十九條 他部ニ關涉スル事務ニ付文案ヲ作ルニハ其事務擔任ノ最モ重要ナル一部ニ於テ之ヲ起草スヘシ

第二十條 他部ニ關涉シタル稟議照會等ノ事件ニ付其指令或ハ應答ヲ得タルトキハ其書類ヲ他部ヘ回示シ主者之ニ認印ヲ捺スヘシ

第二十一條 電信中央局及分局詰各員ノ身分ニ係ル諸願伺届等ノ書類ハ總テ其主務又ハ主務心得ヲ經由シテ進達スヘシ

第二十二條 一二等局ノ主務又ハ主務心得ハ線路阻碍又ハ斷線等アル時ハ關係ノ中央局若クハ分局主務又ハ主務心得ト協議シテ他線ヲ適宜交換使用スル等臨機ノ處分ヲ爲シ及裝置機械不良ナルトキハ適宜之ヲ調整スルコトヲ得但試檢掛アルトキハ同掛ヲシテ之ヲ執行セシムヘシ

第二十三條 主務又ハ主務心得ハ線路阻碍斷線等アル時ハ直チニ其區内建築手ヘ修繕方ヲ照會スヘシ
第二十四條 公文書類ノ結局シタルモノハ其時々主計部ニ交付シテ編輯セシムヘシ但未タ結局セサルモノニテモ其書類ノ分離錯雜ナキヤウ一事件毎ニ連綴スヘシ

電信中央局及分局

内國及海外電報ニ關スル一切ノ事務ヲ擔任シ電信切手ヲ賣下ケ及金錢ノ出納監守局舎修繕等ノ事ヲ掌ル

電信中央局及分局中ニ技術主計ノ二部ヲ置キ各其事務ヲ分掌ス
技術部

第一條 電報ニ粗漏不規則等之レナキヤウ精査スル事

第二條 電信條例第四條ヲ犯シタル私報ノ有無ヲ精査スル事

第三條 歐文賴信ノ受付ヲ擔當シ電信條例同取扱規則及局内心得書ニ照シテ取扱フ事

第四條 電報ヲ傳送シ及配達方ノ取扱ヲナス事

第五條 驅使勤務上ノ事ヲ監視スル事

第六條 通信事務ニ關シタル稟議具申及照會往復等ノ事ヲ擔當スル事

第七條 線路及機械ノ良否ヲ試驗スル事

第八條 通信用ニ屬スル機械物品書籍等ヲ會計部ヨリ受取り之ヲ管守スル事

第九條 風水火災等ノ電報及留置電報ノ廣告ヲ揭示場ヘ掲出スル事

第十條 通信完了ノ電報原書ハ其時々之ヲ主計部ヘ交付スル事

主計部

第一條 和文賴信ノ受付ヲ擔當シ電信條例同取扱規則及局内心得書ニ照シテ取扱フ事

第二條 電信切手及同賣下ケ代金ヲ監守シ其計表ヲ調製シ其他經費仕拂等金錢出納上一切ノ事務ヲ擔任スル事

第三條 電報ノ通數收金其他會計ニ係ルモノハ成規ニ依リ帳簿ヲ調製スル事

第四條 機械其他備品及資用物品ヲ管守シ受渡并受拂ヲ精確ナラシムル事

第五條 主計事務ニ關シタル稟議具申及照會往復等ノ事ヲ擔當スル事

第六條 公文書類ヲ類集編纂スル事

第七條 通信完了ノ電報原書其他現字紙等ヲ技術部ヨリ受取り貯藏期限中ノヲ保存スル事

第八條 局舎又ハ備品ヲ修繕スル事

電信局ヨリ工部省ヘ同十八年五月三十日

電信中央局分局處務規程別冊ノ通相定申度此段相伺候也

追テ本文ノ義七月一日ヨリ施行致度候間至急御許可相成度此段副申候也

工部省指令十八年六月三日
電第三十八號ヲ以電信中央局及分局處務規程制定ノ儀伺ノ通開屆候事

工學寮測量司ヲ虎門内
若延岡藩邸ニ設ク

六年九月三十日測量司ヲ
馬場先門内ニ移ス測量司
部ニ置ス
十年一月十一日工學寮ヲ
廢ス官署寮局ノ部ニ置ス

工部省沿革報告抄錄 四年八月十四日

工學寮及ヒ測量司ヲ置カレ共ニ一等ニ班シ工部大丞山尾庸三工學頭兼測量正ニ任ス乃チ工學寮測量司
ヲ併テ其廳舎ヲ虎門内舊延岡藩邸ニ設ク是ヨリ先工學ヲ開明スルハ厚生利用ノ道ヲ立ル基礎ニシテ當
時急務タリ而シテ之ヲ勸奨スルハ本省ノ責任タルヲ以テ工學校ヲ興シ之ヲ大學小學ノ二校ニ分チ外國
教師ヲ聘シ以テ生徒ヲ教育シ成績ヲ後年ニ期セント欲シ又其速成ヲ要スル爲メ現時工業ニ從事セル官
吏及ヒ當時各局部修技費ノ工術見習生ヲ選拔シ質問生或ハ傳習生トナシ之ヲ海外ニ航遣シ各科ヲ研窮
セシメント欲シ共ニ其概則ヲ定メテ之ヲ太政官ニ稟議シ其裁可ヲ得以テ是ニ至ル
○稟議ノ原文ハ學政門ニ載ス

工學寮職制章程

工學寮職制并事務章程 五年六月二十七日

工學寮職制

頭 一員

寮中諸官員ノ首長ニシテ工學一切ノ事務ヲ管理スルヲ掌ル

寮中諸官員ノ處務ヲ指令シ各課ノ事ヲ統督ス

寮中諸般ノ事務其章程ト成規トニ照シテ之ヲ踐行修整スルニ於テハ卿輔ニ對シ擔保ノ責任ヲ有ス

掌管ノ事務ニ於テハ卿輔ニ對シ其當否ヲ論辯スルヲ得

各課ヲ廢立シ及ヒ寮中ノ諸規則ヲ更正スル等ノ事アレハ卿輔ノ決判ヲ乞テ之ヲ處置ス

寮中諸官員ノ能否勤惰ヲ監視シテ之ヲ進退黜陟シ又ハ其員ヲ増減スル等ハ審案具狀シテ卿輔ニ呈シ

其決判ヲ乞フ

之ヲ勅任官トス

權頭 一員

職掌責任頭ニ亞ク

頭缺席スルカ又ハ缺員ノ時ハ一切頭ノ職掌ヲ代理スルヲ得

助 定員ナシ

寮中各課ノ長トシテ其事務ヲ擔當スルヲ掌ル

各掌管ノ事務ヲ整理スルニ於テハ頭權頭ニ對シテ其責任ヲ有ス

權助 定員ナシ

職掌責任助ニ亞ク

以上之ヲ奏任官トス

大屬 權大屬

中屬 權中屬

少屬 權少屬

頭權頭ノ指令ニ從ヒテ寮中ノ事務ヲ處ス

以上之ヲ判任官トス

大屬以下ノ人員ハ事務ノ繁簡ニ從ヒテ増減アルヘシ

主記課

應接受付文案記錄名簿寮舎警戒印信授付等ノ事ヲ管ス

主計課

貨財物品ノ二科ヲ分チ會計出納購買支給蓄藏營繕等ノ事ヲ管ス

文學課

學則ヲ嚴ニシ師徒ヲ督シ考課試業シ及ヒ通譯スル等ノ事ヲ管ス

編輯課

六年九月二十五日選職課
ヲ廢シ延ニ之ヲ本官ニ置

翻譯著述刊行等ノ事ヲ管ス

圖書課

圖書簿冊器械收藏出納等ノ事ヲ管ス

工學寮事務章程

工學寮ハ工業ノ學ニ關スル一切ノ事務ヲ掌管ス其綱領左ノ如シ

一大小ノ學校ヲ設ケ生徒ヲ教育シ工學ヲ開明スル事

右本寮掌管ノ事務トス然レトモ其事ヲ處スルニ當リ卿輔ノ決判ヲ乞テ然ル後施行スヘキ條アリ卿輔ノ

決判ヲ乞スシテ專任處置スヘキ條アリ其例目ヲ分ツ左ノ如シ

但本省事務章程ノ上款ニ載ル上奏制可ヲ經テ舉行スヘキノ條件ニ屬スル者此外ニアリ

上款

卿輔ノ決判ヲ乞テ然ル後施行スヘキ條

一大小二校ノ法則ヲ定ムル事

一各處ニ於テ工學ノ枝校ヲ設ル事

一外國人ヲ僱使シ或ハ僱役ノ期滿テ再期ヲ約シ又ハ僱中退職セシムル等凡テ立約ニ關スル事

一外國人ノ俸給ヲ増減シ及ヒ其功罪ニ因テ處置スル事

一定額外費用ノ事

一工學ニ關スル諸圖書器械等外國ヨリ購買スル事

以上各款皆頭之ヲ判案シ其要旨ヲ概記シ又ハ處分ノ法案ヲ作り卿輔ニ呈シ其決判ヲ乞ヒ然ル後施行スヘシ

下款

卿輔ノ決判ヲ乞スシテ專任處置スヘキ條

一定則ニ從ヒ學徒ヲ考試スル事

一各課ノ官員ヲ左右交替スル事

一要務ノ地ヘ官員出張ヲ命スル事

一本寮附屬以下内外ノ諸職工勸獎ノ爲十兩以下ノ賞金ヲ與フル事

一通辯翻譯諸技術ニ長セル者ヲ急務アリテ擧用スル時其本貫ノ官廳ニ通達シ備又ハ附屬ノ名ヲ以テ一

時使役スル事

一常用ノ物品ヲ外國ヨリ收買スル事

以上各款皆頭專執處置スルヲ得ヘシ然シテ之ヲ行フノ後其處務ノ要件ハ其狀ヲ具シテ卿輔ニ開報スルヲ要ス

○

工學ノ事務ニ於テ僱使スル外國人任職ノ件ハ都テ其條約ノ制規ニヨリ勉勵從事セシムルヲ要ス

校舍等建築ノ事業ヲ興ス時ハ其興業ノ要旨ト建築ノ形狀及資財工費ノ總計落成ノ期限等詳細開具シ卿

輔ノ決判ヲ得營作ノ際冗費ヲ省キ始計ノ圖式ニ違ハス成功セシムルヲ要ス

凡本寮掌管ノ事務他方ヘ指令布達スルハ豫メ文案ヲ作り卿輔ノ一覽ヲ乞ヒ然ル後卿輔ノ名ヲ以テ之ヲ

達シ其商議諮問等ハ頭權頭ノ名ヲ以テ往復シ頭權頭俱ニ缺ルトキハ助權頭ノ名ヲ以テ往復スルヲ得ヘ

シ

寮中ノ諸書類簿冊ハ様式ノ如ク編纂シテ後考ニ便ナラシムルヲ要ス

凡寮中生員ノ増減及進歩ノ次第事務ノ工程ハ毎月毎三月毎一年ト之ヲ類別シ詳細ナル考課狀ヲ作り卿

輔ニ進呈ス

卿輔ノ命ニ因テハ臨時ノ考課狀ヲ作テ送呈スルコアルヘシ

本寮諸官員以下及ヒ僱使スル外國人ノ姓名ヲ詳記シ官祿俸給旅費諸雜費其他買辦ノ物品代價等ハ様式

ノ如ク總計表ヲ作りテ毎月之ヲ送呈ス

凡本寮ノ事務ヲ掌理スルニハ本省職制事務章程其他條令及ヒ寮中ノ成規等ニ照準シテ之ヲ處置シ施爲

ノ際違誤ナキヲ要ス

此章程中他日増減ヲ要スルコアラハ御輔ノ決判ヲ乞テ便宜加除更正スルヲ得ヘシ

右職制并事務章程

上奏シテ定ムル處ナリ能之ヲ守リ其程限ヲ愆ル勿レ

明治五壬申六月二十七日

工部少輔 山尾庸三

右職制并事務章程通信恪守遵奉其職ヲ盡スヘシ若シ本寮事務擧ラサルアラハ通信謹テ其責ニ任スヘキ也

壬申六月

工部少輔 山尾庸三殿

工學權助 河野通信

工學寮中ニ工學校ヲ開ク

工部省記錄 六年七月三十日
工學寮中ニ工學校ヲ開ク 虎ノ門内舊延岡藩邸址

工學寮撰輯課ヲ廢シ更ニ之ヲ本省ニ置ク

工部省達 六年九月二十五日
其寮撰輯課相廢シ更ニ本省ニ被建置候事 但人員等取調至急可申出候事

小學校ヲ東京舊河越邸邸ニ設ク

工部省沿革報告抄錄 七年二月二日
小學校ヲ溜池葵町一番地舊河越邸ニ設ク私費ノ生徒ヲ募リ工學豫科ヲ教授シ以テ大學校ニ入ルノ楷梯トス

工學寮生徒進退ハ本寮限リ處置ス

工學寮ヨリ工部省ヘ伺定 七年十二月二十四日

工學寮學校ノ名稱ヲ改ム

當寮生徒進退ノ儀ハ本省ヘ具狀辭令申請來候處云々不都合不少候間以來生徒處置ノ儀ハ進退共一切本寮限取計其上本省ヘ届出候定式ニ致度事

工部省指令

第五十三號ヲ以學校名目大中小三校ニ致度旨伺ノ通可致改正候也

鑛山寮備置ノ諸礦物并器械ヲ工學寮ニ交付ス

工部省達 八年五月二十五日
其寮ニ相備置候諸礦物并ニ是迄生徒教授之爲相備有之諸器械物品等悉皆取纏工學寮ヘ可相渡此段相達候也

工部省達 八年五月二十五日

從來鑛山寮ニ相備有之諸礦物并ニ生徒教授之諸器械物品等其寮ヘ引渡候際同寮ヘ打合受取可申此段相達候也

布告 八年十一月二十五日 太政大臣三條實美署(内務省ノ部ニ見ニ)

今般内務省中驛遞寮警保寮工部省中工學寮左ノ通被改候條此旨布告候事

- 驛遞寮 一等
- 警保寮 二等
- 工學寮 二等

工部省達 九年一月二十日

新發明諸器械ノ檢査ヲ出願スルトキハ工學寮ニ回付ス

今般人民新發明ノ諸器械検査出願候節ハ其寮へ可差廻候條精粗検査ノ上意見可申出此段相達候也

工部省沿革報告抄録 九年十一月六日

工部美術學校ヲ創設シ本校ニ屬ス其學科ハ畫學彫刻ノ二科以テ畫學ハ畫法及ヒ油畫ヲ教ヘ彫刻學ハ石版ヲトシ伊人三名ヲ徵備シテ教師ト爲シ其校則ヲ選定シ之ヲ頒布ス

工部省沿革報告抄録 四年十一月二十二日

勸工寮ヲ赤阪溜池葵町舊伊萬里縣出張邸趾ニ開キ活字製造場ヲ設ク

工部美術學校ヲ創設シ
工學校ニ屬ス
十五年六月三十日彫刻學
ヲ屬ス
十六年一月二十三日美術
學校ヲ屬ス工作ノ部ニ屬
ス
勸工寮ヲ赤阪葵町舊伊
萬里縣邸趾ニ開キ活字製
造場ヲ設ク
六年十一月十九日勸工寮
ヲ屬シ其事務ヲ製作寮ニ
屬ス

工部省同四年十月十三日
兼テ當省中勸工寮ヲ被置未タ建設之運ヒニ至兼罷在候處諸工諸職之者ヨリ追々出願之事件モ有之追日
多事ニ至リ候ニ付別地ニ建設不致候半テハ不便之義不少就テ江戸見阪下伊萬里縣出張邸ハ實地適當
見込候間同邸至急御渡シ有之候様共筋へ御達相成度此段申進候也
指令
申出之通

工部省同四年四月七日

崎陽製鐵場御用トシテ山尾權大丞出張右製鐵所長崎縣廳ヨリ請取候處同所ニ屬シ候活字製作并新聞紙
局ト唱居候諸器械類モ請取申候然ル處右活字一課之諸器械等大學南校へ御渡之積右縣へ御達有之趣申
開候一體活字製作等之儀ハ素ヨリ工部省課目中ニテ右製作器械迄南校へ御渡相成候儀ハ不都合申迄モ
無之活字之儀ハ此未當省ニテ原字製作仕置於政府日誌ヲ始御布告等悉ク即時ニ摺方相成流布仕候様致
度是マテ日誌類等ハ二三箇月過摺方出來諸向へ相廻候ニ付衆目ノ公論モ消候頃合ニ至一覽仕候様器成
共實功無之日誌類等ハ速ニ御達不相成候テハ御不都合之儀モ相生可申加之活字使用盛ニ相成候得ハ諸官
省府藩縣ニ於テモ活版ヲ以テ誌共外迅速之便ヲ達候様可罷成且ツ市中ニ於テモ追日開化モ相進ミ商用
ノ爲新聞紙等實度企望之者モ承リ込皆用ニル所活字ニ有之其他幾許ノ手數ヲ省キ即時之辨ヲ足候儀
ニ有之就テハ最前大學南校へ御達ノ次第モ有之候事ニ付活字製作仕置望之者ハ相當之價ヲ以賣却可致積
達置相成候様致度尤是迄長崎表ニ於テ出來致居候活字ハ最前御達ノ趣モ候間不殘南校へ相渡候様可致
指令
申出之通被仰付候事
大學南校ヨリ辨官へ回答四年四月九日
書面工部省ヨリ申立ノ趣ニテ當校於テハ異存無御座候尤向後活字入用等ノ節ハ同省へ相達次第辨用相

成候様致度此段御答仕候也
辨官ヨリ工部省へ通達四年四月十三日
活字製作掛ノ印製造ノ儀被開届候彫刻ノ儀ハ共省於テ御取計可有之候也

勸工寮職制并事務章程 五年六月二十七日

頭 一員

寮中諸官員ノ首長ニシテ勸工一切ノ事務ヲ管理スルヲ掌ル

寮中諸官員ノ處務ヲ指令シ各課ノ事ヲ統督ス

寮中諸般ノ事務其章程ト成規トニ照シテ之ヲ踐行修整スルニ於テハ卿輔ニ對シ擔保ノ責任ヲ有ス

掌管ノ事務ニ於テハ卿輔ニ對シ其當否ヲ論辯スルヲ得

各課ヲ廢立シ及ヒ寮中ノ諸規則ヲ更正スル等ノ事アレハ卿輔ノ決判ヲ乞テ之ヲ處置ス寮中諸官員ノ

能否勤惰ヲ監視シテ之ヲ進退黜陟シ又ハ其員ヲ増減スル等ハ審案具狀シテ卿輔ニ呈シ其決判ヲ乞フ

之ヲ勅任官トス

權頭 一員

職掌責任頭ニ亞ク

頭缺席スルカ又ハ缺員ノ時ハ一切頭ノ職掌ヲ代理スルヲ得

助 定員ナシ

寮中各課ノ長トシテ其事務ヲ擔當スルヲ掌ル

各掌管ノ事務ヲ整理スルニ於テハ頭權頭ニ對シテ其責任ヲ有ス

權助 定員ナシ

職掌責任助ニ亞ク

以上之ヲ奏任官トス

勸工寮職制章程
六年十月十九日分限職務
規定ヲ定ム

大屬 權大屬
中屬 權中屬
少屬 權少屬

頭權頭ノ指令ニ從テ寮中ノ事務ヲ處ス
以上之ヲ判任官トス

大屬以下ノ人員ハ事務ノ繁簡ニ從テ増減アルヘシ
主記課

往復文案應接通辯翻譯名簿ノ諸科ヲ分チ文書往復記錄編輯他方應接名簿増減等ノ事ヲ管ス
主計課

出納倉庫備儲除販結算ノ諸科ヲ分チ金穀出納諸物賣買營繕會計查算等ノ事ヲ管ス
技術課

化學製造器械製造ノ兩科ヲ區別シ兩科ノ中更ニ專業ノ課ヲ分チ各其技術ヲ執テ本務ヲ施行シ又諸
發明ノ事物ヲ考查シ并各科傳習ノ事ヲ管ス

勸工寮事務章程

勸工寮ハ百工ヲ勸勉スル一切ノ事務ヲ掌管ス其綱領左ノ如シ

- 一 諸工匠百般ノ技藝ヲ勸勵シテ工産ヲ富殖セシムル事
- 一 化學及ヒ器械ニ屬スル工場ヲ起建シ諸工製造ノ實効ヲ開示シ工業ヲ振興スル事
- 一 國民諸工藝發明ノ申告ヲ審理スル事
- 一本寮要務ノ技術ヲ開明スル事

以上各條本寮掌管ノ事務トス然レトモ其事ヲ處スルニ當リ卿輔ノ決判ヲ乞テ然ル後施行スヘキ條アリ
卿輔ノ決判ヲ乞テ專任處置スヘキ條アリ其例目ヲ分ツ左ノ如シ
但本省事務章程ノ上款ニ載スル上奏制可ヲ經テ舉行スヘキノ條件ニ屬スルモノ此外ニアリ

上款

卿輔ノ決判ヲ乞テ然ル後施行スヘキ條

- 一 工場建築ノ事
 - 一 工場ノ法則ヲ定ムル事
 - 一 工人ノ技術ニ長セルモノヲ褒賞スル事
 - 一 外國人ヲ傭使シ或ハ傭役ノ期滿テ再期ヲ約シ又ハ傭中退職セシムル等凡テ立約ニ關スル事
 - 一 外國人ノ俸給ヲ増減シ及ヒ其功罪ニ因テ處置スル事
 - 一 定額外費用ノ事
 - 一 常用ノ外外國ヨリ器械物品ヲ購求スル事
 - 一本寮要務ノ諸術傳習ノ法則ヲ立ル事
- 以上各條皆頭之ヲ判案シテ其要旨ヲ概記シ又ハ處分ノ法案ヲ作り卿輔ニ呈シ決判ヲ乞ヒ然ル後施行スヘシ

下款

卿輔ノ決判ヲ乞テ專任處置スヘキ條

- 一 工場ニテ製造スル諸物ヲ内外國民ニ賣疏スル事
- 一 工場及ヒ官舎等前規ニ仍テ修理スル事
- 一 各課ノ官員ヲ左右交替スル事
- 一本寮附屬以下内外ノ諸職工勸獎ノ爲メ十兩以下ノ賞金ヲ與フル事
- 一通辯翻譯諸技術ニ長セル者ヲ急務ニヨリテ擧用スルトキ其本貫ノ官廳ニ通達シ傭又ハ附屬ノ名ヲ以テ一時使役スル事
- 一 他方ニ出張シテ事ヲ執ノ際若シ臨時急務ニ處スルニ當リ卿輔ニ稟議スヘキ事件ニ屬スルト雖トモ其大體ニ妨ケ無モノハ便宜之ヲ裁決シ尋テ其狀ヲ具シテ開報スルヲ得ル事

以上各款皆頭專執處置スルヲ得ヘシ然シテ之ヲ行フノ後其處務ノ要件ハ其狀ヲ具シテ卿輔ニ開報スルヲ要ス

勸工ノ當務ハ百工從來ノ技藝ハ倍之ヲ勸勵シテ精巧ヲ盡シ未嘗ノ業ハ工場實地ノ効驗ヲ開示シテ其技術ヲ成熟セシメ國民衣食濟生ノ器用財物都テ時勢ノ沿革ニ隨ヒ適用有益ノ製方ヲ專治セシメ或ハ會社ヲ勸誘シテ盛大ノ工業ヲ協立シ務メテ人造ノ物産ヲ蕃殖セシムルヲ要ス

工場ヲ起建シ機械ヲ裝置スル等凡創始ノ事業アルトキハ其要旨ト工場ノ模樣機械ノ種類及ヒ資材工費ノ總計落成ノ期限等詳細開具シ營築ノ際冗費ヲ省キ豫定ノ圖式ニ違ハス成功セシムルヲ要ス

勸工ノ事務ニ於テ備使スル外國人任職ノ件ハ都テ條約ノ制規ニヨリ勉勵從事セシムルヲ要ス凡寮中掌管ノ事務他方へ指令布達スルハ豫メ文案ヲ作り卿輔ノ一覽ヲ乞ヒ然ル後卿輔ノ名ヲ以テ之ヲ達シ其商議咨問等ハ頭權頭ノ名ヲ以テ往復シ頭權頭俱ニ缺ルトキハ助權頭ノ名ヲ以テ往復スルヲ得ヘシ

寮中ノ諸書類諸簿冊ハ様式ノ如ク編纂シテ後考ニ便ナラシムルヲ要ス

工場ニ於テ製出スル諸物ノ數目并賣疏代價其工程ノ次第及ヒ工藝發明表賞ノ人名事實ト其各般經費ノ總計ハ毎月毎三月毎一年ト之ヲ類別シテ詳細ナル考課狀及ヒ計表ヲ造リ卿輔ニ進呈ス

卿輔ノ命ニ因テハ臨時ノ考課狀及ヒ計表ヲ作りテ送呈スルヲアルヘシ本寮諸官員以下備使スル外國人ノ姓名ヲ詳記シ官祿俸給旅費及ヒ諸雜費其他買辦ノ物品代價等ハ様式ノ如ク總計表ヲ造リ毎月之ヲ送呈ス

凡テ本寮ノ事務ヲ掌理スルニハ本省職制事務章程其他條令及ヒ寮中ノ成規等ニ照準シテ之ヲ處置シ施爲ノ際違誤ナキヲ要ス

此章程中他日増減ヲ要スル事アラハ卿輔ノ決判ヲ乞テ便宜加除更正スルヲ得ヘシ右職制并事務章程

上奏シテ定ムル所ナリ能之ヲ守リ其程限ヲ愆ル勿レ
明治五壬申年六月二十七日

工部少輔 山尾庸三

勸工權助 石黑直寬殿

右職制并事務章程直寬恪守遵奉其職ヲ盡スヘシ若シ本寮事務學ヲサルアラハ直寬謹テ其責ニ任スヘキ也

勸工權助 石黑直寬

壬申六月

工部少輔 山尾庸三殿

工部省沿革報告抄錄 五年八月二日

勸工寮中ニ製煉所ヲ設ケ釉藥各種ヲ造リ傍ラ化學上ノ試驗ヲ徇ム

工部省沿革報告抄錄 六年一月二十五日

勸工寮内ニ製絲場ヲ設ケ瑞西人「カスバル」シユラヲ徵備シ教師ト爲シ是日開業ノ式ヲ舉行ス

工部省布達節錄 六年七月日 閣(全文ハ學制門)

今般赤阪溜池葵町勸工寮構内ニ於テ假ニ女工場ヲ設ケ外國女教師ヲ置キ襟袷ノ粧飾及組織縫箔ノ技藝ニ至ル迄來ル八月一日ヨリ左ノ規則ヲ以テ婦女子ノ爲メニ教授爲致候間志願ノ者ハ同寮へ出願備業可致候事

勸工寮主記課處務規定 六年十月十九日

本寮主記一切ノ事務ヲ總括シ課中ノ事務ヲ分テ往復編輯譯文名簿受付ノ五科ヲ設ク課長

課中ノ事務ヲ掌管擔當ス

勸工寮主記課處務規定
八年三月二十九日記録
ヲ置キ各寮ノ編輯事務ヲ
併ス

勸工寮内ニ製絲場ヲ設
ケ
曆寮ノ後製作寮ニ屬シ七
年八月二十八日貨與

勸工寮内ニ女工場ヲ設
ケ
曆寮ノ後製作寮ニ屬シ九
年一月二十一日廢ス

勸工寮中ニ製煉所ヲ設
ケ
六年十一月十九日勸工寮
ヲ廢スルニ及シテ製作寮
ニ屬シ七年二月十八日之
ヲ廢ス

掌管ノ事務ヲ整理スルニ於テハ長官ニ對シテ其責任ヲ有ス
 擔當ノ事務ニ於テハ其當否ヲ長官ニ對シテ論辯スルヲ得
 課中大屬以下ノ能否勤惰ヲ監視シテ長官ニ白スルヲ得
 課中ニ受ル所ノ來書及ヒ稟請ノ文書等其緩急ヲ辨別シ要旨ヲ筆記シ檢印シテ長官ノ指令ヲ承ケ事ノ急
 ナルモノハ急ノ字ヲ朱書シ各科ニ付シ或ハ稿案ヲ徵シ又ハ令文ヲ作ラシメ長官ノ考查ヲ受ク
 主計課技術課ヨリ出ス所ノ廻議稟請ノ草案等ハ規則ニ照準シテ可否ヲ論辯スルヲ得ヘシ
 課中常用ノ物品ハ記帖シテ倉庫科ヨリ之ヲ受ケ臨時用品ハ廻議ニ具セシム
 等外官員ニ辭令ヲ授付スルヲ掌ル
 權課長

課長ニ亞テ其職掌責任ヲ同クス

以上助以下奏任官ノ職任トス然レトモ缺員アルカ或ハ事務繁簡ニ因リ主記主計兩課ヲ兼又ハ權課長心
 得ノ名ヲ以テ正權大屬ヨリ補攝セシムルコトアルヘシ

往復科 正權大屬以下ノ職務トス

文案ヲ起草シ公文ヲ往復シ外人ニ應接シ諸稟請伺候ヲ傳通スル等ノ事ヲ掌ル

第一 本省ニ進達スヘキ回議稟請申報ノ類及其他省使府縣等ヘ送ルヘキ布達通報諮問ノ類ハ皆課長以
 上ノ指令ニ從ヒ章程ニ照準シ文案ヲ起草シ長官檢印ノ後之ヲ各方ニ送達ス

但定例アルモノト雖トモ課長以上ノ檢印無クシテ專恣之ヲ處スルヲ得ス以下各科ノ處務皆之ニ同
 シ

第二 往復文書其送ル者ハ皆課長以上ノ指令ニ因リ草案ヲ呈シ檢印ノ後淨書シテ送達シ其大意月日號
 數ヲ送翰銘簿ニ登記シ來ル者ハ來書銘簿ニ同ク大意等ヲ登記シ長官檢印ノ稿案ハ各簿冊ニ留ム

第三 願同屆等都テ副書ヲ出サシムルヲ例トス其指令ヲ請モノアレハ申帖ヲ細閱シテ課長ニ呈シ全文
 ノ草案ヲ付サハ淨寫シテ之ヲ本人ニ付ス

但寮中ノ職員身上ニ係ル稟請申報等ハ名簿科ノ處務トス

第四 各課ヨリ致ス所ノ進達書類及報問書ノ如キハ之ヲ課長ニ呈シ長官可印ノ後本省ニ送達ス

但本省諸寮司及寮中交互ニ課名ヲ以テ往復スル文書ハ各課ノ處務ナレハ本科之ニ關セス

第五 件銘簿ヲ作り往復文書其送ル者ハ送翰銘簿ヨリ登寫シ來ル者ハ來翰銘簿ヨリ登寫シ其本書編收
 ノ簿名ヲ注記シ局ヲ卒フル者ハ結局ノ印ヲ押シ前後搜索ノ便ニ供ス

第六 各所ヘ往復ノ書ハ事ノ緩急細大ニ依リ郵船郵便又ハ電信ヲ以テ達ス此賃ハ月末課長ノ檢印ヲ受
 ケ主計課ニ付シテ辨償セシム

第七 來人ニ接スルニハ其陳述スル所ノ旨意ヲ審諦シテ之ヲ課長ニ白シ長官ノ指令ヲ承テ應答ス應接
 ノ間苟モ取捨潤飾ヲ加フルヲ得ス事了テ之ヲ課長ニ報シ其要旨ヲ日記ニ記載ス其長官又ハ課長ノ指
 令ヲ承テ他方ニ詣テ應對スルモ亦之ニ同シ

第八 他官吏ヲ召スヘキトキハ其旨ヲ本省ニ申告ス

編輯科 正權大屬以下ノ職務トス

寮記ヲ撰輯シ記錄ヲ編收スルヲ掌ル

第一 本寮ノ沿革及章程規定ノ變更人員ノ増減工業施行ノ順序及工場建修ノ決議同創設等ニ至迄都テ
 年月次序ヲ逐ヒ之ヲ編錄シテ寮記ヲ作ル

第二 公文ノ冊ヲ成スモノハ事類ヲ分別シ年月ヲ追ヒ之ヲ編收ス

第三 廻議ノ類本省ノ決印了テ回ルモノハ判決ノ順次ヲ追ヒ之ヲ決議簿ニ編收ス

第四 外國人ノ條約及諸般公報等ノ譯書ハ譯文科ヨリ寫ヲ受テ逐次之ヲ分類編收ス

第五 各課ノ建業錄考課狀竣功錄諸月表等ヲ括リ例ニ因リ每一月每三月每一年本寮考課狀ヲ作テ課長
 并長官ノ檢印ヲ受ケ之ヲ本省ニ達ス

第六 官省ノ布達告文ノ類及本寮各課公務書類ノ既ニ結局ニ至ルモノ等順次之ヲ編收ス

第七 各課ニテ理スル所ノ公文中其事輕キモノト雖トモ參考ニ供スヘキモノハ之ヲ輯存ス

第八 本寮附屬ノ和漢書籍ヲ管預シ目次號數ヲ記シ散逸ナキヲ要ス故ニ各課ノ官員借覽ヲ乞フトキハ證書ヲ取テ之ヲ付シ且毎三月原簿ニ依テ點檢シ若シ缺失アルトキハ其所由ヲ糺シテ倉庫科ニ報ス譯文科 正權大屬上師以下ノ職務トス

外國書籍及中外書翰ヲ翻譯シ同ク語辭ヲ通スルヲ掌リ兼テ本寮附屬ノ外國書籍ヲ管ス

第一 長官及課長ノ指令ニ因リ外國書及横文ヲ翻譯スルトキハ其要旨號數ヲ件銘簿ニ登記シ譯成ルトキハ草稿清書トモ右同號ヲ記シ清書ハ課長ニ呈シ草稿ハ草稿簿ニ挿收シ卷首ニ件銘記號ヲ標掲シ原文ハ原文簿ニ挿收シ卷首ニ同ク件銘記號ヲ標掲シテ共ニ搜索ノ便ニ供ス

但會計ニ係ル横文ヲ譯スルトキハ先ツ要旨月日ヲ件銘簿ニ登記シ草稿ヲ計書譯文挿原文ヲ計書原文簿ニ挿收シ卷首ニ標目ヲ掲ケル等スヘテ本條ニ同クス

第二 外國人ニ指令諮問スル文書等課長ヨリ案文ヲ付サハ之ヲ翻譯シ課長ノ檢閲ヲ經テ後送達ス

但寮中ヨリ外國人ヘ送ル公用ノ横文ハ之ヲ押寫シ其書翰ノ當名號數及押寫ノ數ヲ記シ押寫簿ニ挿收シ卷首ニ標目ヲ掲ケ原文ハ記號ニ合セ押寫原文簿ニ挿收シ同ク卷首ニ標目ヲ掲ケ

第三 科中ニテ受付スル一切ノ横文書翰ハ原文譯文共ニ其姓名及號數ヲ記シ原文ハ信書簿ニ挿收シ譯文ハ信書譯文簿ニ挿收シ兩ナカラ第一條ニ同ク卷首ニ件銘記號ヲ掲テ參觀ニ便ナラシム

第四 中外ノ語ヲ譯シ彼我ノ情意ヲ通スルニハ瑣モ潤飾ヲ加ヘス毫モ忌憚ヲ避ケス公明的實ニ其旨意ヲ傳ヘテ事情ヲ誤ル無キヲ要ス

第五 本寮所藏ノ外國圖書ハ目次號數ヲ圖書簿ニ詳記シ散逸ナキヲ要ス故ニ各科ノ官員借覽ヲ乞フトキハ之ヲ簿記シテ押印セシメ返納スレハ消印セシム本省寮司其他ヨリ借覽ヲ乞フトキハ課長ノ可印ヲ得テ簿記シ證書ヲ取テ之ヲ貸與シ返納スレハ證書ヲ還付ス且毎三月圖書簿ニ依テ點檢シ若シ缺失アルトキハ其所由ヲ糺シテ倉庫科ニ通報ス

但書籍出納簿ヲ作り系格中横ニ一系ヲ設ケテ上下二段ニ分界シ各科ノ乞ニ應シテ本科主管ノ書籍ヲ貸付スルトキハ其書目冊數月日姓名ヲ上段ニ詳記シ返納スレハ下段ニ其月日ヲ記ス

第六 受付簿ヲ作り上條但書ノ如ク上下二段ニ分界シ一切ノ書翰ヲ受付スルニ方リ本科ヘ受ルモノハ上段ニ其書目姓名及月日ヲ記シ之ヲ本科ヨリ付スルトキハ其下段ニ月日ヲ記シ受主ノ證印ヲ徴ス

第七 本科ニ關スル諸往復ノ文書ハ順次之ヲ贈答簿ニ編シテ散逸ナカラシム

名簿科 正權中屬以下ノ職務トス

寮中官員及官雇外國人ノ各籍履歷進退増減ヲ明ニシテ職員錄明細表ヲ編成シ出張分科等ノ辭令ヲ書寫シ及各員身上ニ關スル申請報告等ノ事ヲ掌ル

第一 官員以下官備外國人及附屬ニ至ル迄寮中ノ人員ニ係ルモノハ一切其各籍履歷ヲ詳ニシ進退増減出張歸寮等皆其申報書ヲ受テ各簿ニ記シ了リ各科ニ通報シテ檢印セシメ其本省ヘ達スヘキハ別ニ申報書ヲ作テ往復科ヨリ之ヲ進達スルヲ例トス

第二 判任官以下出張分課等ノ辭令ハ長官ノ指令ニ依リ例ニ照シテ案文ヲ作り長官檢印ノ後淨寫シテ之ヲ呈ス

但徵狀ハ例文ヲ用ヒ課長ノ指揮ニ從ヒ之ヲ發ス

第三 官員以下新ニ職務拜命セハ式ニ依テ屬籍履歷書ヲ出サシメ之ヲ職員錄及各簿ニ登寫シ其本寮ニテ拜命スル者ノ承書及屬籍履歷書ハ往復科ヨリ届書ト共ニ本省ニ送達ス

第四 官員以下ノ免職ハ印鑑ヲ收メ受付科ニ付シ職員錄及各簿ノ名氏ヲ削リ其本寮ニテ免スル者ハ承書ヲ本科ニ取り印鑑ヲ受付科ニ付シ本省ヘ達スヘキハ往復科ニ付シ承書控ニハ本人奉職ノ年數等ヲ記シテ之ヲ留ム

第五 寮中奏判官ノ進退ハ往復科ニ付シテ各科ニ通報ス

第六 職員表ヲ作り各月二日ヲ限リ往復科ニ付シ本省ニ達ス

第七 官雇ノ外國人新約改約又ハ免黜スルモノ及給料ノ増減等決定ノ後往復科ヨリ通報スルニ從テ明細表ヲ改正ス

第八 職員錄明細表トモ二冊ヲ作り一冊ハ本省ニ送り一冊ハ本科ニ留メ各員ノ進退増減及屬族ノ變更

- 等ヲ訂正シ毎月兩次本省ニ送り循環交換ス
- 第九 官員解免ノ節旅費并滿年賜物有之者等ハ例ニ因テ調査書ヲ課長ニ致ス
- 第十 官員以下辭職歸省病告忌服轉居其他身上ニ關スル稟請報告ノ類ハ副書ト共ニ之ヲ受テ日記ニ銘記シ本書ヲ課長ニ呈シ令文ノ草案ヲ付サハ淨寫シテ本人ニ付ス
- 但病告百日ヲ經テ出勤セサルモノハ之ヲ記シテ課長及主計課ニ報ス忌服ノ申報書ニハ除服ノ日ヲ附記シ之ヲ課長ニ致シテ本省ニ申報シ其本省ニ除服ヲ請者ハ課長ノ指揮ヲ受ケ
- 受付科 權中屬以下ノ職務トス
- 諸文書ヲ受付シ本省ノ印鑑寮中ノ備品ヲ管シ守門給仕以下ヲ督シ時辰ヲ測正シ官員以下ノ出勤簿ヲ掌ル
- 第一 本省及各寮司其他諸文書ノ本科ニ受ル者ハ受入簿ニ本科ノ號數及ヒ件銘ヲ登記シ式ノ如ク本書ニ附紙シテ其號數ヲ朱書シ受付印ヲ押シテ課長ニ致シ其本科ヨリ本省及各寮司ニ送達スルモノハ受證簿ニ銘記シ各方ニ送達シテ證印ヲ徴ス
- 第二 本省ノ印鑑ハ新ニ拜命スルモノニ一枚ヲ付シ其番號及月日ヲ簿記シテ押印セシメ轉任免職等ハ還納ノ後消印ス若遺失火盜等ノ届アラハ其事情ヲ推究シテ課長ニ白ス
- 第三 寮中鋪設洒掃等ノ事ヲ指揮シ寮内常用物品修補ノ事ニ至テハ主計課ニ報シテ辦理セシム
- 第四 寮中宿直ノ順番ヲ定メ及時辰ヲ測正シテ差異ナカラシム
- 第五 在寮ノ官員以下日々ノ勤休ハ簿冊ヲ作テ押印セシメ月末ニ至リ勤休ノ日數ヲ總計シテ課長ニ呈ス
- 第六 本寮守門給仕小使等ノ勤惰ヲ監視シテ課長ニ白ス
- 第七 寮内官舎拜借住居スルモノ、取締ヲ爲シ人員増減アルコトニ之ヲ區長ニ達ス
- 第八 非常預備物品等ハ時々點檢シテ散失ナカラシム
- 第九 本寮附屬地ノ取締ヲ爲シ右ニ關スル府縣又ハ區長トノ應對ヲ掌ル

勸工寮主計課處務規定
 十年三月五日會計局ヲシテ各局ノ會計事務ヲ總括セシム

- 第十 寮内修繕等アルトキハ逐件廻議ニ具シ課長押印ノ上長官ノ可印ヲ受テ之ヲ處置ス
- 第十一 新ニ拜命スルモノハ實印小印共印鑑ヲ徴シ本省及本寮各課ニ配達ス其遺失又ハ磨滅等ニテ改印スルトキハ更ニ其印鑑ヲ出サシム
- 以上之ヲ大屬以下事務ノ制限トス然レトモ寮務繁劇ノ際ハ課中互ニ協助スヘシ出仕官員ハ本級ヲ以テ本官ト事務ヲ同クス
- 右分課處務規定本省ノ判決ヲ得テ定ル所ナリ能ク之ヲ守リ其制限ヲ愆ル勿レ
- 勸工寮主計課處務規定 六年十月十九日
- 本寮主計一切ノ事務ヲ總括シ課中ノ事務ヲ分テ出納賜給倉庫精算ノ四科ヲ設ケ課長
- 課中ノ事務ヲ掌管擔當ス
- 掌管ノ事務ヲ整理スルニ於テハ長官ニ對シテ其責任ヲ有ス
- 擔當ノ事務ニ於テハ其當否ヲ長官ニ對シテ論辯スルヲ得
- 課中大屬以下ノ能否勤惰ヲ監視シテ長官ニ白スルヲ得
- 每歲本寮各科諸般ノ經費ハ各管ノ目途ニ據テ之ヲ計算シ收發ノ多寡ヲ斟酌シ歲費月費ノ定額ヲ立之ヲ册記シ期ヲ以テ長官ニ呈シ批定ノ後本省ニ致ス
- 金銀ノ出納ハ每款定額ニ照準シテ廻議ニ押印シ長官ノ可印ヲ受ケ承管ニ分支シテ辨理セシム尤支發ノ金銀ハスヘテ本資ト消費ヲ二様ニ區別ス可シ
- 但出納ノ款件ヲ原簿ニ登記セハ總テ點檢シテ押印ス
- 應用ノ物品一旦長官ノ許可ヲ經テ購買整備スルモノハ其制限ヲ超サレハ緩急之ヲ分配シテ一々長官ニ乞サルモ妨ナシ
- 權課長

課長ニ亞テ其職掌責任ヲ同クス

以上助以下委任官ノ職任トス然レトモ副員アルカ或ハ事務ノ繁簡ニ因リ主計主記ノ兩課ヲ兼又ハ權課長心得ノ名ヲ以テ正權大屬ヨリ補攝セシムルコトアルヘシ
出納科 正權大屬以下ノ職務トス

經費ノ多寡ヲ計算シ金銀ヲ出納シ計簿ヲ詳記シ區別ヲ明瞭ニスル等ノ事ヲ掌ル

第一 歳費ノ定額ハ毎年一月ヨリ十二月迄本寮各科ニ於テ給發スヘキ俸給旅費其他諸般ノ費用ヲ總括シ式ニ依リ册記シ前年十一月十日ヲ限リ課長ニ致ス

第二 歳額ヲ分テ月費ノ額ヲ定ルニ八月々工業ノ繁簡事務ノ緩急ニ因リ支發ノ多寡ヲ計リ各科ヨリ出ス所ノ總計ヲ合算シ十二箇月ニ區分シ前條同時課長ニ致シテ本省ニ進達ス然レトモ營業ノ有無工業ノ多少官員ノ進退増減等ニ因リ月額ノ増減アレハ式ノ如ク記載シ課長ニ致シ長官押印ノ上前月二十日ヲ期トシ本省ニ致ス

第三 本省ヨリ金銀ヲ受ルニハ式ノ如ク證券ヲ具シ之ヲ受テ日計簿ニ登記シ爲換座ニ寄セテ預ケ帳ニ記載セシメ右日計簿ト預ケ帳ニ課長勘合シテ長官ノ檢印ヲ受ケ

第四 爲換座ニ寄ル所ノ金銀ヲ支發スルニハ每件長官檢印ノ廻議ヲ證トシ各册ノ費用區別簿ニ登記シ式ノ如ク發票ニ寫シ課長ノ勘合及長官ノ檢印ヲ受ケテ其科ニ付シ各員ニ配給セシム之ヲ領收スル者ハ三日ノ内爲換座ニ至テ正貨ト交換ス其爲換座ニ集リタル發票ハ次ノ出金定日差出サセ原票ト照比シテ勘合ヲ消ス

第五 假渡金銀ハ區別簿ニ朱書シ返金スルトキハ最初ノ廻議ニ照シ朱書ニ押印シテ收發ヲ明ニシ其金銀ハ爲換座ニ寄ス

第六 毎月三八ノ日ヲ以テ金銀支發ノ定日トス若日曜其外休暇ニ會セハ前日ヲ以テ發スルヲ例トス但臨時支給ハ此限ニアラス

第七 凡テ金銀ヲ收發スルハ必ス日計簿ニ登記シ收ルモノハ前日ノ殘金ニ加ヘテ總數トナシ發スルモ

ノハ其數ヲ減シテ本日現在ノ數ヲ詳記ス

第八 凡テ不用ニ屬スル諸物品等賣却ノ代價ヲ收入スルトキハ其次第ヲ詳記シテ爲換座ニ寄セ再ヒ寮中額費ノ内ニ領收スヘキ者ノ外ハ之ヲ本省ニ納ム

第九 本寮各科ノ費用當初ノ用途ヲ超過スルモノハ先ツ其事由ヲ詳細具狀シ本省ノ判決ヲ經ルニ非レハ假令定額餘分アリトモ之ヲ支給スルヲ得ス

第十 凡收納金ハ翌月十日ヲ期トシ上納帳ニ長官押印ノ上爲換座ノ預手形ト共ニ本省ニ進達ス但官宅宿代ハ翌月五日ヲ期トシ本省ニ納ム

第十一 本科ニテ毎月支發スル金額及殘金ハ式ノ如ク册記シテ翌月二日ヲ限リ本省ニ報知シ勘定帳ハ詳細區別シ證印帳ヲ附シテ翌月五日ヲ期トシ之ヲ精算科ニ送ル

第十二 諸費區別簿ハ本省ノ式ニ倣ヒ各件廻議判決スル者ニ據リ詳細ニ登記シ月末之ヲ表ニ掲テ勘定帳ニ附ス

第十三 一箇年ノ諸費ハ都テ本寮ト消費トヲ二様ニ區別シ翌年一月中ニ表ヲ作り一枚ハ長官押印ノ上本省ニ達シ一枚ハ本寮ニ留ム

第十四 金銀ノ出納其定則アルモノト雖モ課長以上ノ可印ナクシテ專恣之ヲ處スルヲ得ス賜給科 正權大屬以下ノ職務トス

官員以下外國人ノ俸給旅費并職工賃料其他臨時賞金等支給スルヲ掌ル
第一 毎年一月ヨリ十二月迄各款ノ費用ヲ概算總括シテ本科歳費ノ額トナシ又歳額ヲ分ケ月費ノ額ヲ定ルニ八月々給發ノ多寡ヲ計リ十二箇月ニ區分シ前年十一月五日ヲ限リ出納科ニ達ス

第二 俸金ハ毎月十六日後之ヲ給ス因テ其期限前新任轉任免黜或ハ歸省病告等ヲ名簿科ニ審問シ増減アルモノハ改定查算シ廻議ニ具シテ出納科ニ送り發票ヲ受テ配給シ式ノ如ク月給渡證印帳二冊ニ押印セシメ月末與書調印シテ出納科ニ送ル

第三 官員以下ノ旅費ハ發程歸著トモ名簿科ノ報知ニ依リ定則ニ照準シ發程前日數ヲ計リ廻議ニ具シ

テ假渡ヲ爲シ歸著ノ後日數ノ過不足ヲ決算シテ給收ス

第四 官雇外國人ノ俸給旅費等ハ規則ニ照準シテ檢査精算シ廻議ノ後之ヲ付シテ證書ヲ徴ス尤發程歸著ノ日ハ其時々名簿科ノ檢印ヲ以テ證スルコト官員ニ同シ

第五 月給旅費其他ノ假渡還納ハ大藏省書式ニ倣ヒ詳細ニ記載シ廻議ノ後其金ハ出納科ニ付ス

第六 給仕小使及一時使役スルモノハ毎月兩次勤休簿ニ因リ日給ヲ結算シ廻議ニ具シテ之ヲ給與ス

第七 船車郵便等ノ賃料ハ其時々又ハ出金ノ定日各科檢印ノ證書ヲ附シ廻議ニ具シ式ノ如ク發票ヲ受テ配給シ二通ノ證書ヲ取り月末之ヲ纏メ承管者與書調印シテ出納科ニ送ル

第八 常雇職工并雇夫ノ給料ハ各科ヨリ送ル所ノ督役簿ニ據リ金曜日ヨリ始メ木曜日ニ至迄二週間ノ勤仕時間及ヒ給料ヲ合計記載シ廻議ニ具シ課長檢印ノ上出納科ヨリ之ヲ受ケ土曜日止業ノ上ニテ給與スヘシ

第九 附屬以下諸工職等臨時賑恤及賞金ハ規則ニ照準シテ數ヲ定メ其主管ノ申請狀ヲ廻議ニ具シテ長官ノ判決ヲ請フ

第十 各款ノ賜給定則アルモノト雖モ課長以上ノ可印ナクシテ專恣之ヲ處スルヲ得ス
倉庫科 正權大屬以下ノ職務トス

本寮各科應用物品ヲ購買備辦配給スル等ノ事ヲ掌ル

第一 毎年一月ヨリ十二月迄定式支給スヘキ物品ノ費用ヲ概算總括シテ本科歳費ノ額トナシ又月々給發ノ多寡ヲ計リ十二箇月ニ區分シ之ヲ册記シテ前年十一月五日ヲ限リ出納科ニ送ル

第二 月費額内ヲ以應用ノ物品ヲ購買スルニハ常用物品ハ課長ノ檢印ヲ證トシ其代價ヲ渡スニ當リ總括シテ長官ノ檢印ヲ受ケ其他ノ物品ハ數目ノ多寡ヲ問ハス逐件廻議シテ長官ノ檢印ヲ受ケ

第三 應用ノ物品ヲ買辦スルニハ先ツ其物品ヲ注文簿ニ記シ更ニ之ヲ別記シ課印ヲ勘合シテ商人ニ付シ代價書及樣品ヲ出サシメ物品ノ可否價ノ當否等課長ノ檢査ヲ受ケ再ヒ廻議ニ具シ常用物品ハ課長其他ハ長官檢印ノ後調進簿ニ記シテ其物品ヲ納メシム

第四 外國ヘ注文品等著港スルトキハ稅關其他定例ノ如ク引取ノ手配ヲ爲シ送狀ト比較シテ毀損ノ有無負數ノ多寡等明細ニ檢査ノ上之ヲ簿記シテ長官ノ檢印ヲ受ケ

第五 諸物ノ代價ハ其代價物數ヲ記セル一様ノ受取書ニ通ヲ出サシメ承管ノ者與書調印ノ上之ヲ出納科ニ付シテ給付セシム

第六 所藏ノ物品ハ一切之ヲ蓄藏簿ニ記シ其費用ニ供スルニハ用度附屬等各冊ノ配給簿ニ記シ證印ヲ徴シテ之ヲ付ス
但書籍繪圖類ハ附屬品支給簿ニ記シテ之ヲ譯文或ハ編輯科ニ付シ毎月三月其科ニ於テ點檢シ有無ヲ本科ニ報知セシム

第七 資用品ヲ各科ニ付スルトキハ其製造物ニ用ヒ盡スヘキ物ト用ヒ盡サ、ル物トヲ二様ニ區別シ用ヒ盡スヘキ物ハ其製造物ノ名ヲ以テ貯蓄品配給簿ニ記シテ之ヲ付シ用ヒ盡サ、ル物ハ貯蓄品製作ノ名義ヲ以テ資品配給簿ニ記シテ之ヲ付シ各科ヨリ製品ヲ納ムルトキハ其大小品目斤量等ヲ詳細蓄藏簿ニ記シテ之ヲ收積ス

第八 各科ニ付スル諸資品ハ月末其品目斤量等ヲ總計シ其製造物品ニ照シテ殘數ノ有無及多寡ヲ檢ス

第九 本寮附屬品ハ各科附屬品簿ニ記スル所ヲ以テ毎月三月現物ニ對比點檢シ毀損アルハ修理ヲ加ヘ亡失アルハ之ヲ補具シ每時完備シテ闕失ナキヲ要ス
但毀損亡失スルモノアルトキハ其時々本科ニ報知セシム

第十 諸物品ノ内廢器等賣却スヘキモノハ廻議ノ上入札公賣シ代金ハ出納科ニ送ル

第十一 本寮常用ノ物品其他凡テ定例ニ從ヒ各科ノ證印ヲ取ラサレハ付與スルヲ得ス且倉庫内ハ常ニ整頓シテ出入ヲ便ニス可シ

清算科 正權大屬以下ノ職務トス

本寮各科一切出納ノ得失品價ノ當否本資消費ノ多寡ヲ檢査精算スル等ノ事ヲ掌ル

第一 毎月勘定帳ヲ檢査スル功程ハ出納科ヨリ付スルノ後四日ヲ限リトス若誤謬等アラハ其主任ニ推

間シテ改修セシメ清查訖テ其表紙ノ右端ニ記名押印シ之ヲ課長ニ出シ長官押印ノ上翌月十日ヲ期トシ本省ニ達ス

第二 各科ヨリ進達スル勘定帳ハ出納科ヨリ之ヲ受テ検査精算シ若物價工料其他適當セサルコアルカ或ハ式ニ觸ル、モノアルトキハ其次第ヲ詳記シ課長ニ告ケ返還シテ改正セシム故ニ清查ノ功程期ニ後ル、モノハ其實事ヲ長官ニ申報シテ本省ニ達ス

第三 建築製造修繕其他別ニ額費ヲ立ル者ハ最初ノ廻議ニ照シテ検査ヲ加フヘシ

第四 常ニ各所物品代價職工雇夫ノ賃料等ヲ詳記シ諸出納皆之ニ比考シ其得失當否ヲ検査ス可シ

第五 凡テ本科ニ於テ検査清算スル簿冊ヲ他ニ返還シ又ハ本省ニ達スル等必ス課長以上ノ指令ニ依ラ

スシテ専恣之ヲ處スルヲ得ス
以上之ヲ大屬以下事務ノ制限トス然トモ寮務繁劇ノ際ハ課中互ニ協助ス可シ出仕ハ本級ヲ以テ本官ト事務ヲ同クス

右分課處務規定本省ノ判決ヲ得テ定ムル所ナリ能ク之ヲ守リ其定限ヲ愆ル勿レ

工部省へ達 六年十一月十九日

其省中勸工寮ヲ廢シ同寮從前之事務ハ製作寮ニ於テ可取扱此旨相達候事
布告 第六年十一月十九日 右大臣岩倉具視

工部省中勸工寮ヲ廢シ同寮從前ノ事務ハ製作寮ニ於テ取扱候條此旨布告候事
工部省同 六年十一月十七日

當省勸工寮ヲ廢シ製作寮ニ合併被仰付候條致度此段相伺候也
工部省沿革報告抄錄 六年十一月十九日

勸工寮ヲ廢シ活字製造所及ヒ製煉所製絲所女工傳習所等ヲ製作寮ノ所管ニ隸ス
工部省沿革報告抄錄 三年四月二十二日

横須賀横濱ノ兩製鐵所ヲ管シ製鐵所並ニ鐵工寮ニ屬ス

四年八月十四日製鐵寮ヲ改メ官寮局ノ部ニ隸ス

工部省長崎製鐵所ヲ管ス

横須賀横濱ノ兩製鐵所ヲ民部省ヨリ繼承シ之ヲ掌管シテ製鐵所掛ヲ置ク

布告 四年四月九日

長崎製鐵所工部省管轄被仰付候ニ付テハ自今修船其外願立ノ儀同省へ可申出事

工部省上申 四年四月七日
長崎製鐵所ノ儀兼テ被仰渡候趣ヲ以テ山尾權大丞出張右製鐵所同所縣廳ヨリ受取申候就テハ同所於テ修船其外願度者ハ直ニ申出候條御達有之度依之御達案相添此段申進候也
指令
申出ノ通相達候事

(參照)

井上開多(長崎府)ニ達 元年六月十九日
徳川ニオイテ取建置候長崎府製鐵場其外局々從來不取締ヨリシテ種々ノ惡弊相生シ已ニ十年ノ久ニ至ルト雖モ其成功無之候處今般御一新海陸ノ武備大ニ御更張被爲在候ニ付テハ尤緊要ノ器械ニ付速ニ右局々ノ規則嚴重ニ被相立御來ノ惡弊一掃シ天下ノ武器十分修繕相成候條被遊度思召ニ付右御用掛被仰付候條精々取締盡力可致御沙汰候事

○備考

工部省沿革報告抄錄
長崎造船局ハ明治元年六月十九日長崎府之ヲ所管シ長崎製鐵所ト稱スルニ創リ同四年四月七日工部省ノ所轄ニ屬シ長崎造船所ト稱シ同年八月十四日造船寮ニ隸ス五年十月二十日造船寮ヲ廢シ製作寮ヲ置クニ及テ之ニ隸シ長崎製作所ト稱シ十年一月十一日製作寮ヲ廢シ工作局ヲ置クニ及テ之ニ隸シ長崎工作分局ト稱シ十六年九月二十二日工作局ヲ廢スルニ及テ長崎造船局ト稱シ工部省ノ直轄ト爲シ十七年七月六日ニ至テ之ヲ廢シ其工場ヲ三菱會社ニ貸與ス

辨官達 四年四月九日

横須賀并長崎製鐵所ハ造船所横濱製鐵所ハ製作所ト改稱相成候間爲心得相達候也

工部省同 四年四月九日
横須賀長崎製鐵所ノ儀是迄一般製鐵所ト相唱候處造船ヲ始メ製作物等ノ場所製鐵所ト相唱ヘ候モ不都合ニ付以來横須賀并長崎製鐵所ト相唱ヘ申度横濱製鐵所ノ儀ハ製作所ト唱ヘ可申候石ヲ以テ鑄鐵製鐵所ハ製鐵所ト唱ヘ候條仕度尤横須賀并長崎製鐵所ノ儀ハ御布告ニモ相成居候ニ付唱替ヘノ儀被仰出候條仕度依之御達案相添此段相伺候也

横須賀外兩所ノ製鐵所改稱
五年十月八日横須賀造船所横濱製鐵所ヲ海軍省ニ屬ス
五年十月布告第三十三號ヲ以テ長崎造船所ヲ製作所ト改稱ス

申出ノ通相達候事
(備考)

横須賀製鐵所ハ舊幕府ニ於テ慶應元年七月之カ建造ニ從事シ翌二年十一月之ヲ横濱ニ分築セリ明治元年四月二十日横濱裁判所總督東久世通庸收メテ之ヲ管理シ二年十月二十八日民部大藏二省ノ所管ニ屬ス三年三月十九日修船場ヲ横須賀灣ニ開キ同年八月九日民部省中ニ横須賀製鐵所掛ヲ置ク同年閏十月二十二日工部省ノ所管ニ歸シ四年二月八日横須賀製鐵所修船架ヲ創開ス此ニ至リテ名稱ヲ改ム

工部省沿革報告抄錄 四年十月二日

製鐵寮ヲ赤羽舊久留米藩ノ邸址ニ設ク

工部省伺 四年六月七日

鐵山之備不日御開ニモ相成候ニ付産生鐵類製煉場所無之候而者不相成候處幸ヒ先年佐賀藩ヨリ舊政府ニ差出候製鐵機械之儀横須賀製鐵所ニ其儘有之同所連モ可取建餘地モ無之今時樞要之器械全備モ仕居共儘ニ差置候モ御不益ニ付水路其外便宜ノ地ニ御取建相成候ハ御有益ニモ可相成ニ付赤羽根久留米藩邸ハ水理并鐵道モ都合宜運轉便利之地ニ付右藩邸工部省ニ御渡方有之候様仕度尤東京府ニモ打合候處差支筋無之旨申開候依之此段相伺申候也

指令

伺之通被開届候條受取方之儘ハ東京府ニ可打合候事

工部省伺 四年八月九日

赤羽根久留米藩邸當省製鐵器械取建所ニ御渡之積リ被仰渡候處右場所昨八日東京府ヨリ請取申候此段申進候也

工部省布達 五年正月日

兵庫表元金澤縣管轄製作所ノ儀以來當省管轄被仰付候ニ付テハ自今於同所船艦器械製造修復等ノ儀直ニ同所ニ可願出候事

工部省伺 五年正月十九日

兵庫表ニ有之候修船製作器械金澤縣ヨリ御買上ケ、儀先般伺濟候ニ付北條氏換出張右製作所并諸器械共此程請取濟相成候就テ已來船艦器械製造并修復等ノ儀願度者ハ直ニ同所ニ爲申出候ニ付即別紙ノ通布告致申候依之此段御届申候也

兵庫表ノ製作所ヲ管ス
十年一月十一日製作寮ヲ
廢シ工部省ヲ區ニ及テ之
ニ屬シ兵庫工作分府ト稱
シ十六年九月二十二日兵
庫製作所ト稱ス官等寮局
ノ部ニ屬ス

工部省沿革報告抄錄 四年十二月二十六日
兵庫製作所ヲ攝州八部郡兵庫川崎東出町ニ創設シ製作寮ノ所管ニ隸ス 六年四月ニ至テ兵庫

造船寮ヨリ工部省ニ伺定 四年十二月日

横須賀造船所各職場諸職方之内工業検査ヲ爲セシ上午後第四字ヨリ第五時迄同所製繩場二階ニ於テ算學及製圖學等爲致修業度候事

但教師ハ御雇佛人ノ内ヨリ相撰ニ爲御手當一箇月増給二十弗ツ、被下度候事

一前件ノ修行ニ付造船所監職頭職之内ヨリ出席其助教ヲ爲シ稽古人名簿及ヒ其勤惰等日々検査可致事
一當造船所創立以來諸會計向未タ一般之體裁不相立如何トナレハ御雇佛人ト日本人ト一事二途ニ出譬
ヘハ諸物品之勘定内譯書等佛人關係之分ハ原書ノ儘ニテ翻譯等未タ取調無之此儘ニ相過候テハ後來
若不都合等出來候節ハ取糺方相混シ至テ難ク加之方今造船所諸建築ヲ始メ機械運轉法等悉ク佛式ニ
據リ研窮致シ來候得ハ別段會計法モ同シク佛規則ニ據リ設爲不致候テハ事實一定之處置難被行且後
年ニ至リ初發ヨリノ諸簿册類區々ニテハ一目瞭然ニ辨解モ難致尤不都合之至ニ付向後諸勘定ハ都テ
一途ニ取調方爲致度就テハ其器ニ中ル者人撰ノ上可申立事

一當造船所ハ別テ僻陋ノ地ニテ醫業ノ功者モ無之諸職人共工業中過テ怪我有之節治療差支從來夫カ爲
メ不幸ノ死ニ至ル者不少甚惘然ノ至ニ付向後此患無之様致シ度仍テ治療相應出來候醫師一名兼テ在
勤被命度御許容ノ上ハ人撰早々取調差出可申事

一工業熟達ニ依リ御抱入相成候者共十箇年以上モ無滞相勤老衰ニ至リ最早其業ヲ以テ自ラ生計相營ミ
兼候儀モ可有之依テ日々被下候賃價ノ内ヨリ一割カ又ハ五分ヲ貯蓄スルノ法ヲ設ケ官局ヨリ之レヲ
爲替三井等へ仕法相立預ケ置追テ本人暇差遣シ候節ニ至リ附與致度候事

造船寮職制并事務章程 五年六月二十七日

横須賀造船所ノ事宜ヲ
定ム
五年十月八日横須賀造船
所ヲ海軍省ニ屬ス

造船寮職制

頭 一員

寮中諸官員ノ首長ニシテ造船一切ノ事務ヲ管理スルヲ掌ル
寮中諸官員ノ處務ヲ指令シ各課ノ事ヲ統督ス
寮中諸般ノ事務其章程ト成規トニ照シテ之ヲ踐行修整スルニ於テハ卿輔ニ對シ擔保ノ責任ヲ有ス
掌管ノ事務ニ於テハ卿輔ニ對シ其當否ヲ論辯スルヲ得
各課ヲ廢立シ及ヒ寮中ノ諸規則ヲ更正スル等ノ事アレハ卿輔ノ決判ヲ乞テ之ヲ處置ス
寮中諸官員ノ能否勤惰ヲ監視シテ之ヲ進退黜陟シ又ハ其員ヲ増減スル等ハ審案具狀シテ卿輔ニ呈シ
其決判ヲ乞フ

權頭 一員

職掌責任頭ニ亞ク

頭缺席スルカ又ハ缺員ノ時ハ一切頭ノ職掌ヲ代理スルヲ得

助 定員ナシ

寮中各課ノ長トシテ其事務ヲ擔當スルヲ掌ル

各掌管ノ事務ヲ整理スルニ於テハ頭權頭ニ對シテ其責任ヲ有ス

權助 定員ナシ

職掌責任助ニ亞ク

以上之ヲ奏任官トス

大屬 權大屬

中屬 權中屬

少屬 權少屬

頭權頭ノ指令ニ從ヒテ寮中ノ事務ヲ處ス

以上之ヲ判任官トス

大屬以下ノ人員ハ事務ノ繁簡ニ從ヒテ増減アルヘシ

統計課

金穀出納精算ノ事ヲ管ス

賜給課

内外役員俸給旅費等支給ノ事ヲ管ス

倉庫課

貯蓄ノ物品出納ノ事ヲ管ス

基整課

造船所用ノ物品并本寮使用ノ諸品買辦ノ事ヲ管ス

分配課

諸營繕及ヒ各工場人足分配并賃料計算ノ事ヲ管ス

庶務課

文書往復内外修復艦船ノ應接及ヒ官員身上ノ件外國人名簿等ノ事ヲ管ス

取締課

諸工場學舎并邏卒以下ノ取締買辦諸物ノ檢査出入諸船尋問及ヒ徒役使用等ノ事ヲ管ス

技術課

本寮主務ノ技術ニ屬スル一切ノ事ヲ管ス

通譯課

一二ノ等級ヲ分チ官長及ヒ諸僚屬ノ通辯同シク往復ノ文書等ヲ譯シ又會計倉庫書籍ノ三科ヲ分チ
諸算計書類并外國ニ購求スル物件ノ記文ヲ譯シ庫内ノ出納并各工場ニ分給スル物件ヲ和文洋文ヲ
以テ對記シ及ヒ圖書出納筆墨支給等ノ事ヲ管ス

造船寮事務章程

造船寮ハ造船一切ノ事務ヲ掌管ス其綱領左ノ如シ

- 一内外公私ノ需メニ應シ軍艦商船其他各種ノ船ヲ製造修理スル事
- 一各處造船所ヲ建築修理スル事
- 一本寮要務ノ技術ヲ開明スル事

以上各條本寮掌管ノ事務トス然レトモ其事ヲ處スルニ當リ卿輔ノ決判ヲ乞テ然ル後施行スヘキ條アリ卿輔ノ決判ヲ乞ハスシテ專任處置スヘキ條アリ其例目ヲ分ツ左ノ如シ

但本省事務章程ノ上款ニ載スル上奏制可ヲ經テ舉行スヘキノ條件ニ屬スルモノ此外ニアリ

上款

卿輔ノ決判ヲ乞テ然ル後施行スヘキ條

一造船所ノ法則ヲ脩定スル事

一外國人ヲ傭使シ或ハ傭役ノ期滿テ再期ヲ約シ又ハ傭中退職セシムル等凡テ立約ニ關スル事

一外國人ノ俸給ヲ増減シ及ヒ其功罪ニ因テ處置スル事

一定額外費用ノ事

一常用ノ外外國ヨリ器械物品ヲ購買スル事

一本寮要務ノ諸術傳習ノ法則ヲ立ル事

以上各款皆頭之ヲ判案シテ其要旨ヲ概記シ又ハ處分ノ法案ヲ作り卿輔ニ呈シ決判ヲ乞ヒ然ル後施行スヘシ

下款

卿輔ノ決判ヲ乞ハスシテ專任處置スヘキ條

一諸官員ニ各所造船所出張ヲ命スル事

一造船場及ヒ官舎等前規ニ依テ修理スル事

一各處造船所ニ於テ諸船造修及ヒ諸營繕ノ事アリテ其地ノ人民ヲ役シ竹木土石等ヲ用ユルヲ要スルトキ其管轄處ト商議シ便宜處置スル事

一各處ニ在職出張セル本寮附屬月給二十兩以下ニテ定員内ニ在モノヲ黜陟スル事

一各課ノ官員ヲ左右交替スル事

一本寮附屬以下内外ノ諸職工勸獎ノ爲メ十兩以下ノ賞金ヲ與フル事

一通辯翻譯諸技術ニ長セル者ヲ急務ニヨリテ擧用スル時其本貫ノ官廳ニ通達シ傭又ハ附屬ノ名ヲ以テ

一時使役スル事

一常用ノ物品ヲ外國ヨリ收買スル事

一各所ニ於テ事ヲ執ノ際若シ臨時急務ニ處スルニ當リ卿輔ニ稟議スヘキ事件ニ屬スト雖トモ其大體ニ妨ケナキモノハ便宜之ヲ裁決シ尋テ其狀ヲ具シテ開報スルヲ得ル事

以上各款皆頭專執處置スルヲ得ヘシ然シテ之ヲ行フノ後官員進退其他處務ノ要件ハ其狀ヲ具シテ卿輔ニ開報スルヲ要ス

○ 新艦製造及ヒ工場官舎建築等ノ事業ヲ興ストキハ其興業ノ要旨ト造築ノ形狀及ヒ資材工費ノ總計成功ノ期限等詳細開具シ卿輔ノ決判ヲ得營作ノ際冗費ヲ省キ豫定ノ圖式ニ違ハス堅牢ニ落成セシムルヲ要ス

造船ノ事務ニ於テ傭使スル外國人任職ノ件ハ都テ其條約ノ制規ニヨリ勉勵從事セシムルヲ要ス凡本寮掌管ノ事務他方へ指令布達スルハ豫メ文案ヲ作り卿輔ノ一覽ヲ乞ヒ然ル後卿輔ノ名ヲ以テ之ヲ達シ其商議咨問等ハ頭權頭ノ名ヲ以テ往復シ頭權頭俱ニ缺ルトキハ助權助ノ名ヲ以テ往復スルヲ得ヘシ

本寮及ヒ各處造船所ノ諸書類諸簿冊ハ様式ノ如ク編纂シテ後考ニ便ナラシムルヲ要ス

各處造船所ニ於テ製造修理スル内外ノ船數及ヒ諸營繕等工程ノ次第ト其收入スル工料并諸色代價ノ總

計各般經費ノ計算ハ毎月毎三月毎一年ト之ヲ類別シテ詳細ナル考課狀及ヒ計表ヲ作り卿輔ニ進呈ス
卿輔ノ命ニ因テハ臨時ノ考課狀及ヒ計表ヲ作りテ送呈スルコトアルヘシ
本寮諸官員以下備使スル外國人ノ姓名ヲ詳記シ官祿俸給旅費及ヒ諸雜費其他買辦ノ物品代價等ハ様式
ノ如ク總計表ヲ造リテ毎月之ヲ送呈ス

凡本寮ノ事務ヲ掌理スルニハ本省職制事務章程其他條令及ヒ寮中ノ成規等ト照準シテ之ヲ處置シ施爲
ノ際違誤ナキヲ要ス

此章程中他日増減ヲ要スル事アラハ卿輔ノ決判ヲ乞テ便宜加除更正スルヲ得ヘシ
右職制并事務章程

上奏シテ定ムル所ナリ能之ヲ守リ其程限ヲ愆ル勿レ
明治五年壬申年六月二十七日

工部少輔山尾庸三

造船頭平岡通義殿

右職制并事務章程通義恪守遵奉其職ヲ盡スヘシ若シ本寮事務擧ラサルアラハ通義謹テ其責ニ任スヘキ
也

壬申六月

工部少輔山尾庸三殿

造船頭平岡通義

製鐵寮職制章程

五年十月布告第三百十三號ヲ以テ製鐵寮ヲ廢シ製作寮ニ合ス

製鐵寮職制

五年六月二十七日

頭 一員

寮中諸官員ノ首長ニシテ製鐵一切ノ事務ヲ管理スルヲ掌ル

寮中諸官員ノ處務ヲ指令シ各課ノ事ヲ統督ス

寮中諸般ノ事務其章程ト成規トニ照シテ之ヲ踐行修整スルニ於テハ卿輔ニ對シ擔保ノ責任ヲ有ス

掌管ノ事務ニ於テハ卿輔ニ對シ其當否ヲ論辯スルヲ得

各課ヲ廢立シ及ヒ寮中ノ諸規則ヲ更正スル等ノ事アレハ卿輔ノ決判ヲ乞テ之ヲ處置ス

寮中諸官員ノ能否勤惰ヲ監視シテ之ヲ進退黜陟シ又ハ其員ヲ増減スル等ハ審察具狀シテ卿輔ニ呈シ

其決判ヲ乞フ

權頭 一員

職掌責任頭ニ亞ク

頭缺席スルカ又ハ缺員ノ時ハ一切頭ノ職掌ヲ代理スルヲ得

助 定員ナシ

寮中各課ノ長トシテ其事務ヲ擔當スルヲ掌ル

各掌管ノ事務ヲ整理スルニ於テハ頭權頭ニ對シテ其責任ヲ有ス

權助 定員ナシ

職掌責任助ニ亞ク

以上之ヲ奏任官トス

大屬 權大屬

中屬 權中屬

少屬 權少屬

頭權頭ノ指令ニ從ヒテ寮中ノ事務ヲ處ス

以上之ヲ判任官トス

大屬以下ノ人員ハ事務ノ繁簡ニ從ヒテ増減アルヘシ

庶務課

文書勘査取締ノ三科ヲ分チ應接建議復往創案記錄主簿通辯翻譯ノ事ヲ辨シ器械木石其他購賒諸品
ヲ查計シ及ヒ給仕小使馬丁ノ監督諸工人夫ノ使役鎖鑰鑑札ノ取締リ寮中巡視等ノ事ヲ管ス

計算課

出納精算用度修繕ノ四科ヲ分チ寮中費用ノ金銀ヲ出納シ一切ノ經費ヲ精算シ器械用度ヲ購賒支給シ及ヒ寮中營繕等ノ事ヲ管ス

製鐵寮事務章程

製鐵寮ハ鐵及ヒ銅鉛ヲ製スル一切ノ事務ヲ掌管ス其綱領左ノ如シ

一工場ヲ築造シ製鐵製銅製鉛等ノ諸機械ヲ裝置スル事

一諸山ヨリ製出スル鐵及ヒ銅鉛類ヲ鑄鑄鍛煉シテ鐵道造船土木等ノ工業其他百般ノ需要ニ供シ凡テ金屬ノ利用ヲ饒足セシムル事

一本寮要務ノ技術ヲ開明スル事

以上各條本寮掌管ノ事務トス然レトモ其事ヲ處スルニ當リ卿輔ノ決判ヲ乞テ然ル後施行スヘキ條アリ卿輔ノ決判ヲ乞ハスシテ專任處置スヘキ條アリ其例目ヲ分ツ左ノ如シ

但本省事務章程ノ上款ニ載スル上奏制可ヲ經テ奉行スヘキ條ニ屬スルモノ此外ニアリ

上款

卿輔ノ決判ヲ乞テ然ル後施行スヘキ條

一製鐵工業ノ法則ヲ定ムル事

一本寮工業ノ爲メ漕運ノ便路ヲ築治スル事

一外國人ヲ傭使シ或ハ傭役ノ期滿テ再期ヲ約シ又ハ傭中退職セシムル等凡テ立約ニ關スル事

一外國人ノ俸給ヲ増減シ及ヒ其功罪ニ因テ處置スル事

一定額外費用ノ事

一外國ヨリ器械ヲ購買スル事

一本寮要務ノ諸術傳習ノ法則ヲ立ル事

以上各款皆頭之ヲ判案シテ其要旨ヲ概記シ又ハ處分ノ法案ヲ作り卿輔ニ呈シ決判ヲ乞ヒ然ル後施行ス

ヘシ

下款

卿輔ノ決判ヲ乞シテ專任處置スヘキ條

一本寮ニテ製出スル銅鐵鉛類ヲ内外國民ニ賣鬻スル事

一鑛山其他要務ノ地ヘ諸官員出張ヲ命スル事

一工場及ヒ官舎等落成ノ後前規ニ仍テ修理スル事

一本寮ノ事業ニヨリ各地方ノ人民ヲ役シ竹木土石等ヲ用ルヲ要スルトキハ其管轄廳ト商議シ便宜處置スル事

一各課ノ官員ヲ左右交替スル事

一本寮附屬以下内外ノ諸職工勸獎ノ爲メ十兩以下ノ賞金ヲ與フル事

一通辯翻譯諸技術ニ長セル者ヲ急務ニヨリテ擧用スルトキ其本貫ノ官廳ニ通達シ傭又ハ附屬ノ名ヲ以テ一時使役スル事

一各地ニ於テ事ヲ執ノ際若シ臨時急務ニ處スルニ當リ卿輔ニ稟議スヘキ事件ニ屬スルト雖トモ其大體ニ妨ケ無モノハ便宜之ヲ裁決シ尋テ其狀ヲ具シテ開報スルヲ得ル事

以上各款皆頭專執處置スルヲ得ヘシ然シテ之ヲ行フノ後其處務ノ要件ハ其狀ヲ具シテ卿輔ニ開報スルヲ要ス

工場ヲ新築シ機械ヲ裝置シ其他諸建築ノ事業ハ始計ノ圖式豫定ノ經費成功ノ期限ヲ達ヘス堅牢ニ落成セシムルヲ要ス

工場落成ノ後本寮ノ事務ハ鑛山製鐵ノ工業ニ交渉スルヲ以テ鑛山寮ト協議シテ銅鐵製造ノ事業ヲ盛大ニスルヲ要スヘシ

製鐵ノ事業ニ於テ傭使スル外國人任職ノ件ハ都テ其條約ノ制規ニヨリ勉勵從事セシムルヲ要ス

凡本寮掌管ノ事務他方へ指令布達スルハ豫メ文案ヲ作り卿輔ノ一覽ヲ乞ヒ然ル後卿輔ノ名ヲ以テ之ヲ達シ其商議咨問等ハ頭權頭ノ名ヲ以テ往復シ頭權頭俱ニ缺ルトキハ助權助ノ名ヲ以テ往復スルヲ得ヘシ

寮中ノ諸書類諸簿冊ハ様式ノ如ク編纂シテ後考ニ便ナラシムルヲ要ス

工場建築其他工程ノ次第ト其經費ノ計算及ヒ寮中ニ於テ製出スル銅鐵鉛類ノ斤數賣鬻并收買スル代價ノ總計ハ毎月毎三月毎一年ト之ヲ類別シテ詳細ナル考課狀及ヒ計表ヲ作り卿輔ニ進呈ス

卿輔ノ命ニ因テハ臨時ノ考課狀及ヒ計表ヲ造リテ送呈スルヲアルヘシ

本寮諸官員以下備使スル外國人ノ姓名ヲ詳記シ官祿俸給旅費及ヒ諸雜費其他買辦ノ物品代價等ハ様式ノ如ク總計表ヲ作りテ毎月之ヲ送呈ス

凡本寮ノ事務ヲ掌理スルニハ本省職制事務章程其他條令及ヒ寮中ノ成規等ニ照準シテ之ヲ處置シ施爲ノ際違誤ナキヲ要ス

此章程中他日増減ヲ要スル事アラハ卿輔ノ決判ヲ乞テ便宜加除更正スルヲ得ヘシ

工部少輔山尾庸三

右職制并事務章程博愛恪守遵奉其職ヲ盡スヘシ若シ本寮事務擧ラサルアラハ博愛謹テ其責ニ任スヘキ也

壬申六月

工部少輔山尾庸三殿

製鐵權頭中村博愛

製作寮職制章程

製作寮職制并事務章程 五年六月二十七日

製作寮職制

頭 一員

寮中諸官員ノ首長ニシテ製作一切ノ事務ヲ管理スルヲ掌ル

寮中諸官員ノ處務ヲ指令シ各課ノ事ヲ統督ス

寮中諸般ノ事務其章程ト成規トニ照シテ之ヲ踐行修整スルニ於テハ卿輔ニ對シ擔保ノ責任ヲ有ス

掌管ノ事務ニ於テハ卿輔ニ對シ其當否ヲ論辯スルヲ得

各課ヲ廢立シ及ヒ寮中ノ諸規則ヲ更正スル等ノ事アレハ卿輔ノ決判ヲ乞テ之ヲ處置ス

寮中諸官員ノ能否勤惰ヲ監視シテ之ヲ進退黜陟シ又ハ其員ヲ増減スル等ハ審案具狀シテ卿輔ノ決判ヲ乞フ

權頭 一員

職掌責任頭ニ亞ク

頭缺席スルカ又ハ缺員ノ時ハ一切頭ノ職掌ヲ代理スルヲ得

助 定員ナシ

寮中各課ノ長トシテ其事務ヲ擔當スルヲ掌ル

各掌管ノ事務ヲ整理スルニ於テ頭權頭ニ對シテ其責任ヲ有ス

權助 定員ナシ

職掌責任助ニ亞ク

以上之ヲ奏任官トス

大屬 權大屬

中屬 權中屬

少屬 權少屬

頭權頭ノ指令ニ從ヒテ寮中ノ事務ヲ處ス

以上之ヲ判任官トス

大屬以下ノ人員ハ事務ノ繁簡ニ從ヒテ増減アルヘシ
統計課

金穀出納精算ノ事ヲ管ス

賜給課

内外役員俸給旅費等支給ノ事ヲ管ス

倉庫課

貯蓄ノ物品出納ノ事ヲ管ス

基整課

製作所用ノ物品并本寮使用ノ諸品買辦ノ事ヲ管ス

分配課

諸營繕及ヒ各工場人足分配并賃料計算ノ事ヲ管ス

庶務課

文書往復地方應接官員身上ノ事件外國人名簿等ノ事ヲ管ス

取締課

工場并邏卒取締買辦諸物検査等ノ事ヲ管ス

技術課

本寮主務ノ技術ニ屬スル一切ノ事ヲ管ス

通譯課

通辯翻譯ノ事ヲ管ス

製作寮事務章程

製作寮ハ諸器械製作ノ事務ヲ掌管ス其綱領左ノ如シ

一機械ノ功用ヲ以テ凡百ノ機械要具ヲ製造シ内外國民ニ賣鬻シテ利用ニ供スル事

一製作場諸機關等修理保全スル事

一本寮要務ノ技術ヲ開明スル事

以上各條本寮掌管ノ事務トス然レトモ其事ヲ處スルニ當リ卿輔ノ決判ヲ乞テ然ル後施行スヘキ條アリ
卿輔ノ決判ヲ乞シテ專任處置スヘキ條アリ其例目ヲ分ツ左ノ如シ

但本省事務章程ノ上款ニ載スル上奏制可ヲ經テ舉行スヘキノ條件ニ屬スルモノ此外ニアリ

上款

卿輔ノ決判ヲ乞テ然ル後施行スヘキ條

一製作場ノ法則ヲ定ムル事

一外國人ヲ傭使シ或ハ傭役ノ期滿テ再期ヲ約シ又ハ傭中退職セシムル等凡テ立約ニ關スル事

一外國人ノ俸給ヲ増減シ及ヒ其功罪ニ因テ處置スル事

一定額外費用ノ事

一常用ノ外外國ヨリ器械物品ヲ購買スル事

一本寮要務ノ諸術傳習ノ法則ヲ立ル事

以上各款皆頭之ヲ判案シテ其要旨ヲ概記シ又ハ處分ノ法案ヲ造リ卿輔ニ呈シ決判ヲ乞ヒ然ル後施行スヘシ

下款

卿輔ノ決判ヲ乞シテ專任處置スヘキ條

一本寮ニテ製出スル諸器械ヲ内外國民ニ賣鬻スル事

一諸官員ニ各處製作所出張ヲ命スル事

一製作場及ヒ官舎等前規ニ仍テ修理スル事

一重大ノ機械製作及ヒ工場營建ノ事業等既ニ卿輔ノ決判ヲ得ルノ後實際ニ當リ其豫定ノ模様ヲ變改セ

サルヲ得サルトキハ再ヒ咨議ヲ請ヘシト雖モ遠隔ノ地往復ノ間ヲ得ヘカラサルハ便宜之ヲ處置シ具
狀シテ開報スルヲ得ル事

一各處ニ在職出張セル本寮附屬月給二十兩以下ニテ定員内ニ在モノヲ黜陟スル事
一各課ノ官員ヲ左右交替スル事

一本寮附屬以下内外ノ諸職工勸奨ノ爲メ十兩以下ノ賞金ヲ與フル事
一通辯翻譯諸技術ニ長セル者ヲ急務ニヨリテ擧用スルトキ其本貫ノ官廳ニ通達シ備又ハ附屬ノ各ヲ以
テ一時使役スル事

一常用ノ物品ヲ外國ヨリ收買スル事
以上各款皆頭專執處置スルヲ得ヘシ然シテ之ヲ行フノ後官員進退其他處務ノ要件ハ其狀ヲ具シテ卿輔
ニ開報スルヲ要ス

○
機械製造及ヒ工場營建等ノ事業ヲ興ストキハ其興業ノ要旨ト造建ノ形狀及ヒ資材工費ノ總計落成ノ期
限等詳細開具シ卿輔ノ決判ヲ得營作ノ際冗費ヲ省キ豫定ノ圖式ニ違ハス成功セシムルヲ要ス

製作ノ事務ニ於テ備使スル外國人任職ノ件ハ都テ其條約ノ制規ニ依テ勉勵從事セシムルヲ要ス
凡本寮掌管ノ事務他方へ指令布達スルハ豫メ文案ヲ作り卿輔ノ一覽ヲ乞ヒ然ル後卿輔ノ各ヲ以テ之ヲ
達シ其商議咨問等ハ頭權頭ノ各ヲ以テ往復シ頭權頭俱ニ缺ルトキハ助權頭ノ各ヲ以テ往復スルヲ得ヘ
シ

本寮及ヒ各處製作所ノ諸書類諸簿冊ハ樣式ノ如ク編纂シテ後考ニ便ナラシムルヲ要ス
各處製作所ニ於テ製出并賣鬻スル諸器械物品ノ數目及ヒ諸營繕等工程ノ次第ト其賣鬻代價ノ總計各般
經費ノ計算ハ毎月毎三月毎一年ト之ヲ類別シテ詳細ナル考課狀及ヒ計表ヲ造リ卿輔ニ進呈ス

卿輔ノ命ニヨリテハ臨時ノ考課狀及ヒ計表ヲ造リテ送呈スルヲアルヘシ
本寮諸官員以下備使スル外國人ノ姓名ヲ詳記シ官祿俸給旅費及ヒ諸雜費其他買辦ノ物品代價等ハ樣式
ノ如ク總計表ヲ造リテ毎月之ヲ送呈ス

凡本寮ノ事務ヲ掌理スルニハ本省職制事務章程其他條令及ヒ寮中ノ成規等ニ照準シテ之ヲ處置シ施爲
ノ際違誤ナキヲ要ス
此章程中他日増減ヲ要スル事アラハ卿輔ノ決判ヲ乞テ便宜加除更正スルヲ得ヘシ

右職制并事務章程
上奏シテ定ムル所ナリ能之ヲ守リ其程限ヲ愆ル勿レ

明治五壬申年六月二十七日

工部少輔山尾庸三

製作 頭平岡通義殿

右職制并事務章程通義恪守遵奉其職ヲ盡スヘシ若シ本寮事務擧ラサルアラハ通義謹テ其責ニ任スヘキ
也

壬申六月

製作 頭平岡通義

工部少輔山尾庸三殿

工部省へ達 五年十月八日
横須賀造船所横濱製作所海軍省へ可引渡事

横須賀造船所横濱製作
所ヲ海軍省ニ屬ス

造船製鐵ニ寮ヲ廢シ製
作寮ニ合シ長崎造船所
ヲ長崎製作所ト改稱ス
十年一月製作寮ヲ廢シ工
作局ヲ置キ長崎製作所ヲ
長崎工作分局ト稱ス

工部省へ達 五年十月二十日

其省造船製鐵寮ヲ廢シ製作寮へ被合併候事

但長崎造船所ノ儀ハ自今長崎製作所ト可稱事

布告 五年十月二十日
第三百十三號

造船製鐵寮ヲ廢シ製作寮へ被合併候事

但長崎造船所ノ儀ハ自今長崎製作所ト可稱事

工部省同五年十月八日
横須賀造船所ノ鐵海軍省へ引渡方被仰出候ニ付造船寮ハ相廢レ長崎造船所ノ鐵ハ製作寮へ合併長崎製
作所ト相唱候様被仰出度此段申進候也
工部省同五年十月十二日
當省製鐵寮相廢製作寮ニ合併イタシ御減費ニハ相成不申候ヘトモ實地ニツイテ差支無之様被存候間此
段相伺候也

製作寮ヲ舊赤羽製鐵寮
ニ移ス
六年十一月當働工寮址へ
移ス

工部省沿革報告抄錄 五年十月二十日
製作寮ヲ舊赤羽ノ製鐵寮ニ移ス

製作寮主記課處務規定
八年三月二十九日記録局
ヲ區キ各寮ノ編輯事務ヲ
併ス

製作寮主記課處務規定 六年七月二十日

本寮主記一切ノ事務ヲ總括シ課中ノ事務ヲ分テ往復編輯譯文名簿受付ノ五科ヲ設ク
課長

課中ノ事務ヲ掌管擔當ス

掌管ノ事務ヲ整理スルニ於テハ長官ニ對シテ其責任ヲ有ス
擔當ノ事務ニ於テハ其當否ヲ長官ニ對シテ論辯スルヲ得

課中大屬以下ノ能否勤惰ヲ監視シテ長官ニ白スルヲ得

課中ニ受ル所ノ來書及稟請ノ文書等其緩急ヲ辨別シ要旨ヲ筆記シ檢印シテ長官ノ指令ヲ承ケ事ノ急ナ
ルモノハ急ノ字ヲ朱書シ各科ニ付シ或ハ稿案ヲ徵シ又ハ令文ヲ作ラシメ長官ノ考査ヲ受ク
主計課技術課ヨリ出ス所ノ廻議稟請ノ草案等ハ規則ニ照準シテ可否ヲ論辯スルヲ得ヘシ

課中常用ノ物品ハ記帖シテ倉庫科ヨリ之ヲ受ケ臨時用品ハ廻議ニ具セシム
等外官員ニ辭令ヲ授付スルヲ掌ル
權課長

課長ニ亞テ其職掌責任ヲ同クス

以上助以下委任官ノ職任トス然レトモ職員アルカ或ハ事務繁簡ニ因リ主記主計兩課ヲ兼又ハ權課長心
得ノ名ヲ以テ正權大屬ヨリ補攝セシムルコトアルヘシ
往復科 正權大屬以下ノ職務トス

文案ヲ起草シ公文ヲ往復シ外人ニ應接シ諸稟請伺候ヲ傳通スル等ノ事ヲ掌ル

第一 本省ニ進達スヘキ廻議稟請申報ノ類及其他省使府縣各出張所等ニ送ルヘキ布達通報諮問ノ類ハ
皆課長以上ノ指令ニ從ヒ章程ニ照準シ文案ヲ起草シ長官檢印ノ後之ヲ各方ニ送達ス

但定例アルモノト雖モ課長以上ノ檢印無シテ專恣之ヲ處スルヲ得ス以下各科ノ處務皆之ニ同シ

第二 往復文書其送ル者ハ皆課長以上ノ指令ニ因リ草ヲ呈シ檢印ノ後淨書シテ送達シ其大意月日號
數ヲ送翰銘簿ニ登記シ來ル者ハ來翰銘簿ニ同ク大意等ヲ登記シ長官檢印ノ稿案ハ各簿冊ニ留ム

第三 願伺居等ハ都テ副書ヲ出サシムルヲ例トス其指令ヲ請モノアレハ申帖ヲ細閱シテ課長ニ呈シ令
文ノ草案ヲ付サハ淨寫シテ之ヲ本人ニ付ス

但寮中ノ職員身上ニ係ル稟請申報等ハ名簿科ノ處務トス

第四 各課ヨリ致ス所ノ進達書類及報問書ノ如キハ之ヲ課長ニ呈シ長官可印ノ後本省ニ送達ス
但本省諸寮司及ヒ寮中交互ニ課名ヲ以テ往復スル文書ハ各課ノ處務ナレハ本課之ニ關セシ

第五 件銘簿ヲ作り往復文書其送ル者ハ送翰銘簿ヨリ登寫シ來ル者ハ來翰銘簿ヨリ登寫シ其本書編收
ノ簿名ヲ注記シ局ヲ卒フル者ハ結局ノ印ヲ押シ前後搜索ノ便ニ供ス

第六 各所へ往復ノ書ハ事ノ緩急細大ニ依リ郵船郵便又ハ電信ヲ以テ送達ス此賃ハ月末課長ノ檢印ヲ
受ケ主計課ニ付シテ辨償セシム

第七 來人ニ接スルニハ其陳述スル所ノ旨意ヲ審諦シテ之ヲ課長ニ白シ長官ノ指令ヲ承テ應答ス應接
ノ間苟モ取捨潤飾ヲ加ルヲ得ス事了テ之ヲ課長ニ報シ其要旨ヲ日記ニ記載ス其長官又ハ課長ノ指令
ヲ承ケ他方ニ詣テ應對スルモ又之ニ同シ

第八 他官吏ヲ召スヘキトキハ其旨ヲ本省ニ申告ス

編輯科

正權大屬以下ノ職務トス

寮記ヲ撰輯シ記録ヲ編收スルヲ掌ル

- 第一 本寮ノ沿革及章程規定ノ變更各工場建設ノ決議同創設開業年月又ハ修繕改置其他右ニ屬スル非常ノ諸件等ニ至ル迄都テ年月次序ヲ逐ヒ之ヲ編錄シテ寮記ヲ作ル
- 第二 公文ノ冊ヲ成スモノハ事類ヲ分別シ年月ヲ追ヒ之ヲ編收ス
- 第三 廻議ノ類本省ノ決印了リテ回ルモノハ判決ノ順次ヲ追ヒ之ヲ決議簿ニ編收ス
- 第四 外國人ノ條約及諸般公報等ノ譯書ハ譯文科ヨリ寫テ逐次之ヲ分類編收ス
- 第五 各課ノ建業錄考課狀竣功錄諸月表等ヲ括リ例ニ因リ每一月毎三月毎一年本寮考課狀ヲ作り課長并長官ノ檢印ヲ受ケ之ヲ本省ニ達ス
- 第六 官省ノ布達告文ノ類及本寮各課公務書類ノ已ニ結局ニ至ルモノ等順次之ヲ編收ス
- 第七 各課ニテ理スル所ノ公文中其事輕キモノト雖モ參考ニ供スヘキハ之ヲ輯存ス
- 第八 本寮附屬ノ和漢書籍ヲ管預シ目次號數ヲ記シ散逸ナキヲ要ス故ニ各課ノ官員借覽ヲ乞フトキハ證書ヲ取テ之ヲ付シ且毎三月原簿ニ依テ點檢シ若缺失アルトキハ其所由ヲ糺シテ倉庫科ニ報ス

- 譯文科 正權大屬上師以下ノ職務トス
- 外國書籍及中外書翰ヲ翻譯シ同ク語辭ヲ通スルヲ掌リ兼テ本寮附屬ノ外國書籍ヲ管ス
- 第一 長官及課長ノ指令ニ因リ外國書及橫文ヲ翻譯スルトキハ其要旨號數ヲ件銘簿ニ登記シ譯成ルトキハ草稿清書トモ右同號ヲ記シ清書ハ課長ニ呈シ草稿ハ草稿簿ニ挿收シ卷首ニ件銘記號ヲ標掲シ原書ハ原文簿ニ挿收シ卷首ニ同ク件銘記號ヲ標掲シテ共ニ搜索ノ便ニ供ス
- 但會計ニ係ル橫文ヲ譯スルトキハ先ツ要旨月日ヲ件銘簿ニ登記シ草稿ヲ計書譯文挿原文ヲ計書原文簿ニ挿收シ卷首ニ標目ヲ掲ケル等スヘテ本條ニ同クス
- 第二 外國人ニ指令諮問スル文書等課長ヨリ寮文ヲ付サハ之ヲ翻譯シ課長ノ檢閱ヲ經テ後之ヲ送達ス但寮中ヨリ外國人ヘ送ル公用ノ橫文ハ之ヲ押寫シ其書翰ノ當名號數及押寫ノ數ヲ記シ押寫簿ニ挿

- 收シ卷首ニ標目ヲ掲ケ原文ハ記號ニ合セ押寫原文簿ニ挿收シ同ク卷首ニ標目ヲ掲ケ
- 第三 科中ニテ受付スル一切ノ橫文書翰ハ原文譯文共ニ其姓名及號數ヲ記シ原文ハ信書原文簿ニ挿收シ譯文ハ信書譯文簿ニ挿收シ兩ナカラ第一條ニ同ク卷首ニ件名記號ヲ掲テ參觀ニ便ナラシム
- 第四 中外ノ語ヲ譯シ彼我ノ情意ヲ通スルニハ瑣モ潤飾ヲ加ヘス毫モ忌憚ヲ避ケス公明の實ニ其旨意ヲ傳ヘテ事情ヲ誤ル無キヲ要ス
- 第五 本寮所藏ノ外國圖書ハ目次號數ヲ圖書簿ニ詳記シ散逸ナキヲ要ス故ニ各科ノ官員借覽ヲ乞フトキハ之ヲ簿記シテ押印セシメ返納スレハ消印セシム本省寮司其他ヨリ借覽ヲ乞トキハ課長ノ可印ヲ得テ簿記シ證書ヲ取テ之ヲ貸與シ返納スレハ證書ヲ還付ス且毎三月圖書簿ニ依テ點檢シ若缺失アルトキハ其所由ヲ糺シテ倉庫科ニ通報ス
- 但書籍出納簿ヲ作り系格中横ニ一系ヲ設ケテ上下二段ニ分界シ各科ノ乞ニ應シテ本科主管ノ書籍ヲ貸付スルトキハ其書目冊數月日姓名ヲ上段ニ詳記シ返納スレハ下段ニ其月日ヲ記ス
- 第六 受付簿ヲ作り上條但書ノ如ク上下二段ニ分界シ一切ノ書翰ヲ受付スルニ方リ本科へ受ルモノハ上段ニ其書目姓名及月日ヲ記シ之ヲ本科ヨリ付スルトキハ其下段ニ月日ヲ記シ受主ノ證印ヲ徴ス
- 第七 本科ニ關スル諸往復ノ文書ハ順次之ヲ贈答簿ニ編シテ搜索ノ便ニ供ス

名簿科 正權中屬以下ノ職務トス

寮中官員及官雇外國人ノ名籍履歷進退增減ヲ明ニシ職員錄明細表ヲ編成シ出張在勤分科等ノ辭令ヲ書寫シ及各員身上ニ關スル申請報告等ノ事ヲ掌ル

- 第一 官員以下官備外國人及附屬ニ至迄寮中ノ人員ニ係ルモノハ一切其名籍履歷ヲ詳ニシ進退增減出張在勤歸寮等皆其申報書ヲ承テ各簿ニ記シ了リ各課ニ通報シテ檢印セシメ其本省へ達スヘキハ別ニ申報書ヲ作テ往復科ヨリ之ヲ進達スルヲ例トス
- 第二 判任官以下技術見習及附屬等ノ出張在勤分科等ノ辭令ハ長官ノ指令ニヨリ例ニ照シテ寮文ヲ作り長官檢印ノ後淨寫シテ之ヲ呈ス

但徵狀ハ例文ヲ用ヒ課長ノ指揮ニ從テ之ヲ發ス

- 第三 官員以下新ニ職務拜命セハ式ニ依テ屬籍履歷書ヲ出サシメ之ヲ職員錄及各簿ニ登寫シ其本寮ニテ拜命スルモノハ承書及屬籍履歷書ヲ往復科ヨリ届書ト共ニ本省ニ送達ス
- 第四 官員以下ノ免職ハ印鑑ヲ收メ受付科ニ付シ職員錄及各簿ノ名氏ヲ削リ其本寮ニテ免スルモノハ承書ヲ本科ニ取り印鑑ヲ受付科ニ付シ本省ヘ達スヘキハ往復科ニ付シ承書控ニハ本人奉職ノ年數等ヲ記シテ之ヲ留ム

- 第五 寮中奏判官ノ進退ハ往復科ニ付シテ各科并各出張所ニ通報ス
- 第六 職員表ヲ作り各月二日ヲ限リ往復科ニ付シ本省ニ達ス

- 第七 官備ノ外國人新約改約又ハ免黜スルモノ及給料ノ増減等決定ノ後往復科ヨリ通報スルニ從テ明細表ヲ改正ス

- 第八 職員錄明細表トモ二冊ヲ作り一冊ハ本省ニ送り一冊ハ本科ニ留メ各員ノ進退増減及屬族ノ變更等ヲ訂正シ毎月兩次本省ニ送り循環交換ス
- 第九 官員解免ノ節旅費并滿年賜物有之者等ハ例ニ因テ調査書ヲ課長ニ呈ス

- 第十 官員以下辭職歸省病告忌服轉居其他身上ニ關スル稟請申報ノ類ハ副書ト共ニ之ヲ受テ日記ニ登寫シ番號ヲ書シテ課長ニ呈シ令文ノ草案ヲ付サハ淨寫シテ本人ヘ付ス

但病告百日ヲ經テ出勤セサルモノハ之ヲ記シテ課長及主計課ニ報ス忌服ノ申報書ニハ除服ノ日ヲ附記シ之ヲ課長ニ致シテ本省ニ申報シ其本省ニ除服ヲ請フモノハ課長ノ指揮ヲ受ケ
受付科 權中屬以下ノ職務トス
諸文書ヲ受付シ本省ノ印鑑寮中ノ備品ヲ管シ守門給仕以下ヲ督シ時辰ヲ測正シ官員以下ノ出勤簿ヲ掌ル

- 第一 本省及各寮司其他諸文書ノ本科ニ受ルモノハ受入簿ニ本科ノ號數及件銘ヲ登記シ式ノ如ク本書ニ附紙シテ其號數ヲ朱書シ受付印ヲ押シ之ヲ課長ニ致シ其本科ヨリ本省及各寮司等ニ送達スルモノ

ハ受證簿ニ銘記シ各方ニ達シテ證印ヲ徵ス

- 第二 本省ノ印鑑ハ新ニ拜命スルモノニ一枚ヲ付シ其番號及年月日ヲ簿記シテ之ニ押印セシメ轉任免職ノモノハ還納ノ後消印ス若遺失火盜等ノ届アラハ其事情ヲ推究シテ課長ニ白ス
- 第三 寮中鋪設洒掃等ノ事ヲ指揮シ寮内常用物品修補ノ事ニ至テハ主計課ニ報シテ辨理セシム
- 第四 寮中宿直ノ順番ヲ定メ及時辰ヲ測正シテ差異ナカラシム
- 第五 在寮ノ官員以下日々ノ勤休ハ簿冊ヲ作テ押印セシメ月末ニ至リ勤休ノ日數ヲ總計シテ課長ニ呈ス

但日々鳴鐘ヲ以テ上寮午食退寮等ノ時限ヲ報セシム

- 第六 本寮守門給仕小使等ノ勤惰ヲ監視シテ之ヲ課長ニ白ス
 - 第七 非常預備物品等ハ時々點檢シテ散失ナカラシム
 - 第八 本寮附屬地ノ取締ヲ爲シ右ニ關スル府縣又ハ區長トノ應對ヲ掌ル
 - 第九 寮内修繕等アルトキハ逐件廻議ニ具シ課長押印ノ上長官ノ可印ヲ受テ之ヲ處置ス
 - 第十 寮内官舎拜借住居スル者アラハ其取締ヲ爲シ人員増減アル毎ニ之ヲ區長ニ達ス
 - 第十一 新ニ拜命スルモノハ實印小印トモ其印鑑ヲ徵シ本省及本寮各課ニ配達ス其遺失又ハ磨滅等ニテ改印スルトキハ再其印鑑ヲ出サシム
- 以上之ヲ大屬以下事務ノ制限トス然レトモ寮務繁劇ノ際ハ課中互ニ協助スヘシ出仕官員ハ本級ヲ以テ本官ト事務ヲ同クス
右分科處務規定本省ノ判決ヲ得テ定ル所ナリ能ク之ヲ守リ其定限ヲ愆ル勿レ

製作寮主計課處務規定 六年七月二十日

本寮及各出張所主計一切ノ事務ヲ總括シ課中ノ事務ヲ分テ出納賜給倉庫精算ノ四科ヲ設ク
課長

製作寮主計課處務規定
十年三月五日會計局ヲシテ各局ノ會計事務ヲ總括セシム

課中ノ事務ヲ掌管擔當ス
 掌管ノ事務ヲ整理スルニ於テハ長官ニ對シテ其責任ヲ有ス
 擔當ノ事務ニ於テハ其當否ヲ長官ニ對シテ論辯スルヲ得
 課中大屬以下ノ能否勤惰ヲ監視シテ長官ニ白スルヲ得
 毎歲本寮及各出張所諸般ノ經費ハ各管ノ用途ニ據テ之ヲ計算シ收發ノ多寡ヲ斟酌シ歲費月費ノ定額ヲ
 立技術長ニ合議シテ之ヲ册記シ期ヲ以テ長官ニ呈シ批定ノ後本省ニ致ス
 金銀ノ出納ハ每款定額ニ照シテ廻議ニ押印シ長官ノ可印ヲ受ケ承管ニ分支シテ辦理セシム尤支發ノ金
 銀ハ總テ本資ト消費ヲ二様ニ區別スヘシ
 但出納ノ款件ヲ原簿ニ登記セハ總テ點檢シテ押印ス
 常用ノ物品一旦長官ノ許可ヲ經テ購買整備スルモノハ其定限ヲ超サレハ緩急之ヲ分配シテ一々長官ニ
 乞サルモ妨ナシ
 權課長

課長ニ亞テ其職掌責任ヲ同クス

以上助以下委任官ノ職任トス然レトモ關員アルカ或ハ事務繁簡ニヨリ主計主記ノ兩課ヲ兼又ハ權課長
 心得ノ名ヲ以テ正權大屬ヨリ補攝セシムルコトアルヘシ

出納科 正權大屬以下ノ職務トス

經費ノ多寡ヲ計算シ金銀ヲ出納シ計簿ヲ詳記シ區分ヲ明瞭ニスル等ノ事ヲ掌ル
 第一 歲費ノ定額ハ毎年一月ヨリ十二月迄本寮各科及各出張所ニ於テ給發スヘキ工業入費及俸給旅費
 其他諸般ノ費用ヲ總括シ式ニ依リ册記シ前年十一月十日ヲ限リ課長ニ致ス
 第二 歲額ヲ分テ月費ノ額ヲ定ムルニハ月々工業ノ繁簡事務ノ緩急ニ因テ支發ノ多寡ヲ計リ各科及各
 出張所ヨリ出ス處ノ總計ヲ合算シ十二箇月ニ區分シ前條同時課長ニ致シテ本省ニ進達ス然レトモ工
 業ノ多少輸入物品ノ多寡官員ノ進退各地出張ノ有無等ニヨリ月額ノ増減アレハ式ノ如ク記載シ課長

ニ致シ長官押印ノ上前月二十日ヲ期トシ本省ニ致ス

第三 本省ヨリ金銀ヲ受クルニハ式ノ如ク證券ヲ具シ之ヲ受ケ日計簿ニ登記シ爲換坐ニ寄セテ預ケ帳
 ニ記載セシメ右日計簿ト預ケ帳ニ課長勘合シテ長官ノ檢印ヲ受ケ
 但各出張所ハ預定ノ月額ニヨリ日程ヲ計リ期ニ先チ長官ノ許可ヲ得テ本省ニ進達シ式ノ如ク之ヲ
 受ケテ送達ス

第四 爲換坐ニ寄ル所ノ金銀ヲ支發スルニハ每件長官檢印ノ廻議ヲ證トシテ各冊ノ費用區別簿ニ登記
 シ式ノ如ク發票ニ寫シ課長ノ勘合及長官ノ檢印ヲ受テ其科ニ付シ各員ニ配給セシム之ヲ領收スル者
 ハ三日ノ内爲換坐ニ至テ正貨ト交換ス其爲換坐ニ集リタル發票ハ次ノ出金定日差出サセ原票ト照比
 シテ勘合ヲ消ス

第五 假渡金銀ハ區別簿ニ朱書シ返金スルトキハ最初ノ廻議ニ照シ朱書ニ押印シテ收發ヲ明ニシ其金
 銀ハ爲換坐ニ寄ス

第六 毎月三八ノ日ヲ以テ金銀支發ノ定日トス若日曜其外休暇ニ會セハ前日ヲ以テ發スルヲ例トス
 但臨時支給ハ此限ニアラス

第七 凡テ金銀ヲ收發スルハ必ス日計簿ニ登記シ收ルモノハ前日ノ殘金ニ加ヘテ總數トナシ發スルモ
 ノハ其數ヲ減シテ本日現在ノ數ヲ詳記ス

第八 本寮及各出張所ニ於テ諸般製作修繕ノ工料及ヒ製作ノ諸品販賣ノ代價ヲ收入スルトキハ其次第
 ヲ詳記シテ爲換坐ニ寄セ每一月之ヲ總括シ上納帳ヲ作テ之ヲ附シ長官ノ押印ヲ受ケ翌月五日ヲ限リ
 本省ニ致ス

但各出張所ハ出張長官押印シテ翌月五日ヲ限リ發送セシム

第九 官宅宿代ハ上納帳ト共ニ翌月五日ヲ期トシ本省ニ納ム

第十 凡不用ニ屬スル諸物品等賣却ノ代價ヲ收入スルトキハ其次第ヲ詳細簿記シ其金ハ爲換坐ニ寄セ
 再ヒ寮中額費ノ内ニ領收スヘキ者ノ外ハ之ヲ本省ニ納ム

- 第十一 本寮各科及各出張所諸般ノ費用當初ノ目途ヲ超過スルモノハ先ツ其事由ヲ詳細具狀シ本省ノ判決ヲ經ルニアラサレハ假令定額餘分アリトモ之ヲ支給スルヲ得ス
- 第十二 各出張所ニテ各月支發ノ金銀ハ式ノ如ク勘定帳ヲ作り翌月五日ヲ期トシ其地ヲ發シテ本科ニ送ラシム
- 第十三 本科ニテ毎月支發スル金額及殘金ハ式ノ如ク册記シテ翌月二日ヲ限リ本省ニ報知シ勘定帳ハ詳細區別シ證印帳ヲ附シテ翌月五日ヲ期トシ之ヲ精算科ニ送ル
- 第十四 諸費區別簿ハ本省ノ式ニ倣ヒ各件廻議判決スル者ニ據リ詳細ニ登記シ月末之ヲ表ニ掲テ勘定帳ニ附ス
- 第十五 一箇年ノ諸費ハ都テ本資ト消費ヲ區別シ翌年一月中ニ表ヲ作り一枚ハ長官押印ノ上本省ニ達シ一枚ハ本寮ニ留ム
- 第十六 金銀ノ出納其定則アルモノト雖モ課長以上ノ可印ナクシテ專恣之ヲ處スルヲ得ス
賜給科 正權大屬以下ノ職務トス
- 官員以下外國人ノ俸給旅費并職工賃料其他臨時賞金等賜給スルコトヲ掌ル
- 第一 毎年一月ヨリ十二月迄各款ノ費用ヲ概算總括シテ本科歳費ノ額トナシ又歳額ヲ分ケ月費ノ額ヲ定ルニ八月々給發ノ多寡ヲ計リ十二箇月ニ區分シ前年十一月五日ヲ限リ出納科ニ達ス
- 第二 俸金ハ毎月十六日後之ヲ給ス因テ其期限前新任免職或ハ歸省病告等ヲ名簿科ニ審問シ増減アルモノハ改定査算シ廻議ニ具シテ出納科ニ送り發票ヲ受テ配給シ式ノ如ク月給渡證印帳二册ニ押印セシメ月末與書調印シテ出納科ニ送ル
- 第三 官員以下ノ旅費ハ發程歸著トモ名簿科ノ報知ニ依リ定則ニ照準シ發程前日數ヲ計リ廻議ニ具シテ假渡ヲ爲シ歸著ノ後日數ノ過不足ヲ決算シテ給收ス
- 第四 官備ノ外國人俸給旅費等ハ規則ニ照準シテ檢査精算シ廻議ノ後證書ヲ取テ之ヲ付ス尤發程歸著ノ日ハ其時々名簿科ノ檢印ヲ以テ證トスルコト官員ト同シ

- 第五 月給旅費其他假渡還納ハ大藏省書式ニ倣ヒ詳細ニ記載シ廻議ノ後其金ハ出納科ニ付ス
- 第六 給仕小使及一時使役スルモノハ毎月兩次勤休簿ニヨリテ日給ヲ結算シ廻議ニ具シテ之ヲ給與ス
- 第七 船車郵便等ノ賃料ハ使用ノ時々又ハ出金ノ定日各科檢印ノ證書ヲ付シテ廻議ニ具シ式ノ如ク發票ヲ受テ配給シ二通ノ證書ヲ取り月末之ヲ經メ承管ノ者與書調印シテ出納科ニ送ル
- 第八 定雇職工并雇夫ノ給料ハ各科ヨリ送ルトコロノ督役簿ニ據リ金曜日ヨリ始メ木曜日ニ至ル迄二週間ノ勤仕時間及給料ヲ合計記載シ廻議ニ具シ課長檢印ノ上出納科ヨリ之ヲ受テ土曜日止業ノ上ニテ給與スヘシ
- 第九 附屬以下諸工職等ノ臨時賑恤及賞金ハ成規ニ照準シテ數ヲ定メ其主管ノ申請狀ヲ廻議ニ具シテ長官ノ判決ヲ乞フ
- 第十 各款ノ賜給定則アルモノト雖モ課長以上ノ可印ナクシテ專恣之ヲ處スルヲ得ス
倉庫科 正權大屬以下ノ職務トス
- 本寮各科應用ノ器械物品ヲ備辦配給シ諸製作物品ヲ賣疏スル等ノ事ヲ掌ル
- 第一 毎年一月ヨリ十二月迄定式支給スヘキ物品及工業ノ資用并外國注文物品ノ費用等ヲ概算總括シテ本科歳費ノ額トナシ又月々給發ノ多寡ヲ計リ十二箇月ニ區分シ之ヲ册記シテ前年十一月五日ヲ限リ出納科ニ送ル
- 第二 月費額内ヲ以應用ノ物品ヲ購買スルニハ常用物品ハ課長ノ檢印ヲ證トシ其代價ヲ付スルニ當リ總括シテ長官ノ檢印ヲ受ク其他ノ物品ハ數目ノ多寡ヲ問ハス逐件廻議シテ長官ノ檢印ヲ受ク
- 第三 應用ノ物品ヲ買辦スルニハ先ツ其物品ヲ注文簿ニ記シ更ニ之ヲ別記シ課印ヲ勘合シ商人ニ付シテ代價書及樣品ヲ出サシメ物品ノ可否價ノ當否等課長ノ檢査ヲ受ケ再ヒ廻議ニ具シ常用物品ハ課長其他ハ長官檢印ノ後調進簿ニ記シテ其物品ヲ納メシム
- 第四 外國ヘ注文ノ器械物品等著港スルトキハ稅關其他定例ノ如ク引取ノ手配ヲ爲シ其送狀ト比較シテ毀損ノ有無員數ノ多寡等明細ニ檢査ノ上之ヲ簿記シテ其時々長官ノ檢印ヲ受ク

- 第五 諸物ノ代價ハ其代價物數ヲ記スル一様ノ請取書ニ通ヲ出サシメ承管ノ者奥書調印シテ之ヲ出納科ニ付シテ給與セシム
 - 第六 所藏ノ物品及諸資品ハ一切之ヲ蓄藏簿ニ記シ其費用ニ供スルニハ用度附屬製作修繕等各冊ノ配給簿ニ記シ證印ヲ徴シテ之ヲ付ス
但書籍繪圖類ハ附屬品支給簿ニ記シテ之ヲ譯文或ハ編輯科ニ付シ每三月其科ニ於テ點檢シ有無ヲ本科ニ報知セシム
 - 第七 各科ニ付スル資品ハ其製造物ニ用ヒ盡スヘキモノト用ヒ盡サ、ル物トヲ二様ニ區別シ用ヒ盡スヘキモノハ其製造物ノ名ヲ以テ貯蓄品配給簿ニ記シテ之ヲ付シ用ヒ盡サ、ルモノハ貯蓄品製作ノ名義ヲ以テ資品配給簿ニ記シテ之ヲ付シ各科ヨリ製品ヲ納ルトキハ其大小品目斤量ヲ詳細蓄藏簿ニ記シテ之ヲ收藏ス
 - 第八 各科ニ付スル諸資品ハ月末其品目斤量ヲ總計シ其製造物品ニ照シテ殘數ノ有無及多寡ヲ檢ス
 - 第九 製作ノ諸品ヲ賣疏スルトキハ勘定書ヲ作り廻議ニ具シ長官ノ檢印ヲ受テ之ヲ處シ諸物品ノ内廢器等賣却スヘキモノハ同ク廻議ノ上入札公賣シ其代金ハスヘテ出納科ニ送ル
 - 第十 本寮附屬品ハ各科附屬品簿ニ記スル所ヲ以テ每三月現物ニ對比點檢シ毀損アルハ修理ヲ加ヘ亡失アルハ之ヲ補具シ每時完備シテ闕失ナキヲ要ス
但毀損亡失スルモノアルトキハ其時々本科ニ報知セシム
 - 第十一 本寮常用及其他ノ物品ハスヘテ定例ニ遵ヒ各科ノ證印ヲ取ラスンハ付與スルヲ得ス且倉庫内清算科 正權大屬以下ノ職務トス
- 本寮各科及各出張所一切出納ノ得失品價ノ當否本資消費ノ多寡ヲ檢査清算スル等ノ事ヲ掌ル
- 第一 毎月勘定帳ヲ檢査スル功程ハ出納科ヨリ付スルノ後四日ヲ限リトス若誤謬等アラハ其主任ニ推問シテ改修セシメ清查訖リテ其表紙ノ右端ニ記名押印シ之ヲ課長ニ出シ長官押印ノ上翌月十日ヲ期トシ本省ニ達ス

- 第二 各科及各出張所ヨリ各月進達スル勘定帳ハ出納科ヨリ之ヲ受テ檢査精算シ若物價工料其他適當セサルコトアルカ或ハ式ニ觸ル、モノアルトキハ其次第ヲ詳記シテ課長ニ告ケ返還シテ改正セシム
故ニ精査ノ功程期ニ後ル、モノハ其實事ヲ長官ニ申報シテ本省ニ達ス
 - 第三 造築修繕等別ニ額費ヲ立ル者ハ最初ノ廻議ニ照シテ檢査ヲ加フヘシ
 - 第四 常ニ各所物品代價職工雇夫ノ賃料等ヲ詳記シ諸出納皆之ニ比考シ其得失當否ヲ檢査ス可シ
 - 第五 凡テ本科ニ於テ檢査精算スル簿冊ヲ他ニ返還シ又ハ本省ニ達スル等必課長以上ノ指令ニ依ラスシテ專恣之ヲ處スルヲ得ス
- 以上之ヲ大屬以下事務ノ制限トス然レトモ寮務繁劇ノ際ハ課中互ニ協助スヘシ出仕ハ本級ヲ以テ本官ト事務ヲ同シクス
- 右分科處務規定本省ノ判決ヲ得テ定ムル所ナリ能ク之ヲ守リ其定限ヲ愆ル勿レ

工部省達 六年十一月日

赤羽根製作寮ノ義ハ當時建築而已ノ義ニ付本寮ハ舊勸工寮へ相移事務取計可申此段相達候也

製作寮ヨリ工部省へ届 六年十二月日

赤羽根製作寮ノ儀ハ當時建築而已ノ儀ニ付本寮ハ舊勸工寮へ移シ事務可取計旨御達ニ付向後舊勸工寮ヲ製作寮ト唱赤羽製作寮ヲ製作所ト唱申候此段御届申進候也

工部省届 六年十二月十三日

當省製作寮本月五日舊勸工寮へ移轉事務取扱候間此段御届申上候也

但舊製作寮ハ自今製作所ト改稱候也

工部省へ達 七年一月二十二日(内務省ニ)

土木寮中營繕事務内務省ヨリ可受取此旨相達候事

製作寮ヲ舊勸工寮ニ移

十年一月十一日製作寮ヲ舊勸工寮ヨリ赤羽製作寮ト改稱シ十六年二月十六日海軍省ニ屬ス

内務省土木寮中ノ營繕事務ヲ管ス

營繕事務ヲ製作寮ニ屬シ寮中ニ營繕課ヲ設ク
八年六月二十八日營繕局
ヲ置キ製作寮ノ營繕事務
ヲ管ス營繕ノ部ニ屬ス
製作寮營繕課ノ分科ヲ
定ム

工部省沿革報告抄録 七年一月二十八日
營繕事務ヲ製作寮ニ屬シ同寮中ニ營繕課ヲ設置ス

製作寮回議 七年二月二日

今般土木寮中營繕事務當寮所轄相成候ニ付テハ同課中事務分課別紙ノ通相定申度右御許可ノ上ハ分課
處務規定書更ニ取調可伺出候得共此段一應及御評議候也 判決

營繕課

設計科

製圖科

督役科

監材料

右之通

工部省沿革報告抄録 七年二月二日

内務省土木寮所轄ノ建築局 府下京橋以南煉化ヲ本省製作寮ノ所管ト爲スヲ以テ該事件ニ關スルモノハ
自今製作寮ニ照會スヘキヲ東京府ニ令ス

製作寮營繕課處務規定 七年二月四日

諸建築一切ノ事務ヲ總括シ課中ノ事務ヲ分ツテ設計製圖督役監材ノ四科ヲ設ク
課長

課中ノ事務ヲ掌管擔當ス

掌管ノ事務ヲ整理スルニ於テハ長官ニ對シテ其責任ヲ有ス

擔當ノ事務ニ於テハ其當否ヲ長官ニ對シテ論辯スルヲ得ル

課中大屬以下ノ能否勤惰ヲ監視シ長官ニ白スルヲ得ル

各出張所ニ於テ臨時至急ノ事件アルニ當ツテハ直チニ課中各科ノ人員ヲ指令シ彼是交代セシムルコト
ヲ得ヘント雖モ亦其時々之ヲ長官ニ申報セサルヲ得ス

課中ニ受ル所ノ申請書ノ類ハ之ニ檢印シテ主任ノ科ニ付シ建築錄及ヒ諸計表圖等ヲ製セシメ長官ノ考
查ヲ受クヘシ貯藏ノ物料及ヒ器械等關乏シ購求ヲ要スルカ又ハ不用品ヲ沽却スルトキハ其品價ヲ監定
シテ之ヲ册記シ長官ノ考査ヲ受クヘシ

諸般ノ物料器械等ノ出入使用ハ一旦長官ノ許可ヲ經タルモノハ緩急之ヲ分配スルヲ得ル

課中常用ノ物品ハ記帖シテ倉庫科ヨリ之ヲ受ケ臨時用品ハ回議ニ具セシム

等外官員ニ辭令ヲ授付スルヲ掌ル

權課長

課長ニ亞テ其職掌責任ヲ同クス

以上助以下奏任官ノ職任トス(以下)

(参考)

工部省沿革報告抄録 七年二月八日

會計局中ノ營繕課ヲ製作寮營繕課ニ合併シ省中諸建築修繕等都テ之ヲ管理ス

本省營繕課其寮へ合併候此段相達候也

工部省沿革報告抄録 七年二月十八日

製練所ヲ廢シ深川攝綿製造所ヲ深川製作寮出張所ト稱ス 攝綿製造ハ土木寮ノ創業ニシテ攝ニ同寮
ニ命シテ其製ノ改良ヲ度ラシム

製未タ精好ナラス今製練所ノ吏員

製未タ精好ナラス今製練所ノ吏員

製未タ精好ナラス今製練所ノ吏員

製未タ精好ナラス今製練所ノ吏員

製未タ精好ナラス今製練所ノ吏員

製未タ精好ナラス今製練所ノ吏員

製未タ精好ナラス今製練所ノ吏員

製未タ精好ナラス今製練所ノ吏員

製未タ精好ナラス今製練所ノ吏員

製未タ精好ナラス今製練所ノ吏員

製未タ精好ナラス今製練所ノ吏員

製未タ精好ナラス今製練所ノ吏員

工部省達 七年六月十七日
第十八號 其寮中製煉所相廢シ深川清住町元仙臺邸ヲ出張所ト相定メ度段伺ノ通可取計候此段相違候也

皇城內正院所轄ノ場所
修繕ヲ製作寮ニ付ス

工部省へ達 七年五月八日(宮廷門宮殿)
皇城內正院所轄ノ場所修繕ノ儀自今總テ製作寮ニ於テ可取計此旨相違候事
但入費金ノ儀ハ大藏省ヨリ別途可請取事

十七年四月五日工部省主
管ノ修繕箇所一切宮内
省ニ屬ス宮廷門宮殿ニ屬
ス

工部省達 七年五月九日
別紙寫之通御達相成候ニ付此段相違候也

製作寮所管ノ活版器械
等ヲ印書局ニ交付ス

工部省へ達 七年八月二日
其省設置之活版印刷書器械先般相違候通印書局へ可引渡尤代價之儀ハ元價別途ニ可相渡候條取調早々
可申出此旨相違候事

但活字鑄造ノ器械モ一同可引渡尤委細之儀ハ同局へ打合可取計事

印書局伺 七年七月二十八日

壬申九月御開局之節左院海軍文部工部等ニ設置有之候印書器械當局へ引渡ノ儀御達相成夫々受取候處
工部省ノミ引渡無之ニ付其後屢々申立候得共同省ヨリモ上院ノ趣有之由ニテ縮ル所受取ノ運ニ至兼候
依之此程同省へ及示談候處今日ニ至リテハ強テ差支モ無之趣ニ付活字鑄造ノ器械共一同引渡相成候條
仕度然ルニ製作寮之儀ハ大藏省準備金之内御渡相成專ヲ與益ノ爲メ操作罷在候ニ付無代價ニテ引渡候
テハ勘定上ニ於テモ不都合不少趣就テハ右器械元價取調爲申出候上右金額別途同省へ御下渡相成候條
仕度依テ御達案相添此段更ニ奉伺候也
工部省伺 七年八月二十九日
去ル八月二日御達相成候當省設置之活版器械今般印書局へ引渡候間代價洋銀二千四百五十弗三十セシ
ト金一萬圓二十三錢一釐別途御渡有之度此段申進候也
指令 七年九月十日
伺之趣開届候條金額大藏省ヨリ可受取事

工部省沿革報告抄録 七年八月二十八日

製絲場ヲ人民ニ貸與ス

十二年八月八日製絲所
内務省ニ交付ス

越後國蒲原郡新瀉町商上田富藏上野國佐位郡太田村商德江八郎等ノ請願ヲ聽許シ一年間(七年十一月三
十日マテ)期シ製絲所ヲ貸與シ其條約ヲ定ム(假借料一年間金六百五十圓ト定
ム)之ヲ月賦ト爲シ納付セシム
工部省届 九年一月十五日

當省製絲場之義兼テ及御届置候通新瀉縣下新瀉港商上田富藏外三人互拜借差許置候處滿期ニ付引上ケ
昨八年十二月ヨリ向一箇年間東京第六大區深川松賀町平民久保田信左へ更ニ拜借差許候ニ付此段御届
申進候也

赤羽製作所處務規程

工部省沿革報告抄録 八年四月一日
赤羽製作所處務規程及ヒ職工規則修業人誓書保證狀等ノ書式ヲ規定ス(規程)

女工傳習所ノ概ス

工部省沿革報告抄録 九年一月二十一日
女工傳習所ヲ廢シ女教師英人「アグズ、ミルラ」等ヲ解僱シ慰勞金若干ヲ下賜ス蓋シ寮務ノ逐日皇張
スルニ隨ヒ此工場ヲ維持スルニ違ナク且頃口文部省學制ヲ釐正シ女學ノ設ケアルニ由ル(開場以來女生
可スルモノ七
十六名トス
工部省届 九年一月二十三日
當省所屬製作寮御雇外國女教師ミルラ一外二名滿期解約ニ付右女工場本月二十一日限り廢止致候條此
段御届申候也

工場官吏處務規程

工場官吏處務規程 九年二月十八日
第一條 工作ヲ管理スル官吏ハ(日本人歐洲人ヲ論セス)場内一切ノ事務ヲ擔任シ而シテ命令ノ敏捷切
實ニ行ハル、様之レヲ監視スヘシ
第二條 工作ヲ始ムル時限ニ先タツコト十分時ニ出場シ職工等各其場所ニ在ルヤ否ヲ檢シ而ル后其
姓名ヲ簿帳ニ記載スヘシ
第三條 工作了ツテ閉場スル節ハ火ノ元ノ安全ナルト扉戸ノ蓋閉トヲ巡視スヘシ

但時限合圖ノ打鐘モ亦々其掌トル所タルヘシ

第四條 諸職工其業ヲ怠リ或ハ工場規則ヲ犯ス節ハ其事實ヲ寮長并都檢ニ具狀シ其決ヲ受クヘシ

第五條 倉庫ヲ管掌スル官吏ハ其受取リシ諸品ト職工ヨリ納メシ製作物并何ヲ用ヒテ製造セシカラ一

々記録シ以テ物品出入ノ計算ヲ詳ニスヘシ

但本文記録ノ爲メ寮長ヨリ定ムル所ノ簿冊ヲ用ユヘシ

工場職工心得規則

第一條 諸職工ハ必ス朝第八時ニ工作ヲ始メ第十二時ヨリ第一時マテヲ午飯ノ間トシ復ヒ第四時マテ

工作ヲ爲シ四時十分ニ悉ク退散スヘシ

但シ遅刻スルコト四度ニ及ハ、其給料中ヨリ一日分ノ給錢ヲ引キ去ルヘシ

第二條 自分自分ノ工作ヲ大切ニ勉メ他ノ事ニ累ツラツテ時間ヲ無益ニ費ヤスヘカラス

但自分ノ工作ニ要ナラサル機械并道具等ヲ用ヒ他ノ工作ノ妨ケヲ爲スモノハ其給料中ヨリ一日

分ノ給錢ヲ引去ルヘシ

第三條 煙草ノ義ハ其爲メニ設ケタル部屋ノ外決シテ他ノ場所ニ於テ喫フヘカラス

但喫煙者ヲ見當リタル節ハ其給料中ヨリ一日分ノ給錢ヲ引キ去ルヘシ

第四條 銘々穩カニ其職業ヲ勉メ切リニ高聲シテ談話又ハ叫フコトヲ禁ス

第五條 許可ヲ受ケス又タ病氣ノ節其趣ノ届ヲ出サスシテ恣マ、ニ闕勤スル者ハ其給料中ヨリ一日分

ノ給錢ヲ引キ去ルヘシ

第六條 誰ニテモ醉態ヲ露ハシ又ハ他ノ妨ケヲ爲ス者ハ其給料中ヨリ三日分ノ給錢ヲ引キ去ルヘシ

第七條 誰ニテモ等閑ニシテ機械道具又ハ製造品ヲ損傷スル者ハ其損傷品ノ修繕代價ヲ取立タル外猶

又其給料中ヨリ三日分ノ給錢ヲ引キ去ルヘシ

第八條 銘々其管カル所ノ器械又ハ道具ヲ不始末ニセスシテ諸品ノ清潔ナル様心ヲ用ユヘシ

第九條 諸職工ハ謹シテ工作場并之ニ屬スル官吏ノ命令ヲ遵守スヘシ

第十條 土曜日毎二十二時後一同場内ヲ掃除シ器械并小道具ヲ取片付ケ掛リ官員ノ検査ヲ受ケ而ル后
ヲ退場スヘシ

工部省沿革報告抄録 九年四月四日

品川硝子製造所ヲ置キ製作寮ニ隸ス

○十年一月十一日製作寮ヲ廢シ工作局ヲ置クニ及テ之ニ隸シ品川工作分局ト改稱シ十六年九月二十二

日復品川硝子製造所ト稱ス

工部省沿革報告抄録 九年十二月二十日

製作寮ヲ本省内ニ移ス 蓋是年十月本省ヲ増

築シ竣工セルニ由ル

工部省沿革報告抄録 十年一月十一日

製作工學二寮ノ事務ヲ工作局ニ屬ス

工部省沿革報告抄録 十年一月十一日

工學校ヲ工部大學校ト稱シ工作局ニ隸ス

○是日工學校ヲ廢スルニ仍ル十五年八月十九日工部大學校職制ヲ改メ(政門學)工部省ノ直轄ト爲ス(官

二寮局ノ部)十八年十二月廢省ニ因リ文部省ニ屬ス

工部省沿革報告抄録 十年一月十一日

赤羽深川、兵庫、長崎ノ各製作所及品川硝子製造所ヲ某工作分局ト改稱ス

工部省沿革報告抄録 十年二月九日

工部省沿革報告抄録 十年二月九日

品川硝子製造所ヲ置ク
製作寮ヲ本省内ニ移ス
工作局ヲ置キ工學製作
二寮ノ事務ヲ管ス
工學校ヲ工部大學校ト
稱ス
赤羽深川、兵庫、長崎ノ各
製作所及品川硝子製造
所ヲ某工作分局ト改稱
ス
工部省沿革報告抄録
十年二月九日

十年一月十一日内務省
官事務中事ニ係ルモノ
ヲ工部省ニ附ス官事務
ノ部ニ設ス

内務省ヨリ内務省ヘ回答
事務ノ分掌ヲ定ム

曩ニ内務省所管ノ工業ニ係ル事務ヲ割テ本省ニ付セラレシヲ以テ之ヲ當局ノ所管ニ隸シ此日内山下町
并ニ新小川町ノ兩試験所及ヒ地質測量ノ事務ヲ繼承シ而シテ内山下町試験所ヲ内山下町工作分局新小川
町試験所ヲ内山下町工作分局出張所ト稱ス内山下町試験所ハ博物局構内ニ在リ而シテ其地所屋宇ハ當時内
小川町二丁目十番地ニ在リ
○新小川町試験所ハ牛込新

工部省ヨリ内務省ヘ回答 十一年四月二日

昨十年中勸業上事務分掌之義ニ付意見書相添豫テ及御照會置候處右分掌種類中脂并鹽ノ内礦脂及山鹽
ハ坑法上ニモ記載有之既ニ試掘借區等許可ニモ相成居候間該二品ハ從前之通於御省管掌被成度其他ハ
御異存無之旨御回答之趣承知致候當省ニ於テハ該二品ニ付テハ別ニ差支ノ廉モ無之候條更ニ種類分掌
區分中ニ右二品書加ヘ別紙相添此段及御回答候也

別紙

事務管掌

内務省

諸食飲料及農産製造物製絲農産染料機織蠟脂植物油阿膠樹膠糖蜜漆紙食鹽石鹼製革木炭獸炭燐香
水蘭席之類

工部省

諸礦物ヨリ成立スル各品及陶器木工火工石工石膏工山油礦脂山鹽硝石火藥煉瓦記號墨之類

(參考)

工部省沿革報告抄錄 十年三月二十六日
曩ニ内務省ヨリ割屬セル工業事務ノ區分ヲ協議立定ス 本省ノ所管ヲ諸礦物ヨリ成立スル各品及ヒ陶器木工火工工
所管ハ諸食飲料及ヒ農産製造物製絲農産染料機織蠟脂植物油阿膠樹膠糖蜜漆紙食鹽石鹼製革木炭獸炭燐香
植物油阿膠樹膠糖蜜漆紙食鹽石鹼製革木炭獸炭燐香水蘭席ノ類トス

製絲所工場及ヒ其附屬
器械ヲ内務省勸農局ニ
交付ス

工部省所管ノ諸工場ヲ
漸次民業ニ移スノ處分
方

美術學校ヲ廢ス

赤羽工作分局ヲ海軍省
ニ屬シ事務ヲ移ス

工部省沿革報告抄錄 十二年八月八日

製絲所ノ工場及其附屬器械ヲ内務省勸農局ニ交付ス蓋シ曩ニ工業管掌ノ區分ヲ立テシニ由ル

内務省大藏省工部省開拓使ヘ達 十三年十一月五日(民業門工)

工業勸誘ノ爲メ政府ニ於テ設置シタル諸工場ハ其組織整備シテ當初目算ノ事業漸ク寧カルニ從ヒ官廳
ノ所有ヲ解キテ之ヲ人民ノ營業ニ歸スヘキモノニ付別紙概則ニ準據シ其省使所管諸工場漸次拂下ケノ
處分ニ及フヘシ此旨相達候事 略ス

内務大藏農商務工部四省ヘ達 十七年十月三日

明治十三年十一月五日相達候工場拂下概則相廢候條今後工場等拂下ノ節ハ其時々方案ヲ具シ伺出ヘシ
此旨相達候事

○工部省何等アリ民業工事ニ載ス

工部省沿革報告抄錄 十六年一月二十三日

美術學校ヲ廢シ畫學生徒十五名ニ修業證書ヲ授與ス 生徒未タ卒業ノ期
ニ至ラサルニ由ル

工部省達 十六年三月九日

東京府下赤羽工作分局二月十六日限り營業相廢止候條此旨相達候也

海軍工部兩省伺 十六年二月七日

工部省所轄赤羽工作分局ノ儀ハ作業上ノ都合ニ寄リ今般海軍省ヘ該事業引渡ノ儀兩省内議一決致候間
至急御裁可相成候様致度尤與營兩業費資本金計算等ノ儀ハ追テ大藏卿ヘ合議ノ上更ニ上申可致候此段
相伺候也

指令 十六年二月十三日

伺ノ趣間届候事